

茨城県教育財団文化財調査報告第24集

水海道都市計画事業・小絹土地地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 2

筒戸 A 遺跡

筒戸 B 遺跡

—遺構・遺物編(上)—

昭和 59 年 3 月

財団法人 茨城県教育財団



序

茨城県筑波郡谷和原村の西方地域において「水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業」が住宅・都市整備公団によって行われておりますが、その事業地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査は、昭和55年度から茨城県教育財団が実施し、現在に至っております。

本書は、昭和56年度から昭和57年度にかけて、筑波郡谷和原村大字小絹地区内において発掘調査を実施した筒戸A遺跡・筒戸B遺跡の調査成果を収録したものであります。当遺跡からは多くの資料が発見され、縄文時代の中期に生活が営まれた集落跡であることが判明し、郷土の歴史を解明するうえで資するものが多いと考えられます。

その意味から本書がより多くの方々に御活用いただけることを希望いたしております。

なお、発掘調査及び整理にあたり、委託者である住宅・都市整備公団からいただいた御協力に対し、感謝申し上げます。また、茨城県教育委員会、谷和原村教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力いただいたことに、衷心より謝意を表します。

昭和59年3月

財団法人 茨城県教育財団

理事長 竹 内 藤 男

例 言

- 1 本書は、住宅・都市整備公団の委託により、財団法人茨城県教育財団が、昭和56年度末から昭和57年度に調査を実施した茨城県筑波郡谷和原村に所在する筒戸A・B遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 筒戸A・B遺跡の調査・整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長		竹 内 藤 男 大 金 新 一	～昭和56年11月，昭和58年12月～ ～昭和58年11月
副 理 事 長		古 橋 靖 川 又 友三郎	～昭和58年 7 月 昭和58年 7 月～
常 務 理 事		川野辺 四 郎 綿 引 一 夫	～昭和57年 3 月 昭和57年 4 月～
事 務 局 長		小 林 義 久 小 林 久 洋	～昭和58年 3 月 昭和58年 4 月～
調 査 課 長		寺 内 寛	
企 画 管 理 班	班 長	坪 秀 雄	～昭和57年 5 月
	主任 調査員	今 村 信 夫	昭和57年 6 月～
	主 事	加 藤 雅 美	昭和57年 4 月～
	〃	鈴 木 三 郎	昭和57年 4 月～
	〃	海老沢 一 良 夫	～昭和58年 3 月
調 査 第 一 班	班 長	倉 本 富美男	昭和56年度
	主任 調査員	渡 辺 千 秋	昭和57年度
	〃	安 蔵 幸 重	昭和56・57年度調査
	〃	中 村 幸 雄	昭和56年度調査
	調 査 員	和 田 雄 次	昭和56年度調査
〃	小 河 邦 男	昭和56年度調査	
〃	佐 藤 正 好	昭和58年度整理・執筆	
〃	桜 井 二 郎	昭和57年度調査・昭和58年度整理・執筆	
整 理 班 長		青 木 義 夫	昭和58年度

- 3 本書に使用した記号等については、第3章第1節の2の記載方法の項を参照されたい。
- 4 本書の執筆分担は、第1章・第2章・第3章の遺構については桜井二郎，第4章の遺物については佐藤正好が整理・執筆した。第5章の第1節は桜井二郎が執筆し，第2節は佐藤正好が執筆し，総括した。
- 5 発掘調査及び出土遺物の整理等に際して，東京都教育庁文化課安孫子昭二氏の御指導をいただいた。
- 6 本書の作成にあたり，黒曜石の原産地の分析を，東京学芸大学二宮修治氏に依頼し分析結果の報告をいただいた。
- 7 発掘調査及び出土遺物の整理等に際して，御指導，御協力を賜った関係機関，各位に深く感謝の意を表したい。

目 次

序	
例言	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査方法	2
1 地区設定	2
2 層序の検討	3
3 遺構確認	3
4 遺構調査	4
第3節 調査経過	4
第2章 位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 遺 構	11
第1節 遺構の概要と記載方法	11
1 遺構の概要	11
2 遺構の記載方法	11
第2節 竪穴住居跡	15
1 縄文時代	15
2 平安時代	122
第3節 土壌	129
第4節 埋嚢	188
第5節 その他	191
第4章 遺 物	193
第1節 遺物の概要と記載方法	193
1 遺物の概要	193
2 遺物の記載方法	193
第2節 竪穴住居跡出土遺物	194
1 縄文式土器	194
2 須恵器	226

第3節 土壌・グリッド出土土器	227
1 土壌	227
2 グリッド	232
第4節 埋襲	232
第5節 その他	248
1 把手・有孔鋳付土器	248
2 土製品	248
3 石器	252
第5章 まとめ	288
第1節 遺構について	288
1 竪穴住居跡について	288
(1) 住居跡の類型化	289
(2) 住居跡の変遷	296
(3) 集落の変遷	302
(4) 炉の検出されない遺構について	306
2 土壌について	309
(1) 土壌の形態分類	309
(2) 土壌の分布状況と時期について	310
(3) その他	315
第2節 遺物について	315
1 土器	315
(1) 住居跡出土土器	319
(2) 土壌出土土器	346
(3) 筒戸A・B遺跡竪穴住居跡内出土土器	358
2 土器の分類について	370
3 石斧の分類	383
4 石鏃の分類	384
5 石器について	386
6 黒曜石の原産地分析について	387
終章 むすび	389

挿 図 目 次

第 1 図	小絹地区遺跡配置図	2		遺物出土状態図	38
第 2 図	調査区呼称概念図	2	第 31 図	第17号住居跡実測図	39
第 3 図	土層柱状図	3	第 32 図	第17号住居跡	
第 4 図	調査前の地形図	4		遺物出土状態図	40
第 5 図	遺跡地形図	8	第 33 図	第18号住居跡実測図	41
第 6 図	筒戸 A・B 遺跡周辺 の遺跡	10	第 34 図	第18号住居跡	
第 7 図	第 1 号住居跡実測図	15		遺物出土状態図	42
第 8 図	第 2 号住居跡実測図	16	第 35 図	第19号住居跡実測図	43
第 9 図	第 3 号住居跡実測図	17	第 36 図	第19号住居跡	
第 10 図	第 4 号住居跡実測図	18		遺物出土状態図	44
第 11 図	第 5 号住居跡実測図	19	第 37 図	第20号住居跡実測図・ 遺物出土状態図	46
第 12 図	第 5 号住居跡 遺物出土状態図	20	第 38 図	第21・22号住居跡 実測図	47
第 13 図	第 5 号住居跡 遺物出土状態図	21	第 39 図	第23号住居跡実測図	48
第 14 図	第 6 号住居跡実測図	22	第 40 図	第24・25・26号 住居跡実測図	50
第 15 図	第 6 号住居跡 遺物出土状態図	23	第 41 図	第27号住居跡実測図	51
第 16 図	第 7 号住居跡実測図	24	第 42 図	第27号住居跡 遺物出土状態図	52
第 17 図	第 7 号住居跡 遺物出土状態図	25	第 43 図	第28号住居跡実測図・ 遺物出土状態図	53
第 18 図	第 8 号住居跡実測図	26	第 44 図	第28号住居跡 遺物出土状態図	54
第 19 図	第 8 号住居跡 遺物出土状態図	27	第 45 図	第29号住居跡実測図	55
第 20 図	第 9・10号住居跡 実測図	28	第 46 図	第30号住居跡実測図	56
第 21 図	第 9 号住居跡 遺物出土状態図	29	第 47 図	第30号住居跡 遺物出土状態図	57
第 22 図	第11号住居跡実測図	30	第 48 図	第31・32号住居跡 実測図	58
第 23 図	第12号住居跡実測図	31	第 49 図	第32号住居跡 遺物出土状態図	59
第 24 図	第13号住居跡実測図	32	第 50 図	第33号住居跡実測図・ 遺物出土状態図	60
第 25 図	第14号住居跡実測図	33	第 51 図	第34号住居跡実測図	61
第 26 図	第14号住居跡 遺物出土状態図	34	第 52 図	第36号住居跡実測図	62
第 27 図	第15号住居跡 遺物出土状態図	35	第 53 図	第40号住居跡実測図	63
第 28 図	第15号住居跡実測図・ 遺物出土状態図	36	第 54 図	第40号住居跡 遺物出土状態図	64
第 29 図	第16号住居跡実測図	37	第 55 図	第41号住居跡実測図	65
第 30 図	第16号住居跡		第 56 図	第42号住居跡実測図	66

第 57 区	第42号住居跡 遺物出土状態区	67	第 85 区	第65号住居跡実測区	97
第 58 区	第42号住居跡 遺物出土状態区	68	第 86 区	第66号住居跡実測区	98
第 59 区	第43号住居跡実測区 遺物出土状態区	69	第 87 区	第67号住居跡実測区	99
第 60 区	第43号住居跡 遺物出土状態区	70	第 88 区	第68号住居跡実測区 遺物出土状態区	100
第 61 区	第44号住居跡実測区	71	第 89 区	第68号住居跡 遺物出土状態区	101
第 62 区	第45号住居跡 遺物出土状態区	72	第 90 区	第69号住居跡実測区	102
第 63 区	第45号住居跡実測区	73	第 91 区	第69号住居跡 遺物出土状態区	103
第 64 区	第46号住居跡実測区	74	第 92 区	第70号住居跡実測区	104
第 65 区	第47号住居跡実測区	75	第 93 区	第71号住居跡実測区	105
第 66 区	第48・49号住居跡 実測区	77	第 94 区	第72号住居跡実測区	106
第 67 区	第50号住居跡実測区	78	第 95 区	第73号住居跡実測区	107
第 68 区	第50号住居跡 遺物出土状態区	79	第 96 区	第74号住居跡実測区	109
第 69 区	第50号住居跡 遺物出土状態区	80	第 97 区	第75号住居跡実測区	110
第 70 区	第51号住居跡実測区	81	第 98 区	第76号住居跡実測区	110
第 71 区	第52A号住居跡実測区 遺物出土状態区	83	第 99 区	第77号住居跡実測区	111
第 72 区	第52B号住居跡実測区 遺物出土状態区	84	第 100 区	第78号住居跡実測区	112
第 73 区	第53・54・55号 住居跡実測区	85	第 101 区	第78号住居跡 遺物出土状態区	113
第 74 区	第56号住居跡実測区 遺物出土状態区	86	第 102 区	第79号住居跡実測区	114
第 75 区	第56号住居跡 遺物出土状態区	87	第 103 区	第80号住居跡実測区	115
第 76 区	第57号住居跡実測区	88	第 104 区	第81号住居跡実測区	115
第 77 区	第58号住居跡実測区	89	第 105 区	第82号住居跡実測区	116
第 78 区	第59号住居跡実測区	90	第 106 区	第86号住居跡実測区	117
第 79 区	第60号住居跡実測区	91	第 107 区	第87号住居跡実測区	117
第 80 区	第61号住居跡実測区	92	第 108 区	第88号住居跡実測区	118
第 81 区	第62号住居跡実測区 遺物出土状態区	93	第 109 区	第89号住居跡実測区	119
第 82 区	第63号住居跡実測区	95	第 110 区	第90号住居跡実測区	119
第 83 区	第63号住居跡 遺物出土状態区	95	第 111 区	第92号住居跡実測区	120
第 84 区	第64号住居跡実測区	96	第 112 区	第93号住居跡実測区	121
			第 113 区	第94号住居跡実測区	122
			第 114 区	第10号住居跡実測区	123
			第 115 区	第31号住居跡実測区	123
			第 116 区	第31号住居跡 カマド実測区	123
			第 117 区	土壙実測区(1)	143
			第 118 区	土壙実測区(2)	144
			第 119 区	土壙実測区(3)	145
			第 120 区	土壙実測区(4)	146
			第 121 区	土壙実測区(5)	147
			第 122 区	土壙実測区(6)	148

	第50号住居跡	P L 76	第92号住居跡, 第93号住居跡
P L 50	第51号住居跡, 第52A号住居跡 遺物出土状況	P L 77	SX1, SX2
P L 51	第52A号住居跡, 第52B号住居跡	P L 78	SX3, 土層断面 (テストピット)
P L 52	第52A・B号住居跡, 第53号住居跡	P L 79	第6号住居跡土器埋設炉, 第25 号住居跡土器埋設炉, 第57号住 居跡土器埋設炉
P L 53	第54・55号住居跡, 第56号住居 跡	P L 80	第45号住居跡土器埋設炉, 第72 号住居跡土器埋設炉, 第74号住 居跡土器埋設炉
P L 54	第57号住居跡, 第58号住居跡	P L 81	第19号住居跡土器埋設石組み炉, 第62号住居跡石組み炉, 第33号 住居跡焼土が検出されたピット
P L 55	第59号住居跡, 第60号住居跡遺 物出土状況	P L 82	第9号住居跡炉土層断面, 第17 号住居跡炉土層断面, 第29号住 居跡炉土層断面
P L 56	第61号住居跡, 第61・62号住居跡	P L 83	第30号住居跡炉土層断面, 第32 号住居跡炉, 第36号住居跡炉土 層断面
P L 57	第62号住居跡遺物出土状況, 第62号住居跡	P L 84	第5号住居跡炉, 第7号住居跡 炉, 第8号住居跡炉
P L 58	第63号住居跡遺物出土状況, 第63号住居跡	P L 85	第15号住居跡炉, 第18号住居跡 炉, 第24号住居跡炉
P L 59	第64号住居跡, 第65号住居跡	P L 86	第33号住居跡炉, 第43号住居跡 炉, 第50号住居跡炉
P L 60	第66号住居跡遺物出土状況, 第66号住居跡・第418号土壌	P L 87	第62号住居跡炉, 第68号住居跡 炉, 第78号住居跡炉
P L 61	第67号住居跡, 第68号住居跡遺物出土状況	P L 88	第10号住居跡カマド, 第31号住 居跡カマド, 第31号住居跡カマ ド
P L 62	第68号住居跡遺物出土状況, 第68号住居跡	P L 89	第4号土壌土層断面, 第5号土 壌土層断面, 第11号土壌遺物出 土状況
P L 63	第69号住居跡遺物出土状況, 第69号住居跡	P L 90	第18号土壌, 第24号土壌, 第27 号土壌
P L 64	第70号住居跡, 第71号住居跡	P L 91	第47号土壌, 第50号土壌, 第53 号土壌
P L 65	第72号住居跡遺物出土状況, 第72号住居跡	P L 92	第61~65号土壌遺物出土状況, 第61~65号土壌, 第66号土壌
P L 66	第73号住居跡, 第74号住居跡	P L 93	第68・69号土壌遺物出土状況, 第70号土壌, 第74号土壌
P L 67	第74号住居跡出土土器埋設炉, 第73・74号住居跡	P L 94	第74号土壌, 第76号土壌, 第79 号土壌
P L 68	第75号住居跡, 第76号住居跡	P L 95	第80号土壌, 第81号土壌遺物出
P L 69	第77号住居跡遺物出土状況, 第77号住居跡		
P L 70	第78号住居跡遺物出土状況, 第78号住居跡		
P L 71	第79号住居跡, 第80号住居跡		
P L 72	第81号住居跡, 第82号住居跡		
P L 73	第85号住居跡, 第86号住居跡		
P L 74	第87号住居跡, 第88号住居跡		
P L 75	第89号住居跡, 第90号住居跡		

P L 96	土狀況, 第86号土壤土層断面 第90号土壤, 第95号土壤, 第96号土壤	P L 115	第216号土壤, 第217号土壤, 第218号土壤
P L 97	第97号土壤, 第100号土壤, 第101号土壤	P L 116	第219号土壤, 第220号土壤遺物出土狀況, 第229号土壤
P L 98	第106号土壤, 第107号土壤, 第108号土壤土層断面	P L 117	第230号土壤, 第232号土壤, 第233号土壤
P L 99	第108号土壤遺物出土狀況, 第108号土壤, 第109号土壤	P L 118	第248号土壤土層断面, 第248号土壤遺物出土狀況, 第248号土壤
P L 100	第110号土壤遺物出土狀況, 第111号土壤土層断面, 第111号土壤遺物出土狀況	P L 119	第248号土壤, 第277号土壤, 第280号土壤
P L 101	第111号土壤, 第116号土壤遺物出土狀況, 第116号土壤	P L 120	第284号土壤, 第286号土壤, 第288号土壤
P L 102	第120号土壤土層断面, 第120号土壤, 第121号土壤土層断面	P L 121	第291号土壤, 第292号土壤, 第296号土壤
P L 103	第122号土壤土層断面, 第123号土壤, 第124号土壤	P L 122	第297号土壤, 第302号土壤, 第303号土壤
P L 104	第125号土壤, 第126号土壤, 第127号土壤遺物出土狀況	P L 123	第304号土壤, 第308号土壤, 第309号土壤
P L 105	第127号土壤, 第128号土壤, 第128号土壤	P L 124	第311号土壤, 第313号土壤, 第317号土壤
P L 106	第127・128号土壤, 第131号土壤, 第132号土壤土層断面	P L 125	第333号土壤, 第346号土壤土層断面, 第346号土壤遺物出土狀況
P L 107	第132号土壤遺物出土狀況, 第132号土壤, 第134号土壤土層断面	P L 126	第350号土壤遺物出土狀況, 第351号土壤遺物出土狀況, 第356号土壤
P L 108	第138号土壤, 第142号土壤, 第143号土壤遺物出土狀況	P L 127	第357号土壤, 第359号土壤, 第369号土壤
P L 109	第143号土壤遺物出土狀況, 第144号土壤遺物出土狀況, 第147・148号土壤遺物出土狀況	P L 128	第375号土壤, 第388号土壤, 第397号土遺物出土狀況
P L 110	第150号土壤, 第152号土壤, 第153号土壤	P L 129	第404号土壤遺物出土狀況, 第407号土壤遺物出土狀況, 第409号土壤
P L 111	第154号土壤遺物出土狀況, 第155号土壤, 第157号土壤	P L 130	第410号土壤遺物出土狀況, 第417号土壤遺物出土狀況, 第418号土壤遺物出土狀況
P L 112	第158号土壤, 第161号土壤, 第165号土壤遺物出土狀況	P L 131	第418号土壤遺物出土狀況, 第418号土壤遺物出土狀況, 第418号土壤ピット
P L 113	第168号土壤, 第170号土壤, 第173号土壤	P L 132	第418号土壤遺物出土狀況, 第418号土壤, 第418号土壤
P L 114	第181号土壤, 第202号土壤, 第208号土壤	P L 133	第420号土壤土層断面, 第420号

	遺物出土状況, 第420号土壙	P L 158	第57・63・68・69・72・74・77・78号住居跡出土土器
P L 134	第436号土壙, 第437号土壙, 第450号土壙	P L 159	土壙・グリッド出土土器
P L 135	第459号土壙, 第472号土壙, 第473号土壙	P L 160	埋甕
P L 136	第487号土壙, 第490号土壙, 第492号土壙	P L 161	第5号住居跡出土土器
P L 137	第493号土壙, 第501号土壙, 第505号土壙	P L 162	第5号住居跡出土土器
P L 138	第513号土壙, 第514号土壙, 第515号土壙	P L 163	第5号住居跡出土土器
P L 139	第519号土壙, 第521号土壙, 第523号土壙	P L 164	第5・6号住居跡出土土器
P L 140	第530号土壙調査前の状況, 第530号土壙, 第536号土壙	P L 165	第7・14・15号住居跡出土土器
P L 141	第1号埋甕土層断面, 第1号埋甕出土状況, 第1号埋甕掘り方	P L 166	第15・18・30号住居跡出土土器
P L 142	第16号住居跡内第2号埋甕, 第2号埋甕, 第3号埋甕土層断面	P L 167	第42号住居跡出土土器
P L 143	第4号埋甕, 第4号埋甕土層断面, 第4号埋甕	P L 168	第42号住居跡出土土器
P L 144	第5号埋甕土層断面, 第5号埋甕, 第5号埋甕掘り方	P L 169	第43号住居跡出土土器
P L 145	第6号埋甕, 第6号埋甕土層断面, 第6号埋甕	P L 170	第43・45号住居跡出土土器
P L 146	第7号埋甕, 第7号埋甕, 第7号埋甕掘り方	P L 171	第45・50号住居跡出土土器
P L 147	調査風景, 現地説明会, 復元住居跡(第78号住居跡)前にて	P L 172	第50・51・53・63号住居跡出土土器
P L 148	第5・6号住居跡出土土器	P L 173	第63・65・66・67号住居跡出土土器
P L 149	第7・8・9・13・15号住居跡出土土器	P L 174	第68号住居跡出土土器
P L 150	第15・16・18号住居跡出土土器	P L 175	第68・69・72号住居跡出土土器
P L 151	第16号住居跡出土土器	P L 176	第72・73・74号住居跡出土土器
P L 152	第19・20・27・28号住居跡出土土器	P L 177	第74・75・77・78号住居跡出土土器
P L 153	第30・42号住居跡出土土器	P L 178	第78号住居跡・土壙出土土器
P L 154	第42号住居跡出土土器	P L 179	土壙出土土器
P L 155	第42・43・45・50号住居跡出土土器	P L 180	把手・有孔鍔付土器
P L 156	第50号住居跡出土土器	P L 181	土製品(1) (土器片錘)
P L 157	第50・52・56号住居跡出土土器	P L 182	土製品(2) (土器片錘)
		P L 183	土製品(3) (土器片錘)
		P L 184	石器(1) (石皿)
		P L 185	石器(2) (石皿・磨石・敲石)
		P L 186	石器(3) (磨石・敲石)
		P L 187	石器(4) (磨石・敲石)
		P L 188	石器(5) (磨石・敲石)
		P L 189	石器(6) (石鏃)
		P L 190	石器(7) (石鏃・石匙・槍型石器・大珠・石錐)
		P L 191	石器(8) (打製石斧)
		P L 192	石器(9) (磨製石斧)
		P L 193	石器(10) (浮子・礫器・砥石)
		P L 194	石器(11) (剥片)
		P L 195	石器(12) (剥片)

P L196 大谷津B遺跡出土土器編年(1)
P L197 筒戸A・B遺跡出土土器編年(2)
P L198 筒戸A・B遺跡出土土器編年(3)

P L199 筒戸A・B出土土器(4)
P L200 筒戸A・B遺跡出土土器(5)

写真図版目次

P L 1	遺跡周辺遠景, 遺跡遠景		第20号住居跡
P L 2	大谷津B遺跡・筒戸A・B遺跡 遠景, 大谷津A遺跡遠景	P L 27	第20号住居跡遺物出土状況, 第20・21号住居跡
P L 3	調査前全景, 表土除去後全景	P L 28	第23号住居跡, 第24・25・26号 住居跡遺物出土状況
P L 4	遺構確認調査, 筒戸B遺跡南側	P L 29	第24・25・26号住居跡遺物出土 状況, 第24・25・26号住居跡
P L 5	調査風景, 遺構全景	P L 30	第27号住居跡, 第28号住居跡遺 物出土状況
P L 6	遺跡全景	P L 31	第28号住居跡遺物出土状況, 第28号住居跡土層断面
P L 7	第1号住居跡, 第2号住居跡	P L 32	第28号住居跡, 第28号住居跡
P L 8	第3号住居跡, 第4号住居跡	P L 33	第29号住居跡, 第30号住居跡土 層断面
P L 9	第5号住居跡遺物出土状況, 第5号住居跡調査風景	P L 34	第30号住居跡遺物出土状況, 第31号住居跡遺物出土状況
P L 10	第5号住居跡, 第6号住居跡	P L 35	第31号住居跡, 第31号住居跡カマド
P L 11	第6号住居跡遺物出土状況, 第6号住居跡	P L 36	第31・32号住居跡, 第33号住居 跡遺物出土状況
P L 12	第7号住居跡遺物出土状況, 第7号住居跡	P L 37	第33号住居跡, 第34号住居跡
P L 13	第8号住居跡遺物出土状況, 第8号住居跡	P L 38	第36号住居跡, 第40号住居跡遺 物出土状況
P L 14	第9号住居跡遺物出土状況, 第9号住居跡	P L 39	第40号住居跡, 第41号住居跡
P L 15	第10号住居跡, 第9・10号住居跡	P L 40	第42号住居跡遺物出土状況, 第42号住居跡遺物出土状況
P L 16	第11号住居跡, 第12号住居跡	P L 41	第42号住居跡, 第43号住居跡遺 物出土状況
P L 17	第13号住居跡, 第14号住居跡遺 物出土状況	P L 42	第43号住居跡遺物出土状況, 第43号住居跡遺物出土状況
P L 18	第14号住居跡, 第15号住居跡	P L 43	第43号住居跡, 第44号住居跡
P L 19	第15号住居跡遺物出土状況, 第15号住居跡遺物出土状況	P L 44	第45号住居跡に放棄された遺物, 第45号住居跡
P L 20	第16号住居跡遺物出土状況, 第16号住居跡	P L 45	第45号住居跡出土土器埋設炉, 第45号住居跡
P L 21	第17号住居跡遺物出土状況, 第17号住居跡	P L 46	第46号住居跡, 第47号住居跡
P L 22	第18号住居跡遺物出土状況, 第18号住居跡	P L 47	第48号住居跡, 第48・49号住居 跡
P L 23	第19号住居跡遺物出土状況, 第19号住居跡	P L 48	第50号住居跡遺物出土状況, 第50号住居跡遺物出土状況
P L 24	第19号住居跡石組み埋設炉, 第19号住居跡遺物出土状況, 第19号住居跡遺物出土状況	P L 49	第50号住居跡遺物出土状況,
P L 25	第19号住居跡, 第19号住居跡		
P L 26	第20号住居跡遺物出土状況,		

第 288 図	II 群 3 類 a (3)・b (2).....	357	第 299 図	住居跡出土土器(10).....	368
第 289 図	II 群 3 類 b (3).....	358	第 300 図	住居跡出土土器(11).....	369
第 290 図	住居跡出土土器(1).....	359	第 301 図	打製・磨製石斧模式図.....	383
第 291 図	住居跡出土土器(2).....	360	第 302 図	打製石斧の長さ・幅・ 形状と大きさ.....	383
第 292 図	住居跡出土土器(3).....	361	第 303 図	磨製石斧の長さ・幅・ 形状と大きさ.....	384
第 293 図	住居跡出土土器(4).....	362	第 304 図	石鏃の形状分類図.....	385
第 294 図	住居跡出土土器(5).....	363	第 305 図	石鏃の長さ・幅.....	386
第 295 図	住居跡出土土器(6).....	364	第 306 図	大谷津 B 遺跡・筒戸 A・ B 遺跡の集落形成時期.....	389
第 296 図	住居跡出土土器(7).....	365			
第 297 図	住居跡出土土器(8).....	366			
第 298 図	住居跡出土土器(9).....	367			

表 目 次

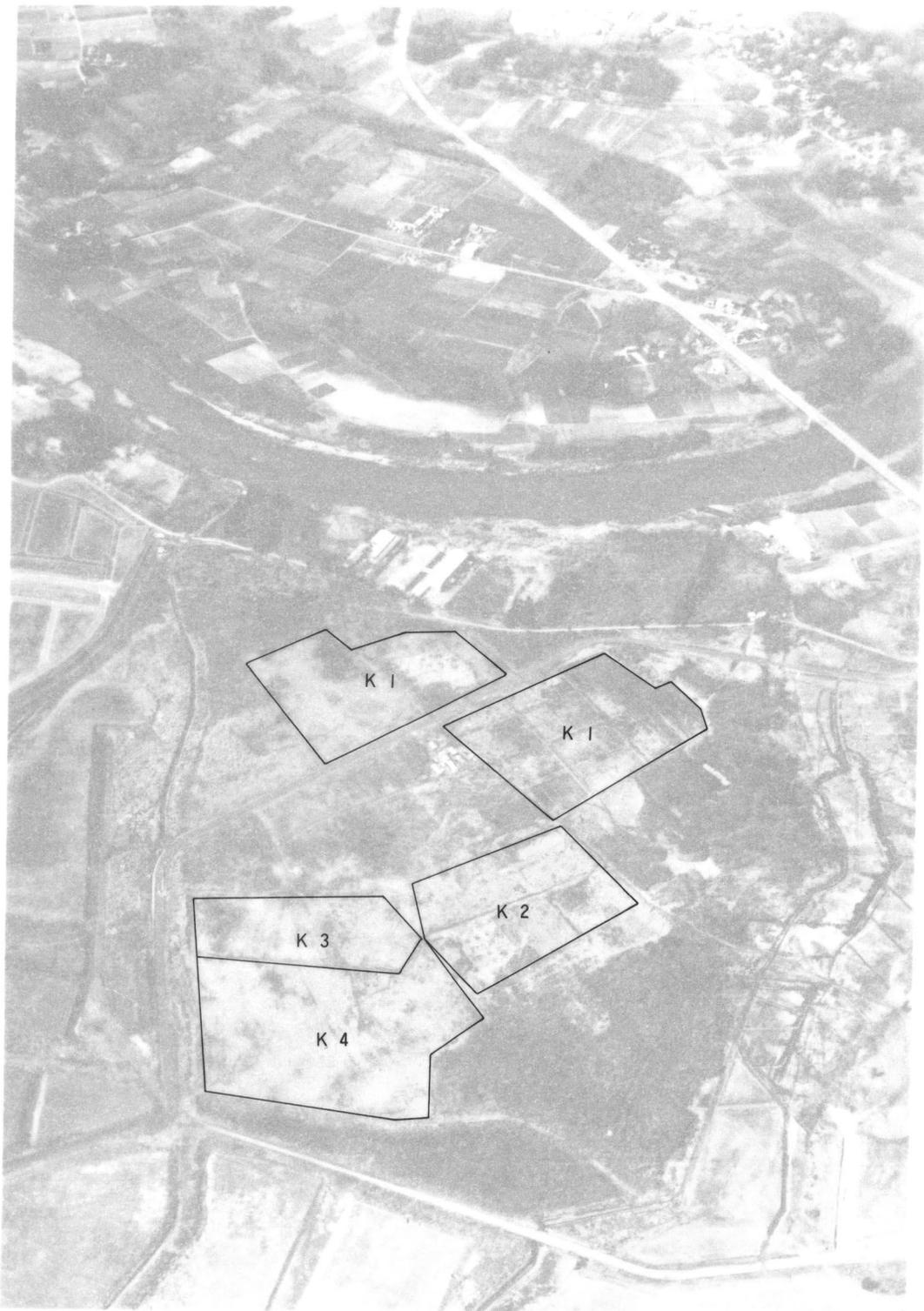
表 1	筒戸 A・B 遺跡周辺の遺跡一覧表.....	9	表 10	住居跡の時期と平面形状 (大谷津 B 遺跡).....	301
表 2	住居跡一覧表.....	125	表 11	土壌形態分類一覧表.....	309
表 3	土壌形態分類一覧.....	129	表 12	住居跡出土遺物一覧表.....	373
表 4	出土遺物観察表.....	235	表 13	土壌・埋葬・その他の 出土遺物一覧表.....	375
表 5	土錘計測表.....	251	表 14	住居跡出土破片数一覧.....	381
表 6	石器石質一覧表.....	281	表 15	筒戸 A・B 遺跡出土黒曜石 試料分析表.....	388
表 7	住居跡の平面形状と主柱配置 (筒戸 A・B 遺跡).....	291	表 16	原産地対照表.....	388
表 8	住居跡の平面形状と主柱配置.....	293			
表 9	住居跡の時期と平面形状 (筒戸 A・B 遺跡).....	299			

付 図

付図 1	遺構分布図 (筒戸 A・B 遺跡, 大谷津 B 遺跡)	付図 4	遺構全体図(土壌)
付図 2	遺構全体図(筒戸 A・B 遺跡)	付図 5	住居跡の類型化(筒戸 A・B 遺跡)
付図 3	遺構全体図(住居跡)	付図 6	土壌の平面規模相関図(筒戸 A・B 遺跡)

第 209 図	把手・ 有孔鏢付土器(1)-----	246	第 246 図	I 群 1 類 a (1)-----	317
第 210 図	把手・ 有孔鏢付土器(2)-----	247	第 247 図	I 群 1 類 a (2)-----	318
第 211 図	把手・ 有孔鏢付土器(3)-----	248	第 248 図	I 群 1 類 a (3)-----	319
第 212 図	土器片錘-----	249	第 249 図	I 群 2 類(1)-----	320
第 213 図	土器片錘・土錘の長幅比-----	250	第 250 図	I 群 2 類(2)-----	321
第 214 図	石皿(1)-----	253	第 251 図	I 群 2 類(3)-----	322
第 215 図	石皿(2)-----	254	第 252 図	II 群 1 類 a (1)-----	323
第 216 図	石皿(3)-----	255	第 253 図	II 群 1 類 a (2)-----	324
第 217 図	石皿(4)-----	256	第 254 図	II 群 1 類 a (3)-----	325
第 218 図	石皿(5)-----	257	第 255 図	II 群 1 類 a (4)-----	326
第 219 図	石皿(6)-----	258	第 256 図	II 群 1 類 a (5)-----	327
第 220 図	石皿(7)-----	259	第 257 図	II 群 1 類 a (6)-----	328
第 221 図	磨石・敲石(1)-----	261	第 258 図	II 群 2 類 a (1)-----	329
第 222 図	磨石・敲石(2)-----	262	第 259 図	II 群 2 類 a (2)-----	330
第 223 図	磨石・敲石(3)-----	263	第 260 図	II 群 2 類 b (1)-----	331
第 224 図	磨石・敲石(4)-----	264	第 261 図	II 群 2 類 b (2)-----	332
第 225 図	磨石・敲石(5)-----	265	第 262 図	II 群 2 類 b (3)-----	333
第 226 図	磨石・敲石(6)-----	266	第 263 図	II 群 2 類 b (4)-----	334
第 227 石	磨石・敲石(7)-----	267	第 264 図	II 群 2 類 b (5)-----	335
第 228 図	石鏃(1)-----	268	第 265 図	II 群 2 類 b (6)-----	335
第 229 図	石鏃(2)-----	269	第 266 図	II 群 1 類 a (7) II 群 2 類 b (7)-----	336
第 230 図	石鏃(3)-----	270	第 267 図	II 群 2 類 c (1)-----	337
第 231 図	石鏃(4)-----	271	第 268 図	II 群 2 類 c (2)-----	338
第 232 図	石匙・石錐・ 石鏃(十字形)-----	272	第 269 図	II 群 2 類 c (3)-----	339
第 233 図	打製石斧(1)-----	273	第 270 図	II 群 2 類 c (4)-----	340
第 234 図	打製石斧(2)-----	274	第 271 図	II 群 2 類 c (5)-----	341
第 235 図	磨製石斧(1)-----	275	第 272 図	II 群 3 類 a (1)-----	342
第 236 図	磨製石斧(2)-----	276	第 273 図	II 群 3 類 a (2)・ b (1)-----	343
第 237 図	槍型石器・ 有孔石製品-----	276	第 274 図	II 群 3 類 b (2)-----	344
第 238 図	浮子-----	277	第 275 図	II 群 3 類 b (3)-----	345
第 239 図	ナイフ形石器・ 加工痕のある剝片-----	278	第 276 図	II 群 3 類 b (4)-----	346
第 240 図	礫器・砥石-----	279	第 277 図	I 群 1 類 a (1)-----	347
第 241 図	表土出土石器(石皿・磨石)-----	280	第 278 図	I 群 1 類 a (2)-----	348
第 242 図	住居跡の変遷図-----	297	第 279 図	I 群 2 類-----	349
第 243 図	集落の変遷図-----	303	第 280 図	II 群 1 類(1)-----	350
第 244 図	時期別遺構分布図(大谷津・筒戸)-----	307	第 281 図	II 群 1 類(2)-----	351
第 245 図	土壙群配置図-----	313	第 282 図	II 群 2 類 b (1)-----	352
			第 283 図	II 群 2 類 b (2)-----	353
			第 284 図	II 群 2 類 a (1)-----	353
			第 285 図	II 群 2 類 a (2)・ c -----	354
			第 286 図	II 群 3 類 a (1)・ b (1)-----	355
			第 287 図	II 群 3 類 a (2)-----	356

第 123 図	土壙実測図(7)	149	第 166 図	第 5 号住居跡出土土器(2)	196
第 124 図	土壙実測図(8)	150	第 167 図	第 6 号住居跡出土土器(1)	197
第 125 図	土壙実測図(9)	151	第 168 図	第 6 号住居跡出土土器(2)	198
第 126 図	土壙実測図(10)	152	第 169 図	第 7 号住居跡出土土器	199
第 127 図	土壙実測図(11)	153	第 170 図	第 8 号住居跡出土土器	200
第 128 図	土壙実測図(12)	154	第 171 図	第 9 号住居跡出土土器	201
第 129 図	土壙実測図(13)	155	第 172 図	第 13 号住居跡出土土器	202
第 130 図	土壙実測図(14)	156	第 173 図	第 15 号住居跡出土土器(1)	203
第 131 図	土壙実測図(15)	157	第 174 図	第 15 号住居跡出土土器(2)	204
第 132 図	土壙実測図(16)	158	第 175 図	第 16 号住居跡出土土器	206
第 133 図	土壙実測図(17)	159	第 176 図	第 17 号住居跡出土土器	207
第 134 図	土壙実測図(18)	160	第 177 図	第 18 号住居跡出土土器	208
第 135 図	土壙実測図(19)	161	第 178 図	第 19 号住居跡出土土器	209
第 136 図	土壙実測図(20)	162	第 179 図	第 20 号住居跡出土土器	210
第 137 図	土壙実測図(21)	163	第 180 図	第 27 号住居跡出土土器	210
第 138 図	土壙実測図(22)	164	第 181 図	第 28 号住居跡出土土器(1)	211
第 139 図	土壙実測図(23)	165	第 182 図	第 28 号住居跡出土土器(2)	212
第 140 図	土壙実測図(24)	166	第 183 図	第 30 号住居跡出土土器	213
第 141 図	土壙実測図(25)	167	第 184 図	第 40 号住居跡出土土器	213
第 142 図	土壙実測図(26)	168	第 185 図	第 42 号住居跡出土土器(1)	215
第 143 図	土壙実測図(27)	169	第 186 図	第 42 号住居跡出土土器(2)	216
第 144 図	土壙実測図(28)	170	第 187 図	第 42 号住居跡出土土器(3)	217
第 145 図	土壙実測図(29)	171	第 188 図	第 42 号住居跡出土土器(4)	218
第 146 図	土壙実測図(30)	172	第 189 図	第 43 号住居跡出土土器	219
第 147 図	土壙実測図(31)	173	第 190 図	第 45 号住居跡出土土器	219
第 148 図	土壙実測図(32)	174	第 191 図	第 50 号住居跡出土土器	220
第 149 図	土壙実測図(33)	175	第 192 図	第 52 号住居跡出土土器	221
第 150 図	土壙実測図(34)	176	第 193 図	第 56 号住居跡出土土器	222
第 151 図	土壙実測図(35)	177	第 194 図	第 57 号住居跡出土土器	223
第 152 図	土壙実測図(36)	178	第 195 図	第 63 号住居跡出土土器	223
第 153 図	土壙実測図(37)	179	第 196 図	第 68 号住居跡出土土器	224
第 154 図	土壙実測図(38)	180	第 197 図	第 69 号住居跡出土土器	225
第 155 図	土壙実測図(39)	181	第 198 図	第 72 号住居跡出土土器	225
第 156 図	土壙実測図(40)	182	第 199 図	第 74 号住居跡出土土器	226
第 157 図	土壙実測図(41)	183	第 200 図	第 77 号住居跡出土土器	226
第 158 図	土壙実測図(42)	184	第 201 図	第 78 号住居跡出土土器	226
第 159 図	土壙実測図(43)	185	第 202 図	第 10・31 号住居跡出土土器	227
第 160 図	土壙実測図(44)	186	第 203 図	土壙出土土器(1)	229
第 161 図	土壙実測図(45)	187	第 204 図	土壙出土土器(2)	230
第 162 図	埋甕実測図	180	第 205 図	土壙出土土器(3)	231
第 163 図	SX 1 実測図	181	第 206 図	グリッド出土土器	232
第 164 図	SX 3 実測図	192	第 207 図	埋甕(1)	233
第 165 図	第 5 号住居跡出土土器(1)	195	第 208 図	埋甕(2)	234



遺跡遠景



遺跡遠景

事業区域内に確認された5遺跡（大谷津A・B遺跡，筒戸A・B遺跡，西下宿遺跡）は互いに隣接しているため，一連の大調査区の方眼の中に組み入れた（第1図）。

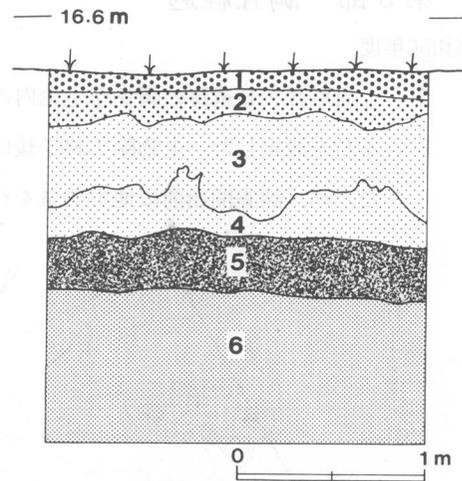
調査区の名称は，まず大調査区を北から南へ「A」・「B」・「C」……「O」，西から東へ「1」・「2」・「3」……「19」と大文字を付して「A1」区・「B2」区のように呼称した。さらに大調査区内を4m四方の小調査区に100分割し，それぞれ同様に北から南へ「a」・「b」・「c」……「j」，西から東へ「1」・「2」・「3」……「9」・「0」と小文字を付した。

各小調査区の名称は，大調査区の名称と合わせた4文字で「A2b2」区・「M8j0」区のように呼称した（第2図）。

なお，筒戸A・B遺跡は，大調査区で南北「J」～「O」・東西「7」～「12」の範囲に位置している。

2 層序の検討

筒戸A・B遺跡の基本層序（第3図）は，第1層が表土層で10cmほどの厚さを有し，比較的柔らかく軽い土質である。第2層は15～20cmほどの暗褐色土層であるが，遺跡の南部においては，この層が確認できない部分もみられる。第3層以下は関東ローム層となる。第4層は30～40cmほどのソフトロームであるが，部分的に鋸歯状の堆積を示しており，何らかの変動があったことが想起される。第5層は30cmほどの暗褐色土の堆積がみられ，火山活動の休止時期であろう。第6層以下はハードローム層である。



土層解説			
1層	Hue	7.5 YR	1/4 褐色 表土層
2層	Hue	7.5 YR	3/4 暗褐色 ローム粒子を混入する黒色土層
3層	Hue	10 YR	5/6 黄褐色 黒色土粒子を混入するソフトローム層
4層	Hue	10 YR	1/4 褐色 粘性を有し，密で硬いローム層
5層	Hue	10 YR	5/4 にふい黄褐色，暗褐色土のバンド層
6層	Hue	10 YR	6/6 明黄褐色，ローム

第3図 土層柱状図

3 遺構確認

筒戸A・B遺跡の確認された経緯については前節に述べたとおりである。当遺跡の遺構確認は，昭和56年の末に試掘調査を行い，その結果に基づき重機によるA・B遺跡全域の表土除去を実施し，昭和57年3月まで行った。その結果，筒戸A遺跡から多数の土器片とともに住居跡状の遺構40基・土壇状の遺構約200基が確認され，筒戸B遺跡からも同様な住居跡状の遺構が約40基，土壇状の遺構が約120基ほど確認された。その分布状況は，筒戸A遺跡及び筒戸B遺跡とも，北側の大谷津B遺跡寄りに集中してみられたが，南側は比較的少なかった。

4 遺構調査

住居跡の調査は、長径方向とそれに直交する方向にベルトを設けて四方割して掘り込む四分割法で実施し、地区の名称は北から時計回りに1～4区とした。土壌の調査は、長軸方向で二分して掘り込む二分法で実施した。記録の過程は、土層断面写真撮影→土層断面図作成→遺物出土状況写真撮影→遺物出土位置図作成→平面（完掘）写真撮影→断面図作成→平面図作成の順で行った。出土遺物については、出土地点を計測し、平面図の作成を行った。

なお、遺構番号は確認調査において、筒戸A・B遺跡はほぼ同時期の遺構遺物等が検出されたため、ほぼ同時期の集落跡と考え、遺跡ごとに遺構の番号を分けず、通し番号で付した。

第3節 調査経過

昭和56年度

- 9 月 筒戸A・B遺跡の調査予定地内の雑木伐開及び上物除去作業を行い、調査区割の基本杭を設定した。上物除去終了後に塚状の可能性がみられるマウンドが多数確認されたため、調査開始前に地形測量を行った（第4図）。



第4図 調査前の地形図

- 10 月 筒戸B遺跡内の表土層及び遺構の状況を把握するための試掘調査を、大調査区ごとに南側から北側へと進めた。
- 11 月 筒戸B遺跡の試掘と並行して、筒戸A遺跡の試掘を行った。表土層や遺構の状況がある程度把握できたので、中間から重機を動入して表土の除去作業を行った。
- 12 月 表土除去が終了した地区から遺構の確認作業を行い、中旬までに重機による作業を終了した。中旬から小調査区割の杭打ちを行った。
- 1 月 筒戸A遺跡の遺構確認作業を北側から南側へと進めた。
- 2 月 筒戸B遺跡の遺構確認作業を北側から南側へと進めた。
- 3 月 筒戸B遺跡の南側の遺構確認を終了させ、全景写真撮影を行った。

昭和57年度

- 4 月 調査の諸準備を整え、筒戸B遺跡の南側のN10区周辺から調査を開始した。並行して土層観察用のテストピットを掘る。
- 5 月 M10区・M11区内の土壌及び住居跡の調査を行い、さらにM9区・L10区内の遺構調査を実施した。L10区の北側で検出された住居跡からは遺物が多く出土し、遺構の遺存状態も良好であったが、南側のM9区・M10区・M11区から検出された遺構は、遺物も少なく遺存状態が悪かった。特に住居跡は、壁の確認されないものが多くみられた。
- 6 月 L10区・L11区からK9区・K10区・K11区内の調査に移った。この地区では、縄文時代の住居跡・土壌のほか、埋設土器等も検出された。L10区から平安時代に比定される須恵器を伴う住居跡が1軒検出された。
- 7 月 調査は、大谷津B遺跡に隣接するJ10区・J11区内に移った。この地区からは、土壌が密集して確認された。住居跡の調査は第36号まで進行し、その中で第19号住居跡からは石組み炉が検出された。また、L10区内で検出された住居跡と同じ平安時代の住居跡が1軒検出された。
- 8 月 調査は、台風などの影響で一時遅れが出たが、筒戸B遺跡の予定地内の調査は一部を残して終了した。
- 9 月 筒戸A遺跡の遺構が集中するK9区から調査を開始した。遺構番号は「遺構調査」の方法の項でふれたように筒戸B遺跡からの通し番号を用い、住居跡は第42号から、土壌は第270号から番号を付けて調査を進めた。本月は、住居跡は第58号、土壌は第384号まで調査を実施した。
- 10 月 J8区・J9区内の遺構調査に入ったが、遺物はさほど多くなかった。続いて、遺構の集中するK8区の調査に移り、住居跡は第72号まで、土壌は遺物の多く検出され

た第420号まで調査を実施した。

- 11 月 前月に引き続きK8区の調査を行い、住居跡は第84号まで、土壇は第484号まで調査を終了した。これにより厳寒期を迎える前に筒戸A遺跡内の遺構の集中する地区の調査を完了することができた。
- 12 月 筒戸A遺跡内に確認された遺構・遺物の図面作成を行い、本年の調査を終了させ、年末・年始に入った。
- 1 月 10日から現場作業を再開し確認された遺構の調査を行った。住居跡は第92号、土壇は第529号まで調査を実施した。
- 2 月 これまで調査した遺構の実測を終了させた後、再度両遺跡内の見直しを行った。その結果、筒戸B遺跡で住居跡2軒・土壇30基を新たに確認し、調査を実施した。23日調査区域内のすべての遺構調査を完了した。
- 3 月 3日に航空写真撮影を行うとともに、12日には当遺跡の現地説明会を実施し、昭和56年10月から昭和58年3月までの18か月にわたる筒戸A遺跡・筒戸B遺跡の発掘調査を終了した。



全 景 写 真

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

筒戸A遺跡は、茨城県筑波郡谷和原村大字筒戸字諏訪1632番地の21ほか16筆に所在し、調査対象面積は、8,187㎡である。筒戸B遺跡は、筒戸A遺跡の東側に隣接し、位置は1632番地の13ほか16筆に所在し、調査対象面積は、18,962㎡である（第5図）。

当遺跡の所在する谷和原村は茨城県の南西部に位置し、栃木県から本県に南流する鬼怒川と、これとほぼ並行して南流する小貝川によって造られた沖積低地と、北東側から続く筑波・稲敷台地及び西側の猿島・北相馬台地の一部から成り立っている。台地の標高は、26～29mほどの比較的平坦な台地である。谷和原村の大部分は沖積低地であり、この低地は鬼怒川水系の幾多の変遷と造盆地運動によって造られたと考えられている。なお鬼怒川は、江戸時代以前に北相馬台地の北端・小絹地先で東流し、小貝川と合流していたため洪水の原因となっていたが、江戸時代初期に治水事業が行われ、猿島・北相馬台地の一部を開削することにより小貝川と分流がなされ、当遺跡の北部で大きく南西に曲がりながら流下し、利根川に注ぎ込むようになった。

当遺跡は、谷和原村役場の南西約3.3kmほどの距離に所在し、谷和原村の西端にあたる。遺跡の東方約1.4kmには小貝川が南東に流下し、西方約600mには鬼怒川が接近して流れている。遺跡はこの接近した二つの川に挟まれた平坦な台地上に位置し、標高は約16mほどである。当台地の北側には谷津が南東に向かって入り込み、その比高は約5mほどである。

なお、当遺跡の北側には、当遺跡とほぼ同時期の縄文時代の集落遺跡である大谷津B遺跡が続く、更にその北西には、当遺跡より時期がやや先行する大谷津A遺跡が所在し、当台地の東側縁辺部に沿って縄文時代中期のかなりの大規模な集落の存在が認められる。当時のこの台地が、自然環境に恵まれた地であったことが推察される。

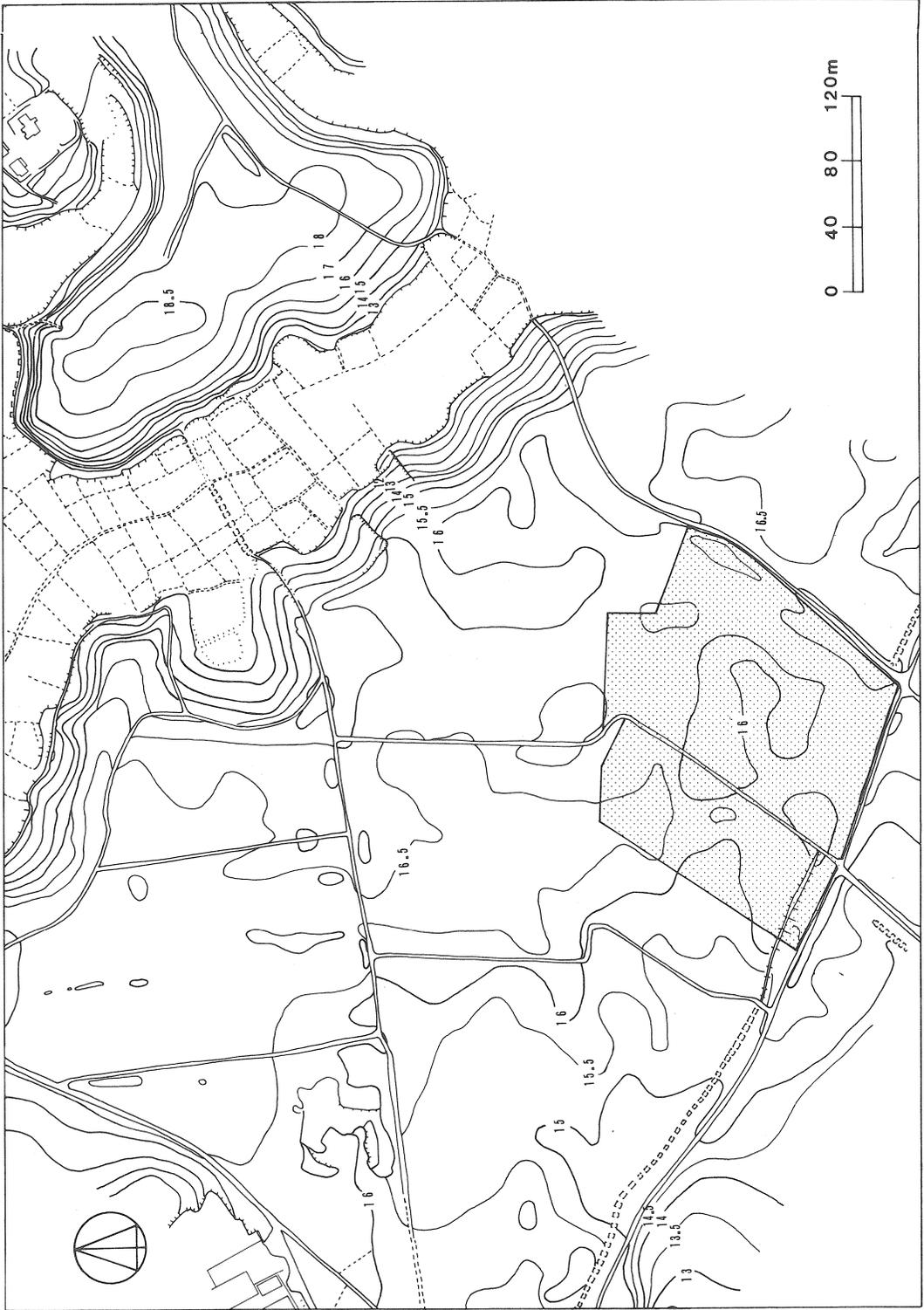
なお、遺跡の現況は山林で、表土層は浅く10～30cmほどであった。

第2節 歴史的環境

筒戸A・B遺跡の周辺に存在する遺跡を、谷和原村を中心に時代ごとに記載すると次のとおりである（表1）。

先土器時代の遺跡は、谷和原村内では現在のところ確認されていない。

縄文時代の遺跡は、早期から晩期までの遺跡が確認されているがそのなかで主なものをあげると早期の遺跡では、当教育財団が昭和56年度に発掘調査を行った西下宿遺跡にししもじく<1>、洞坂畑遺跡どうさかばた



第 5 図 遺跡地形図

図中 番号	遺跡名	遺跡の時代					図中 番号	遺跡名	遺跡の時代					
		先土器	縄文	弥生	古墳	その他			先土器	縄文	弥生	古墳	その他	
◎	簡戸A・B遺跡		○			○	18	坂手日之王神遺跡		○				
1	西下宿遺跡		○				19	北守谷遺跡		○				
2	大谷津B遺跡		○				20	清水古墳群				○		
3	大谷津A遺跡		○				21	鈴塚遺跡(B)		○				
4	浅間山遺跡		○				22	鈴塚遺跡(C)		○				
5	茶畑古墳				○		23	座庄内遺跡(B-1)					○	
6	洞坂畑遺跡		○			○	24	鈴塚古墳(F)				○	○	
7	下長沼貝塚		○				25	大日遺跡(A)		○	○	○	○	
8	筒戸城					○	26	篠根入遺跡(C-1)					○	
9	奥山A遺跡		○			○	27	中原遺跡(C-2)				○	○	
10	奥山B遺跡		○				28	中原遺跡(C-3)				○	○	
11	奥山C遺跡		○				29	中原遺跡(C-5)				○	○	
12	奥山下根遺跡		○			○	30	今城遺跡(E)		○		○	○	
13	西原遺跡				○		31	北今城遺跡(D-2・3)				○	○	
14	内守谷本郷遺跡		○				32	北今城遺跡(D-1)				○	○	
15	管生城遺跡					○	33	乙子遺跡(D-4)				○	○	
16	内守谷館ノ台遺跡		○				34	守谷城跡					○	
17	坂手宣場貝塚		○											

表1. 簡戸A・B遺跡周辺の遺跡一覧表

〈6〉などがあげられる。前期の遺跡は少なく、わずかに^{せんげんやま}浅間山貝塚〈4〉に認められるにすぎない。中期の遺跡は、比較的多く、当遺跡をはじめ、昭和56年度に発掘調査が実施され、多数の遺構・遺物を検出した^{おおやぶ}大谷津B遺跡〈2〉や、昭和57・58年に発掘調査が実施された大谷津A遺跡〈3〉がみられる。後期から晩期の遺跡で調査がなされ確認されているのは、前述した洞坂畑遺跡〈6〉があげられる。その他の遺跡については表1を参照されたい。

弥生時代の遺跡は、先土器時代の遺跡と同様に、谷和原村内では現在のところ確認されていない。

古墳時代の遺跡は、茶畑古墳〈5〉や昭和53年度に発掘調査を実施し、粘土槨が検出された^{ならと}東橋戸古墳などの古墳のほか、集落跡などの遺跡がみられる。

奈良・平安時代の遺跡については、報告例が少ないが、隣接する水海道市や守谷町などでは、⁽³⁾⁽⁴⁾かなりの報告例がみられることを考えると、今後発見されることも予想される。

中世では筒戸城〈8〉などが伝えられている。

以上のように、谷和原村及びその周辺の台地には、原始・古代・中世にわたる遺跡が多く点在し、生活が営まれていたことがうかがえる。

※ 文中の〈 〉中の番号は、第6図中の該当遺跡番号を表す。

参考文献

- (1) 「洞坂畑遺跡」 洞坂畑遺跡発掘調査会 昭和54年
- (2) 「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ」(東橋戸遺跡) 茨城県教育財団 昭和56年
- (3) 「水海道市史 上巻」 水海道市史編さん委員会 昭和58年
- (4) 「南守谷地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」 茨城県教育財団 昭和56年



第6図 筒戸A・B遺跡周辺の遺跡

第3章 遺構

第1節 遺構の概要と記載方法

1 遺構の概要

当遺跡は、調査予定地内の農道を境に、西側を筒戸A遺跡、東側を筒戸B遺跡としてとらえられた遺跡である。北側には、昭和55年度から昭和56年度前半にかけて調査が実施された大谷津B遺跡が隣接している。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡、土壇、埋甕、平安時代の竪穴住居跡を検出した。

筒戸A遺跡から検出された遺構は、竪穴住居跡52軒、土壇261基、埋甕5基である。筒戸B遺跡から検出された遺構は、竪穴住居跡43軒、土壇288基、埋甕2基、その他性格不明のものが3基である。その後、出土遺物を整理し、遺構の状況等を検討した結果、遺構ではないと判断されたものは欠番とし、本項から除外した。その結果、筒戸A遺跡で確認された縄文時代中期の遺構は、竪穴住居跡48軒（炉の検出されていない19軒を含む）、土壇189基、埋甕5基で、その分布は、中央から北部にかけて集中して所在している。筒戸B遺跡で確認された縄文時代中期の遺構は、竪穴住居跡37軒（炉の検出されていない2軒を含む）、土壇266基、埋甕2基、その他性格不明のものが3基である。平安時代の竪穴住居跡は2軒のみであった。これらの遺構の分布は、筒戸A遺跡に比してやや散在するが、それでも中央から北部に多く所在している。このことから、当遺跡の集落は、隣接する大谷津B遺跡へと広がっていることが推測できる。

なお、当遺跡の発掘調査以前の地形は、山林でかなりの起伏があり表土層にも厚みの変化があったことと、重機を導入して遺構確認面であるローム直上まで表土除去を行ったため、竪穴住居跡の壁が確認されなかったものが多く認められている。

2 遺構の記載方法

本書における遺構の記載方法は、下記の要領で統一し記載した。なお、遺物については、第4章遺物のところで記述した。

(1) 使用記号

本書で使用した記号は、つぎのとおりである。

竪穴住居跡－S I 土壇－S K 埋甕－M その他－S X ピット－P 攪乱－K

(2) 遺構の表示

本書で使用した遺構等の表示方法は、つぎのとおりである。

 = 炉 跡  = 焼 土 ● 土器 ▲ 石器, チップ ★ 石鏃

(3) 土層の分類

本書で使用した土層の分類記号は、つぎのとおりである。色調は、「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄編著・日本色研事業株式会社）を使用し、Hue7.5YRを基準とした。

番号	土色名	色相	明度/彩度	含有物
1	褐色	Hue 7.5YR	$\frac{4}{3}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{6}$	a ローム粒子が混入している。
2	暗褐色	Hue 7.5YR	$\frac{3}{3}$ $\frac{3}{4}$	b ローム小ブロックが混入している。
3	黒褐色	Hue 7.5YR	$\frac{3}{1}$ $\frac{3}{2}$ $\frac{2}{2}$	c ロームブロックが混入している。
4	黒色	Hue 7.5YR	$\frac{2}{1}$ $\frac{1.7}{1}$	d 焼土粒子が混入している。
5	極暗褐色	Hue 7.5YR	$\frac{2}{3}$	e 炭化物、炭化粒子が混入している。
6	明褐色	Hue 7.5YR	$\frac{5}{6}$ $\frac{5}{8}$	f 灰が混入している。
7	黄褐色	Hue 7.5YR	$\frac{5}{3}$ $\frac{5}{4}$ $\frac{5}{6}$	g 粘土が混入している。
8	明黄褐色	Hue 10YR	$\frac{6}{6}$ $\frac{6}{8}$	h ローム粒子、小ブロックが混入して
9	にぶい褐色	Hue 7.5YR	$\frac{6}{3}$ $\frac{5}{3}$ $\frac{5}{4}$	いる。
10	赤色	Hue 2.5・5 YR	$\frac{3}{4}$ $\frac{4}{6}$ $\frac{4}{8}$	i ローム粒子、ブロック等が混入して
11	暗赤褐色	Hue 5 YR	$\frac{3}{2}$ $\frac{3}{3}$	いる。
12	赤色	Hue 10YR	$\frac{3}{2}$ $\frac{3}{3}$	j 焼土、炭化物が混入している。
13	灰褐色	Hue 7.5YR	$\frac{4}{2}$ $\frac{5}{2}$ $\frac{6}{2}$	l その他のものが混入している。
14	にぶい赤褐色	Hue 5・2.5YR	$\frac{5}{3}$ $\frac{5}{4}$ $\frac{4}{3}$	
15	極暗赤褐色	Hue 5・2.5YR	$\frac{2}{3}$ $\frac{2}{4}$ $\frac{2}{3}$	* 「小ブロック」は直径5mm以下のものとした。
16	にぶい黄褐色	Hue 10YR	$\frac{5}{3}$ $\frac{5}{4}$ $\frac{4}{3}$	「中ブロック」は直径5～20mmのものとした。
17	暗灰黄色	Hue 2.5Y	$\frac{5}{2}$ $\frac{4}{2}$	上記以上のものは「ロームブロック」とした。
18	オリーブ褐色	Hue 2.5Y	$\frac{4}{3}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{6}$	含有物の量については、少量検出されたも
19	橙色	Hue 7.5・5 YR	$\frac{7}{6}$ $\frac{6}{6}$ $\frac{6}{8}$	のを基準とし、やや多くみられるものについ
20	赤黒色	Hue 2.5YR	$\frac{2}{1}$ $\frac{1.7}{1}$	ては「ノ」、さらに多く認められるものは、
21	にぶい黄橙	Hue 10YR	$\frac{7}{3}$ $\frac{6}{3}$ $\frac{6}{4}$	「ル」を付加して表示した。
22	にぶい橙色	Hue 7.5・5 YR	$\frac{7}{3}$ $\frac{7}{4}$ $\frac{6}{4}$	

(4) 記述の観点

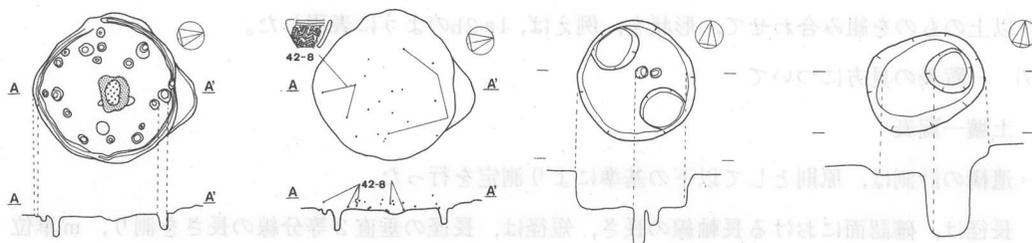
- 遺構番号は、検出された順序に番号を付け、その後、遺構ではないと判断したものは欠番とした。なお、筒戸A・B遺跡は、同じ時期の集落であると考え遺構番号は通し番号とした。
- 位置は、遺跡内を大きく、中央部、北部、東部、南部、西部に分け、さらに、遺構が所在する小調査区名を表示した。他の小調査区にわたる場合には、遺構の占める面積の割合が大き

い小調査区名をもって表示した。

- 規模については、平面形が楕円形、円形の場合は、長径、短径とし、隅丸方形、隅丸長方形などの場合は、長軸、短軸と表示した。
- 方向は、遺構の長径ないし長軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ傾いているかを角度で表したものである。平面形が円形、不定形及び重複のため形状不明の場合などは表示していない。

(5) 遺構実測図の作成方法と掲載方法

本書における遺構実測図の作成方法は、つぎのとおりである。



- 竪穴住居跡は、縮尺 $\frac{1}{50}$ にし、特殊な土器埋設炉やカマドは $\frac{1}{50}$ とした。
- 竪穴住居跡からの出土遺物は、平面図及び断面図に位置をドットに落とし、接合されたものは線で結び、実測可能なものは図化して掲載し、図版番号を表示した。しかし、接合されたものでも小片の場合は、図を掲載せずその状況を線で結んである。
- 土壌は、形態分類ごとに分け、縮尺 $\frac{1}{50}$ にした。
- 埋葬は、単独ないし住居跡内に検出されたもので、縮尺 $\frac{1}{50}$ にし、炉内に埋設された土器は埋葬の項から除外した。
- その他は、縮尺 $\frac{1}{50}$ にした。

(6) 遺構の分類

◦土壌

当遺跡において検出された土壌は415基に及ぶ。これらについて逐一詳細に記述することは困難であるため、下記に示した形状等を組み合わせて分類した。

①平面形（底面形も考慮）による分類

- I 円形（短径と長径の比が1：1.2以下のもの）。 IV 隅丸長方形、長方形。
- II 楕円形（短径と長径の比が1：1.2以上のもの）。 V 不定形。
- III 隅丸方形、方形。 VI 重複のため形状不明。

②規模（長径、長軸線の長さ）

- a 0～0.99m b 1～2m c 2m以上

③断面形状

- 1 壁面が、底面からゆるやかに立ち上がるもの。
- 2 壁面が、底面から外傾ぎみに立ち上がり、上位で外反するもの。
- 3 壁面が、底面から垂直ぎみに立ち上がるもの。
- 4 壁面が、底面から袋状となり、上位で内彎するもの。
- 5 壁面が、底面からV字状となるもの。

④深さ（底面から確認面までの垂線の長さ）

- a 0～60cm b 61～160cm c 161cm以上

以上のものを組み合わせて、形状を、例えば、1a2bのように表現した。

(7) 一覧表の見方について

土壌一覧表

◦遺構の計測は、原則として以下の基準により測定を行った。

長径は、確認面における長軸線の長さ、短径は、長径の垂直2等分線の長さを測り、m単位で表示した。深さは、底面（床面）から確認面までの垂線の長さでcm単位で表示した。

重複により計測不可能な場合は、現存する長さを測定し（ ）をつけた。

◦壁面の状況は、局部的に異なるが全体的にみて下記のように表示した。

- I 壁がやや軟弱で、底面からゆるやかに立ち上がるもの。
- II 壁がやや固く、底面から外傾ぎみに立ち上がるもの。
- III 壁が固く、底面から垂直ぎみに立ち上がるもの。

◦底面の状況

- 1 底面が全体的にみて平坦であるもの。 1' 底面がほぼ平坦である。
- 2 底面がくぼみ皿状を呈するもの。 2' 底面がほぼ皿状を呈するもの。
- 3 底面が凸凹状を呈するもの。 3' 底面がやや凹凸状を呈するもの。
- 4 底面が舟底状を呈するもの。 4' 底面がやや舟底状を呈するもの。
- 5 その他

なお、底面が傾斜を示す場合は、底面状況の略番号の後にその方向（N・E・S・W）を付けた。

◦覆土は、堆積の状態が自然堆積状を示す場合はN（natural accumulation）、人為的堆積を示す場合はA（artificial accumulation）と記し、明確でない場合は（ ）を付けた。

第2節 竪穴住居跡

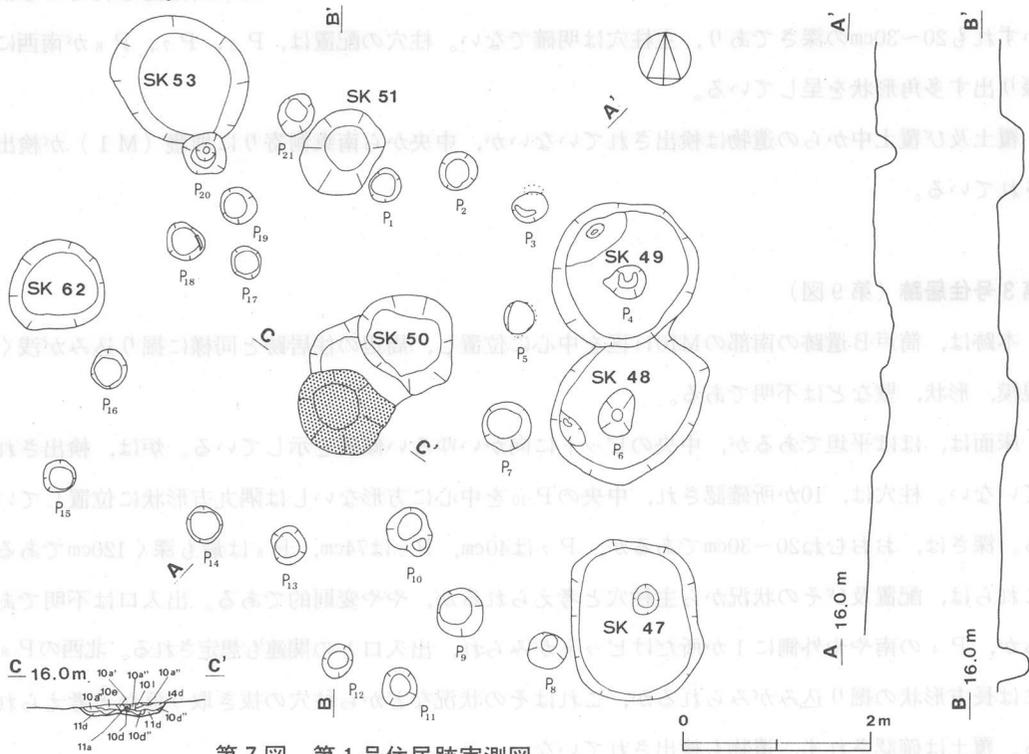
1 縄文時代

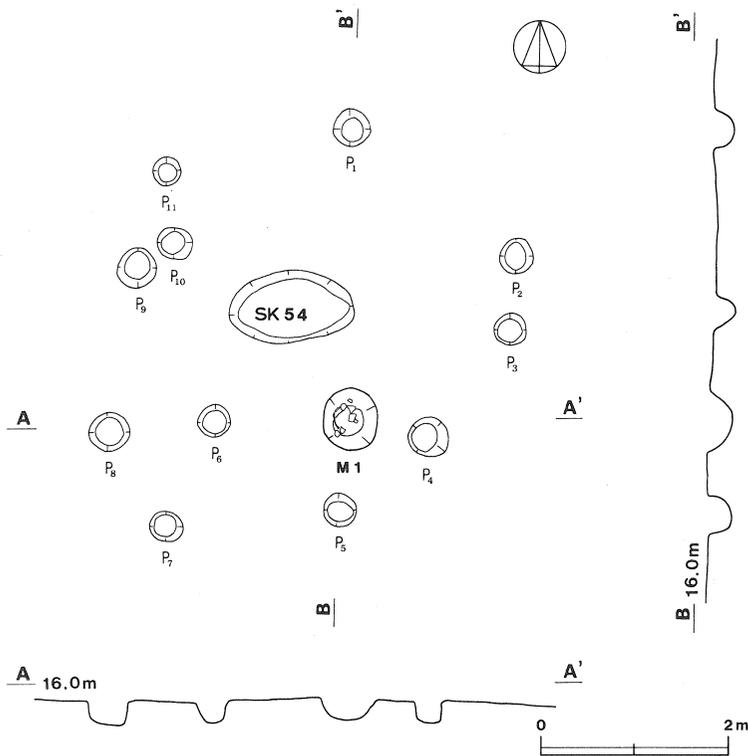
第1号住居跡 (第7図)

本跡は、筒戸B遺跡の南端部のM10i4区を中心に位置し、これより以南では住居跡は確認されていない。本跡には7基の土壇が重複しているが、いずれも本跡より新しいものである。規模、形状、長軸方向は、掘り込みが浅いため不明である。

壁は、確認されず、床面の状況や広がりには不明瞭である。炉は、柱穴の配置状況からみると床面の中央よりもやや南に位置するが、50号土壇によって北側の一部が破壊されている。平面形状は、長径100cm、短径90cmほどの不整形を呈し、床面を約20cmほど掘りくぼめた地床炉である。柱穴は、炉を中心に21か所ほど確認されているが、支柱穴は明確ではない。柱穴の配置状況を見ると、内側に約10か所ほど楕円形状に位置し、その外側に9～11か所の柱穴が方形にみられる。出入口の施設は確認されていないが、北西側のP₁とP₂₁・P₁₇とP₂₀とが「八」の字状に並ぶ位置、あるいは、南側のP₉とP₁₀・P₁₂とP₁₃の柱穴がほぼ平行に並ぶ位置が想定される。覆土は、ほとんど検出されていない。

遺物は、縄文土器の破片が82点出土している。その内、胴部が71点、口縁部が11点で、底部は出土していない。





第 8 図 第 2 号住居跡実測図

第 2 号住居跡（第 8 図）

本跡は、筒戸 B 遺跡の南部の M10h₃ 区に確認されたものであるが、掘り込みが浅いため、規模、形状などは不明瞭である。

壁は、確認されず、床面は、ほぼ平坦であるが広がり不明である。炉は、検出されていないが、ほぼ中央に 54 号土壙がみられ、その覆土中に焼土ブロックが検出されているので、あるいは、この土壙によって壊されたとも考えられる。柱穴は、11か所確認されているが、

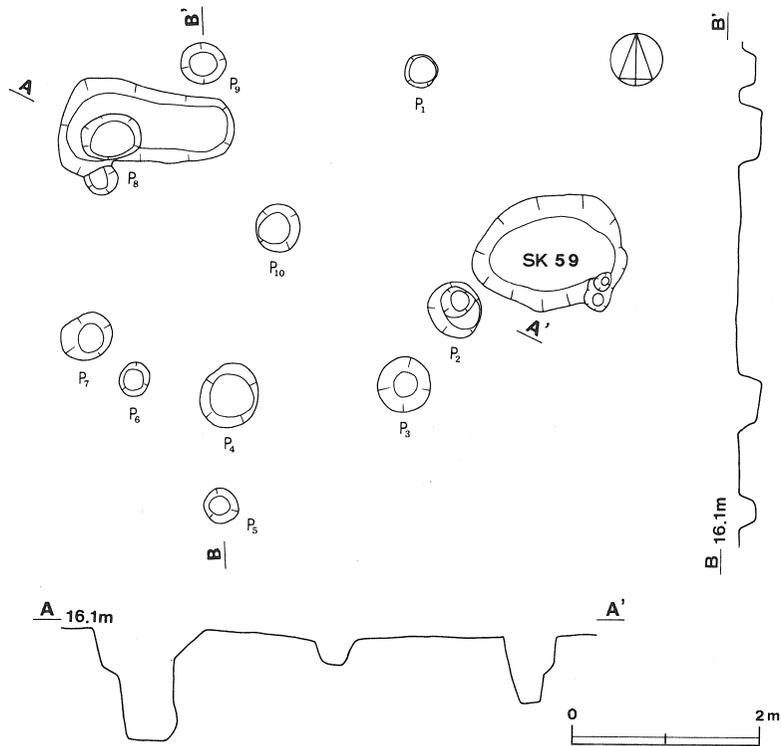
いずれも 20～30cm の深さであり、主柱穴は明確でない。柱穴の配置は、P₅、P₇、P₈ が南西に張り出す多角形状を呈している。

覆土及び覆土中からの遺物は検出されていないが、中央から南東側寄りに埋嚢（M 1）が検出されている。

第 3 号住居跡（第 9 図）

本跡は、筒戸 B 遺跡の南部の M10i₁ 区を中心に位置し、周辺の住居跡と同様に掘り込みが浅く、規模、形状、壁などは不明である。

床面は、ほぼ平坦であるが、中央のピットに向かいゆるい傾斜を示している。炉は、検出されていない。柱穴は、10か所確認され、中央の P₁₀ を中心に方形ないしは隅丸方形に位置している。深さは、おおむね 20～30cm であるが、P₇ は 40cm、P₂ は 74cm、P₈ は最も深く 120cm である。これらは、配置及びその状況から主柱穴と考えられるが、やや変則的である。出入口は不明であるが、P₄ の南やや外側に 1か所だけピットがみられ、出入口との関連も想定される。北西の P₈ には長方形の掘り込みがみられるが、これはその状況などから柱穴の抜き取り痕かと考えられる。覆土は確認されず、遺物も検出されていない。



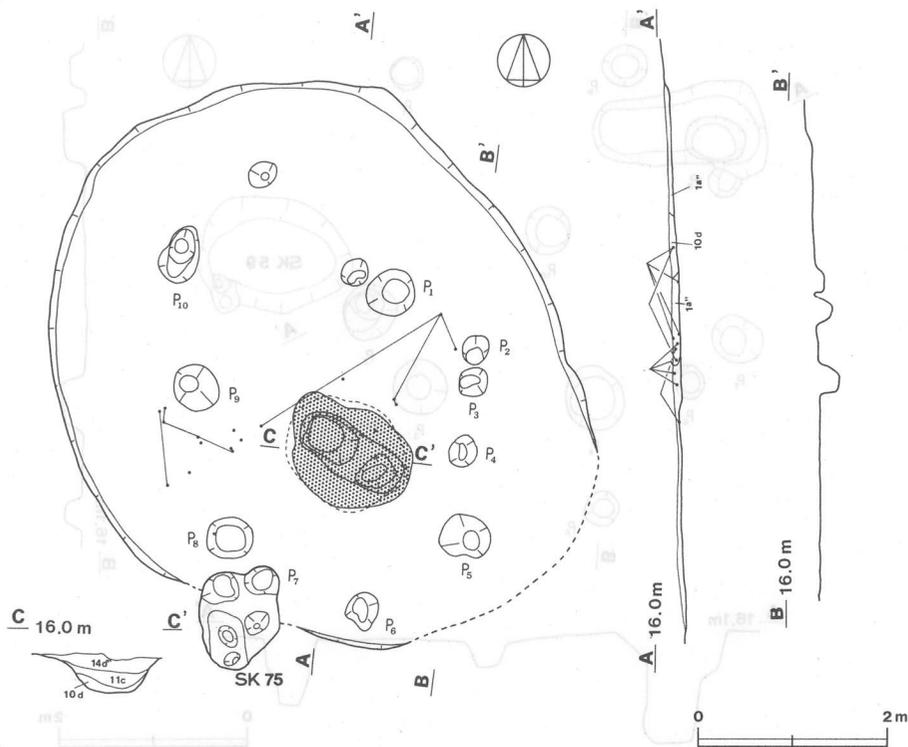
第9図 第3号住居跡実測図

時期は遺物が認められないため不明である。性格は、炉が認められていないこと、床の中央部に柱穴を有すること、集落の南端に位置することなどから、日常的に使用されたものではなく、物置的なものと想定される。

第4号住居跡（第10図）

本跡は、筒戸B遺跡のほぼ中央部のL11b1区を中心に位置し、地形的には南側にゆるい傾斜を示している。南壁には、本跡より新しい75号土壌が重複している。

平面形状は、長径6.44m、短径5.27mほどの楕円形を呈している。長径方向は、N-39°-Wを指している。壁は、3～5cmと浅く、北側はゆるい傾斜を示して立ち上がっているが、南側はゆるい傾斜地形のため壁はほとんど確認されない。床面は、ほぼ平坦でやや南に傾斜を示している。炉は、床面の中央からやや南東寄りに位置し、平面形状は長径145cm、短径107cmほどで、楕円形を呈している。炉底は15cmほど掘りくぼめた地床炉であるが、中央部に長方形の攪乱を受けている。柱穴は、10～12か所ほど確認されているがP番号が付いていないものは明確でないものである。主柱穴は、P1・P5・P8・P9の4か所と考えられ、配置状況は台形状を呈している。な



第10図 第4号住居跡実測図

図面実測器番号も 図り

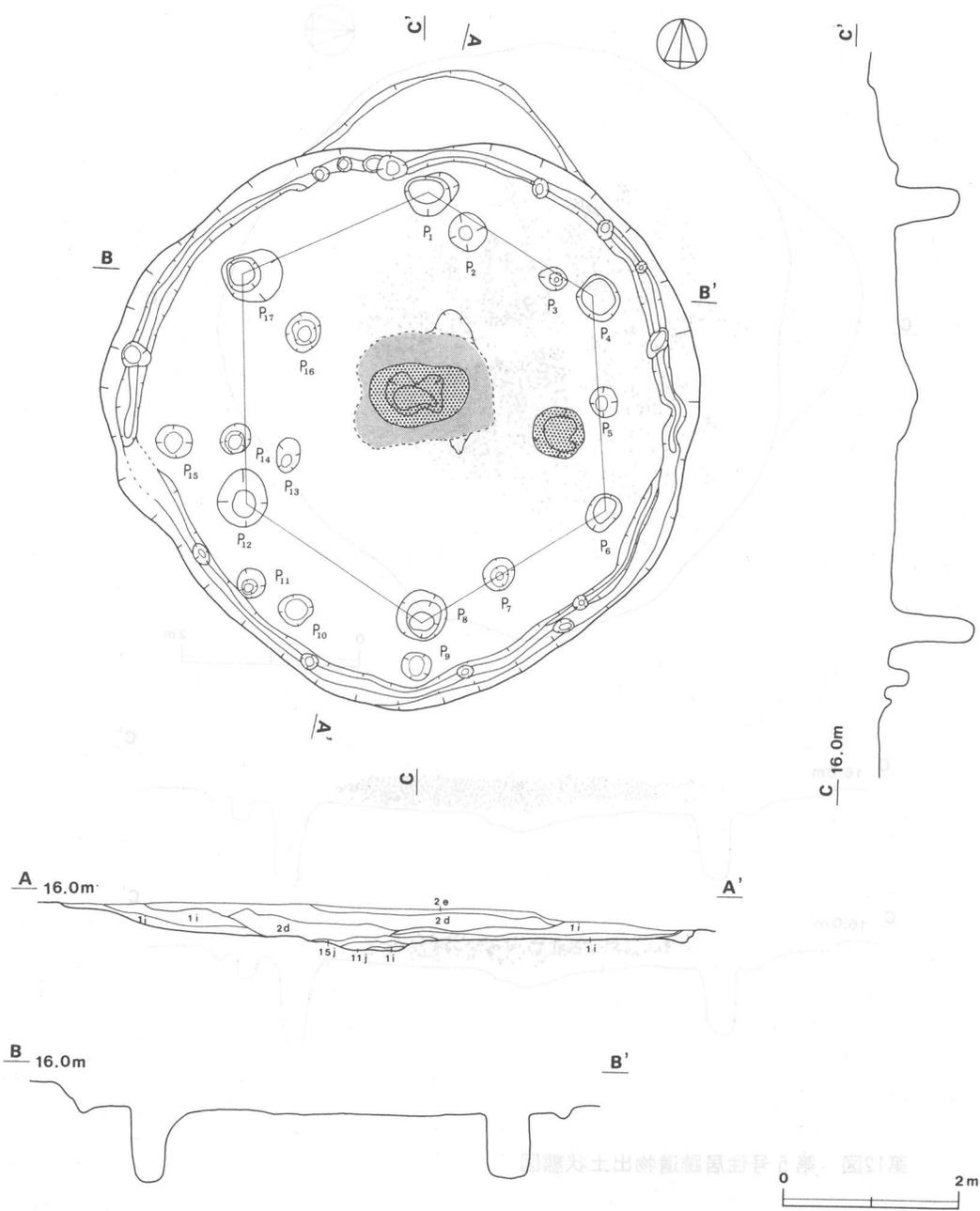
お全体的に柱穴は南寄りに位置している。覆土は、薄い褐色土層がわずかに認められるにすぎない。

遺物は、炉の北側と西側の覆土中から縄文土器の小破片が26点出土ただけである。平面的には、かなり散在していた。

第5号住居跡（第11・12・13図）

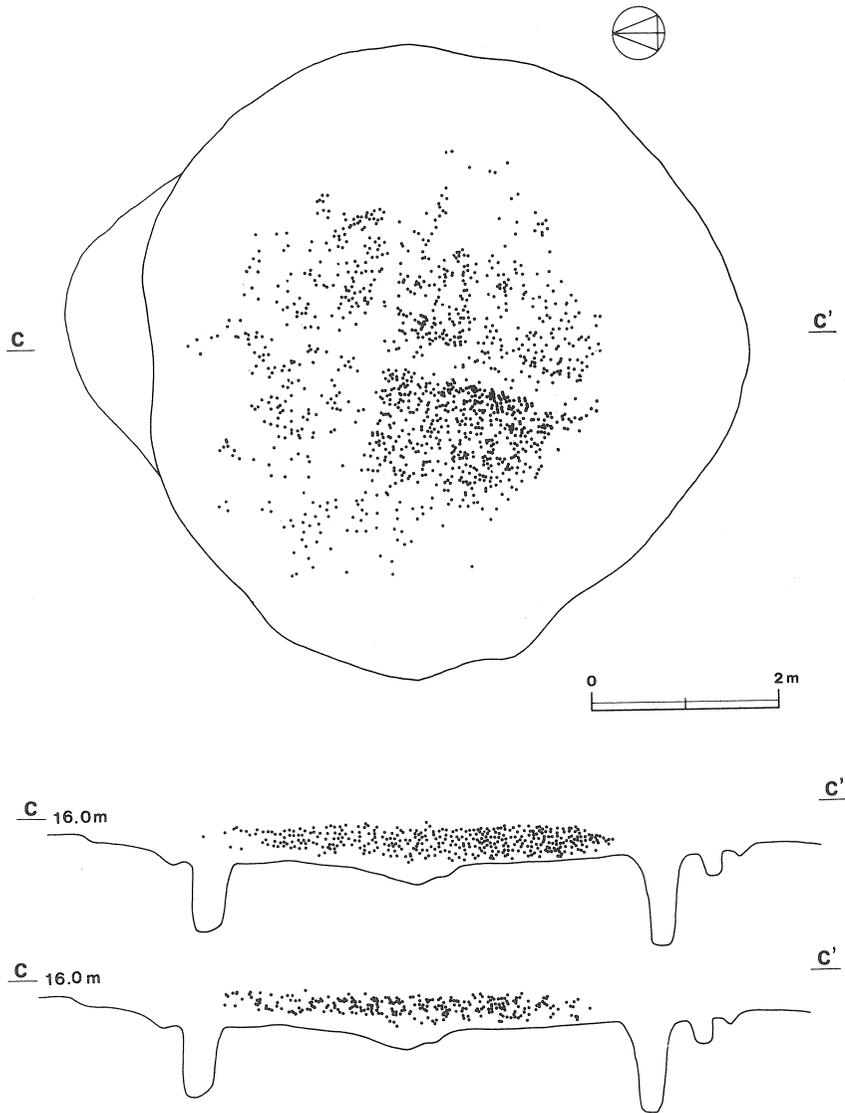
本跡は、筒戸B遺跡の中央部でやや微高地のL10e7区を中心に位置し、南東側はゆるい緩傾斜の地形となる。本跡の西壁には122号土壌が重複している。

平面形状は、長軸6.38m、短軸6.32mほどの隅丸方形を呈しているが、北側の張り出し部分を本跡に伴うものとすれば、長軸7.3m、短軸6.68mほどの規模と考えられる。長軸方向は、N-5.5°-Eを指している。壁は、10~24cmで、北側から西側にかけて高く、南側から東側はやや低くなる。壁面は、一部崩落しているがほぼ垂直ぎみに立ち上がる。壁溝は、上幅20~30cm、下幅10cmほどで東、西の一部が不明瞭であるがほぼ全周している。壁溝内には、北西を除きほぼ等間隔に直径15~35cmのピットが13か所確認され、深さはいずれも10~20cmである。床面は、ほぼ平坦で、中央の炉付近は特に硬く踏み固められている。炉は、床面のほぼ中央に位置し、その南東には小規模の炉が認められる。中央のものを炉1、南東のものを炉2とする。炉1の平面形状は



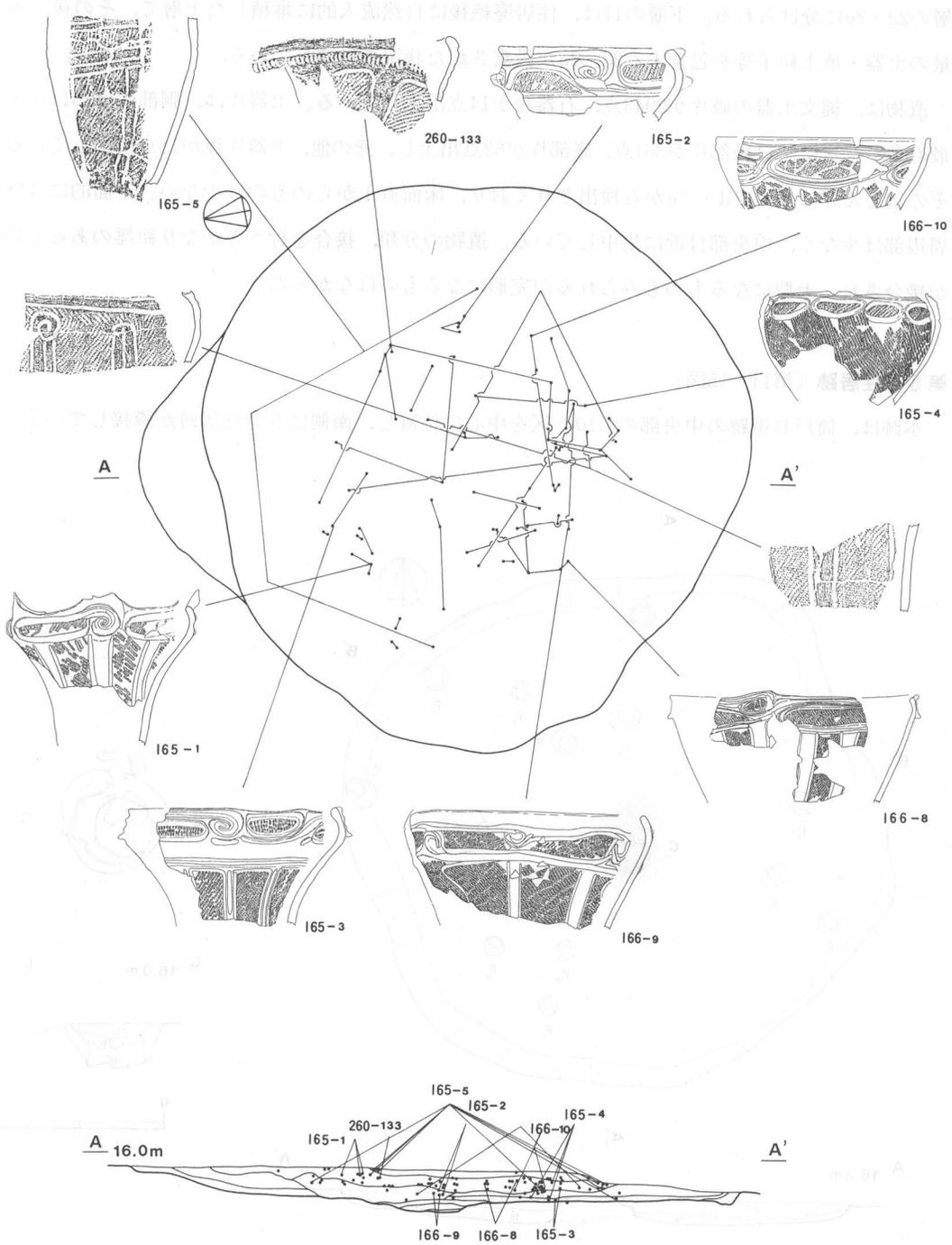
第11図 第5号住居跡実測図

長径112cm, 短径73cmほどの長楕円形を呈し, 床面を20cmほど皿状に掘りくぼめて地床炉としている。炉2は, 長径60cm, 短径50cmほどの円形を呈し, 7cmほど皿状に掘りくぼめている。炉1内には, 焼土が充満し底面はブロック状を呈しているが, 炉2内から検出される焼土は少量で底面もそれ



第12図 第5号住居跡遺物出土状態図

ほど焼けていない。柱穴は、主柱穴に沿って17か所確認されている。主柱穴は、 $P_1 \cdot P_4 \cdot P_6 \cdot P_8 \cdot P_{12} \cdot P_{17}$ の6か所で、掘り方もしっかりしており、柱間は2~2.5mの六角形の配置を呈している。出入口は、明確ではないが、西側の P_{12} と P_{17} 間は他より広く、その間に $P_{13} \sim P_{16}$ がほぼ東西に平行していることから出入口の施設かと考えられる。なお、北側の段差を有する部分も出入口に関係があるとも考えられるが、主柱穴と考える P_1 が接近しすぎ、壁が他より高いことを考えると構造上やや問題がある。覆土は、V層に区分されるが、大別すると下層の1iと上



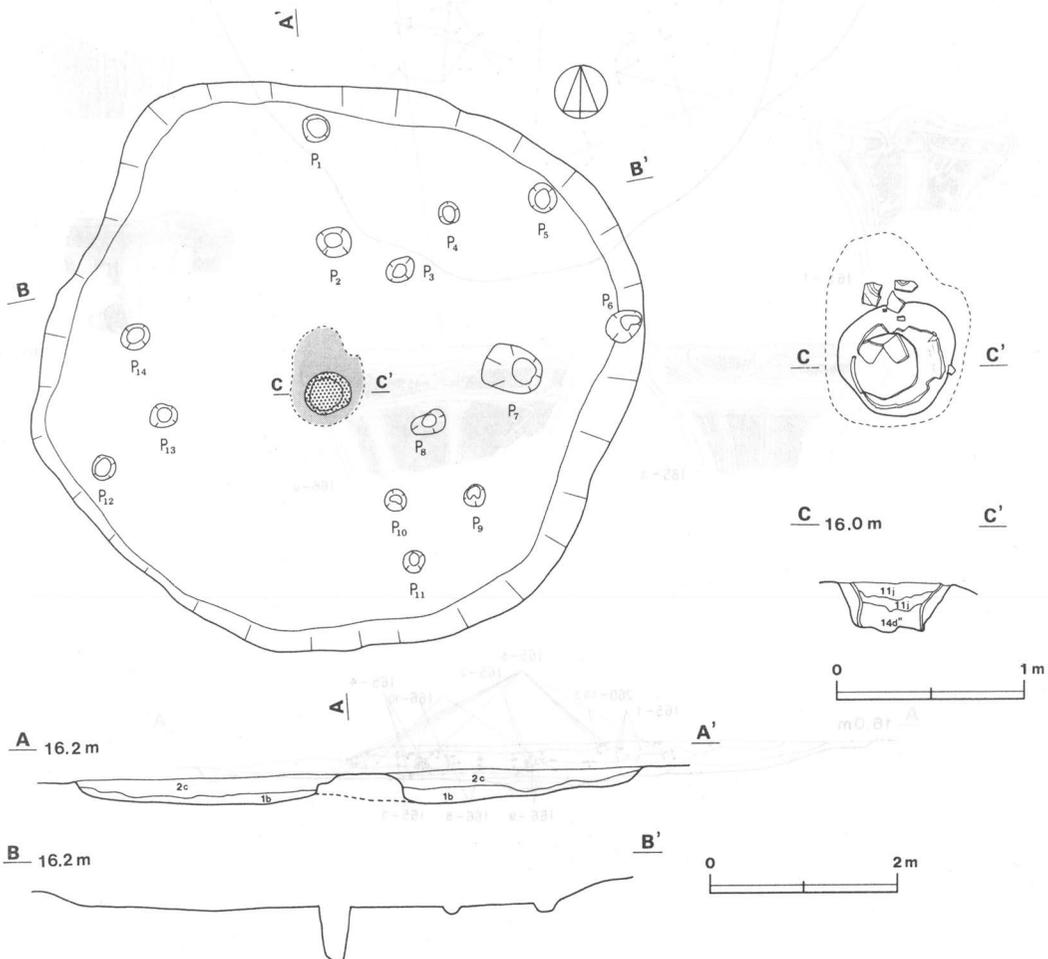
第13図 第5号住居跡遺物出土状態図

層の2d・2eに分けられる。下層の1iは、住居廃絶後に自然流入的に堆積した土層で、その後、多量の土器・焼土粒子等を包含する2d・2eが投棄された状況で堆積している。

遺物は、縄文土器の破片が2943点、石器片が14点出土している。土器片は、胴部片は2511点と最も多く、次に、口縁部片が361点、底部片が62点出土し、その他、土器片錘が13点出土している。そのほとんどは覆土2d・2eから検出されており、床面直上からのものは少ない。平面的には壁周辺部は少なく、中央部付近に集中している。遺物の分類、接合を行うとかなり距離のあるものが接合され、大型になるものもみられるが完形になるものはなかった。

第6号住居跡（第14・15図）

本跡は、筒戸B遺跡の中央部のL10c7区を中心に位置し、南側に5号住居跡が隣接している。

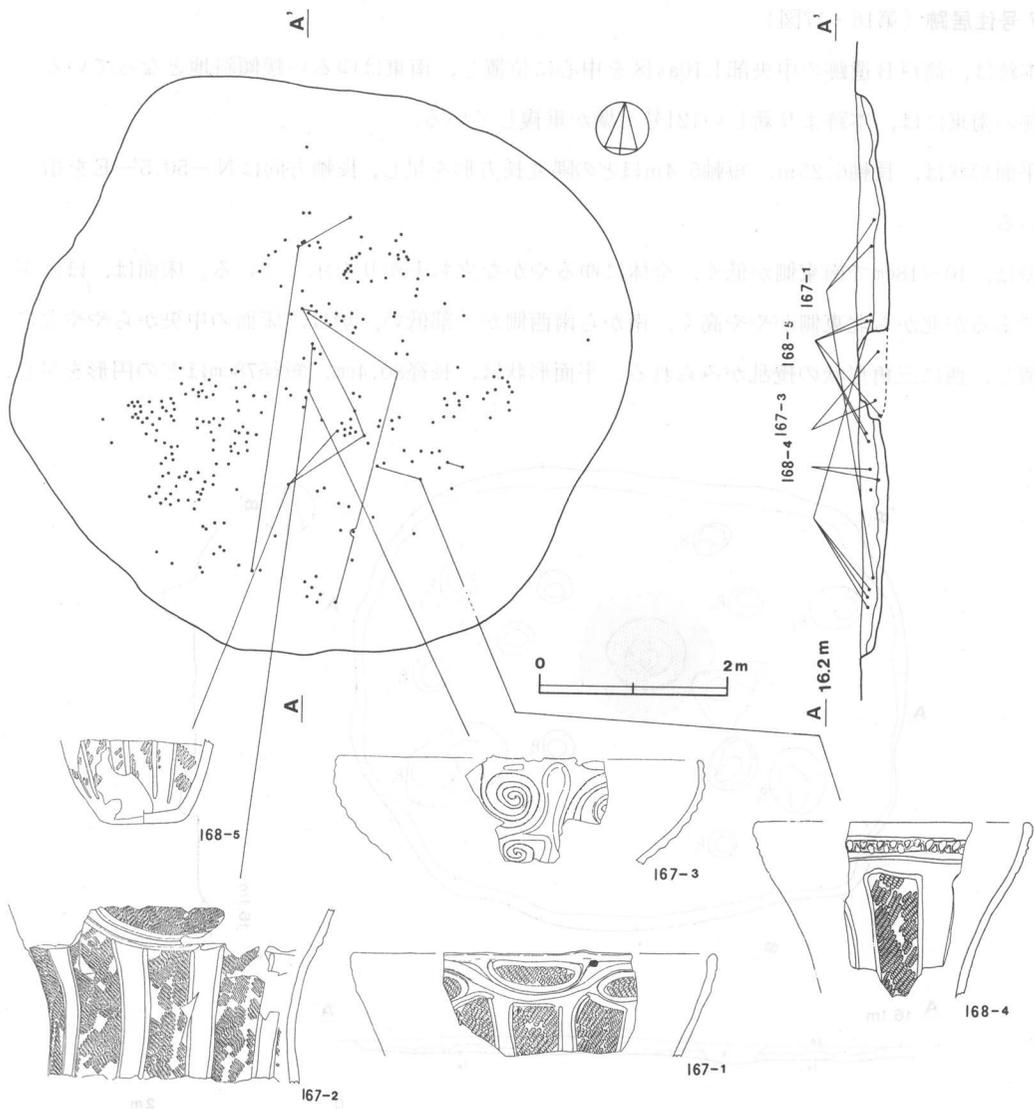


第14図 第6号住居跡実測図

図13 縄文土器片の分類と数量表

平面形状は、長軸6.7m、短軸6.11mほどで南壁がやや外側に張りだす隅丸方形を呈している。長軸方向はN-23°-Eを指している。

壁は、16~20cmでゆるやかな傾斜をもって立ちあがる。床面は、ほぼ平坦であるが北西側が一部攪乱を受けている。炉は、床面のほぼ中央に位置し、平面形状は、長径100cm、短径83cmほどの不整形を呈している。炉底は15cm掘りくぼめられ、その中央に胴部のみの土器が埋設されていた。柱穴は、14か所確認されているが、南西部と北西部は比較的少ない。支柱穴として確認したものは、P₂・P₇・P₁₀ないしP₃の4か所が考えられるが、配置的にはP₁₃も有効である。それら



第15図 第6号住居跡遺物出土状態図

の外側に7～8か所の柱穴がみられる。覆土は、IV層に区分される。中央部の黒褐色土は、部分にしか認められなかった。6cは壁周辺部に分布し、覆土が堆積する過程で壁等が崩落して形成されたものと考えられる。

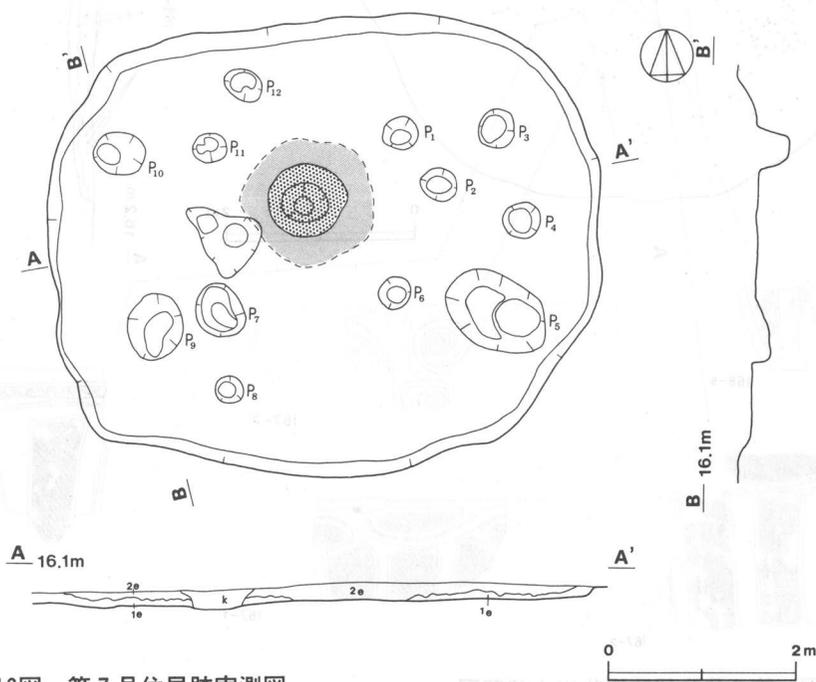
遺物は、炉内埋設土器の他、縄文土器の破片が614点、石器が8点出土している。土器片は、胴部が最も多く512点、口縁部は92点であるが底部は少なく8点のみである。そのほとんどは上層の2c層から検出されている。平面的には壁周辺部は少なく、中央部付近に多い。土器は、散在しているが、接合されるものが多い。しかし、完形になるものはない。

第7号住居跡（第16・17図）

本跡は、筒戸B遺跡の中央部L10a5区を中心に位置し、南東はゆるい緩傾斜地となっている。本跡の南東には、本跡より新しい121号土壌が重複している。

平面形状は、長軸6.25m、短軸5.4mほどの隅丸長方形を呈し、長軸方向はN-50.5°-Eを指している。

壁は、10～18cmで南東側が低く、全体にゆるやかな立ち上がりを示している。床面は、ほぼ平坦であるが北から北東側がやや高く、南から南西側が一部低い。炉は、床面の中央からやや北に位置し、西に三角形の攪乱がみられる。平面形状は、長径80.4cm、短径78cmほどの円形を呈し、

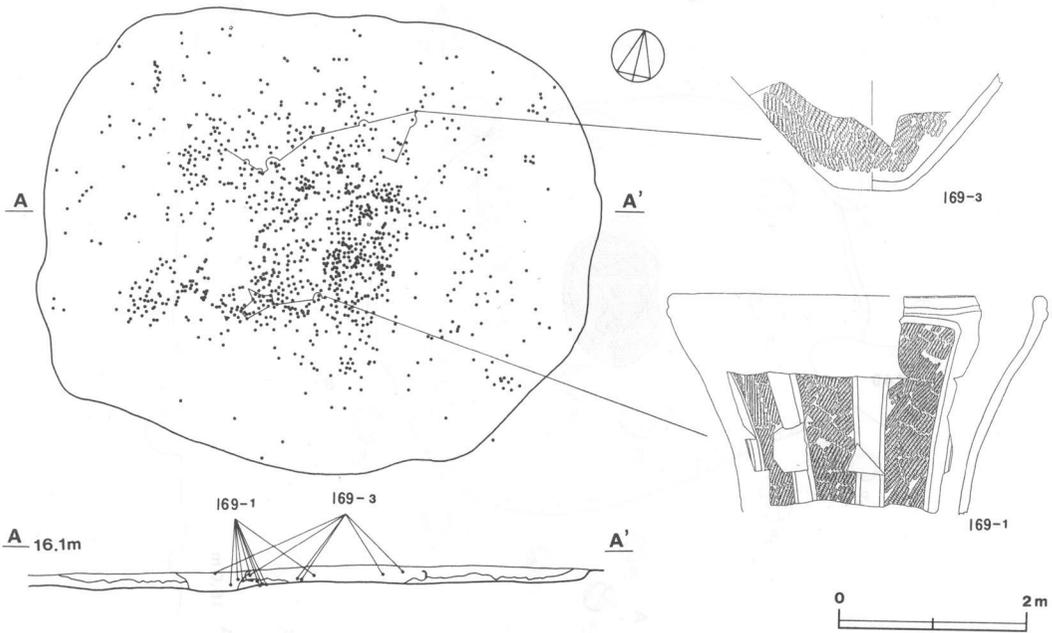


第16図 第7号住居跡実測図

床面を26cmほど播鉢状に掘りくぼめた地床炉である。炉底は硬く焼け、焼土が充満していた。柱穴は、11か所ほど確認されている。柱穴の配置をみると、多角形状を呈している。P₁・P₃・P₉・P₁₀はほぼ一直線に東西に並び、さらに、P₅・P₇・P₈がそれらにほぼ平行している。主柱穴は、明瞭ではないが位置的には、ほぼ方形に並ぶP₁・P₅・P₇・P₁₀が考えられるが、その外側のP₃・P₈・P₉と121号土壌に重複する柱穴もあるいは考えられる。

覆土は、II層に区分されるが、各層とも粘性、締まりを有し、自然流入的な堆積を示し、少量の炭化粒子が検出されている。

遺物は、縄文土器の破片が2168点、石器が7点出土している。土器片は、胴部が最も多く1890点、口縁部が249点、底部は28点である。そのほとんどは上層から検出されている。平面的には、南、東の壁周辺部を除いてほぼ全面から出土し、中央付近に集中している。

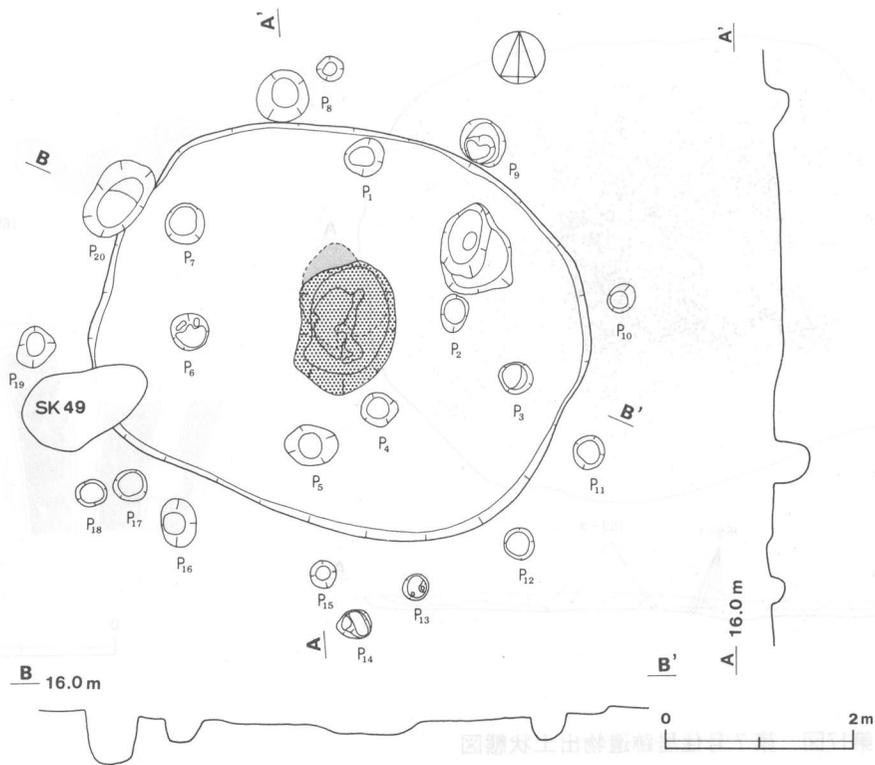


第17図 第7号住居跡遺物出土状態図

第8号住居跡（第18・19図）

本跡は、筒戸B遺跡の南西部のL10j₁区にほぼ独立して位置している。遺構確認の段階では、重複する61～65号土壌として調査を進めたが、その後に炉が検出されたので第8号住居跡として、拡張して調査を進めた。掘り込みの規模は、長軸5.2m、短軸4.2mである。住居の周囲に12～14か所のピットが確認され、東西の柱穴間は6.2m、南北の柱穴間は5.36mを有している。平面形は、隅丸長方形を呈するが、外側のピットを構造上の施設と考えれば、あるいは、隅丸方形とも考えられる。長軸方向はN-74°-Wを指している。

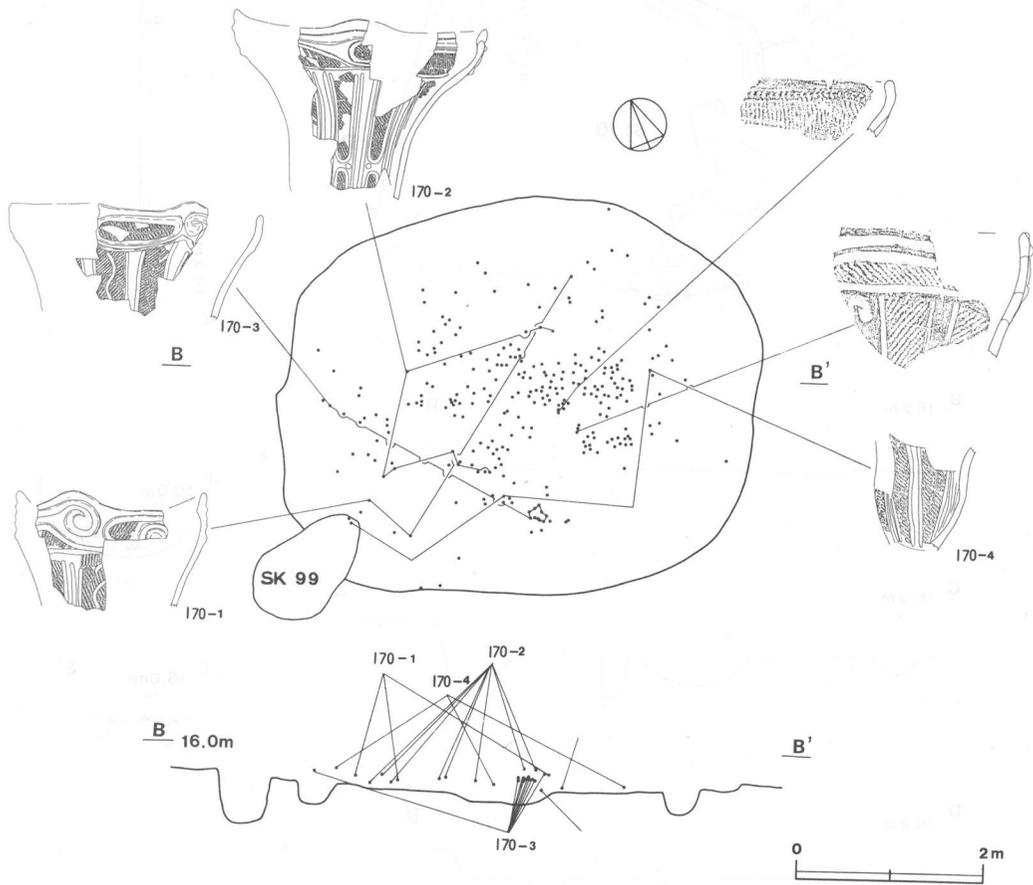
壁は、6～21cmで、北側がやや高いが、他はわずかに確認されるにすぎない。壁面は、外反ぎみの立ち上がりを示している。床面は、ほぼ平坦であるが、中央の炉付近がやや皿状を呈している。なお床面の北東付近のやや大きい掘り込みは攪乱によるものである。炉は、床面のほぼ中央に位置し、長径145cm、短径100cmほどの楕円形状を呈し、床面を約25cmほど掘りくぼめて地床炉



第18図 第8号住居跡実測図

としている。床面は硬く焼け、焼土が凹凸状に残っている。柱穴は、床面に7か所確認され、その外側から12~14か所のピットが確認されているが、壁外のピットの掘り方はやや軟弱である。床面から確認されたP₁・P₂・P₄~P₇はほぼ六角形状を呈し、P₃はそれらより東壁寄りに位置している。外側のピットは壁ぞいに回っている。深さは、P₉が53cmと深い以外はいずれも20~30cm内外である。支柱穴は、明確ではないが、床面から確認された6か所と考えられる。覆土は、締まりのある褐色土がI層認められ、中央に遺物と共に暗褐色土が堆積していた。

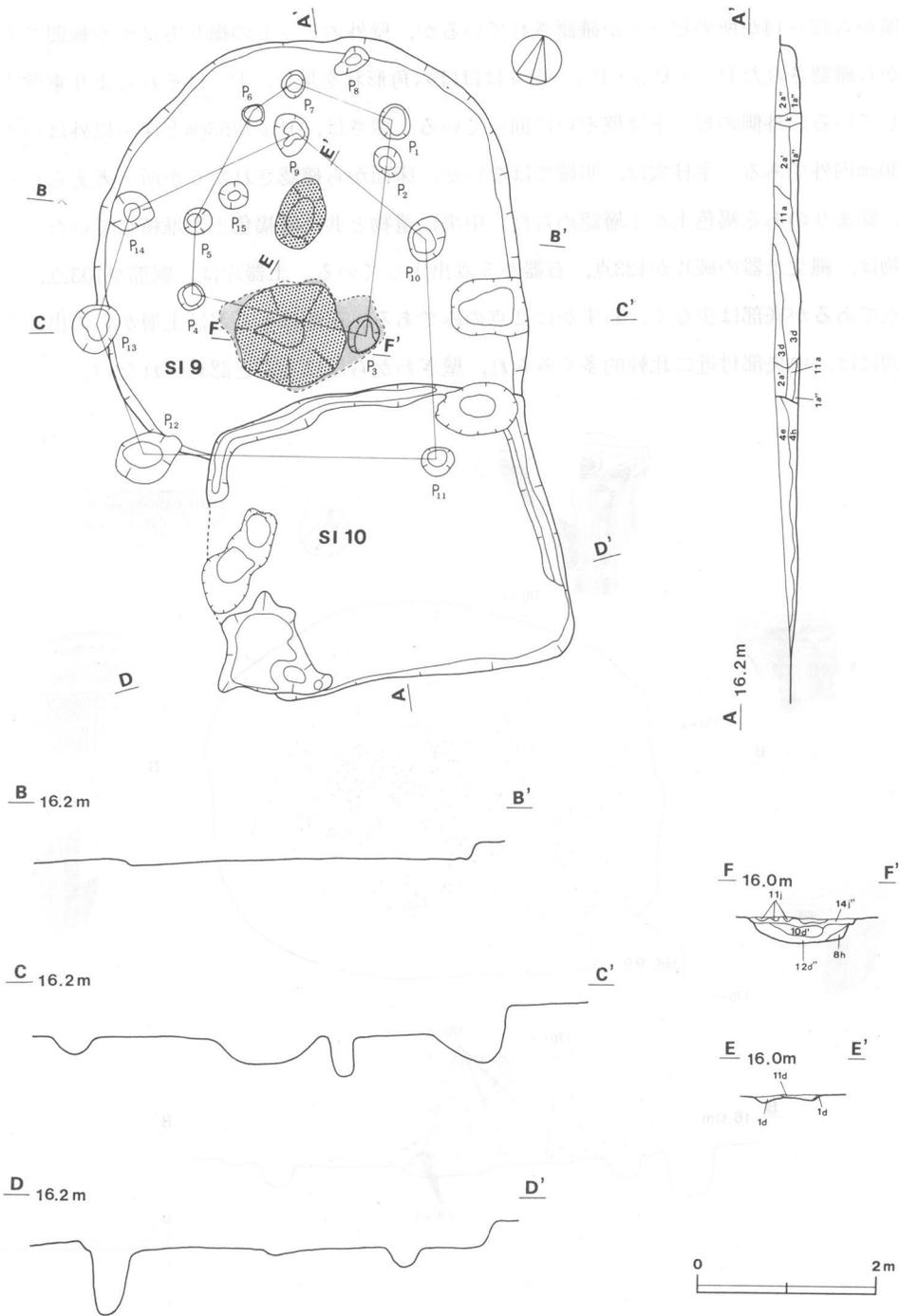
遺物は、縄文土器の破片が123点、石器が5点出土している。土器片は、胴部が103点、口縁部が18点であるが底部は少なく、わずかに2点のみである。そのほとんどは上層からの出土である。平面的には、中央部付近に比較的多くみられ、壁ぎわからはほとんど認められない。



第19図 第8号住居跡遺物出土状態図

第9号住居跡 (第20・21図)

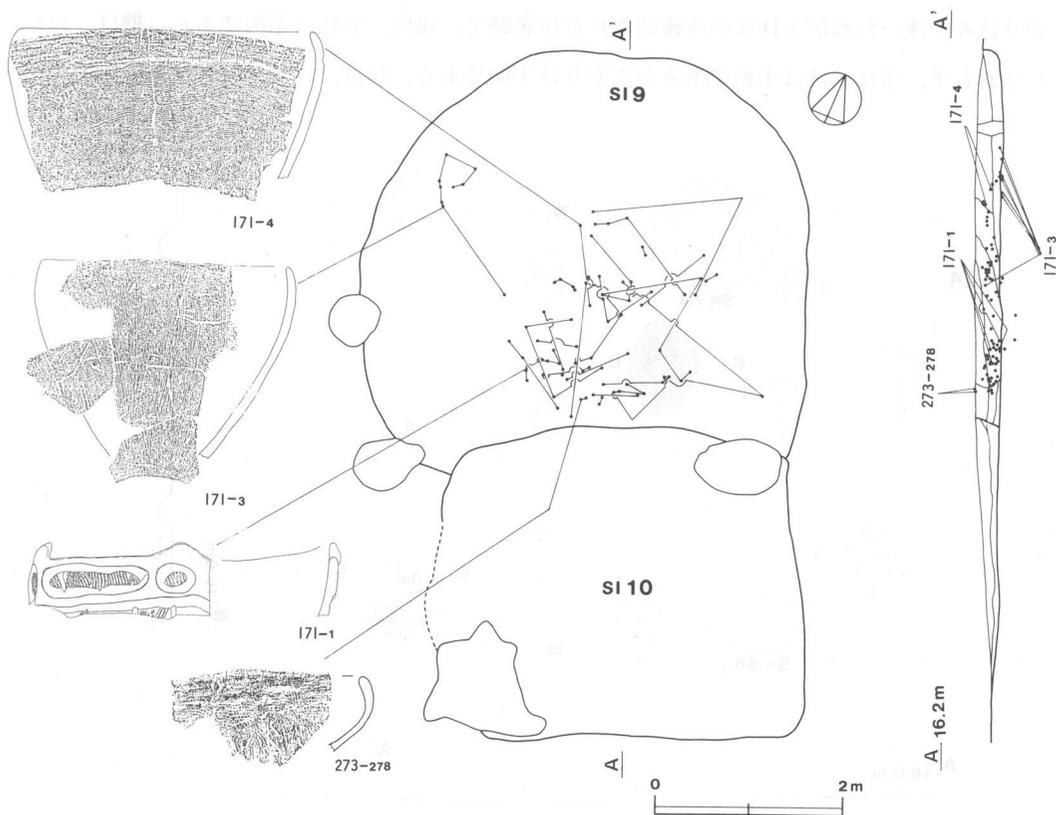
本跡は、筒戸B遺跡の西部のK9j₀区を中心に位置し、南側に平安時代頃の10号住居跡が重複し



第20图 第9·10号住居跡実測图

ている。地形的にはやや微高地に占地し、南側へゆるい傾斜を示している。

平面形状は、南側が10号住居跡に切られ不明であるが、現存する長径は5m、短径4.9mほどの隅丸方形ないし楕円形を呈すると思われる。長径方向は、N-19°-Wを指している。なお、柱穴の状況や炉の状況などから建て替えないしは拡張が行われたと考えられるが、南側は、10号住居跡に切られているためプランは確認できなかった。壁は、北、東側は30cmほどで垂直ぎみに立ち上がっているが、南西側は傾斜地となる関係で、10cmほどで外傾ぎみとなる。床面は、北西部で僅かに起伏が認められるが、ほぼ平坦である。なお、北壁中央付近の長方形の掘り込みは攪乱によるものである。炉は、床面中央からやや南側と北側に、2か所確認された。南側のものを炉1、北側のものを炉2とする。炉1の平面形状は、長径120cm、短径110cmほどの円形を呈し、床面を28cmほど皿状に掘りくぼめて地床炉としている。炉2は、長径70cm、短径50cmほどの楕円形状を呈し、約10cmほど皿状に掘りくぼめて地床炉としている。新旧関係は、P₃を切って構築されていることから、おそらく炉1の方が新しいと思われる。柱穴は15か所確認され、旧住居跡の柱穴はほぼ長方形に並ぶP₁~P₈ないしP₉が想定される。新しい住居跡の柱穴は、六角形の配置を



第21図 第9号住居跡遺物出土状態図

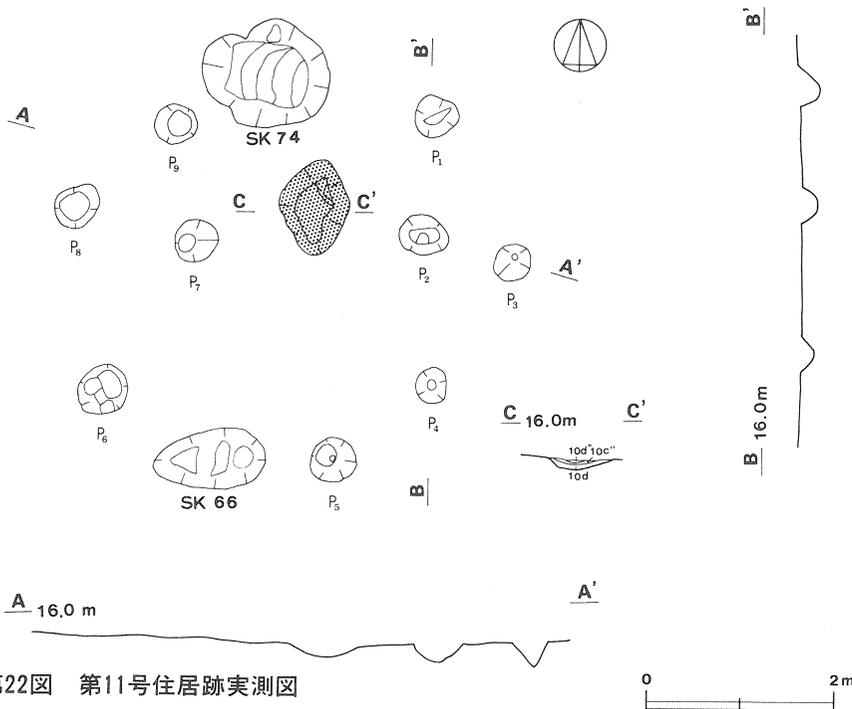
呈するP₉～P₁₅が考えられる。主柱穴は、判然としないが、旧の方では、掘り方をみると深さがありしっかりしたP₃・P₅で、配置的にはP₁・P₆も考えられる。新しい方で掘り込みがしっかりしているのはP₁₂・P₁₄であるが、配置的にはP₁₀とP₁₁も考えられる。覆土は、V層に区分される。3d・11aは新しい住居跡の覆土と考えられるが、3dの上層は部分的にしか確認されていない。旧住居跡の覆土は2a"・1a"層である。

遺物は、縄文土器の破片が1249点、石器が10点出土している。土器片は、胴部が大部分を占め1071点である。口縁部は156点であるが底部は17点である。その他、土器片錘が5点出土している。それらの遺物は、覆土中の3d・11a層に多くみられ、旧住居跡からの出土は不明である。平面的には床中央部付近が多い。壁周辺からは少ないが北西部から少量みられ、中央部の土器と接合されたものもみられる。時期差はほとんどないものと考えられる。

第11号住居跡（第22図）

本跡は、筒戸B遺跡の南部のM10a₉区を中心に位置し、北側に74号土壇、南側に66号土壇が重複している。

掘り込みが浅いため炉と柱穴のみ確認された住居跡で、規模、形状は不明である。壁は、確認されておらず、床は、ほぼ平坦であるが広がり不明である。炉は、柱穴の配置からみると中央



第22図 第11号住居跡実測図

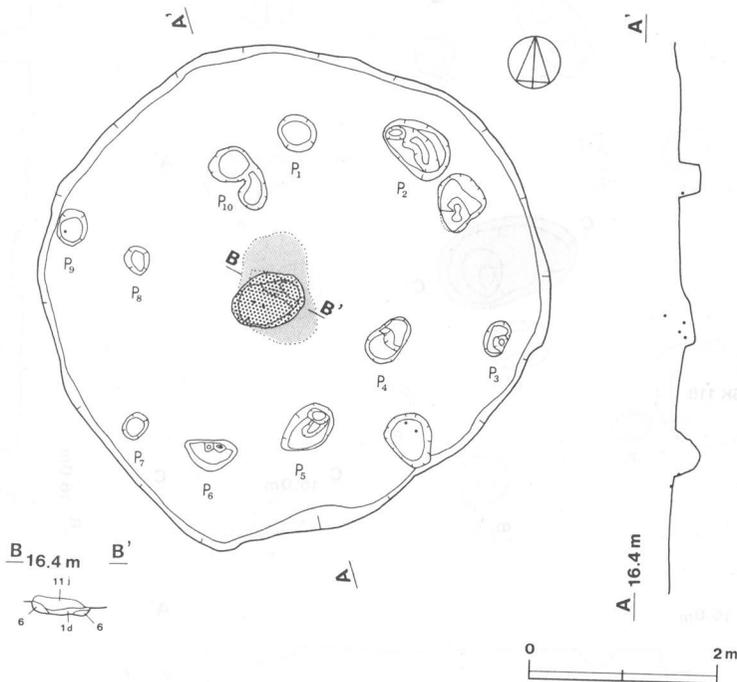
よりも北に位置し、平面形状は、長径100cm、短径70cmほどの不整形を呈している。床面を約15cmほど掘り込んだ地床炉で、焼土の量はそれほど多くなく、長期的に使用されたものではないと考えられる。柱穴は、9か所確認されている。配置状況をみると炉の両側にP₂・P₇が位置し、それらを中心に七角形状に配置される。なお、北側に重複する74号土壌によって一部の柱穴は破壊されていることも考えられ、配置の状況は確定的ではない。

覆土及び遺物は、確認されていない。

第12号住居跡（第23図）

本跡は、筒戸B遺跡の西部のやや北寄りK10h₁区に位置している。

平面形状は、長径5.32m、短径4.9mほどの楕円形を呈しているが、南側がやや突出しているので隅丸方形とも考えられる。長径方向は、N-40°-Eを指している。壁は、掘り込みが浅いため6~9cmで、南側はほとんど確認されないほどである。北側は、ほぼ垂直ぎみに立ち上がっているが、他はゆるい傾斜を示している。床面は、平坦であるが北東部及び南東部の一部は攪乱を受け凹状をなしている。炉は、床面の中央に位置し、平面形は楕円形を呈している。規模は、長径70.8cm、短径50.9cmで、床面は約18cmほど皿状に掘りくぼめて地床炉としている。炉内の焼土を



第23図 第12号住居跡実測図

含む暗赤褐色土は、約20cmほど堆積しているが焼土の量は少なく南北に流出している。炉底もさほど焼けていないことからそれほど長期的に使用されていないと思われる。柱穴は10か所確認されたが、支柱穴は明確でない。配置は、ほぼ長方形を呈している。出入口は、不明だが柱穴の配置をみると、南西ないし北東が考えられる。覆土は、褐色土がわずかにI層みられるにすぎない。

遺物は、縄文土器の小破片で総数148点出土している。土器片の大部分は胴部で133点である。口縁部は14点で、底部はわずかに1点だけである。炉内から少量出土したものを以外は、ほとんど覆土中からのものである。

第13号住居跡（第24図）

本跡は、筒戸B遺跡の西端部のL9b5を中心に位置し、南東側はゆるい緩傾斜地となる。遺構の掘り込みが浅いため、規模及び形状などは不明である。壁は、確認されていない。床面は、ほぼ平坦であるが広がり不明である。炉は、確認された柱穴のほぼ中央部に位置し、平面形は楕円形を呈している。規模は、長径150cm、短径80.7cmで、床面を12cmほど皿状に掘りくぼめている。炉内の東側にみられるピットは攪乱によるもので、本跡との関係はみられない。柱穴は、



第24図 第13号住居跡実測図

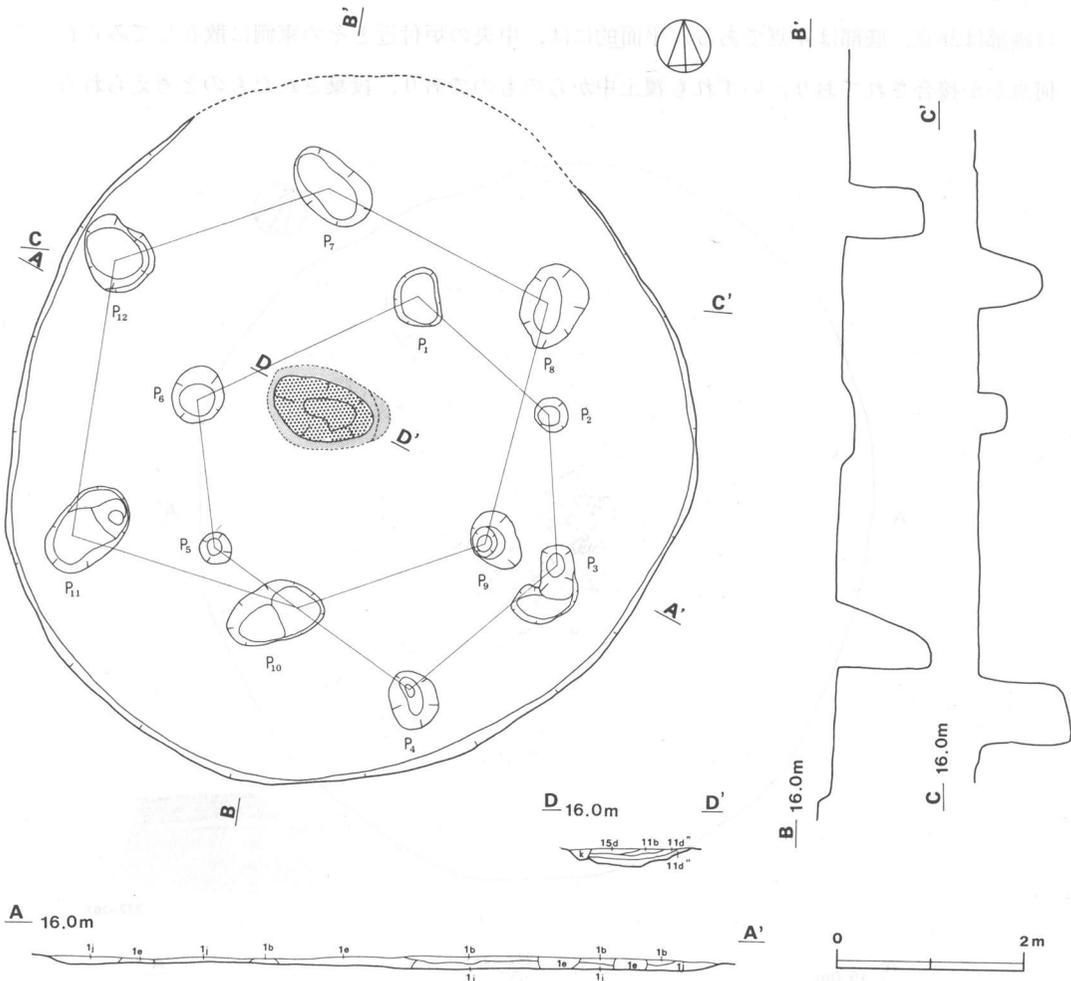
10か所ほど確認されている。配置状況は、五角形状を呈しているが、土壌が重複しているため明確ではない。支柱穴は、あまり規格性が認められないため判然としないが、 $P_1 \cdot P_3 \cdot P_5 \cdot P_8$ ・ないし $P_2 \cdot P_{10}$ 等が考えられる。覆土は確認できなかった。

遺物は、縄文土器の破片のみで総数85点出土している。土器片で最も多いのは、胴部で70点、口縁部は13点、底部は少なく2点のみである。

第14号住居跡 (第25・26図)

本跡は、筒戸B遺跡の南西部のL9f₂区を中心に位置し、東側はゆるい傾斜地となっている。周辺には隣接する住居は認められない。

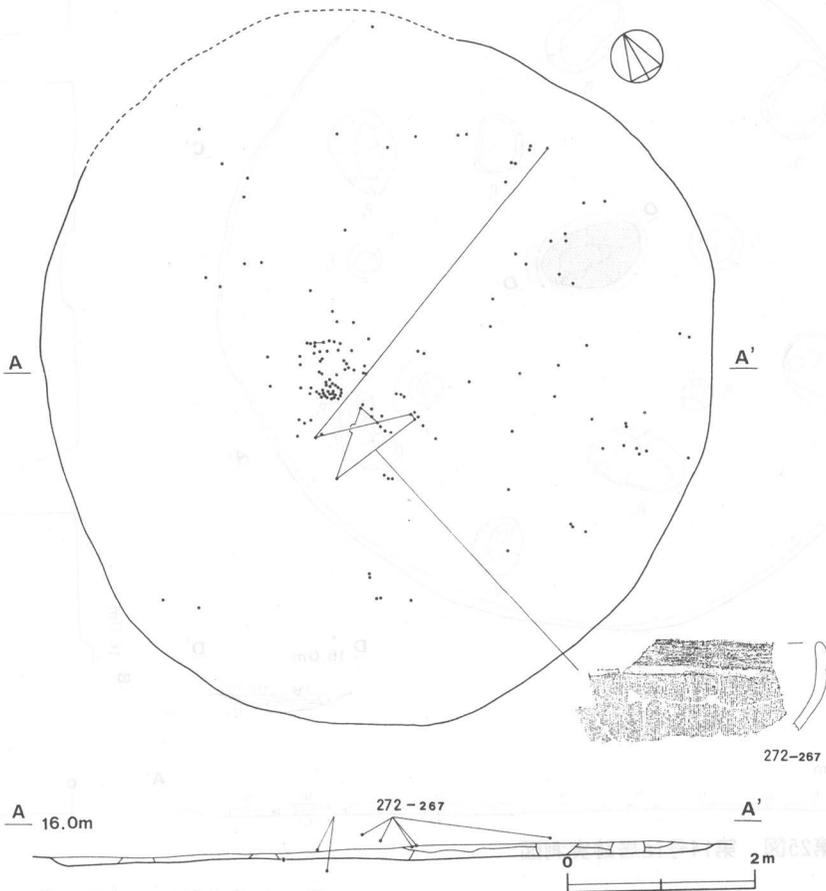
平面形状は、判然としないが楕円形、ないし隅丸方形を呈すると思われる。規模は、長径7.44



第25図 第14号住居跡実測図

m, 短径7.04mで当遺跡では最大級のものであるが、これは柱穴の状況から判断して拡張がなされたためと思われる。長径方向はN-20°-Eを指している。壁は、掘り込みが浅いため、東、西側で5cm、南側は9cmほどであるが北側はほとんど確認されていない。床面は、平坦で中央付近が硬くしまっている。炉は、ほぼ中央に位置している。平面形状は、長径110cm、短径60cmほどの楕円形状を呈し、床面を15cmほど皿状に掘りくぼめて地床炉としている。柱穴は、12か所確認されているが、配置状況を見ると建て替えないしは拡張が行われたとも考えられる。P₁~P₆は六角形の配置を示し、炉は検出されていないが旧住居跡と思われる。P₇~P₁₂の規模は80~100cmと大きく、深さは66~93cmでかなり大きい。前述の柱穴を北西方向に移動したような配置を呈しているが覆土が浅いため判然としていない。覆土は、II~III層に区分され、下層の1jからは少量の炭化粒子、焼土粒子が検出されている。全体的には締まりがあるが薄い層である。

遺物は、縄文土器の破片が255点、石器が6点出土している。土器片は、胴部が多く223点で、口縁部は28点、底部は4点である。平面的には、中央の炉付近とその東側に散在してみられるが、何点かが接合されており、いずれも覆土中からのものであり、投棄されたものと考えられる。

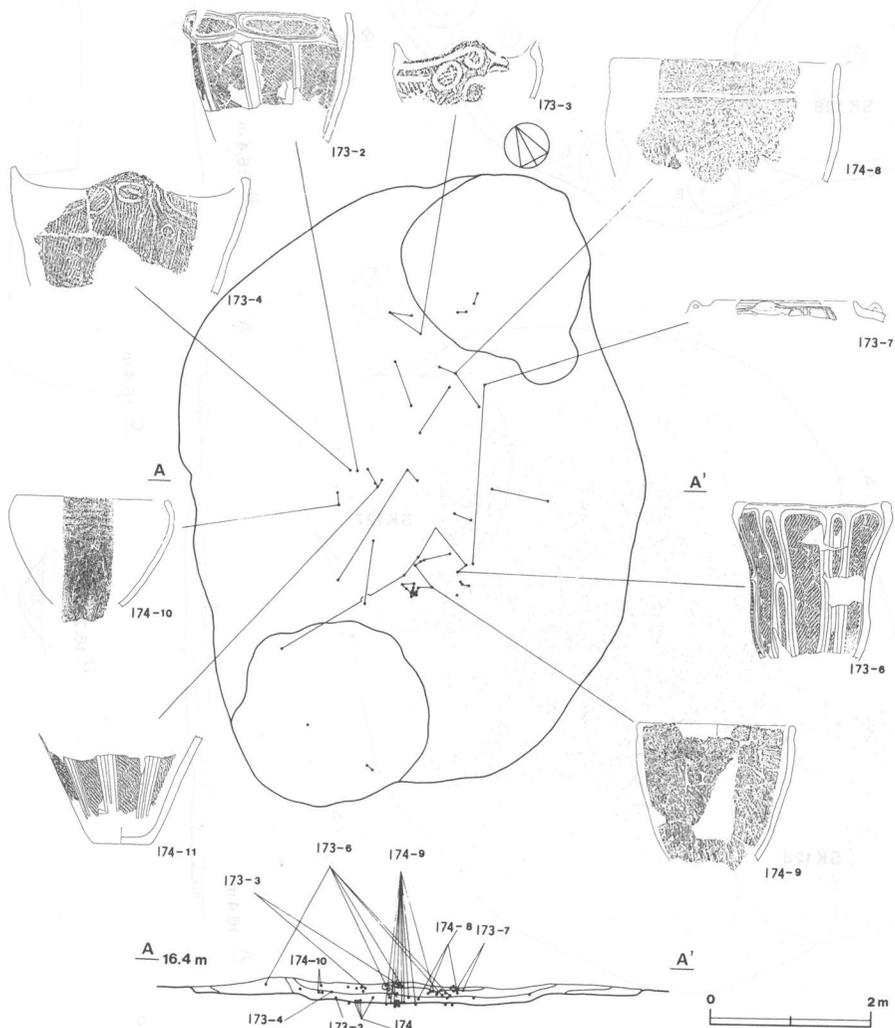


第26図 第14号住居跡遺物出土状態図

第15号住居跡 (第27・28図)

本跡は、筒戸B遺跡の北西部のやや北寄りK9e0区を中心に位置し、北東側に127号土壇、南西側に128号土壇が重複している。新旧関係は明確ではないが土壇の方が本跡より古いと考えられる。

規模は土壇の重複により不明瞭であるが、長径6.5m短径6.0mほどであろう。平面形は、楕円形ないし長方形状と考えられる。長径方向は、N-35°-Eを指している。壁は、東側が28cmで、北・南側は10cm内外、西側はほとんど確認されないほどである。壁面は、南・東側はほぼ垂直ぎみに立ち上がり、他はゆるやかに立ち上がっている。床面は、平坦で炉の周辺は硬く踏み固められている。炉は、床面のほぼ中央に位置している。平面形状は、長径100cm、短径90.6cmほどの円



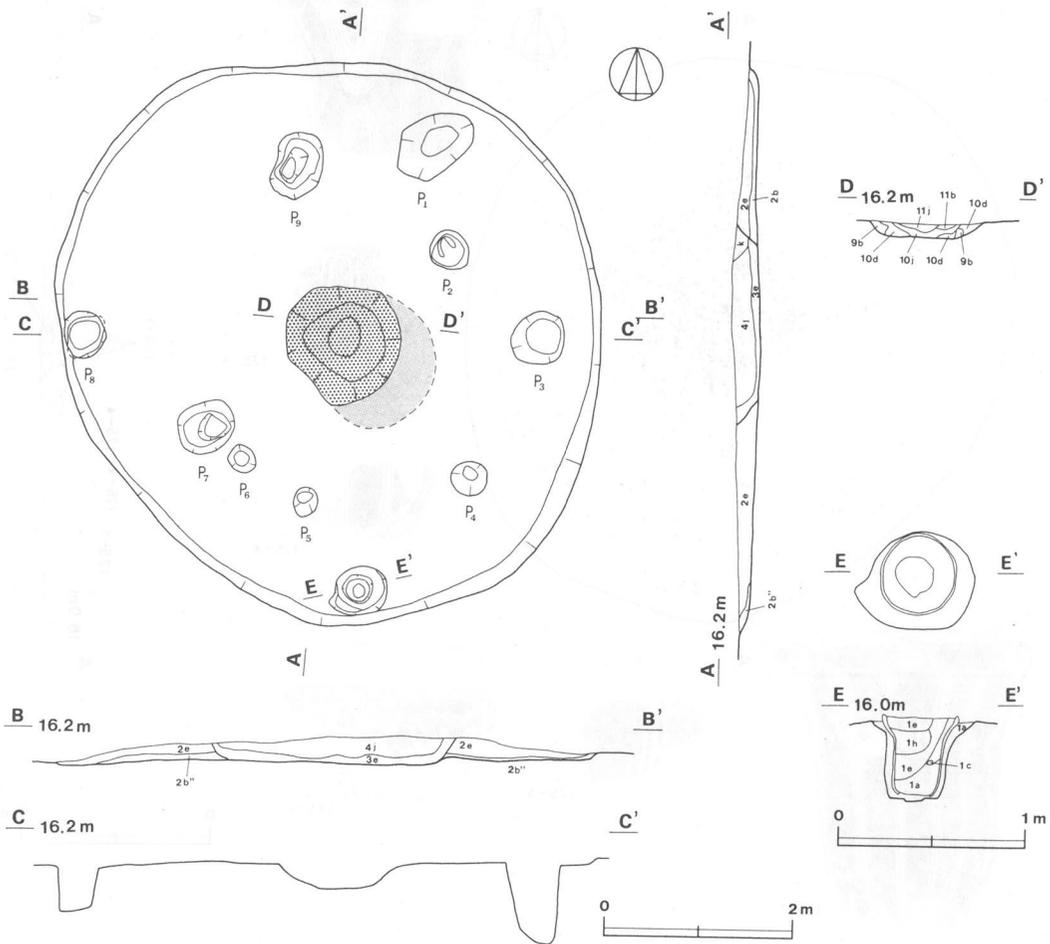
第27図 第15号住居跡遺物出土状態図



第28图 第15号住居跡実測図・遺物出土状態図

形を呈している。炉底は30cmほど皿状に掘りくぼめられ、ロームが焼けて硬化し焼土が充満している。柱穴は、13か所ほど確認されているが、土壌が重複する部分は明確には把握されていない。支柱穴は、P₁・P₃・P₅・P₁₀の長方形の配置と考えられるが、住居の平面プランを考えると土壌が重複する部分にも支柱穴があった可能性も考えられる。覆土は、V層に区分される。その中で覆土中の2は黒色土を多く含む層で、1は黒色土が混じりあった層である。これは、住居がある程度埋まった後に一部掘り込まれて投棄あるいは流入したものである。

遺物は、縄文土器の破片が2204点、石器が21点出土している。土器片は、胴部が最も多く1896点で、口縁部は280点、底部は24点、その他土器片錘が4点出土している。そのほとんどは覆土中央の黒色土混じりの1・2からのもので、平面的には、中央付近に多くみられ、壁周辺は少ない。覆土の9を切り込んで1・2がみられ、一次埋土後の凹地利用あるいは一部を掘り込んで、多量の遺物を投棄したものと考えられる。接合されるものが多く認められるが完形はみられない。

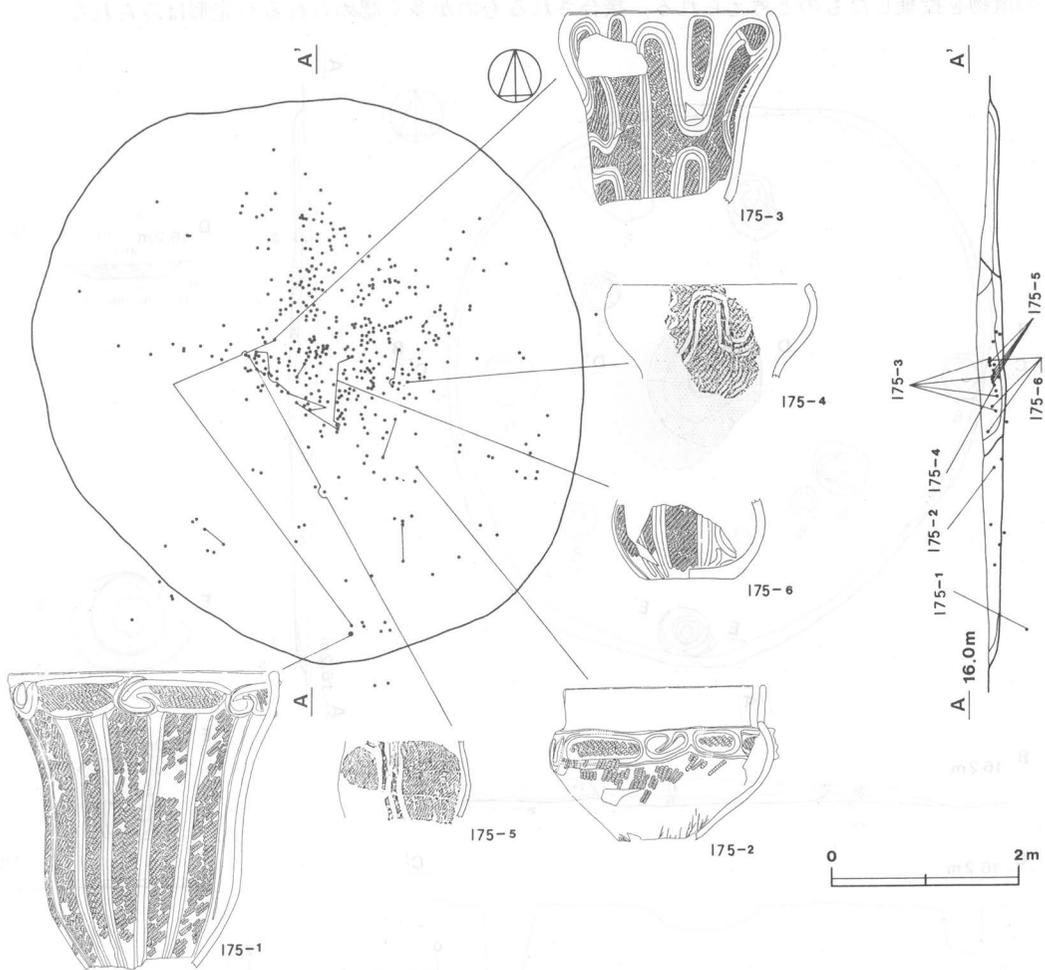


第29図 第16号住居跡実測図

第16号住居跡（第29・30図）

本跡は、筒戸B遺跡の北西部のK10i₅区に位置し、住居の南壁にほぼ接して埋葬がみられる。

規模は、長径5.33m、短径5.2mである。平面形は、楕円形で南東部がやや張り出しきみである。長径方向は、N-43°-Wを指している。壁高は、5~10cmと低く、西壁はほとんど確認できないほどである。床は、平坦で中央付近が硬く北西側には空間地がみられる。炉は、床面のほぼ中央に位置し、規模は長径120.4cm、短径110.4cmと大きい。平面形は不整楕円形状を呈し、南東に焼土が流出している。炉は、床面を約30cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。柱穴は、9か所確認されている。配置をみると炉を中心にやや東寄りの多角形状を呈している。主柱穴は、規模、深さなどからP₁・P₃・P₈・P₁₀と考えられ、配置的には台形状を呈している。出入口部の施設は、西側か埋葬が位置するP₄・P₆かと考えられる。埋葬は、南側壁付近の床面直下に正位で

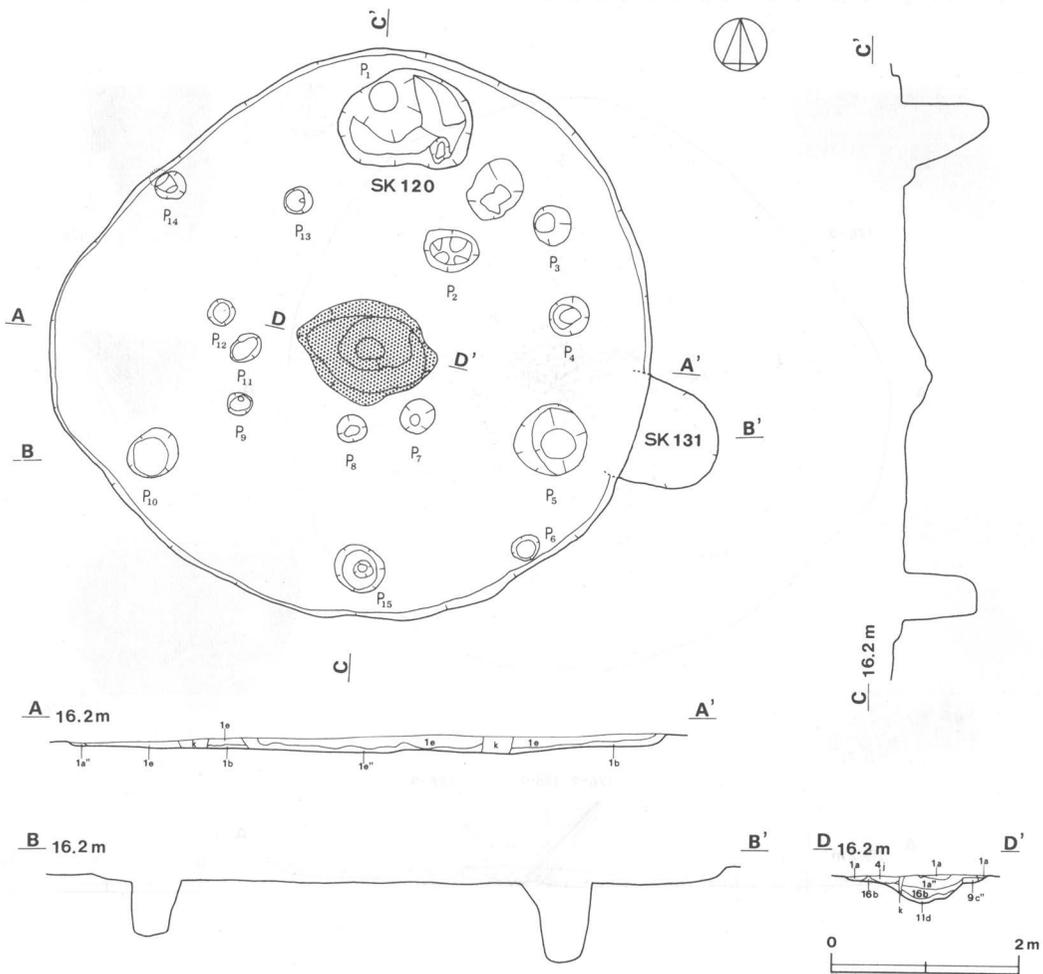


第30図 第16号住居跡遺物出土状態図

垂直に口縁部まで埋め込み、底部は欠損している。埋甕の中から遺物等は検出されていない。覆土は、IV層に区分される。3e・4jは炭化物、焼土小ブロック含む黒色土層で住居の覆土を切っている。2eはローム小ブロック、焼土小ブロックを微量であるが含有する層で、2bは多くのロームを含む層である。中央付近はやや盛り上がり堆積している。

遺物は、縄文土器の破片が1026点、石器が11点出土している。土器片は、胴部が最も多く877点で、口縁部は124点、底部は比較的多く25点出土している。そのほとんどは3e・4j層中の上部から検出されており、床面直上で出土したものは少ない。平面的には、中央部付近に多く、北西壁周辺部には少ない。土器は、完形に近い大破片で出土しているものも多い。同一個体片が多く認められ、接合できたものも多いが、完形になるものは認められない。

本住居跡は、住居に伴う埋設土器から、加曽利E III期に属するものと思われる。

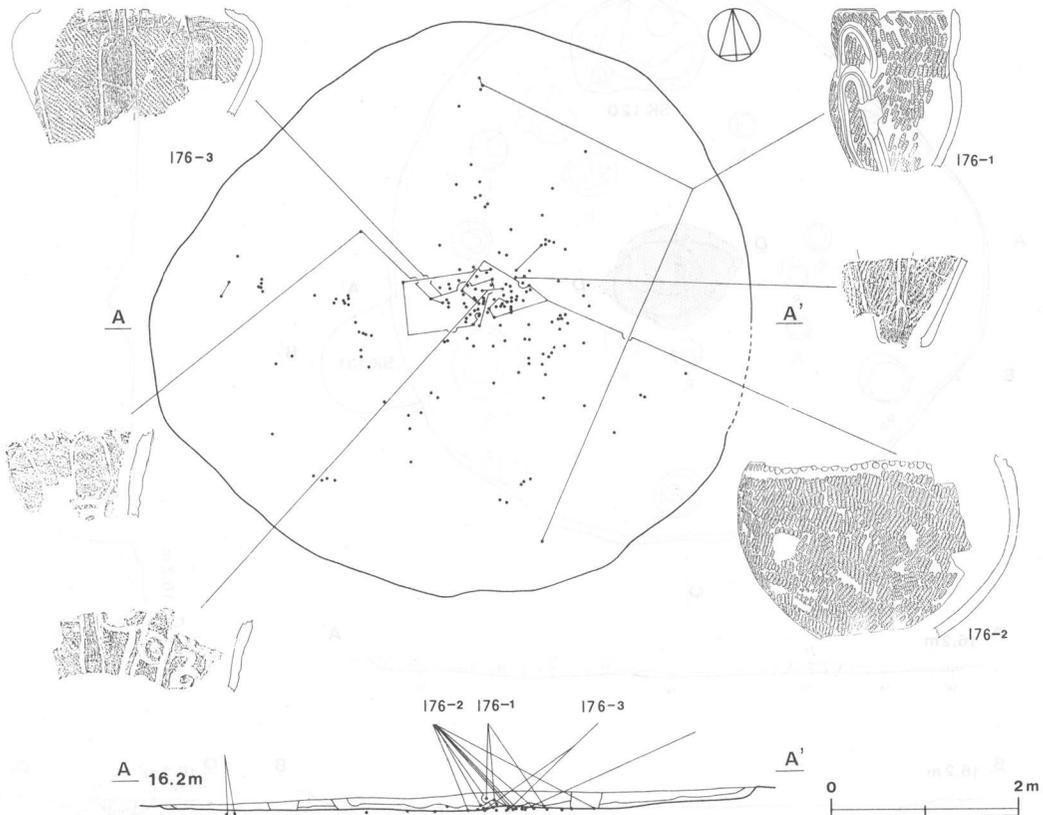


第31図 第17号住居跡実測図

第17号住居跡 (第31・32図)

本跡は、筒戸B遺跡の中央やや北西側寄りのK10e₆区を中心に位置し、東壁に本跡よりも古い131号土壌、北壁周辺の床面に本跡より新しいと考えられる120号土壌が重複している。

規模は、長軸6.27m、短軸6.0mである。平面形は、北東部がやや円味をもっているが隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸方向は、N-38°-Eを指している。壁高は、西壁で6cmと低く、他は8~14cmほどである。壁面は、西、南壁はゆるやかで、北、東はほぼ垂直ぎみに立ち上がる。床は、ほぼ平坦で中央に炉が位置している。炉の規模は、長径150cm、短径110cmで当遺跡では大きい方である。平面形は、東西に長い不整楕円形を呈している。炉は、床面を10cm掘り下げさらに中央部を20cmほど皿状に掘り込み構築されているが、東側の段差部分に少量の粘土が2か所ほど残存していた。柱穴は、15か所確認されているがやや不規則な配置をしている。支柱穴は、P₁・P₃・P₅・P₁₀・P₁₅の5か所が考えられる。炉の周辺のP₇~P₉・P₁₁・P₁₂は炉に接近



第32図 第17号住居跡遺物出土状態図

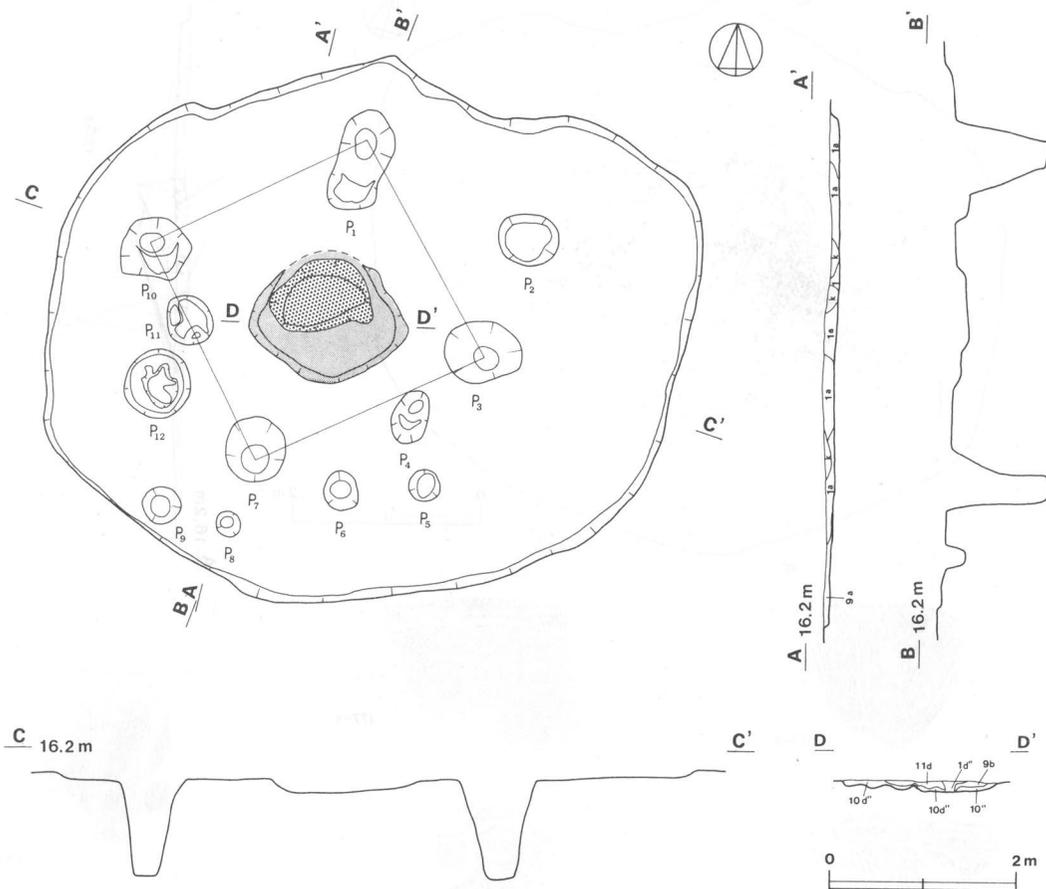
しすぎることを、さらに同様の柱穴がみられることを考えると、あるいは、拡張があったとも考えられる。出入口部の施設は不明である。覆土は、III層に区分され、炭化物を少量混入する褐色土からなるが、覆土中央付近には黒色土が認められる。

遺物は、縄文土器の破片が230点、石器が1点出土している。土器片で最も多いのは胴部片で171点、口縁部は46点、底部は13点である。平面的には中央付近から出土したものが多く、

第18号住居跡 (第33・34図)

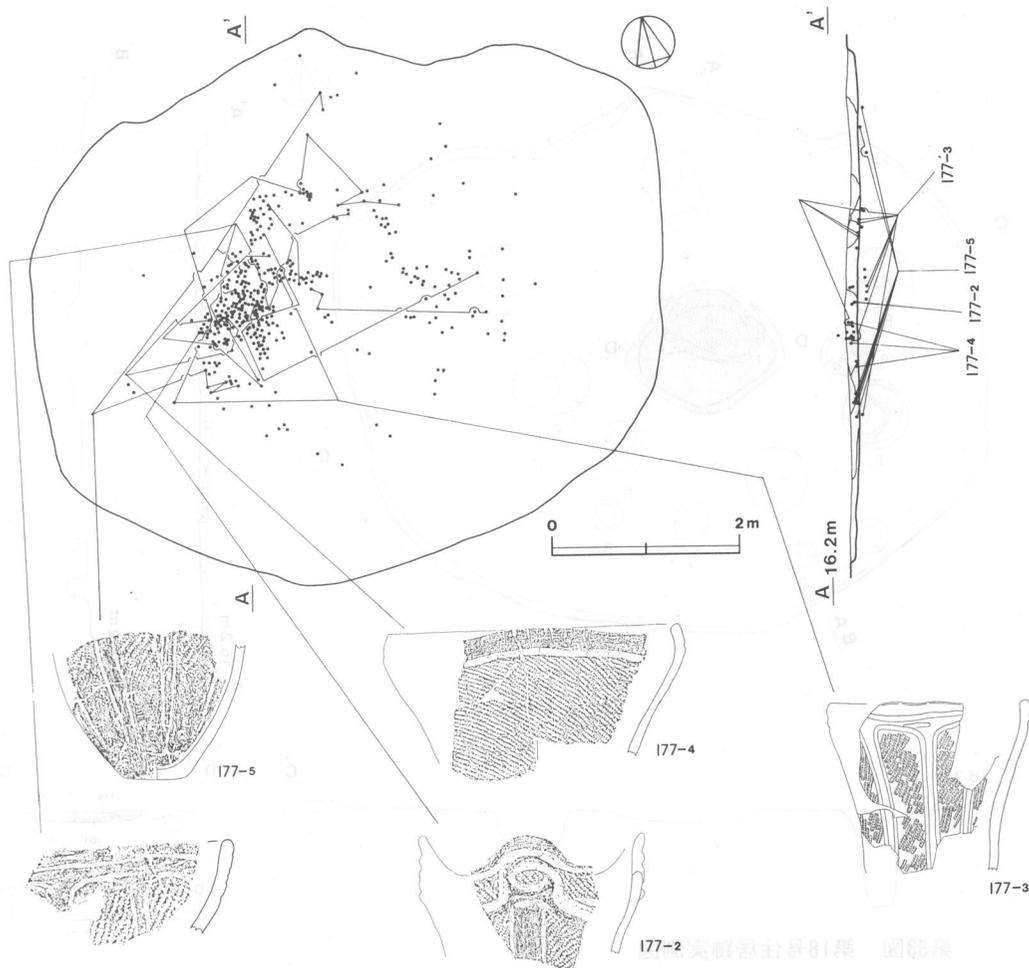
本跡は、筒戸B遺跡の中央やや北側寄りのK11h₁区を中心に位置し、北側に130号土壌が重複している。遺構確認の段階での遺物の出土状況では、2軒の住居跡の重複するものとして調査を進めたが、その後、1軒の住居跡であることが判明した。

規模は、長軸6.84m、短軸5.56mであるが、東側は確認時においてやや広い範囲で住居をおさえていたため掘りすぎてプランが不明瞭になったものと考えられ、本来の規模は、柱穴などの配



第33図 第18号住居跡実測図

置から長軸は5.7m内外のものと想定される。平面形は隅丸方形状を呈すると思われる。長軸方向は、N-33°Eを指している。壁は、いずれも低く4~9cmほどでほぼ垂直ぎみに立ち上がっている。北壁側の一部は攪乱をうけて不明瞭である。床面は、ほぼ平坦であるが、北西コーナ一部は攪乱をうけている。炉は、床面のほぼ中央に位置し、平面形状は、長軸142cm、短軸140cmほどの方形に8cmほど掘り込んでいる。その北側に、さらに長軸110cm、短軸75cm、深さ8cmほどの不整形の掘り込みで炉床を構築している。柱穴は、12か所ほど確認されているが、P₁₁・P₁₂は底面が凹凸をなすため攪乱によるものかもしれない。支柱穴は、炉を中心に方形に配置され、掘り方がしっかりしていて、深さもあるP₁・P₃・P₇・P₁₀の4か所と考えられる。出入口は、明確ではないが、柱穴の配置と炉の焼土の状況からP₄~P₆が、それらの施設とも考えられる。覆土は、色調が異なるためIV層に区分したが、土層の境界は土質も極めて類似しており、9a'以外は、ほとんど同一層として把握すべきものかもしれない。9a'は覆土が堆積する過程で壁等が流



第34図 第18号住居跡遺物出土状態図

入したものである。

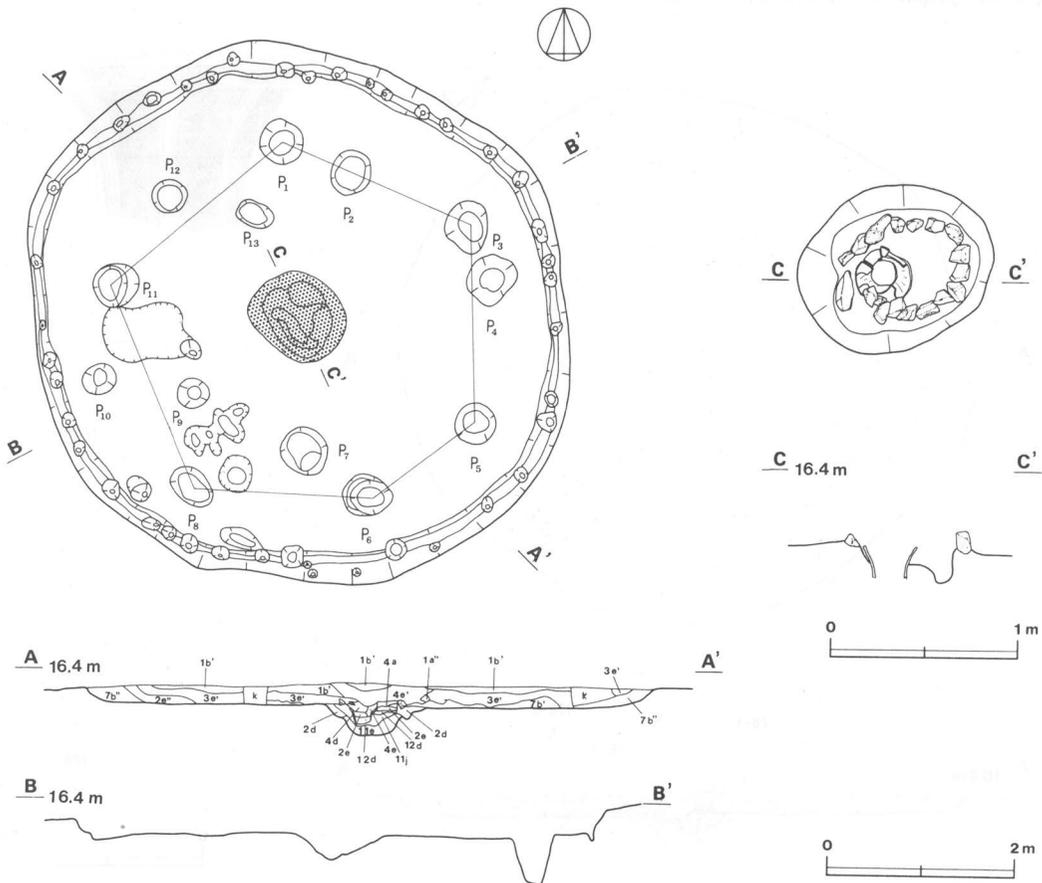
遺物は、投棄された状態で縄文土器の破片が846点、石器が4点出土している。土器片は、胴部が多く697点で、口縁部が134点、底部は15点である。平面的には、炉の西側に集中して検出され、南側を除いてほぼ馬蹄形状にみられる。壁周辺部では北側の一部を除いてほとんど確認されていない。接合関係をみるとかなりはなれた地点の土器が接合できた。

第19号住居跡（第35・36図）

本跡は、筒戸B遺跡の北部のK10a₇区を中心に位置している。

平面形状は、長径5.54m、短径5.32mほどで六角形状に近い楕円形を呈している。長径方向は、N-23°-Wを指している。

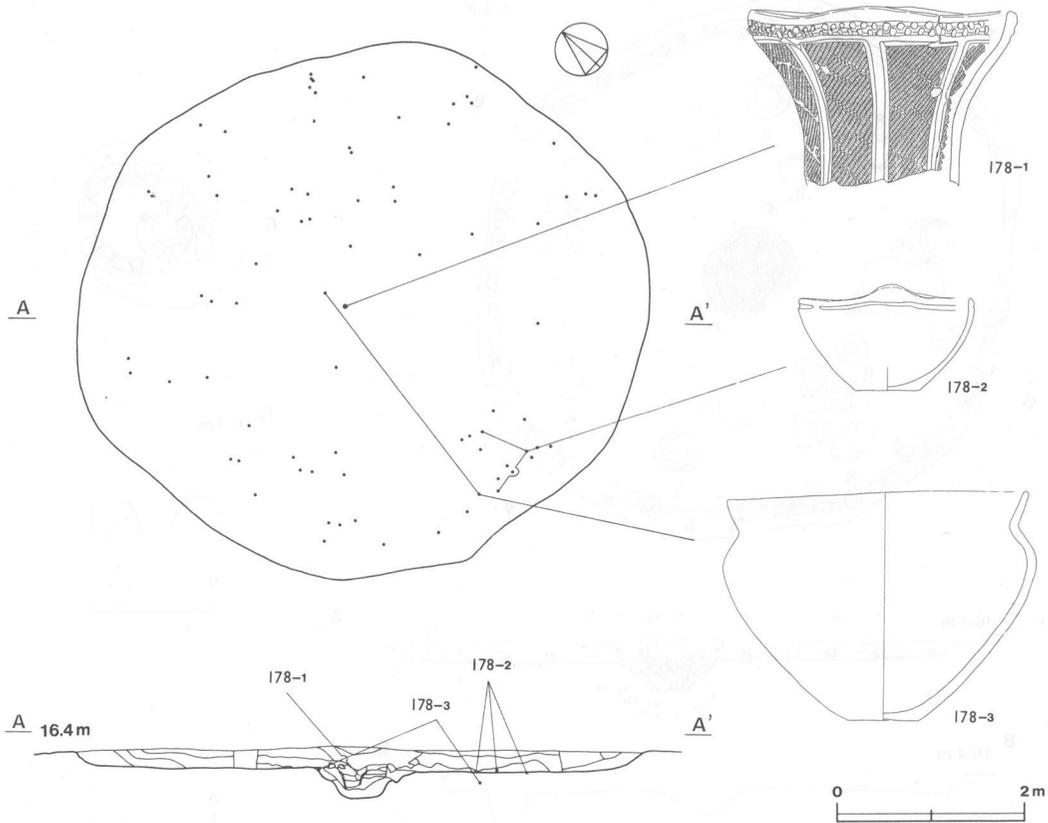
壁は、21~25cmで壁沿いに全周する壁溝からほぼ垂直ぎみに立ち上がる。壁溝は、上幅は20~30cm、下幅10cmで全周し、溝内には、直径10~25cm、深さ10cmほどのピットが42か所確認された。



第35図 第19号住居跡実跡図

ピット間の間隔は20~90cmで、西、東、南東側はやや幅をもち、北東、南西側は狭まっている。ピット間の平均は約42cmほどである。床面は、平坦で中央付近は硬く踏み固められているが、南西側の一部は攪乱を受け凹凸状を呈している。炉は、床面中央に位置する石組み炉で、炉内には土器が埋設されている。規模は、長径105cm、短径88cmほどの楕円形状の掘り込みの中に、長径81cm、短径60cmの範囲で19個の石が長方形に配置されている。材質は、斑レイ岩、安山岩、砂岩等で石皿片を再利用したものも何点かみられる。さらに石組み炉内には、底部を欠く土器が埋設されている。柱穴は、13か所確認されている。支柱穴は、 $P_1 \cdot P_3 \cdot P_5 \cdot P_6 \cdot P_8 \cdot P_{11}$ の6か所で六角形に配置されている。他は支柱穴と考えられる。出入口の施設は明確ではないが、南あるいは北東のピットかと考えられる。覆土は、部分的に攪乱がみられるが、V~VII層に区分される。3e、3e'からは多量の黒色土と共に、炭化物、炭化材が検出され、南から南西側にかけてかなり大きめの炭化材が検出されていることから火災にあったものと考えられる。

遺物は、縄文土器の破片が223点、石組み炉に利用された石皿片等の破片が13点出土している。土器片は、胴部が多く175点で、口縁部が41点、底部は5点である。その他、土器片錘が2点出土し



第36図 第19号住居跡遺物出土状態図

ている。ほとんどは覆土中からのものであるが、南側の床面から無文の浅鉢形土器（第178図-2）、北壁付近の床面直上からチャート質のポイント（第237図-1）が出土している。

第20号住居跡（第37図）

本跡は、筒戸B遺跡の中央部のK10j₉区を中心に位置している。

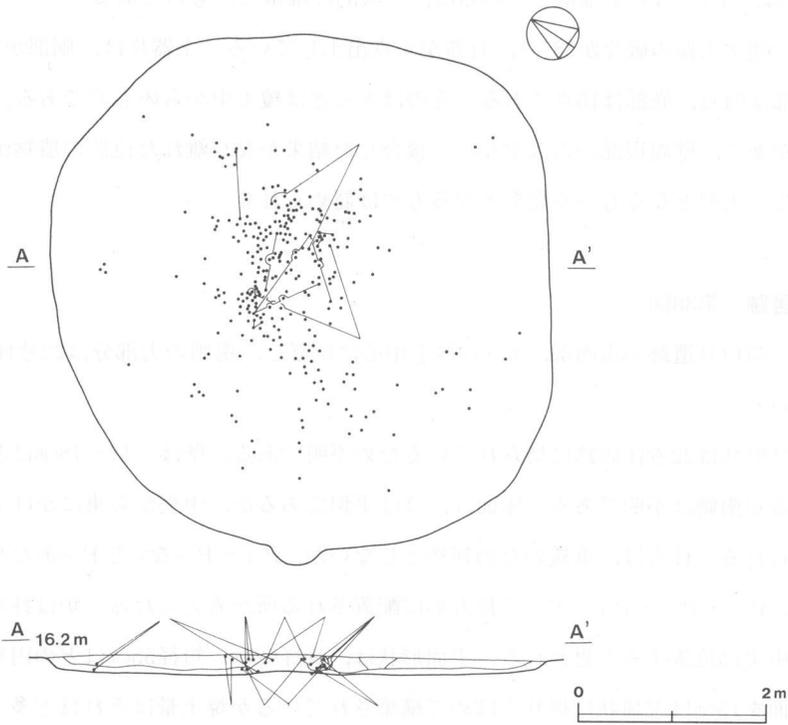
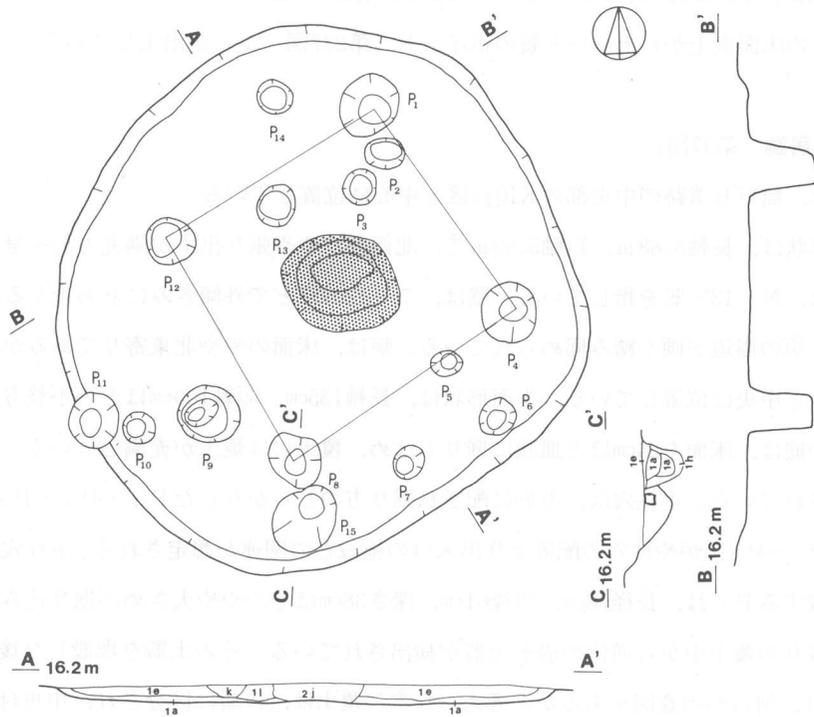
平面形状は、長軸5.88m、短軸5.69mで、北西部がやや張り出すが隅丸方形を呈している。長軸方向は、N-13°-Eを指している。壁は、7~12cmほどで外傾ぎみに立ち上がる。床面は、ほぼ平坦で炉の周辺が硬く踏み固められている。炉は、床面のやや北東寄りであるが、支柱穴の配置をみると中央に位置している。平面形状は、長軸135cm、短軸100cmほどの不整形形状を呈している。炉底は、床面を24cmほど皿状に掘りくぼめ、覆土には焼土が充満している。柱穴は、15か所確認されている。支柱穴は、方形に配され掘り方のしっかりしたP₁・P₄・P₈・P₁₂である。南東のP₉~P₁₁は炉や柱穴の配置より出入口の施設との関連が想定される。支柱穴と考えられるP₈に接するP₁₅は、長径78cm、短径61cm、深さ38cmほどのやや大きめの掘り込みであるが、その北壁寄りの覆土中から逆位の壺形土器が検出されている。その土器を埋設した後にP₈が掘られており、何らかの意図があるかと考えられる。覆土は、IV層に区分され、中央付近にみられる1h、2jは、1a、1eが堆積したのちに、二次的に堆積したものである。

遺物は、縄文土器の破片が387点、石器が4点出土している。土器片は、胴部が最も多く318点で、口縁部は54点、底部は15点である。そのほとんどは覆土中からのものである。平面的には、中央付近が多く、壁周辺部からは少ない。接合した結果かなり離れた位置の遺物が多く接合された。しかし、大型となるものや完形となるものは認められない。

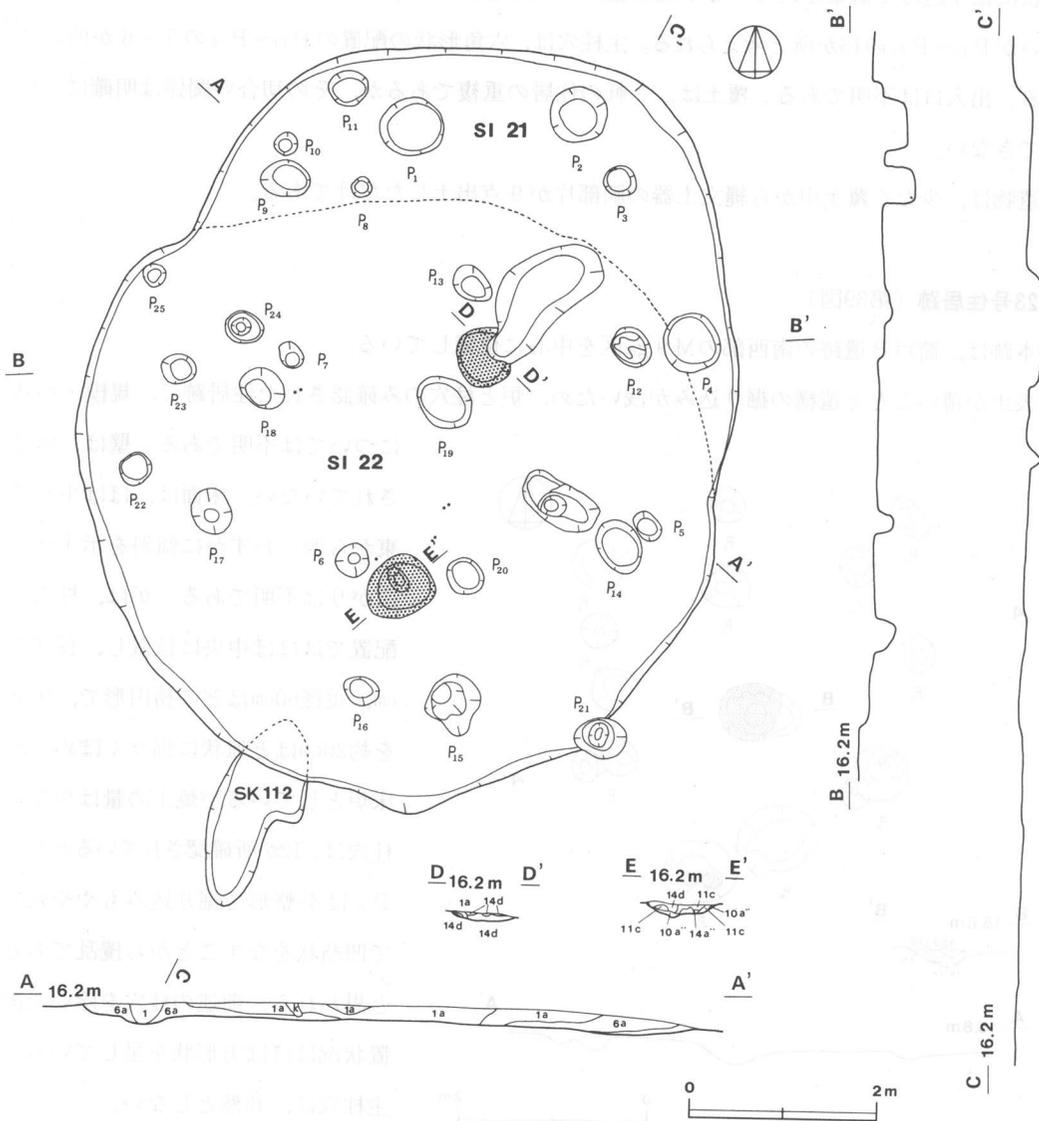
第21号住居跡（第38図）

本跡は、筒戸B遺跡の南西部、K9a₃区を中心に位置し、南側の大部分は22号住居跡によって切られている。

規模及び形状は22号住居跡に切られているため不明である。壁は、12~18cmほどで外傾ぎみに立ち上がるが南側は不明である。床面は、ほぼ平坦であるが、中央から東にかけて不整楕円状の攪乱がみられる。柱穴は、重複のため判然としないが、P₁~P₁₂ないしP₂₅あたりかと思われる。支柱穴は、P₃・P₅・P₆・P₈の長方形に配置される所が考えられる。炉は柱穴の配置をみると、ほぼ中央に位置すると思われる。平面形状は、長径62cm、短径55cmほどの円形を呈している。炉底は床面を15cmほど皿状に掘りくぼめて構築されているが焼土量はそれほど多くない。北東の一部が攪乱を受けている。覆土は、色調が異なるためV層に区分したが、大別すれば、1aと6aとの2層に分けられる。遺物は、ほとんど検出されていない。



第37图 第20号住居跡実測図・遺物出土状態図



第38図 第21・22号住居跡実測図

第22号住居跡 (第38図)

本跡は、筒戸B遺跡の南西部のK10b₃区を中心に位置し、北側の21号住居跡を切り、南壁に112号土壌が重複している。

平面形状は、長軸6.9m、短軸6.4mほどの隅丸方形を呈すると思われる。長軸方向は、N-75.5°-Wを指している。壁は、5~10cmほどで垂直ぎみに立ち上がるが、南側はゆるやかである。床面は、ほぼ平坦で西から東へわずかに傾斜を示している。炉は、床面の中央からやや南寄りに位置し、平面形状は、長径75cm、短径60cmほどの楕円形状を呈している。炉底は、床面を30cmほど

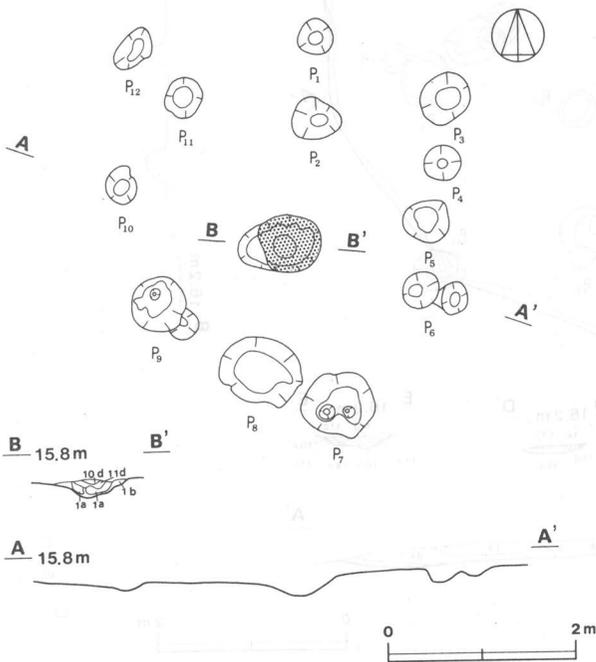
皿状に掘り込んで構築されているが焼土量はそれほど多くはない。柱穴は、重複のため明確ではないがP₁₃~P₂₅の13か所と考えられる。主柱穴は、六角形状の配置のP₁₃~P₁₈の5~6か所と考える。出入口は不明である。覆土は、2軒の住居の重複であるが、その切合い関係は明確には把握できない。

遺物は、少なく覆土中から縄文土器の胴部片が9点出土しただけである。

第23号住居跡（第39図）

本跡は、筒戸B遺跡の南西部のM9g₆区を中心に位置している。

表土が薄いことと遺構の掘り込みが浅いため、炉と柱穴のみ確認された住居跡で、規模・形状



については不明である。壁は、確認されていない。床面は、ほぼ平坦で東から西へわずかに傾斜を示すが、広がり不明である。炉は、柱穴の配置ではほぼ中央に位置し、長径70cm、短径60cmほどの楕円形で、床面を約20cmほど皿状に掘りくぼめて地床炉としているが焼土の量は少ない。柱穴は、12か所確認されているがP₇・P₈は不整形で掘り込みもやや軟弱で凹凸状をなすことから攪乱であると思われる。前述の柱穴を除いた配置状況はほぼ方形を呈している。主柱穴は、判然としない。

覆土及び遺物は確認されていない。

第39図 第23号住居跡実測図

第24号住居跡（第40図）

本跡は、筒戸B遺跡の南東部でやや微高地となるL11i₆区を中心に位置し、25・26号住居跡と144号土壌が重複している。

規模や形状は、掘り込みが浅いことと重複のため不明瞭である。壁及び床の調査を行ったが、重複が激しいため明確にすることは困難であった。炉は、重複する住居の柱穴P₅・P₂₄により破壊され、わずかに焼土が残存するにすぎない。柱穴は、複雑で判然としないが炉及びその他の柱穴配置より、P₁~P₄あたりの長方形の配置が想定される。P₃は25号住居跡の炉底面に確

認められたものである。覆土は、ロームブロックの混入する褐色土がⅠ～Ⅱ層にみられるが、かなり攪乱を受けている。

遺物は、覆土中に少量の縄文土器片がみられるが重複のため遺構に伴うかどうかは不明である。

本跡は、柱穴の切り合いにより、25・26号住居跡より古いものと考えられる。

第25号住居跡（第40図）

本跡は、筒戸B遺跡の南東部のL11i5区を中心に位置し、24・26号住居跡と76・144号土壇が重複している。

地形的に西側にやや傾斜することと、掘り込みが浅いため、規模・形状・壁等是不明瞭である。

床面は、ほぼ平坦でやや西側へ傾斜を示している。炉は、床面のほぼ中央に位置し、平面形状は、長径120cmほどの不整形を呈している。炉底は27cmほど皿状に掘られているが、遺構確認の際には、多量の焼土が北西から南東にかけて広範囲にみられた。炉の西には炉内埋設土器が埋設され、南西は攪乱をうけている。柱穴は、重複により複雑化しているが、炉及び他の住居跡との関連により、外側を楕円形状に回るP₁₂～P₂₁と考えられる。覆土には、かなり多量の焼土が各所に検出されているが、土層に締まりがあまり認められないことから投棄されたものと思われる。上面の焼土の範囲は、長径3.5m、短径1.6mにもわたっていた。

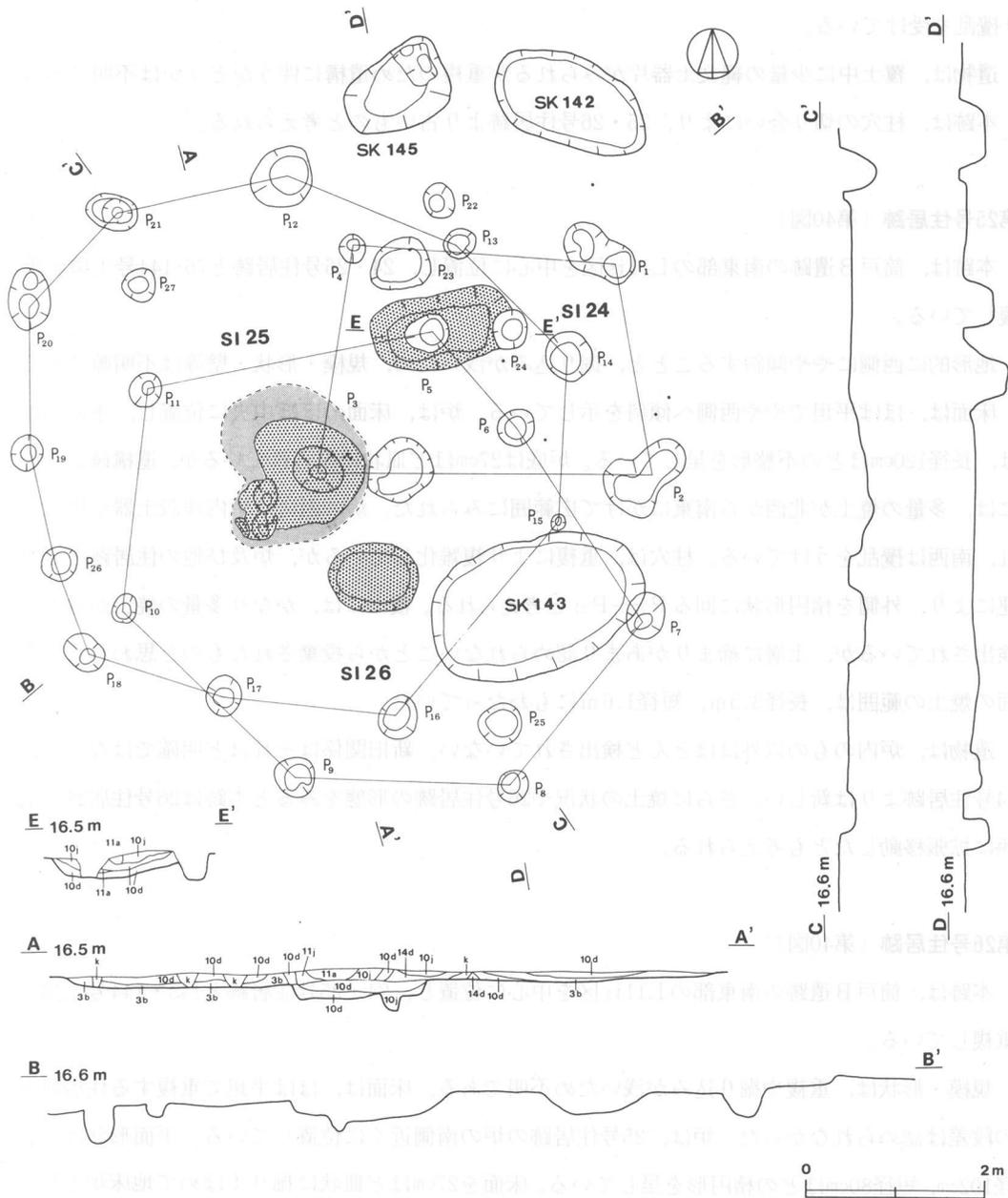
遺物は、炉内のもの以外はほとんど検出されていない。新旧関係はそれほど明確ではないが、24号住居跡よりは新しい。さらに焼土の状況や26号住居跡の形態をみると本跡は26号住居跡を北西に拡張移動したとも考えられる。

第26号住居跡（第40図）

本跡は、筒戸B遺跡の南東部のL11i5区を中心に位置し、24・25号住居跡と143・144号土壇と重複している。

規模・形状は、重複や掘り込みが浅いため不明である。床面は、ほぼ平坦で重複する住居跡との段差は認められなかった。炉は、25号住居跡の炉の南側近くに位置している。平面形状は、長径102cm、短径80cmほどの楕円形を呈している。床面を27cmほど皿状に掘りくぼめて地床炉としていいる。柱穴は、六角形状の配置を呈するP₅～P₁₁と考えられる。

遺物は、ほとんど検出されていない。新旧関係は、24号住居跡より新しく25号住居跡よりやや古いと考えられる。土壇はともに本跡よりも新しい。



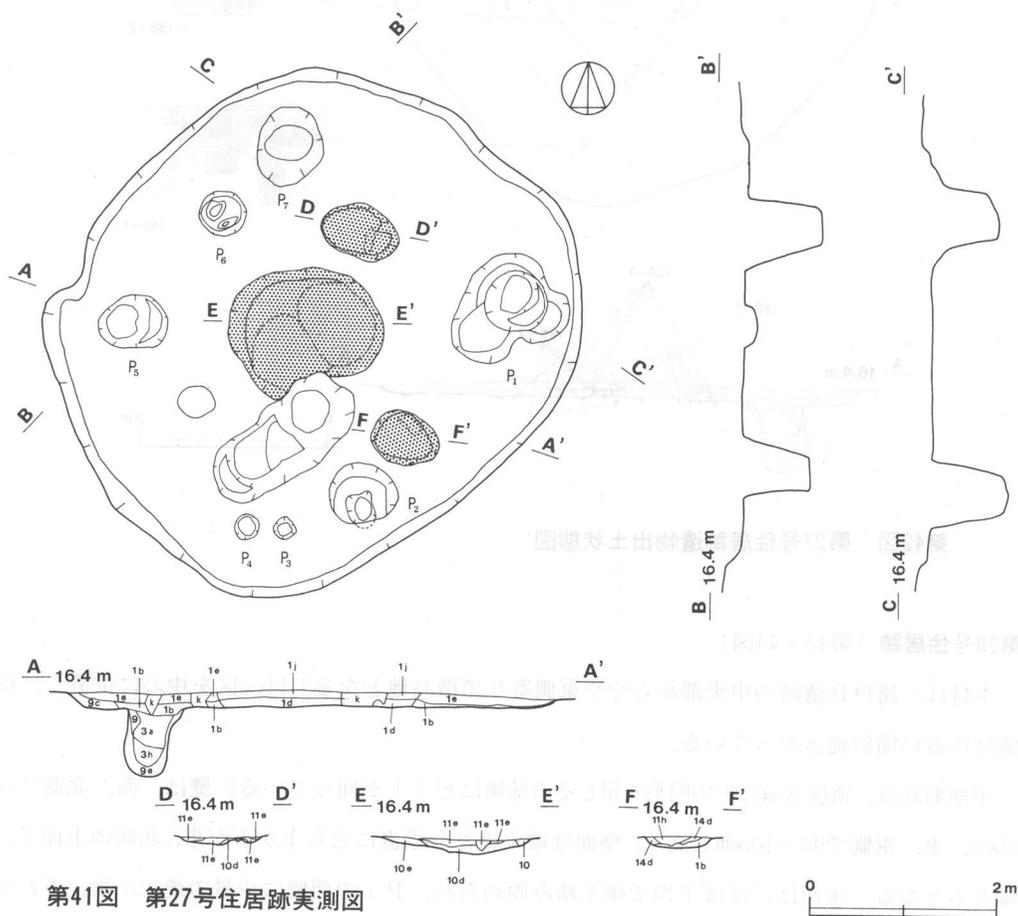
第40図 第24・25・26号住居跡実測図

第27号住居跡 (第41・42図)

本跡は、筒戸B遺跡の東部のL11b₆区を中心に位置し、南西側に28号住居跡が隣接しているがこれよりも東側には住居跡は確認されていない。

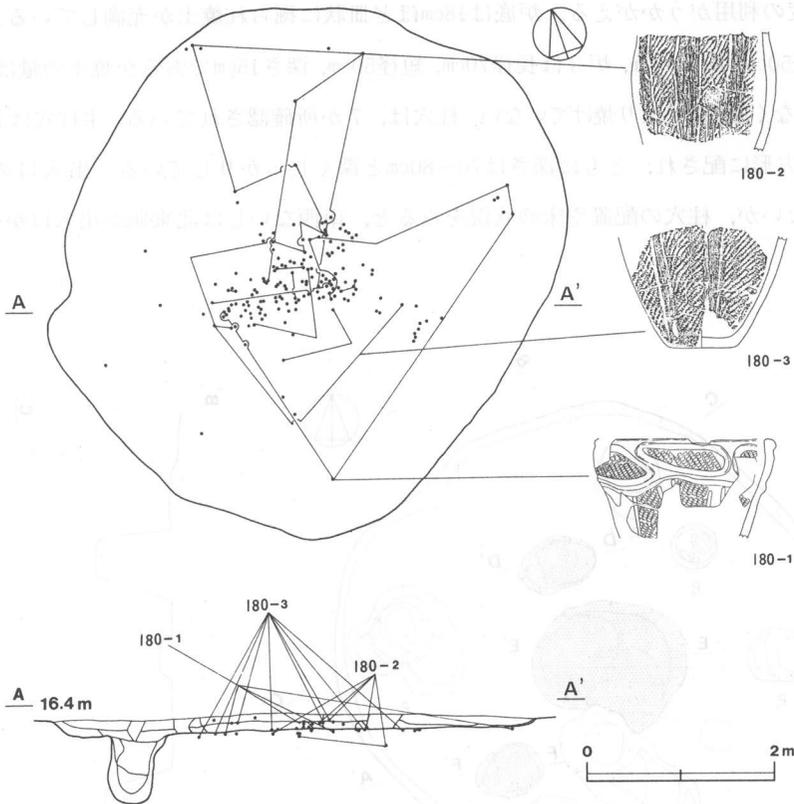
平面形状は、長軸5.45m、短軸4.92mほどの隅丸方形を呈している。長軸方向は、N-50°-E

を指している。壁は、12~20cmほどで南西側がやや高い。壁面は、外傾して立ち上がるが、西側コーナーは攪乱を受け屈曲している。床面は、ほぼ平坦で炉の周辺は硬く踏み固められている。炉の南にみられる長方形の掘り込みは後世の攪乱によるものである。炉は、床面中央とその北側及び南東に小規模なものが確認されている。中央のものを炉1、その北側のものを炉2、南東のものを炉3とする。ともに平面形は不整形を呈し、床面を9~12cm皿状に掘り込んで構築された地床炉である。規模は、炉1が長径160cm、短径110cmと大きく炉底や焼土の状況から、掘り替えないしは再度の利用がうかがえる。炉底は18cmほど皿状に掘られ焼土が充満している。炉2は長径80cm、短径50cm、深さ9cm、炉3は長径70cm、短径50cm、深さ15cmであるが焼土の量は、いずれもそれほど多くなく底面もあまり焼けていない。柱穴は、7か所確認されている。主柱穴はP₁・P₂・P₅・P₇で方形に配され、ともに深さは70~80cmと深くしっかりしている。出入口の施設は確認されていないが、柱穴の配置や床の状況を見ると、南西ないしは北東側が出入口かと考えられ



る。覆土は、III～IV層に区分され、おおむね褐色土層で少量の炭化粒子を含んでいる。柱穴中には暗褐色土が堆積している。

遺物は、縄文土器の破片が360点、石器が4点出土している。土器片は、胴部が最も多く390点で、口縁部は48点、底部は少なく2点である。そのほとんどは覆土中からのものである。平面的には、床面中央に多く壁周辺からの出土は少ない。



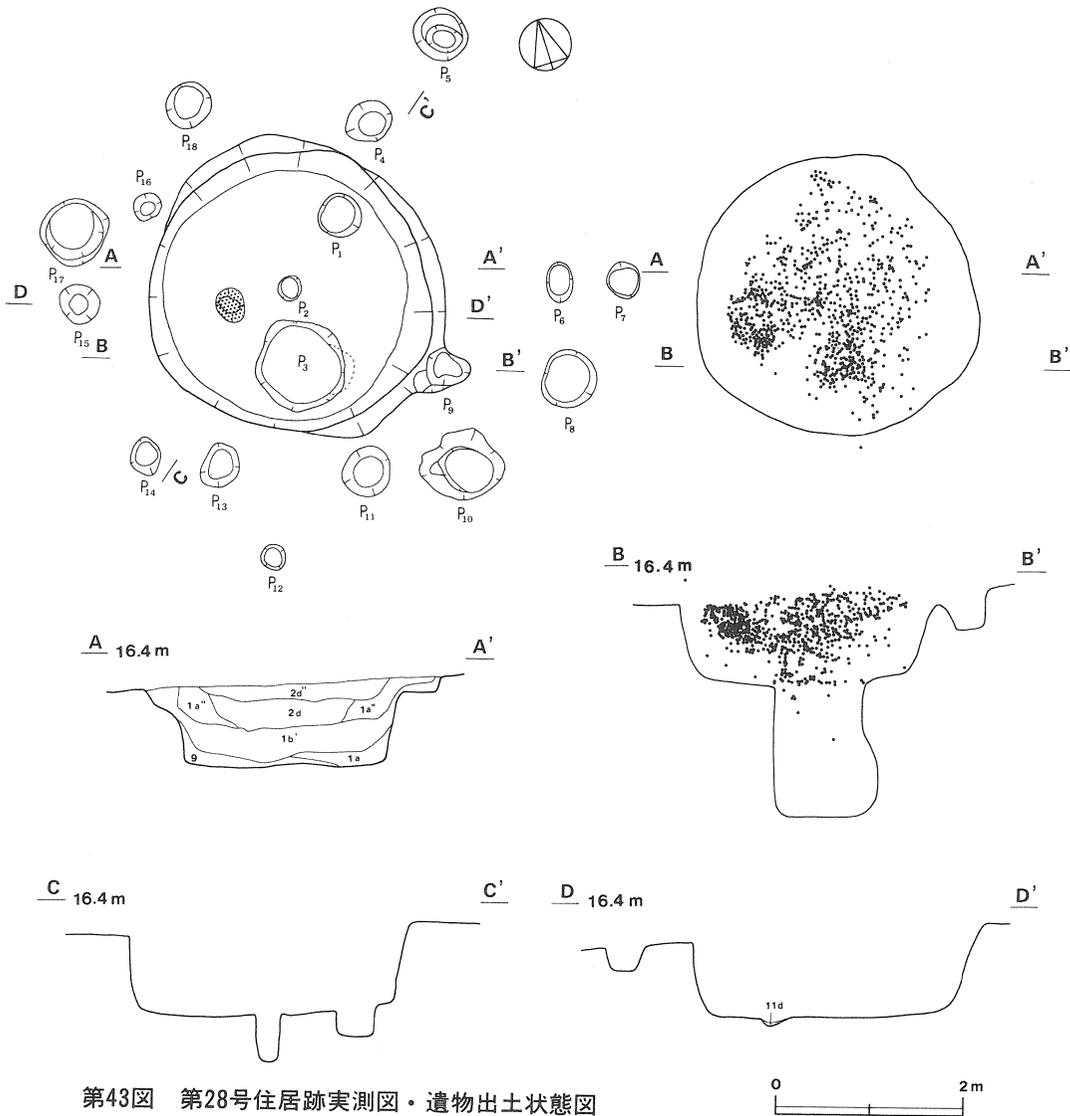
第42図 第27号住居跡遺物出土状態図

第28号住居跡（第43・44図）

本跡は、筒戸B遺跡の中央部からやや東側寄りの微高地となるL11c₄区を中心に位置し、南西側はゆるい傾斜地となっている。

平面形状は、直径3mほどの円形を呈しその外側にピットが回っている。壁は、西、北側で80～85cm、東、南側で90～100cmと高く、壁面は硬く締めり垂直に立ち上がるが東、北側の上面では外傾きみとなる。床面は、ほぼ平坦で硬く踏み固められ、P₂の西側に少量の焼土が検出され炉とも考えられる。その平面形状は、長径38cm、短径30cmほどの不整楕円形を呈している。床面を10

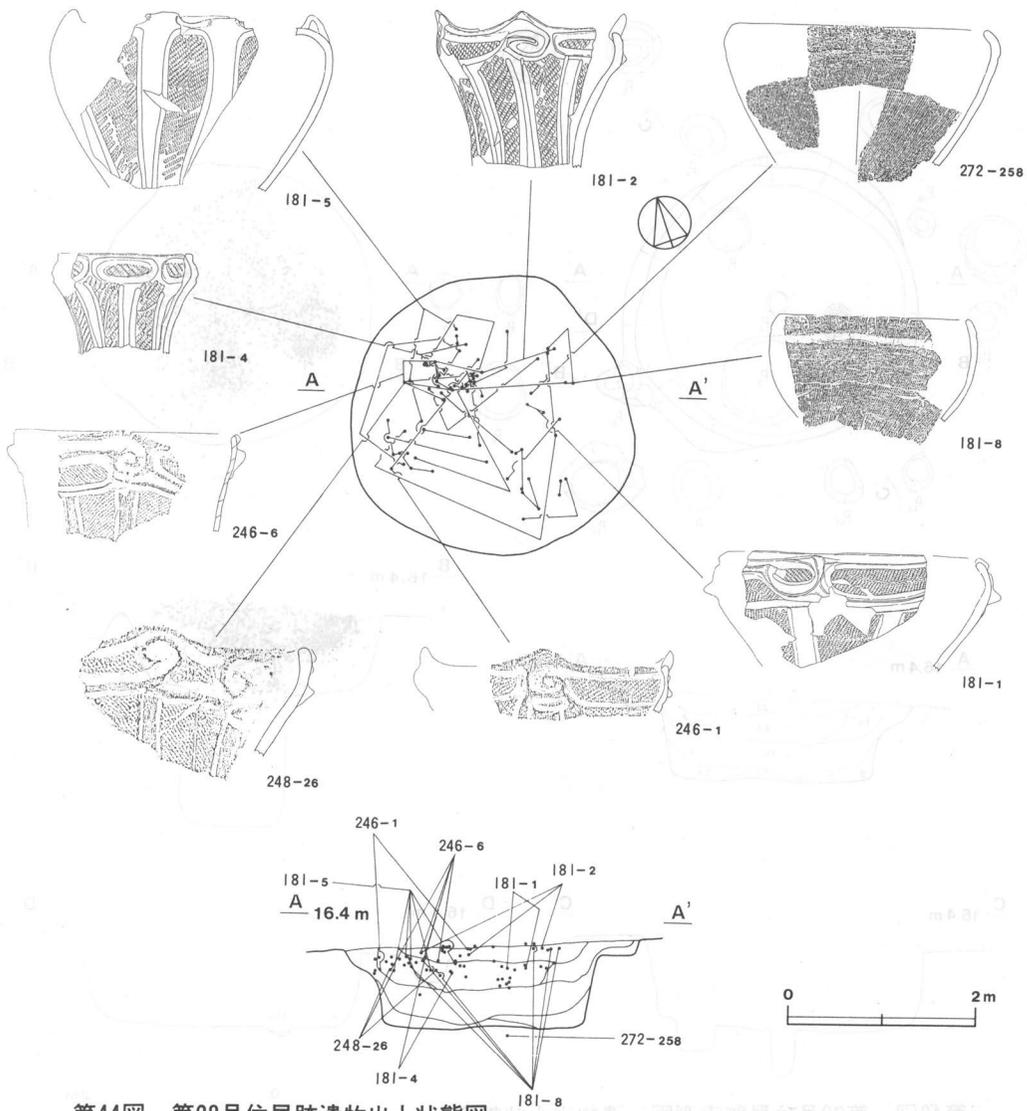
cmほど皿状に掘り込み、底面は焼けて焼土が充満している。竪穴内の柱穴は、床面の中央とその北東に2か所みられ、さらに、南には大きい貯蔵穴とみられる孫ピットが確認されている。柱穴の規模は、中央のP₂が直径25cm、深さ54cmでP₁は直径45cm、深さ30cmである。P₃は直径90cm、深さは床面から145cmで円筒状のものである。P₂は支柱穴と考えられ、P₁は昇降用の施設とも考えられる。壁面には、足掛け状のものは確認されていない。竪穴の外側にみられるP₄~P₁₈は、掘り込みがやや軟弱であり、竪穴の深さを考えた場合、構造上において上屋を構成する柱穴と考えるには若干の疑問が持たれる。覆土は、V~VI層に区分される。上層の2d''は暗褐色土層で多量の焼土粒子が検出され、2dと同様に多量の土器片が確認されている。下層の土層が堆積した



第43図 第28号住居跡実測図・遺物出土状態図

後に上層の2d・2d"が投棄されたものと考えられる。

遺物は、縄文土器の破片が1268点、石器が8点出土している。土器片は、胴部が最も多く1063点、次に、口縁部も比較的多く181点、底部は23点である。その他、十字形の石鏃や磨石なども出土している。そのほとんどは覆土の上層に投棄されたもので、特に、覆土中の中央から南側にかけて多く出土している。検出された多くの土器片は、同一破片で接合されるものが多いが完形となるものはなかった。

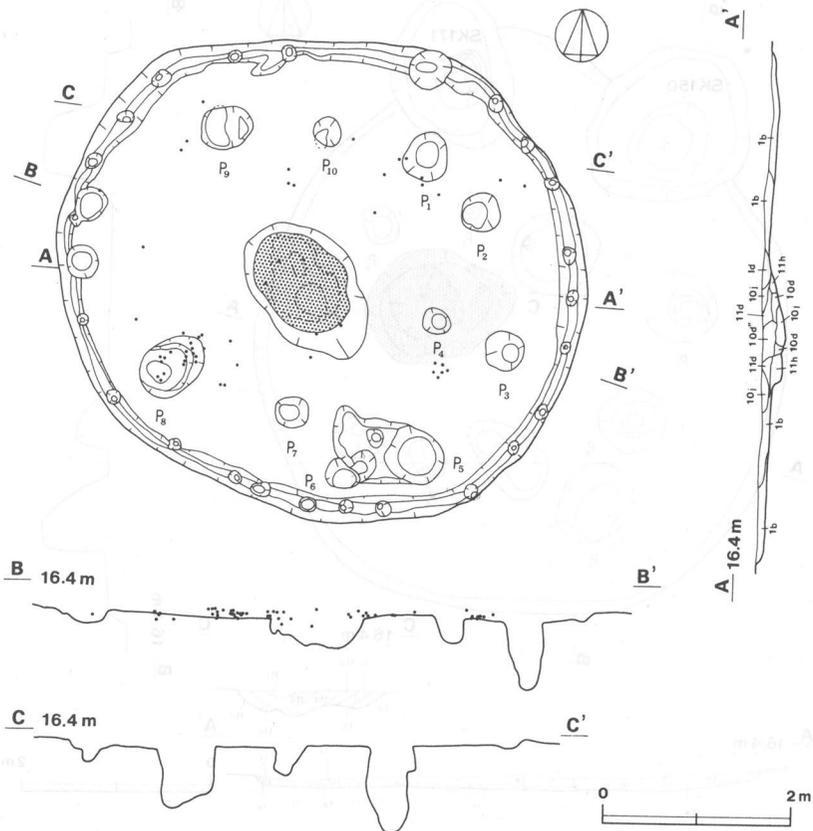


第44図 第28号住居跡遺物出土状態図

第29号住居跡（第45図）

本跡は、筒戸B遺跡の北部のJ10i₉区を中心に位置している。

平面形状は、長軸5.78m、短軸5.28mほどの隅丸方形を呈している。長軸方向は、N-43°-Wを指している。壁は、6~10cmでほぼ垂直ぎみに立ち上がる。壁溝は、上幅15~30cm、下幅10cmほどで全周し、ほぼ等間隔に小ピットが25か所みられる。床面は、ほぼ平坦でやや南東にゆるい傾斜を示している。炉は、床面の中央に位置し、長径111cm、短径80cm、深さ約30cmほどの地床炉である。平面形は、北西から南北に長い不整楕円形を呈し、焼土は北側に多く認められ南側には少ない。柱穴は、床面に10か所ほど確認されるほか、北壁に1、西壁に2か所のピットがみられる。支柱穴は、深さが60~90cmでしっかりしたP₁・P₅・P₈・P₉が考えられ、その配置は長方形形状を呈している。なお、P₂・P₃も深さが70~90cmと深い配置的には前述のものが支柱穴と考えられる。これらは支柱穴あるいは出入口と考えられるが西壁付近に並立してみられるものも位置的には出入口とも考えられる。覆土は、II~V層に区分される。1bは褐色土で壁ぎわにはロームブロックが多くみられるがほぼ自然堆積の状態を呈している。炉の上面は一部攪乱をうけ、



第45図 第29号住居跡実測図

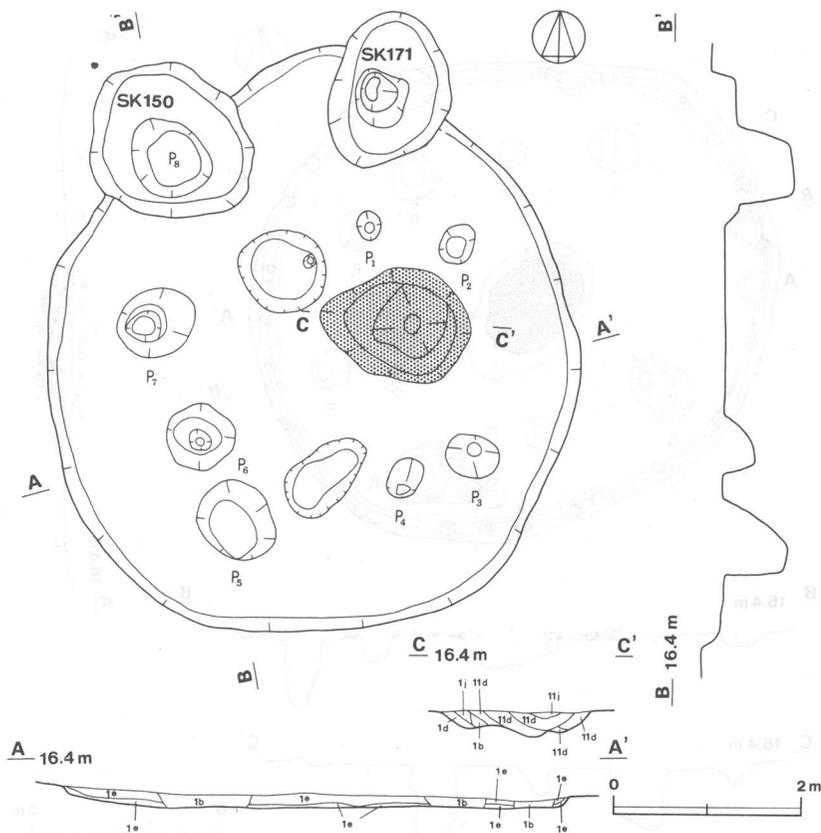
焼土と黒色土が混入している。

遺物は、縄文土器の破片が189点、石器が2点出土している。土器片は、胴部が多く166点で口縁部が18点、底部が4点である。その他、土器片錘が2点みられる。いずれも覆土中からの出土である。平面的には、壁周辺部は少なく、中央部付近から多く出土した。

第30号住居跡（第46・47図）

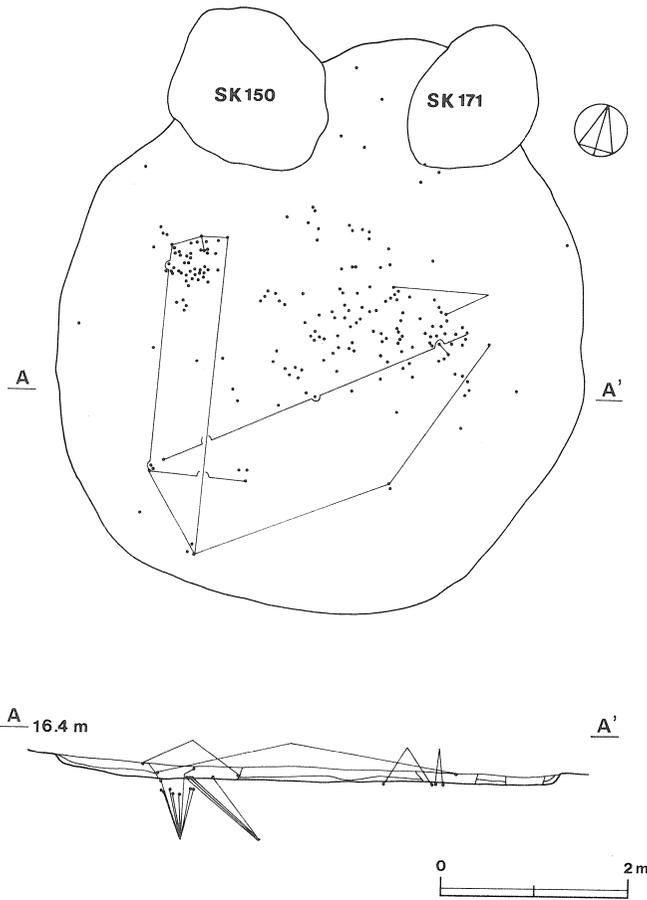
本跡は、筒戸B遺跡の北端部のJ10e₀区を中心に位置し、北側は大谷津B遺跡に隣接している。

平面形状は、北側に本跡よりも新しい150号・171号土壌が重複しているため明瞭ではないが、長軸6.23m、短軸5.66mの隅丸長方形を呈すると考えられる。長軸方向は、N-13°Wを指している。壁は、16~20cmで、東、北側はほぼ垂直にぎみに立ち上がるが他は外傾ぎみである。床は、ほぼ平坦である。炉の北西と南西側には攪乱がみられ不整形となっている。炉は、床面中央から東に寄って位置している。掘り込みは長径150cm、短径110cmと大きいが、炉の規模は、長径110cmほどと考えられる。平面形は、不整長方形に近い。床面を30cmほど皿状に掘り込んだ地床炉で底面はかなり熱



第46図 第30号住居跡実測図

をうけ焼土が凹凸状をなしている。柱穴は、8か所確認され、南北に長い六角形状の配置を呈している。P₆は、本跡の覆土を切っており、やや新しいものであるが、覆土中に少量の炭化物が



第47図 第30号住居跡遺物出土状態図

検出されている。性格は不明であるが柱穴とは別のものであろう。主柱穴は、P₃・P₅・P₇~P₉と考えられる。P₃はやや掘り込みが浅いが、P₅は70cm、P₇は90cmの深さを有している。出入口は不明である。覆土は、II層に区分され上層の1eから少量の炭化物が検出されている。

遺物は、縄文土器の破片が380点、石器が2点出土している。土器片は、胴部が最も多く323点で、口縁部が58点で底部は出土していない。そのほとんどは覆土の1eからで床面からの出土は稀である。平面的には、中央部付近に多く、壁周辺部からはほとんど検出されていない。

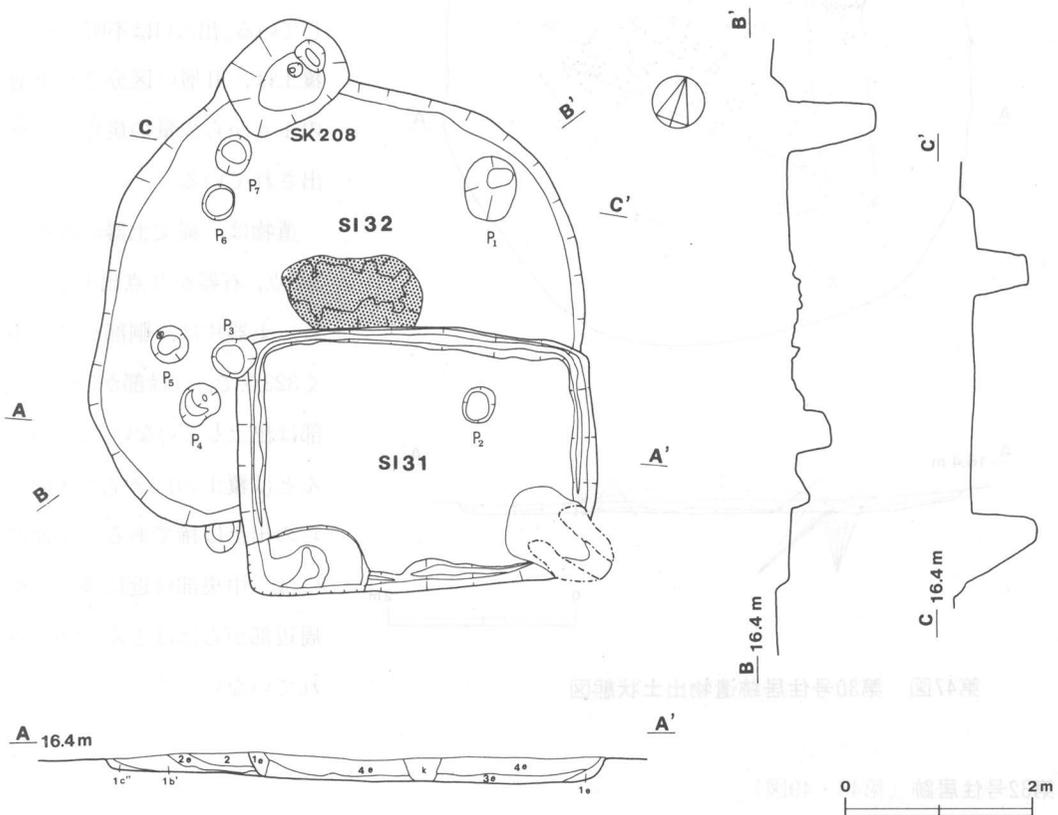
第32号住居跡 (第48・49図)

本跡は、筒戸B遺跡の北西部のJ10h₄区を中心に位置し、南東側は31号住居跡によって切れ北西側の一部も208号土壌によって切られている。

平面形状は、長軸は5.2mで、短軸は31号住居跡によって一部破壊されて不明であるが推定で4.6mほどの隅丸形状を呈すると思われる。長軸方向は、N-68°-Eを指している。壁は、15cmほどで西側はゆるやかに立ち上がるが、他はほぼ垂直ぎみに立ち上がる。床面は、ほぼ平坦で西から東へわずかに傾斜を示している。南東部は切り合いのため不明である。炉は、床面のほぼ中央に位置すると考えられるが、南側の一部は31号住居跡によって切られている。規模は、長径150cm、短径70cm、深さ10cmほどである。炉底は、焼けて硬い凹凸状をなし、特に西側には多量の焼土がみられ

る。柱穴は、7か所確認されている。支柱穴は、 $P_1 \cdot P_2 \cdot P_4 \cdot P_7$ と考えられ長形状の配置を呈している。出入口は不明である。覆土は、IV層に区分されるが、2、2eは土層の境界も漸移的で土質も極めて類似しており、本来は同一層として把握すべきものかも知れない。1cは壁周辺部に分布し、覆土が堆積する過程で壁等が崩落し、形成されたものと考えられる。

遺物は、縄文土器の破片が506点、石器片が4点出土している。土器片は、小片の胴部が最も多く403点で、口縁部は少なく36点で、底部は7点である。いずれも覆土中からの出土であり、床面からのものは少ない。平面的には中央付近に多くみられるが31号住居跡により大部分は破壊されている。

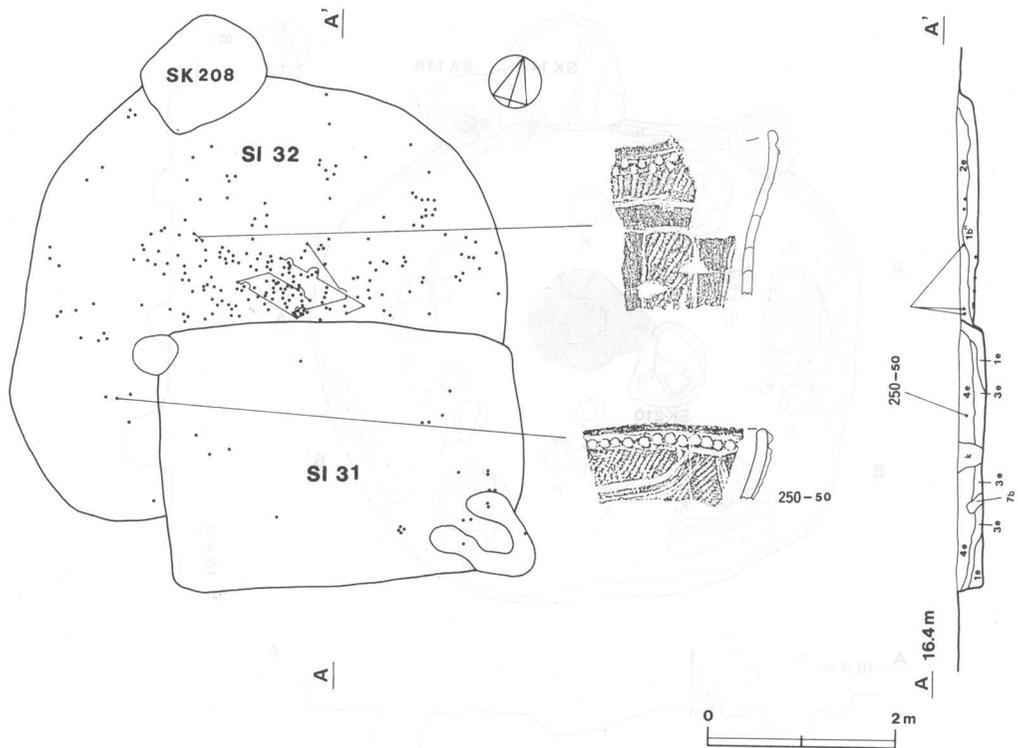


第48図 第31・32号住居跡実測図

第33号住居跡（第50図）

本跡は、筒戸B遺跡の北部のJ10f8区を中心に位置し、中央には210・240号土壌が、北側には147・148・149号土壌が重複している。確認の段階では、北側にみられた落ち込みを住居跡としてとらえたが、その後の調査により住居跡はその南側である事が判明した。

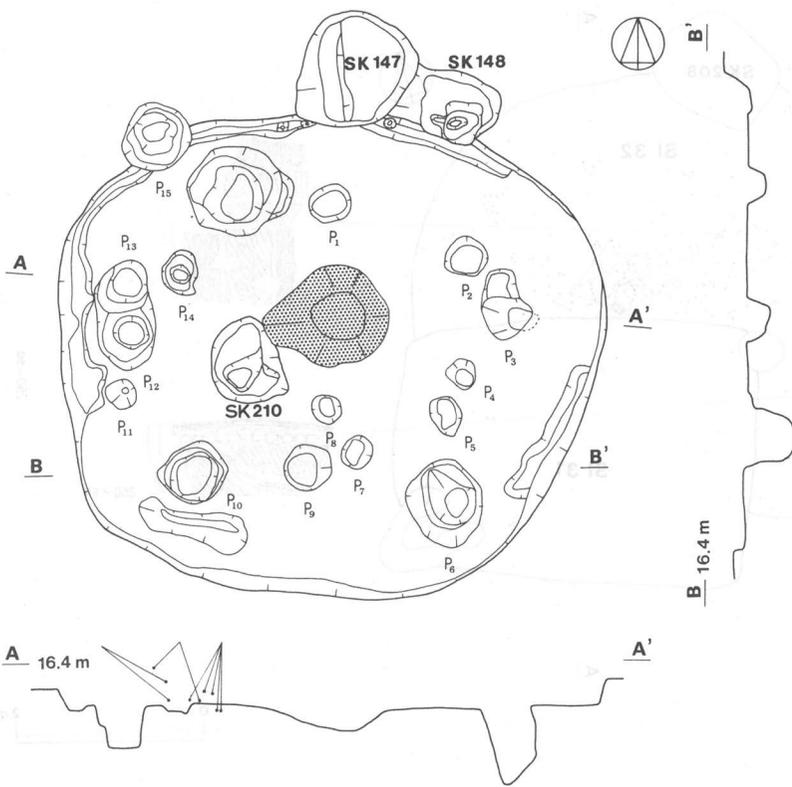
平面形状は、長軸5.72m、短軸5.18mほどの隅丸方形を呈している。長軸方向は、 $N-84^{\circ}-W$ を指している。壁は、15~25cmで、ほぼ垂直ぎみに立ち上がるが北側は不明瞭である。床面は、



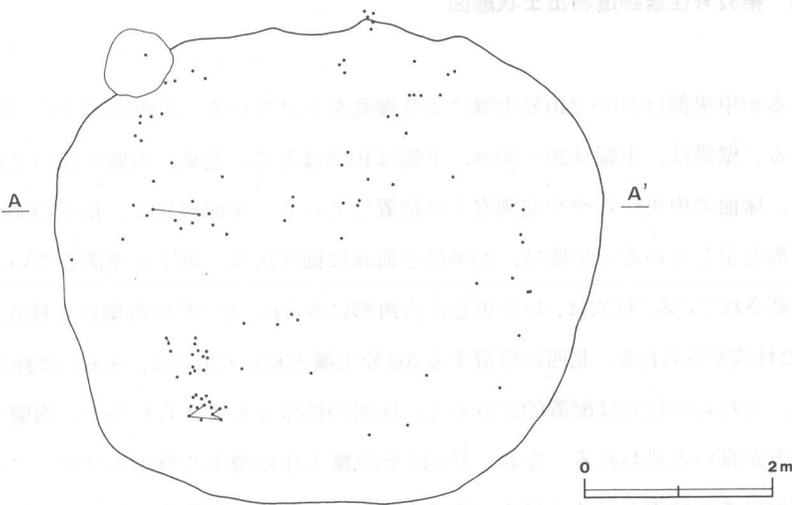
第49図 第32号住居跡遺物出土状態図

ほぼ平坦であるが中央部は210・240号土壌により攪乱をうけている。北西側にはピット状の209号土壌がみられる。壁溝は、上幅は20～30cm、下幅は10cmほどで、北東、南側を除いて部分的にみられる。炉は、床面の中央からやや北側寄りに位置している。平面形状は、長径130cm、短径100cmほどの不整形を呈している。炉底は、25cmほど皿状に掘り込み、焼土が充満している。柱穴は、15か所ほど確認されている。柱穴は、炉を中心に六角形にみられ、そのやや外側に支柱穴と考えられるしっかりした柱穴がみられる。北西に位置する209号土壌と称したものは、あるいは柱穴との関係が考えられる。これらの柱穴は配置的にみると、住居の拡張とも考えられるが、内側の柱穴は支柱穴と考えた方が良いと思われる。なお、P₁₀はその覆土中に焼土や焼土小ブロックとともに少量の炭化物が検出され柱穴として注目すべきである。この柱穴を抜取るかした後に焼土を含む層が堆積している。覆土は、III層に区分される。部分的にかなり攪乱をうけている。

遺物は、縄文土器の破片が221点、石器が6点出土している。土器片は、胴部が181点、口縁部が30点、底部が7点、その他、土器片錘が3点である。そのほとんどは覆土上層から出土している。平面的にはかなり散在してみられる。



第48図 第33号住居跡出土物分布図



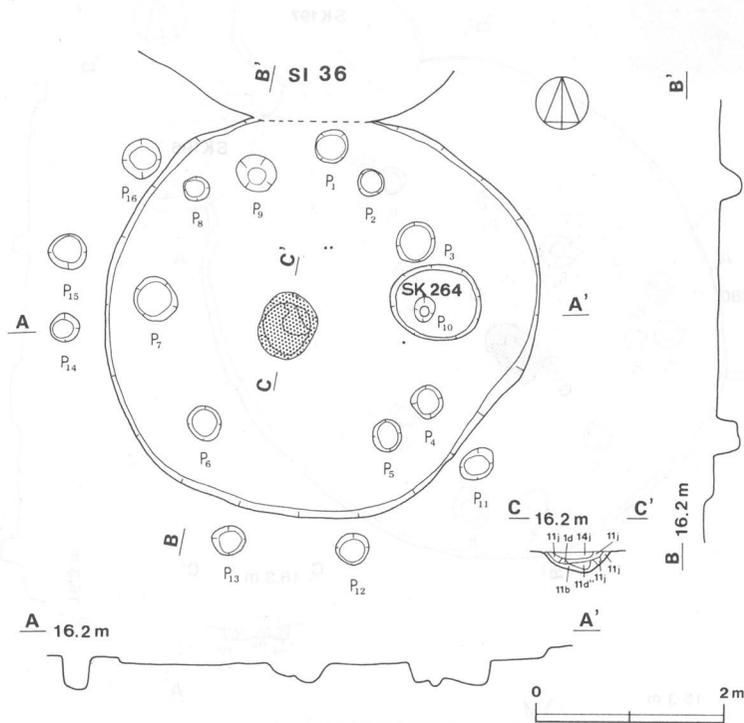
第50図 第33号住居跡実測図・遺物出土状態図

第34号住居跡（第51図）

本跡は、筒戸B遺跡の北東部のJ11h₃区を中心に位置し、北側に隣接する36号住居跡の南壁の一部を掘り込んで構築している。

平面形状は、長径4.5m、短径4.3mほどの楕円形を呈している。長径方向は、N-25°-Eを指している。壁は、12~14cmで西側がやや低い。壁面は、南壁がやや外傾ぎみであるが、他はほぼ垂直ぎみに立ち上がる。床面は、平坦であるがやや軟弱である。東側の床面にみられる264号土壌は本跡より新しく、坑底のピットは攪乱によるものである。炉は、床面のほぼ中央に位置し、平面形状は、長径70cm、短径60cmほどの楕円形で、床面を約20cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。焼土の量はそれほど多くない。柱穴は、床面に9か所と壁外に6か所確認されている。床面の柱穴はほぼ六角形に配置され、壁外の柱穴は北西及び南に3か所ずつみられる。掘り込みはいずれもしっかりしたものではなく、支柱穴は明確でない。出入口は、壁外の柱穴を考慮すれば、南あるいは北西が考えられる。覆土は、II層からなるが部分的に攪乱が入る。上層は褐色土、下層は明褐色土層でいずれも少量の炭化物を混入している。

遺物は、ほとんど検出されていない。

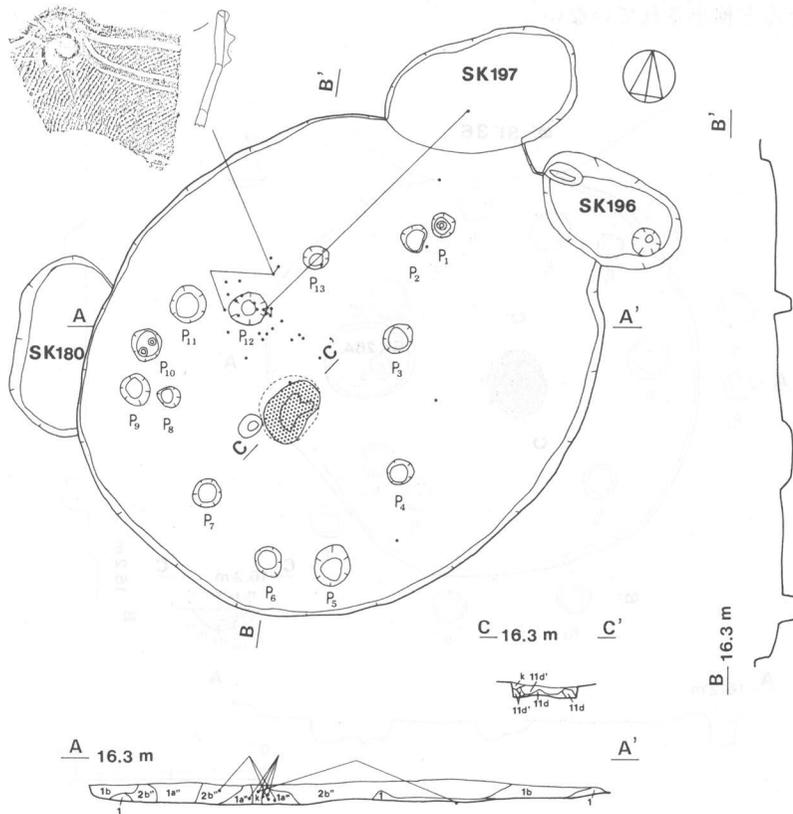


第51図 第34号住居跡実測図

第36号住居跡（第52図）

本跡は、筒戸B遺跡の北東部のJ11g₃区を中心に位置し、南側は34号住居跡に、西側は180号土壌に、北東側は196・197号土壌によってその一部を切られている。

平面形状は、長径5.76m、短径5mほどの楕円形を呈しているが、北東部は壁が軟弱なためやや掘りすぎかもしれない。長径方向は、N-35°Eを指している。壁は、6~9cmで、北、東側がやや低い。壁面は、ほぼ垂直ぎみに立ち上がるが、北側はややゆるやかである。床面は、ほぼ平坦であるが北東側は不明瞭である。炉は、床面の中央よりも南西に位置するが、柱穴の配置をみるとほぼ中央に位置している。平面形状は、長径70cm、短径40cmほどの楕円形で、床面を16cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。柱穴は、13か所ほど確認されている。P₁・P₂はややはなれているが、他は炉を囲み多角形状に配置されている。覆土は、IV層に区分されるが、土層の境界は土質も極めて類似している。さらに、部分的に攪乱が入り複雑化している。



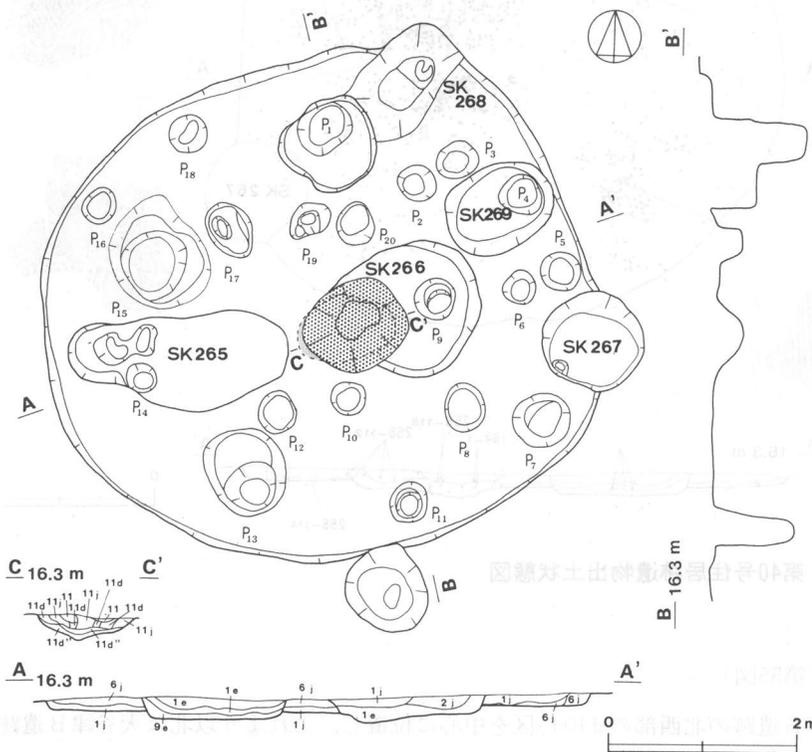
第52図 第36号住居跡実測図

遺物は、いずれも小片で炉の北側の覆土中から縄文土器の破片が117点、石器が1点出土している。土器片は、胴部が95点で、口縁部は22点である。底部は出土していない。

第40号住居跡（第53・54図）

本跡は、筒戸B遺跡の北西部のJ10i₂区を中心に位置し、6基の土壇が重複している。新旧関係は、261・265・266・269号土壇が本跡より新しく、267・268号土壇が古いと思われる。

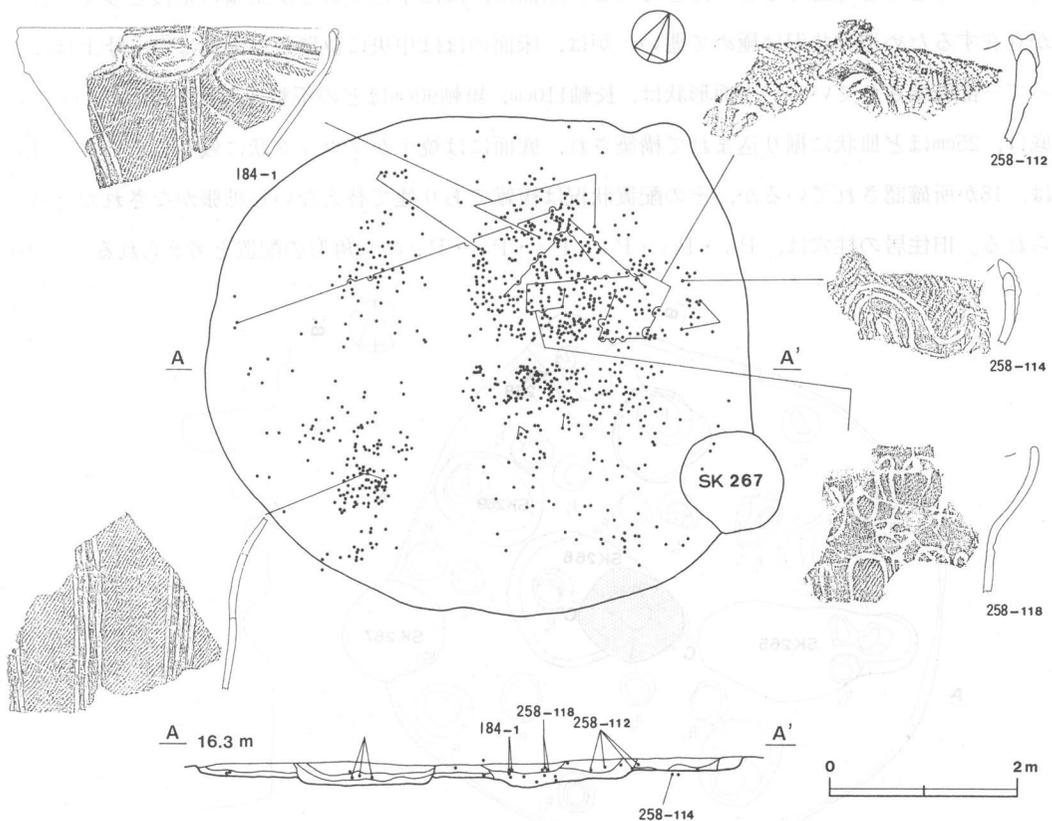
平面形状は、長軸5.8m、短軸5.38mほどの隅丸方形を呈しているが、柱穴の状況より建て替えないし、拡張が行われたとも考えられるためプランは不明瞭である。長軸方向は、N-64°-Eを指している。壁は、北、東側は15cmほどであるが、南側は地形的に緩傾斜を示すため西側で9cm、南側ではほとんど確認できないほどである。床面は、ほぼ平坦であるが土壇の重複と多くの柱穴が存在するため遺存状況は極めて悪い。炉は、床面のほぼ中央に位置し、上面は266号土壇によって一部破壊されている。平面形状は、長軸110cm、短軸90cmほどの不整形形状を呈している。炉底は、25cmほど皿状に掘り込まれて構築され、底面には焼土がブロック状に残存している。柱穴は、18か所確認されているが、その配置状況は複雑であり建て替えないし拡張がなされたと考えられる。旧住居の柱穴は、P₁・P₃・P₆・P₈・P₁₂・P₁₇の六角形の配置と考えられる。その後、



第53図 第40号住居跡実測図

P₁を起点にP₄・P₇・P₁₁・P₁₃・P₁₅へ拡張がなされたことが、構造上に共通性がみられることからうかがえる。出入口は不明である。なお、267号土壇は壁が垂直で壇底も平坦で硬いことからあるいは住居に伴う貯蔵穴のなものととも考えられる。覆土は、II～IIIに区分され、少量の焼土粒子、炭化物が混入している。

遺物は、縄文土器の破片が1065点、石器が11点出土している。土器片は、胴部が最も多く948点で、口縁部は104点、底部が11点である。その他、土器片錘が2点出土している。遺物の出土状況は、土壇に投棄されたものや覆土中のものがほとんどで、床面直上のは少ない。平面的には、床中央付近に多く出土しているが、柱穴内の覆土上層から検出されるものも少なくない。この状況は柱穴を抜いた後に投棄されたものと考えられる。



第54図 第40号住居跡遺物出土状態図

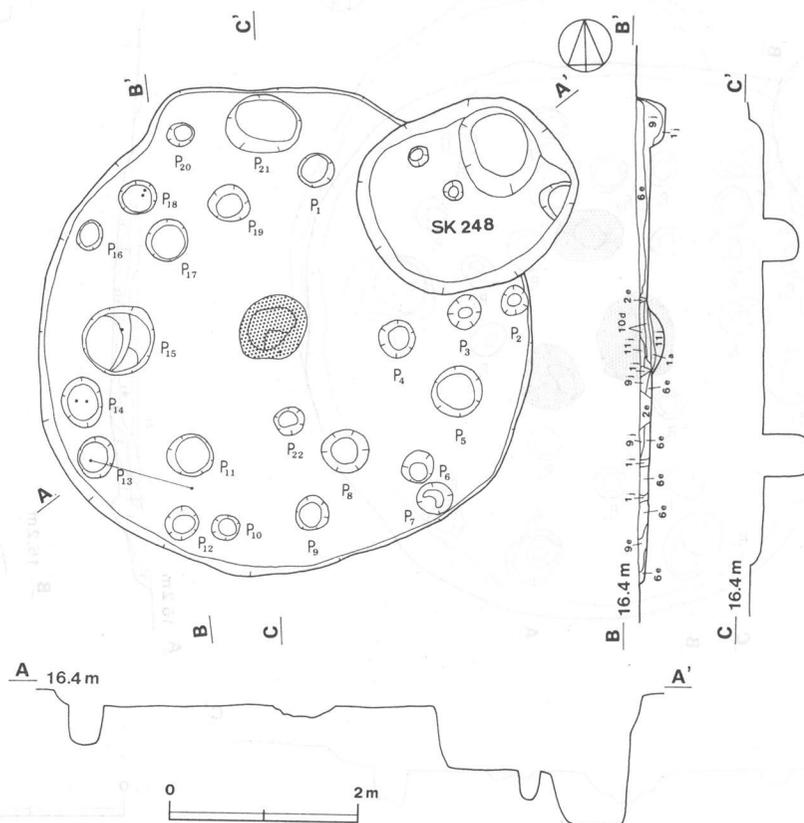
第41号住居跡 (第55図)

本跡は、筒戸B遺跡の北西部のJ10 f₂区を中心に位置し、これより以北は大谷津B遺跡として調査した住居跡群が存在している。本跡の北東コーナーには、212号土壇が重複している。

平面形状は、長径5.2m、短径5.1mほどで、北側の一部が張り出すがほぼ円形を呈している。

壁は8～15cmで他の壁に比して北壁側が低い。壁面は、ほぼ垂直ぎみに立ち上がるが、北東側は一部土壌によって切られ不明瞭である。床面は、平坦で中央付近が特に硬い。炉は、床面の中央に位置し、長径78cm、短径66cmほどの楕円形で、床面を12cmほど皿状に掘りくぼめて地床炉としている。柱穴は、21か所ほど確認されているが北東側の248号土壌に切られている部分にも何か所かあったことが柱穴の配置から想定される。柱穴数は多く、炉を中心として多角形状に、二重に配置されている。P₁₅をみると住居の建て替えないしは拡張をしたかとも考えられるが、床、炉の状況からは確証は得られていない。主柱穴は、判然としない。南西側のP₁₁・P₁₃～P₁₅は深さ40～50cmであるが北東側に対応するものが認められていない。さらに壁ぎわにみられる柱穴は、深さ30cm内外である。覆土は、IV～V層に区分される。南側の6eが堆積した後、北側あるいはその他から9jが自然流的に堆積している。

遺物は、縄文土器の破片が227点、石器が4点出土している。土器片は、胴部が201点、口縁部が21点、底部が5点である。いずれも小片で覆土中ないしは柱穴内からのもので、床面からはほとんど認められない。



第55図 第41号住居跡実測図

第42号住居跡 (第56・57・58図)

本跡は、筒戸A遺跡の中央部からやや南東のK9j₄区を中心に位置し、北西壁の上面には、本跡よりも新しい276・277号土壌が重複している。

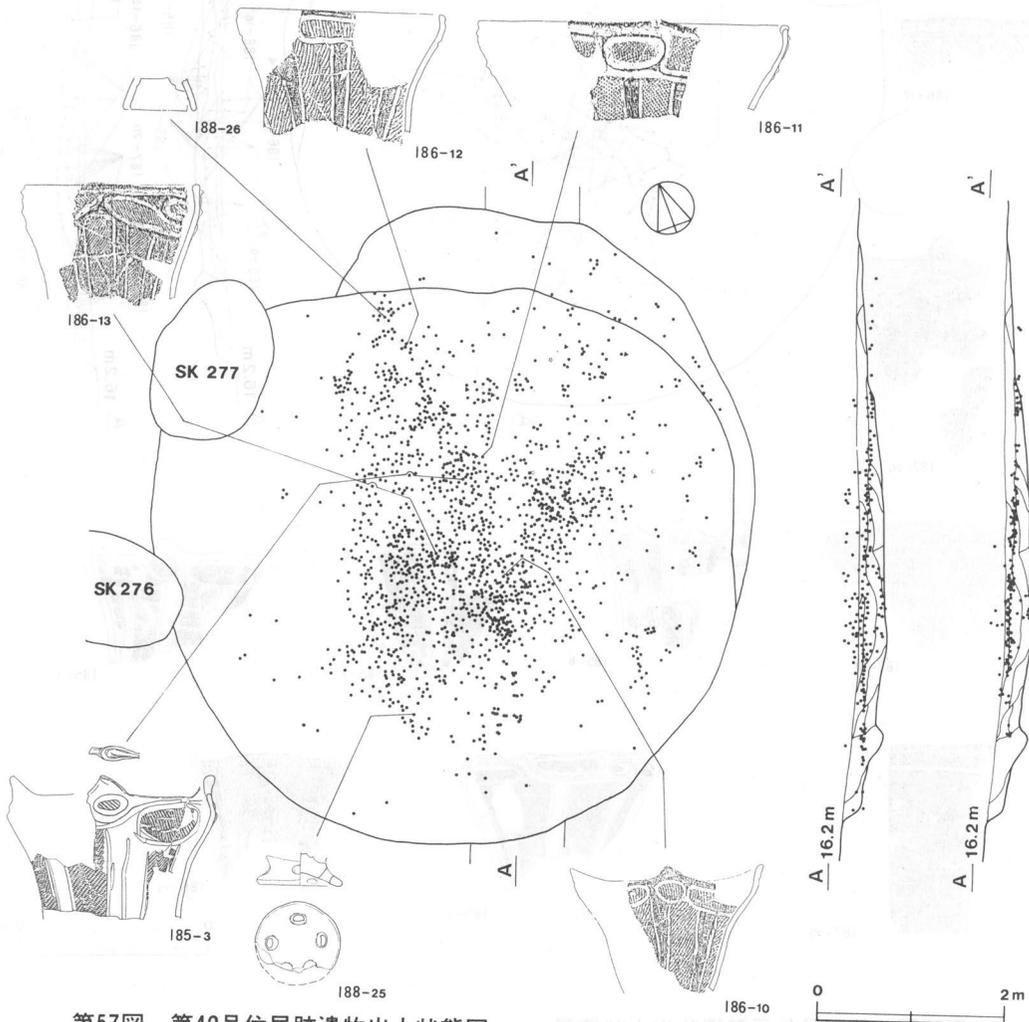
平面形状は、長径6.4m、短径6.2mほどで、南北がやや突出する六角形状に近似する楕円形を呈している。長径方向は、N-35°-Wを指している。壁は、南西側が17cmで低いが他は30cm内外である。壁面は、ほぼ垂直きみであるが西側はやや外傾きみに立ち上がる。床面は、ほぼ平坦で硬く締まり、炉の南側が若干傾斜を示している。炉は、床面のほぼ中央に3か所みられ中央のものを炉1、南東のものを炉2、北東のものを炉3とする。炉1は、長径90cm、短径80cmの楕円形状を呈し、床面を30cmほど皿状に掘りくぼめている。炉底には焼土が充満しかなり長期に使用された痕跡が認められる。炉2は、長径70cm、短径60cmほどの三角形を呈し、掘り込みは浅く7cmほどである。炉3は、長径70cm、短径54cmほどの楕円形で、掘り込みは10cmほどである。炉2、3とも焼土の量は少なくそれほど長期的に使用されたものではないと思われる。柱穴は、多く26



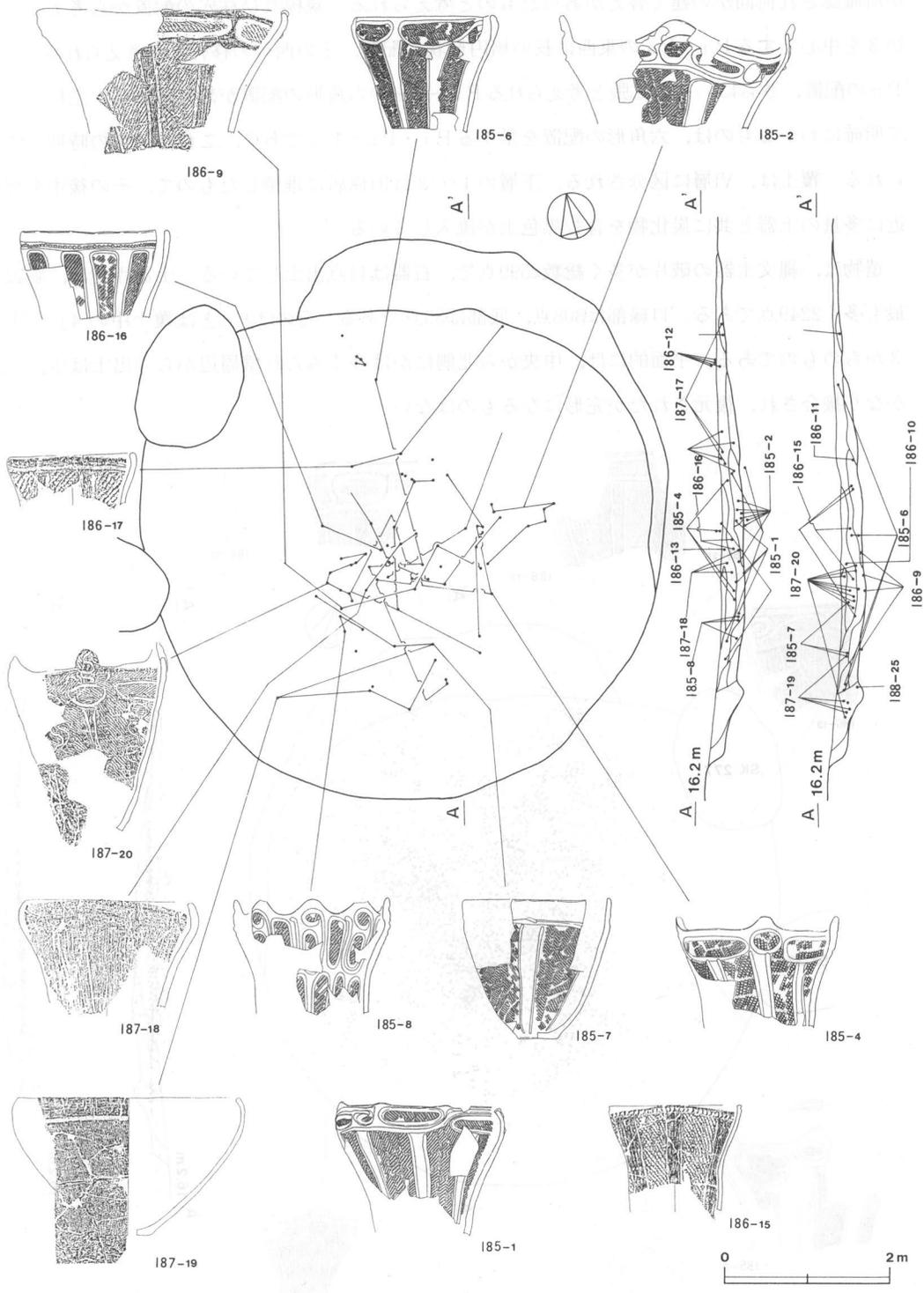
第56図 第42号住居跡実測図

か所確認され何回かの建て替えがあったものと考えられる。規模及び柱穴の配置から考えると、
 炬3を中心とするP₁~P₉の東西に長い楕円形状の配置、その西への移行とも考えられるP₁~
 P₁₇の配置、さらに、その拡張と考えられるP₁₈~P₂₃の六角形の配置が想定される。支柱穴とし
 て明確にわかるものは、六角形の配置を呈するP₁・P₁₈~P₂₃であり、これが最後の時期と考え
 られる。覆土は、VI層に区別される。下層の1・2は旧住居に堆積したもので、その後中央部付
 近に多量の土器と共に炭化物を含む黒色土が流入している。

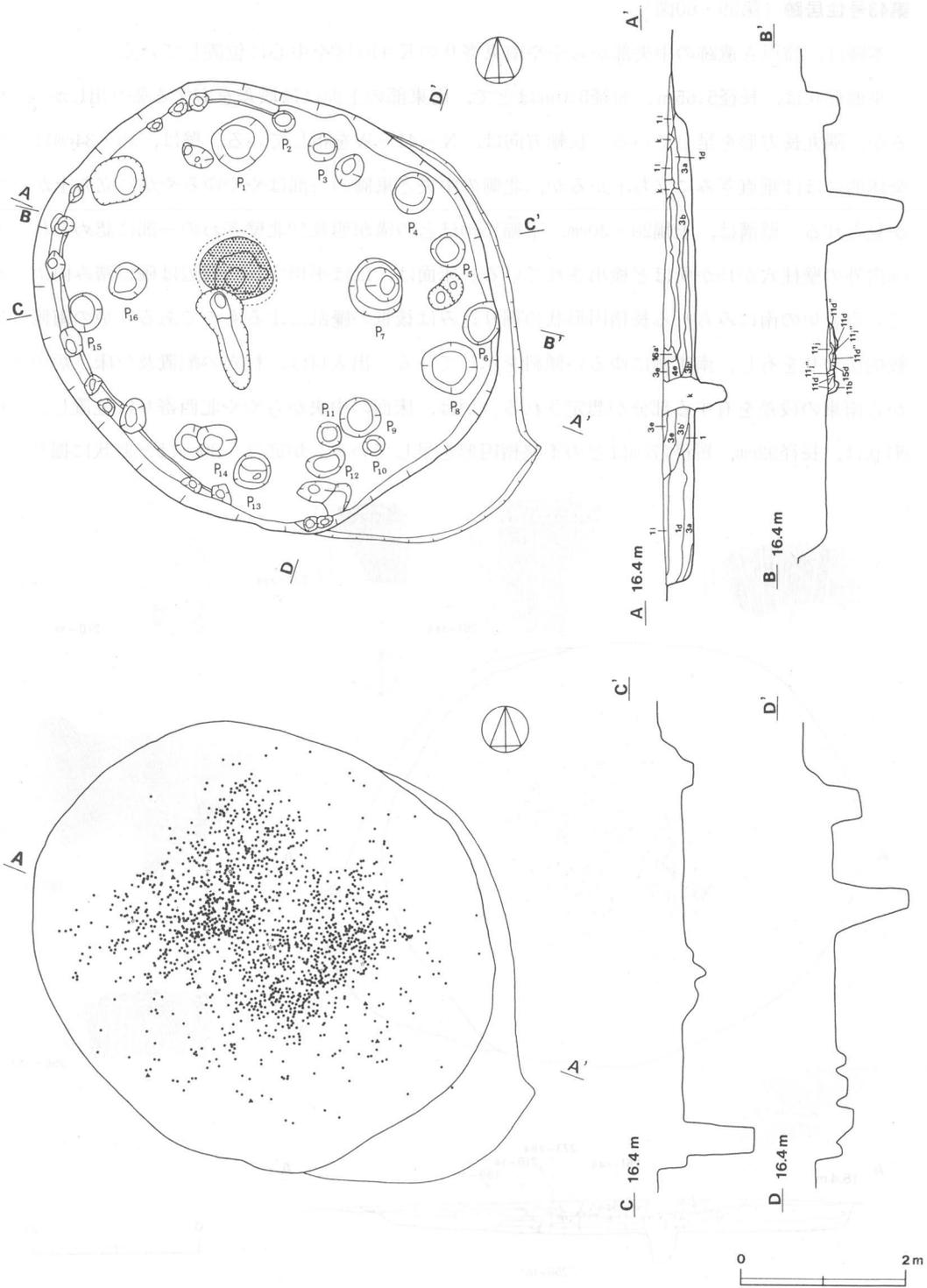
遺物は、縄文土器の破片が多く総数2599点で、石器は14点出土している。土器片では、胴部が
 最も多く2249点である。口縁部は308点、底部は35点である。そのほとんどは覆土中の4j・5h・
 3からのものである。平面的には、中央から北側にかけて多くみられ壁周辺からの出土は少ない。
 かなり接合され、復元されたが完形になるものはない。



第57図 第42号住居跡遺物出土状態図



第58图 第42号住居跡遺物出土状態图

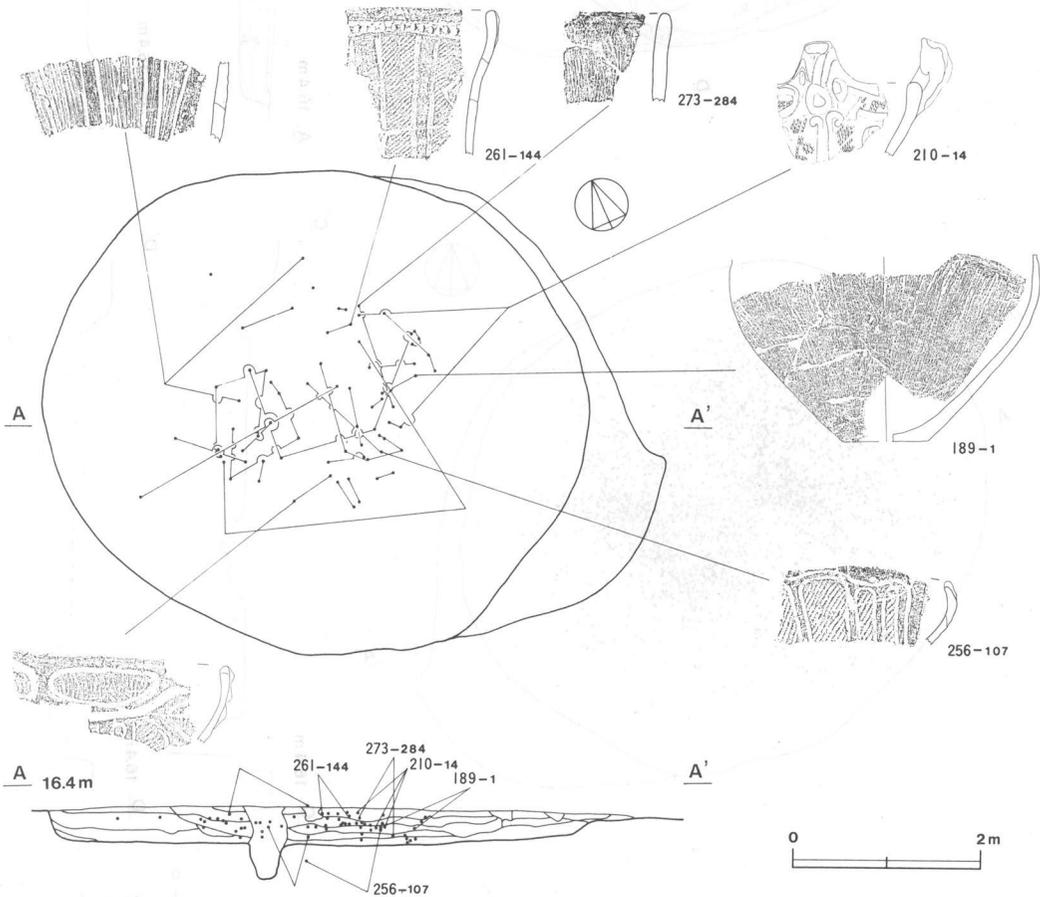


第59图 第43号住居跡実測図・遺物出土状態図

第43号住居跡（第59・60図）

本跡は、筒戸A遺跡の中央部からやや南東寄りのK9h₂区を中心に位置している。

平面形状は、長径5.65m、短径5.0mほどで、南東部の上面には段差を有する張り出しがみられるが、隅丸長方形を呈している。長軸方向は、N-41°-Wを指している。壁は、30~34cmほどで、全体的にはほぼ垂直ぎみに立ち上がるが、北側の中央と東側の一部はややゆるやかに立ち上がる面が見られる。壁溝は、上幅20~30cm、下幅15cmほどの溝が西及び北壁ぎわの一部に認められ、20cm内外の壁柱穴が15か所ほど検出されている。床面は、ほぼ平坦で炉の周辺は硬く踏み固められている。炉の南にみられる長楕円形状の掘り込みは後世の攪乱によるものである。炉の南側は比較的広がりをも有し、南東側にゆるい傾斜を示している。出入口は、柱穴の配置及び床、炉の状況から南東の段差を有する部分が想定される。炉は、床面の中央からやや北西寄りに位置し、平面形状は、長径92cm、短径77cmほどの不整楕円形を呈している。炉底は、30cmほど皿状に掘り込ま



第60図 第43号住居跡遺物出土状態図

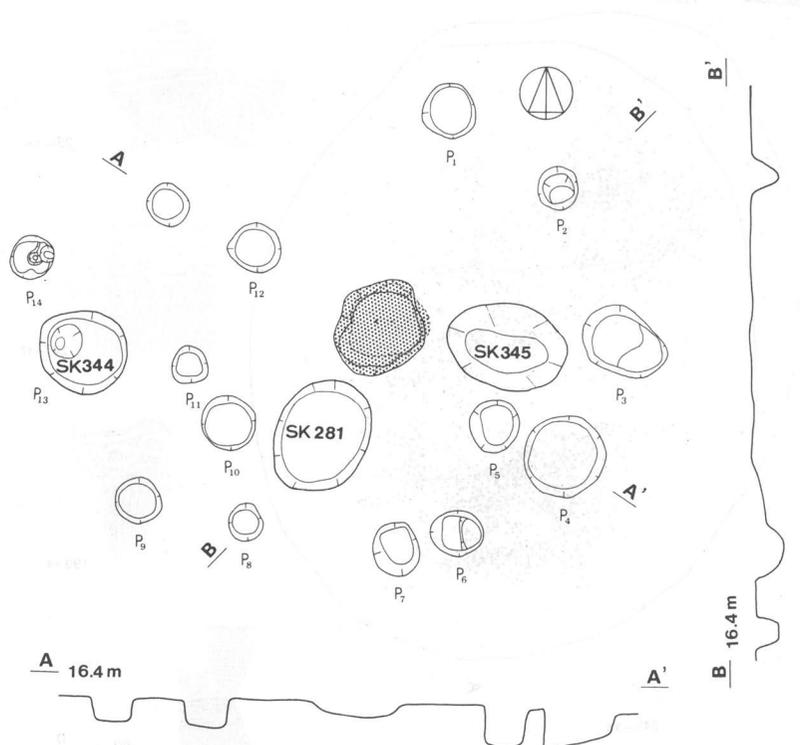
れ、焼土が充満している。柱穴は、16～19か所ほど確認され4本の支柱穴と壁ぎわに沿って柱穴がみられる。支柱穴は、深さ78～90cmを有するしっかりした掘り込みのP₁・P₇・P₁₄・P₁₅で方形に配置されている。覆土は、IV層に区分されるが、さらに中央部には長方形の掘り込みがなされVI層の層位が確認されている。

遺物は、縄文土器の破片が2725点、石器が11点出土している。土器片は、胴部が最も多く2412点で、口縁部は280点、底部は30点である。その出土状況は、床面直上からのものは少なく、ほとんどは覆土中から検出されている。平面的には、黒色土の落ち込み中に投棄されたものがほとんどで壁ぎわからのものは少ない。

第44号住居跡（第61図）

本跡は、筒戸A遺跡の中央東部のK9g₃区を中心に位置し、北側に282～284号土壇・中央から西側にかけて281・344・345号土壇が重複している。

掘り込みが浅いため壁は確認されず、規模、形状等についても不明である。床面は、ほぼ平坦であるが広がり不明である。炉は、柱穴間のほぼ中央に位置すると考えられる。平面形状は、長径86cm、短径78cmほどの不定形を呈している。炉底は、17cmほど皿状に掘られ焼土がレンズ状



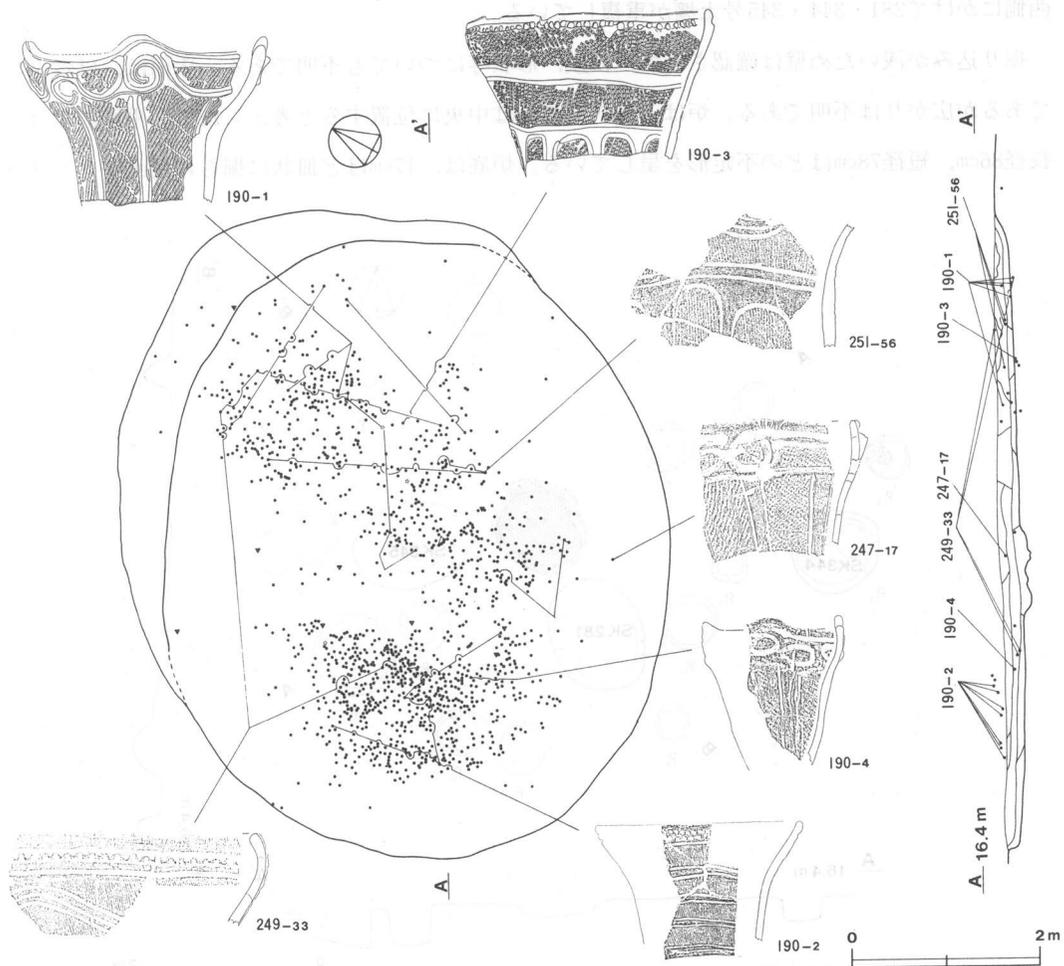
第61図 第44号住居跡実測図

に堆積している。柱穴は、14か所ほど確認されているが、土壌の重複などにより破壊されている可能性もあり、柱穴の配置にあまり規格性が認められない。覆土は確認できず、遺物もほとんど検出されていない。

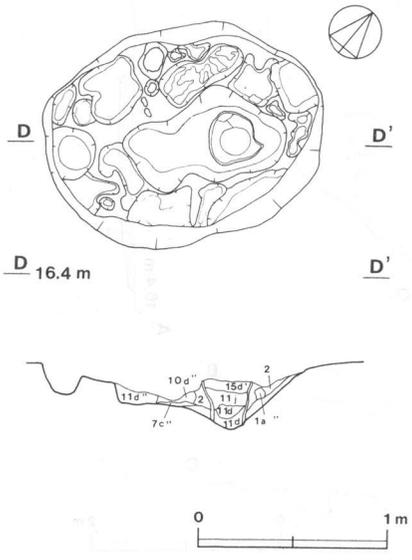
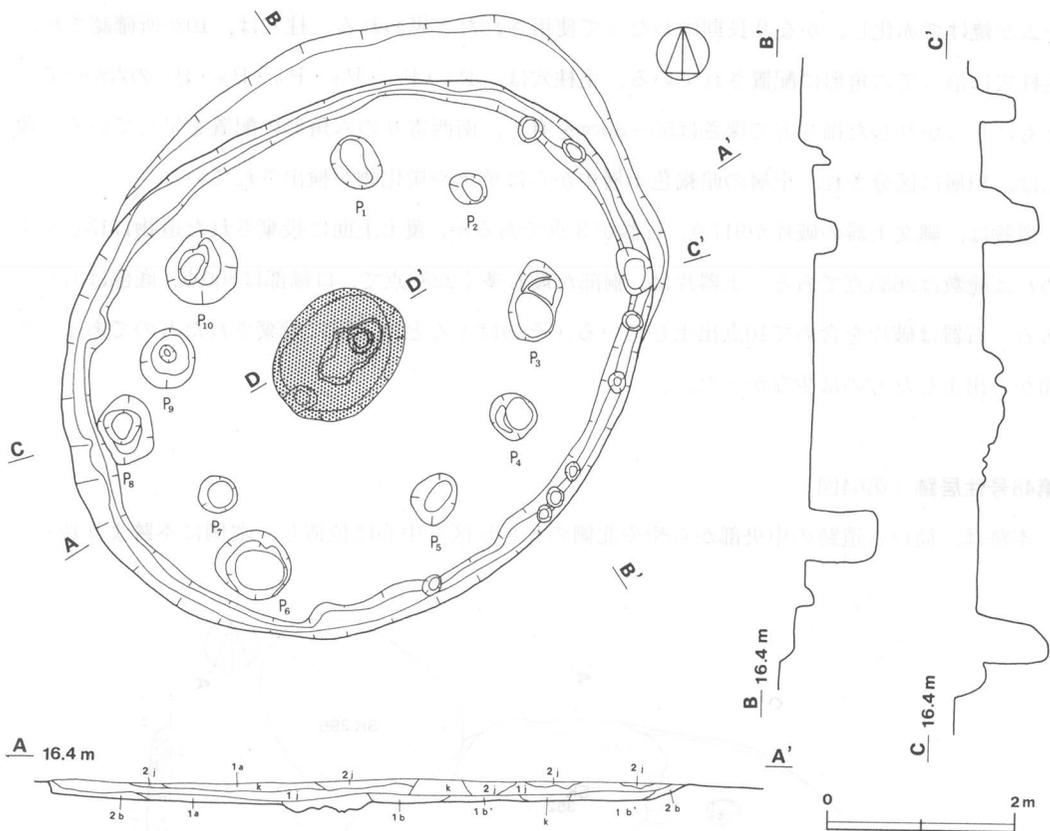
第45号住居跡 (第62・63図)

本跡は、筒戸A遺跡のほぼ中央部のK9g1区を中心に位置している。確認調査の段階では、上面の黒色土の落ち込みを342・343号土壌として取り扱ったが、その後、住居が埋もれた後に土器等が投棄された落ち込みである事が判明したので土壌は消滅した。

平面形状は、長径6.65m、短径5.5mほどの楕円形を呈している。北側の段差を有する部分は確認の際、壁が不明瞭であったためにやや掘り過ぎたもので遺構との関連はないものである。長径



第62図 第45号住居跡遺物出土状態図



方向は、N-50°-Eを指している。壁は、約20cmほどでほぼ垂直ぎみに立ち上がり壁下には溝が全周している。壁溝は、上幅20~30cm、下幅10~18cmで全周し、溝内には、直径20cm内外で、深さ10cmほどの小穴が、北側に2か所、東側に7か所確認されている。床面は、平坦で炉の周辺部と北側が特に硬く踏み固められている。出入口部は、北側の床面が硬いことや柱穴あるいは炉との関係から北東部が考えられる。炉は、床面のほぼ中央に位置し、炉内の北側から埋設された土器が検出されている。平面形状は、長径150cm、短径120cmほどの楕円形を呈している。床面を約40cm掘り込み、さらに中央から北東にかけて25cmほど掘り、土器を正位に埋設している。底面には焼土が充満し口

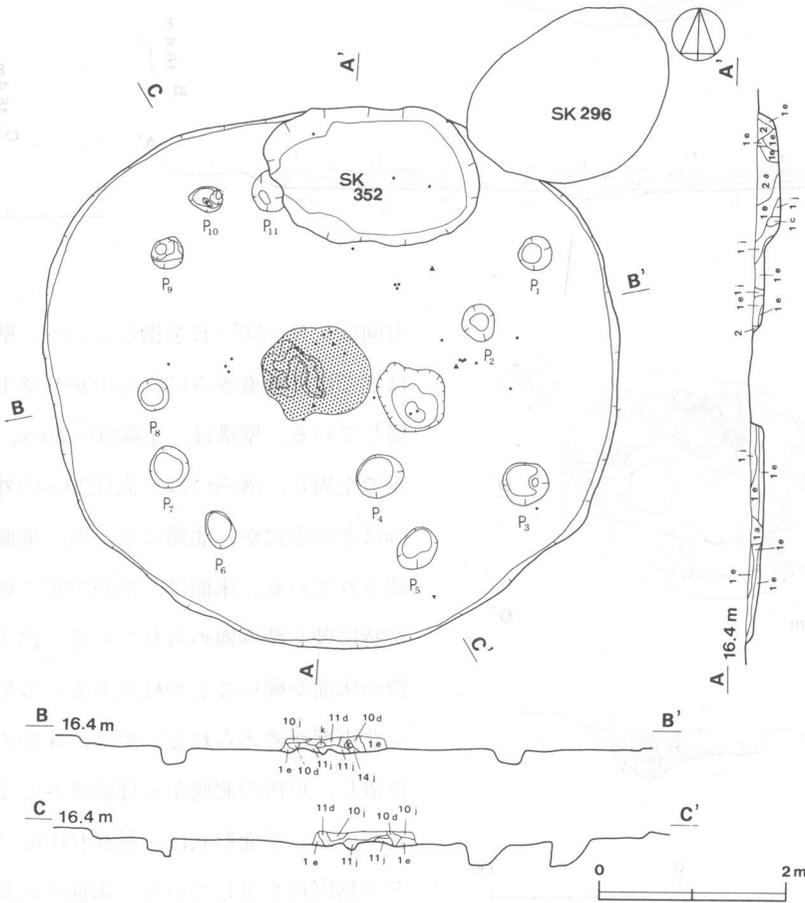
第63図 第45号住居跡実測図

一ムが焼けて赤化し、かなり長期にわたって使用されたと思われる。柱穴は、10か所確認され、主柱穴に沿って六角形に配置されている。主柱穴は、P₁・P₃・P₅・P₆・P₈・P₁₀の六か所で、ともにしっかりした掘り方で深さは50~80cmを有し、南西寄りの六角形の配置を呈している。覆土は、VI層に区分され、上層の暗褐色土層中からは焼土や炭化物が検出されている。

遺物は、縄文土器の破片が917点、石器が3点であるが、覆土上面に投棄された遺物1713点を含めれば総数は2633点である。土器片は、胴部が最も多く2289点で、口縁部は300点、底部は31点である。石器は破片を含めて10点出土している。そのほとんどは上層に投棄されたものである。床面から出土したものは少なかった。

第46号住居跡（第64図）

本跡は、筒戸A遺跡の中央部からやや北側のK9d₁区を中心に位置し、北側に本跡より新しい



第64図 第46号住居跡実測図

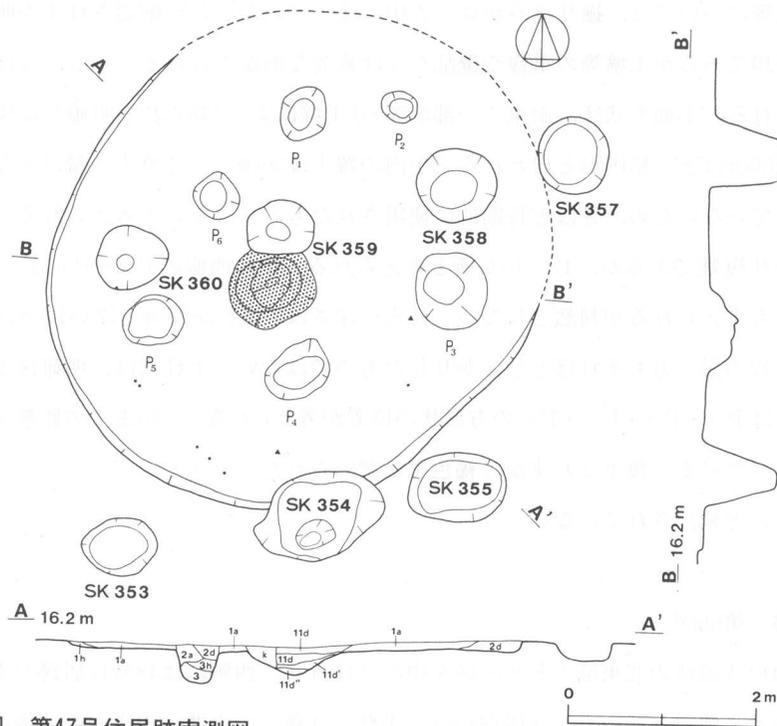
352号土壌が重複し、その北東側に296号土壌が重複している。

平面形状は、長軸6.07m、短軸5.7mほどで南側がやや張り出す隅丸方形を呈している。長軸は、N-90°-Wを指している。壁は、8~10cmと低く、北東側はほとんど確認できないほどである。床面は、ほぼ平坦で中央付近がやや低く、炉の東側の掘り込みは攪乱によるものである。炉は、床面のほぼ中央に位置し、平面形状は、長径119cm、短径95cmほどの不整形を呈している。焼土は上面からみられ、掘り込みも浅いことから床面を若干下げすぎたと思われる。柱穴は、11か所確認され、炉を中心にほぼ方形の配置がみられる。支柱穴は、明確ではないがP₁・P₃・P₇・P₉を中心として配置されたと想定される。出入口は、確認できないが炉と柱穴の位置から、南あるいは東側が考えられる。覆土は、II層からなり、少量の焼土粒子と炭化物が混入している。

遺物は、少量で縄文土器の破片が73点、石器が2点出土している。土器片の大部分は、胴部で70点、口縁部と底部は少なく1~2点である。いずれも覆土中から散在して検出されている。

第47号住居跡 (第65図)

本跡は、筒戸A遺跡の北東部のK9b₄区を中心に位置し、その中央を東西に並ぶ357~360号土壌によって切られている。



第65図 第47号住居跡実測図

平面形状は、北東側が傾斜をしており壁が確認されていないので不明瞭であるが、推定では長軸5.5m、短軸は4.9mほどの隅丸方形と考えられる。長軸方向は、N-35°-Eを指している。壁は、2～8cmでほぼ垂直ぎみに立ち上がるが、北側は傾斜地となりほとんど確認されていない。床面は、ほぼ平坦でロームブロックを含むやや硬いロームであるが、部分的に攪乱をうけ凹凸状をなす所もみられる。炉は、床面のほぼ中央に位置し、北側の一部は359号土壌によって切られている。平面形状は、長径90cm、短径82cmほどの隅丸方形を呈している。炉底は、30cmほど皿状に掘り込まれ、焼土が充満している。柱穴は、5～6か所確認されているが、P₆は新しい掘り込みである。主柱穴は、4か所と考えられ深さはP₁が62cm、P₃が78cmと深いのが、P₄は32cm、P₅は26cmで、配置的にはP₄が炉にやや接近する台形状を呈している。覆土は、II～III層に区分されるが薄い。1aはローム粒子を含む褐色土で、2dは微量の焼土、炭化物を含む暗褐色土である。壁ぎわにみられる1hは、覆土が堆積する過程で壁等が崩落し、形成されたものと考えられる。遺物は、南側の床面からやや浮いた状態で、縄文土器の胴部破片が39点出土しただけである。

第48号住居跡（第66図）

本跡は、筒戸A遺跡の北東部のK9e5区を中心に位置し、東側には49号住居跡が重複し、本跡内にもやや新しい6基の土壌が重複している。

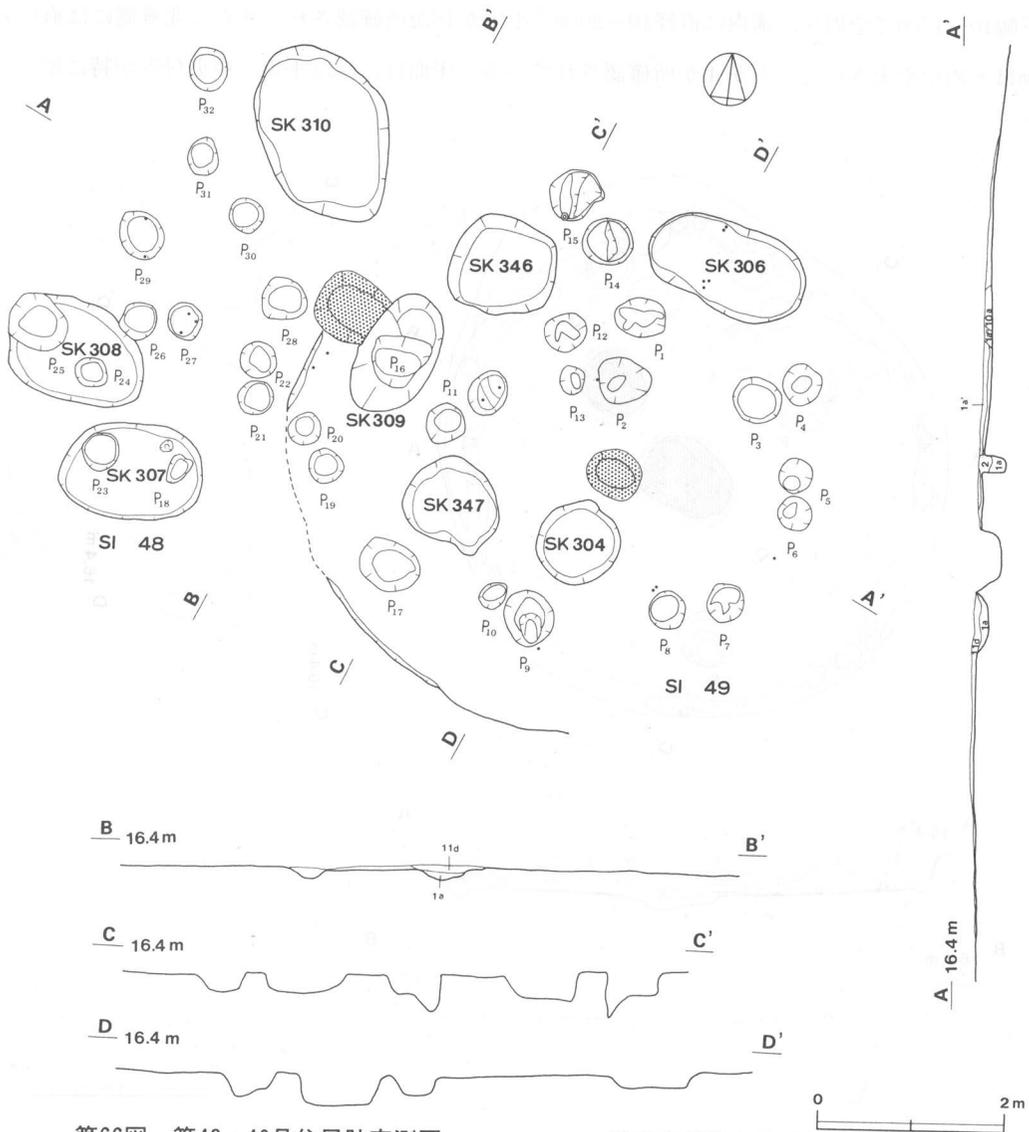
規模、形状等については、掘り込みがローム中に達していないため確認されず不明である。床面は、ほぼ平坦であるが土壌等の重複や攪乱をうけ軟弱な面がみられる。炉は、ほぼ中央に位置すると考えられる。平面形状は、南東の一部が309号土壌によって切られ不明瞭だが現存する長さは60cm、短径50cmほどの楕円形と思われる。炉内の覆土は20cmほどで焼土の量は少なく、底面もそれほど焼けていないため、さほど長期的に使用されたものではないと考えられる。柱穴は、重複のためかなり複雑であるが、17～19か所と考えられる。炉の西側のP₂₆～P₃₁は三角形に並び、出入口とも考えられるが判然としない。柱穴の深さは、P₂₅が77cmと深い以外はいずれも15～20cmで、柱穴の掘り方もそれほどしっかりしたものではない。主柱穴は、明確に把握できないが、配置的にはP₁₅・P₁₇・P₂₃・P₃₂の方形状の位置が考えられるが、炉までの距離が2～3mありやや離れすぎている。覆土はわずかに褐色土が認められたにすぎない。

遺物はほとんど検出されていない。

第49号住居跡（第66図）

本跡は、筒戸A遺跡の北東部のK9e6区を中心に位置し、西側には48号住居跡が重複し、北東側の地形はゆるく傾斜している。住居内には、本跡より新しい土壌が中央から北西にかけて5基重複している。

掘り込みが浅いため壁が確認できず、規模、形状等については不明である。床面は、ほぼ平坦で東へゆるい傾斜を示している。炉の西は若干凹状をなしている。炉は、柱穴の配置からみるとほぼ中央に位置し、平面形状は、長径60cm、短径50cmほどの楕円形を呈している。炉底は、床面を22cmほど皿状に掘りくぼめているが焼土の量はそれほど多くない。柱穴は48号住居跡と重複するため不明瞭な所もみられるが、P₁~P₁₃の13か所と考えられ不整六角形状の配置を呈している。主柱穴は、明確ではないがP₁・P₃・P₆・P₇・P₉・P₁₁・P₁₂と想定される。出入口は明確ではないが、北側で並行して位置するP₁・P₂とP₁₂・P₁₃と思われる。覆土は、薄くわずかに褐色



第66図 第48・49号住居跡実測図

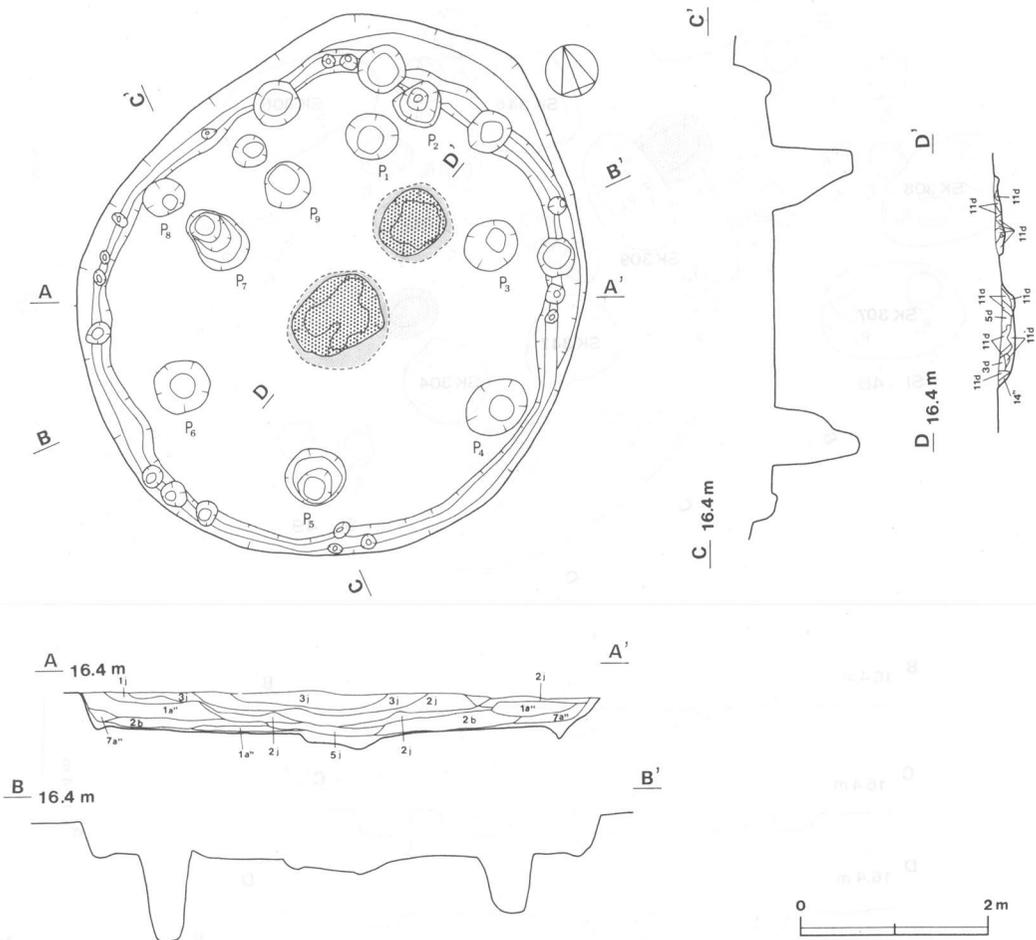
土が認められるにすぎない。

遺物は、検出されていない。

第50号住居跡 (第67・68・69図)

本跡は、筒戸A遺跡の北東部のK9e7区を中心に位置している。

平面形状は、長径6.0m、短径5.5mほどの楕円形を呈している。長径方向は、N-34°-Eを指している。壁は、24~36cmで南東側が低く、西側から北西側にかけて高い。壁面は、ほぼ垂直ぎみに立ち上がるが、北東コーナー部は段差を有しやや外傾ぎみとなる。壁溝は、上幅30~40cm、下幅10~15cmで全周し、溝内に直径10~20cmの小穴が16か所確認され、さらに北東側には直径40cmほどのやや大きいピットが4か所確認されている。床面は、ほぼ平坦で中央付近が特に硬く踏

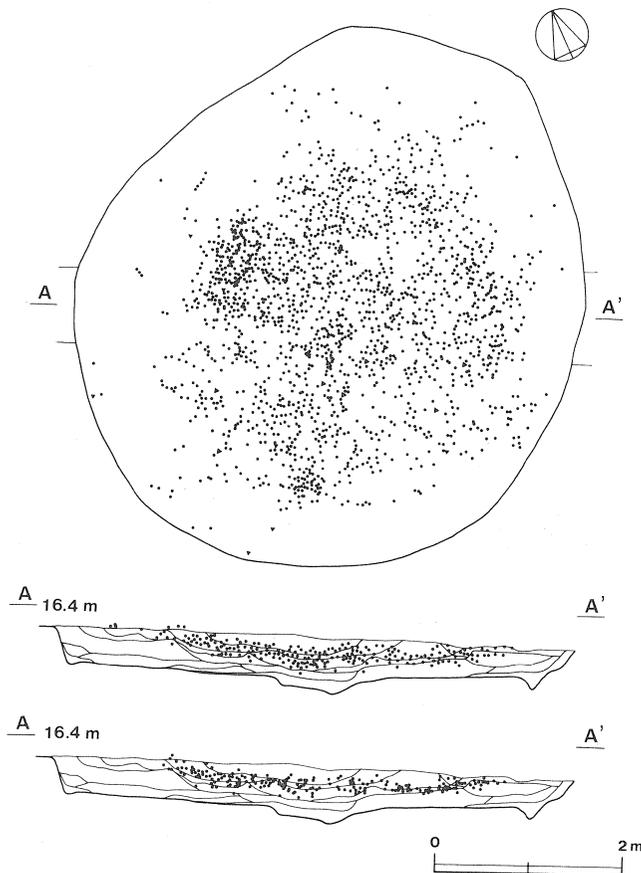


第67図 第50号住居跡実測図

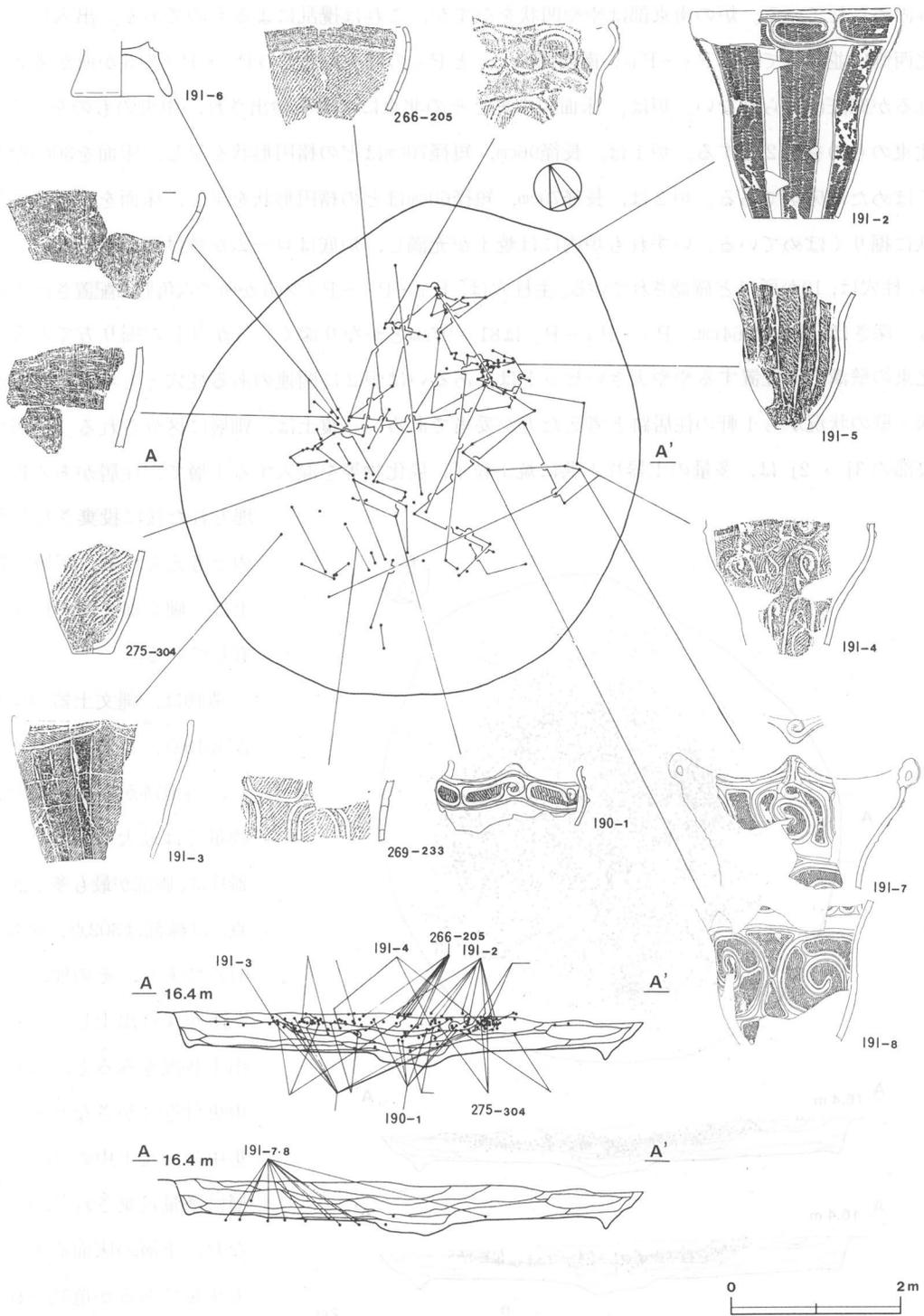
み固められている。炉の南東部はやや凹状をなすが、これは攪乱によるものである。出入口は、北西側に並列して並ぶP₇~P₁₀、南西側のP₅とP₆の間、北東側のP₁~P₃の3か所が考えられるが確証は得られない。炉は、床面の中央とその北東に2か所検出され、中央のものを炉1、北東のものを炉2とする。炉1は、長径96cm、短径70cmほどの楕円形状を呈し、床面を30cm掘りくぼめた地床炉である。炉2は、長径70cm、短径60cmほどの楕円形状を呈し、床面を12cmほど皿状に掘りくぼめている。いずれも炉内には焼土が充満し、炉底はロームが焼け凹凸状をなしている。柱穴は、10か所ほど確認されている。主柱穴は、P₁・P₃~P₇の6か所で六角形に配置されている。深さは、P₃が64cm、P₁・P₄~P₇は81~97cmとかなり深くしっかりした掘り方である。北東の壁溝内に位置するやや大きいピットは、あるいは炉2に関連のある柱穴とも考えられるが床・壁の状況から1軒の住居跡と考えた方が妥当であろう。覆土は、VIII層に区分される。住居中央部の3j・2jは、多量の土器片と共に焼土粒子、炭化物等を混入する土層で、住居がある程度

埋もれた後に投棄されたものと考えられる。下層の覆土は、硬く締まり、粘性を有している。

遺物は、縄文土器の破片が3019点、石器が20点出土し、当遺跡から出土した遺物量では最大であった。土器片は、胴部が最も多く2652点、口縁部は302点、底部は61点であり、その他、土器片錘が4点出土している。出土状況をみると、遺物が中央付近にかさなりあって集中し、覆土中の2j・3j層に多量投棄されていた。なお、下層の床面直上からも少量であるが遺物が検出されている。



第68図 第50号住居跡遺物出土状態図



第69图 第50号住居迹遗物出土状态图

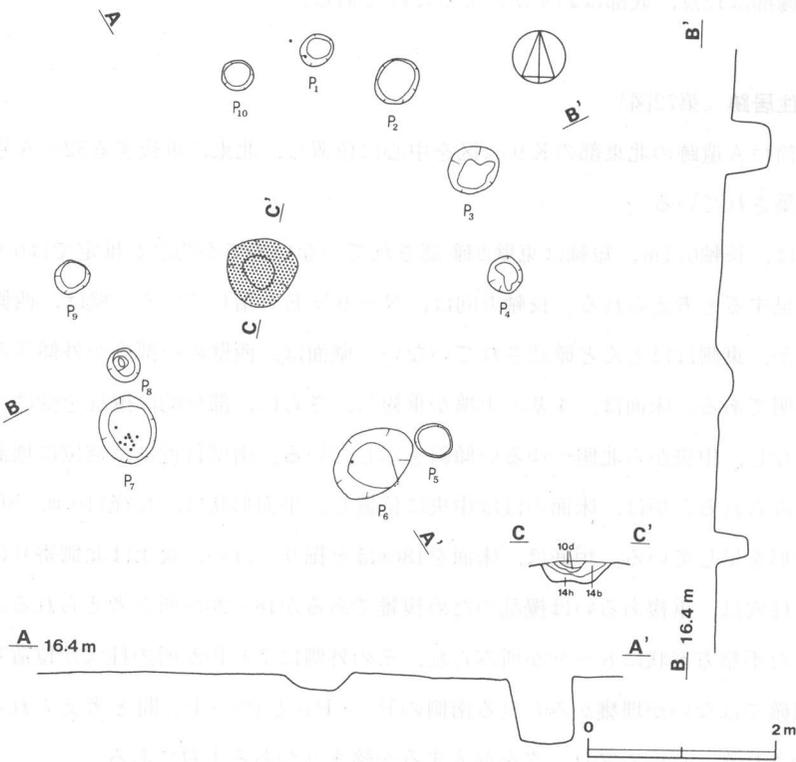
图例为出土物名称及出土层位图例

第51号住居跡（第70図）

本跡は、筒戸A遺跡の北東部のK9d₅区を中心に位置している。

掘り込みが浅いため壁が確認されず、規模、形状は不明である。床面は、ほぼ平坦であるが、炉の付近はやや高く、北東側はやや低くなる。炉は、柱穴の配置からみると中央からやや西寄りに位置している。平面形状は、長径75cm、短径71cmほどの楕円形を呈している。炉は、床面を20cmほど皿状に掘りくぼめられているが、焼土量はそれほど多くなく、炉底もさほど焼けていない。柱穴は、炉を中心として楕円形状に10か所ほど確認されている。支柱穴は、判然としないが、規模や深さからみるとP₃・P₆・P₇と、北西部が不確実だが位置的には、P₁₀も想定できる。覆土は、ほとんど確認されていない。

遺物は、床面からは検出されていないが、P₆の覆土中から少量の縄文土器の破片が出土している。



第70図 第51号住居跡実測図

第52-A号住居跡（第71図）

本跡は、筒戸A遺跡の北東部のK9b₈区を中心に位置し、南側は52-B号住居跡によって切られている。

平面形状は、長軸5.05m、短軸4.95mほどの隅丸方形を呈している。長軸方向は、N-39°-Wを指している。壁は、10~14cmであるが、西側は6cmと低い。壁面は、南、東側はほぼ垂直ぎみに立ち上がるが、北側はゆるやかな傾斜をもって立ち上がる。床面は、ほぼ平坦であるが、北東部がやや高く、中央と南西側の一部がやや低い。中央付近は硬く踏み固められている。炉は、ほぼ中央に位置している。平面形状は、長径94cm、短径73cmほどの不整楕円形を呈している。炉底は、35cmほど掘鉢状に掘りくぼめ、焼土が充満している。柱穴は、重複のため明確ではないが10~12か所と考えられる。P₁₀・P₁₂は52-B号住居跡に伴うものかと思われる。支柱穴は、明確ではないが、配置的には六角形を呈するP₁・P₃・P₆~P₉が想定される。覆土は、IV層に区別されるが、南側は52-B号住居に切られ不明である。いずれも黒色土、ローム粒子を混入する土層で少量の炭化物が検出され、締まりがある。

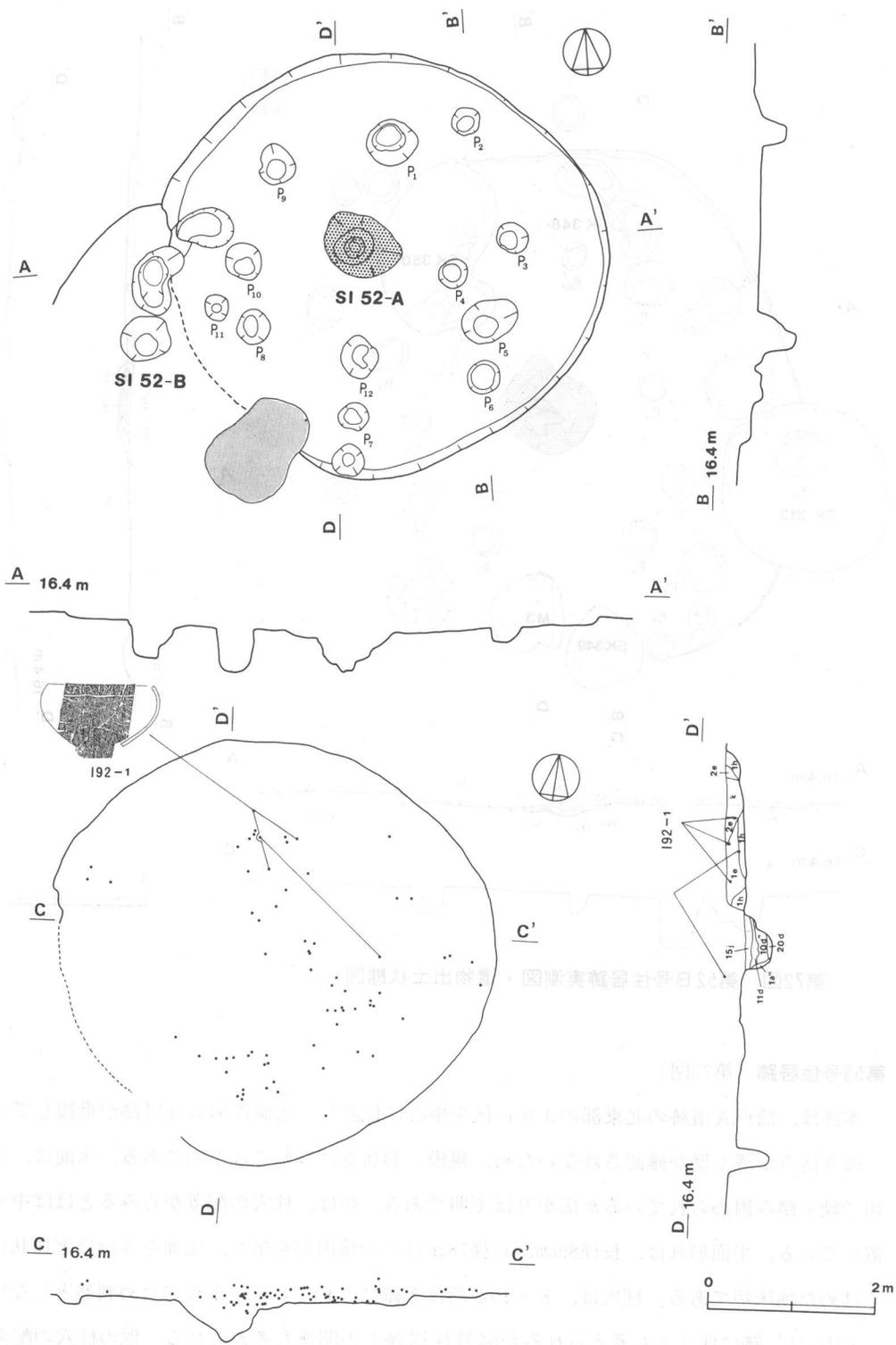
遺物は、縄文土器の破片が総数82点で覆土中から出土している。土器片は、胴部の小片が多く68点で、口縁部は12点、底部はわずかに2点だけである。

第52-B号住居跡（第72図）

本跡は、筒戸A遺跡の北東部のK9c₈区を中心に位置し、北東に重複する52-A号住居跡を掘り込んで構築されている。

平面形状は、長軸6.1m、短軸は東壁が確認されていないので不明だが推定では6.0mほどで隅丸形状を呈すると考えられる。長軸方向は、N-9°-Eを指している。壁は、西側で6cmほど確認されたが、東側はほとんど確認されていない。壁面は、西壁の一部分が外傾ぎみに立ち上がる以外は不明である。床面は、4基の土壇が重複し、さらに、部分的に攪乱を受けているためやや凹凸状をなし、中央から北側へゆるい傾斜を示している。南壁付近には逆位に埋設された埋葬（M3）がみられる。炉は、床面のほぼ中央に位置し、平面形状は、長径110cm、短径100cmほどの不整楕円形を呈している。炉底は、床面を18cmほど掘りくぼめ、焼土は北側寄りに多く検出されている。柱穴は、重複あるいは攪乱のため複雑であるが18~20か所と考えられる。配置は、炉を中心とした不整形形状に8~9か所みられ、その外側に7~10か所の柱穴が位置している。出入口は、明確ではないが埋葬がみられる南側のP₁₇・P₁₈とP₁₅・P₂₁間と考えられる。覆土は、IV層に区別される。ロームブロックを混入するが締まりがある土質である。

遺物は、いずれも小片の縄文土器の破片が90点で覆土中の北側から出土しただけである。土器片は、胴部が70点で大部分を占め、口縁部、底部は少量である。



第71図 第52A号住居跡実測図・遺物出土状態図



第72図 第52B号住居跡実測図・遺物出土状態図

第53号住居跡 (第73図)

本跡は、筒戸A遺跡の北東部のJ9j₉区を中心に位置し、北側に54号住居跡が重複している。掘り込みが浅く壁が確認されないため、規模、形状等については不明である。床面は、ほぼ平坦で硬く踏み固められているが広がりとは不明である。炉は、柱穴の配置からみるとほぼ中央に位置している。平面形状は、長径89cm、短径78cmほどの楕円形を呈し、床面を5cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。柱穴は、8~10か所ほど確認されているが重複のため判然としない。P₁₁・P₁₂は 跡に伴うとも考えられるが54号住居跡との関連も考えられる。他の柱穴の配置は、炉を中心に六角形ないし七角形状を呈している。P₁₄号住居跡の炉を破壊している。覆土及び遺物はほとんど確認されていない。

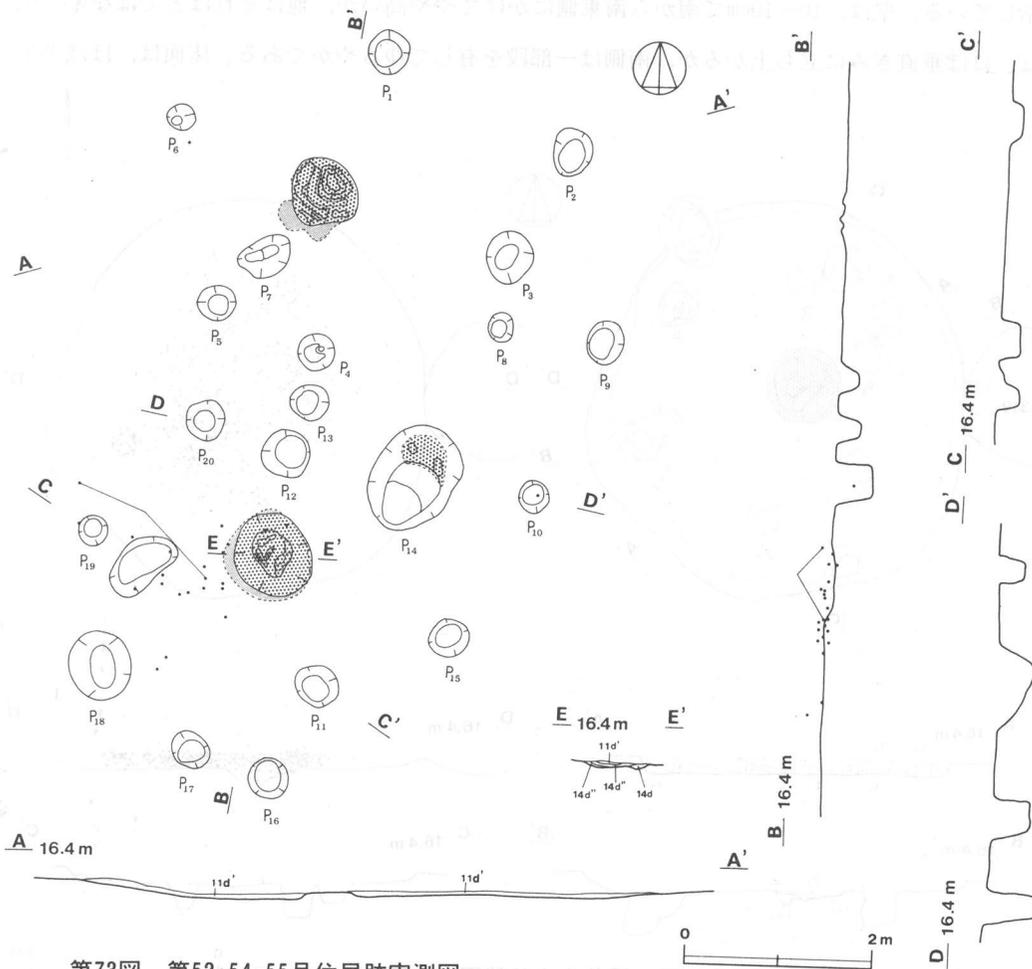
第54号住居跡（第73図）

本跡は、筒戸A遺跡の北東部のJ9j₉区を中心に位置し、53・55号住居跡と重複している。
掘り込みが浅いため、規模、形状は不明である。床は、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。
炉は、53号住居跡のP₁₄によって一部壊され形状は不明であるが、残存する炉は、長径80cm、短径40cmである。柱穴は、重複のため明確ではないが、P₇～P₁₂の長方形の配置が想定される。
覆土及び遺物は検出されていない。

新旧関係は、53号住居跡より古いが55号住居跡との関係は不明である。

第55号住居跡（第73図）

本跡は、筒戸A遺跡の北東部のJ9i₉区を中心に位置している。南側には、54号住居跡が重複



第73図 第53・54・55号住居跡実測図

している。

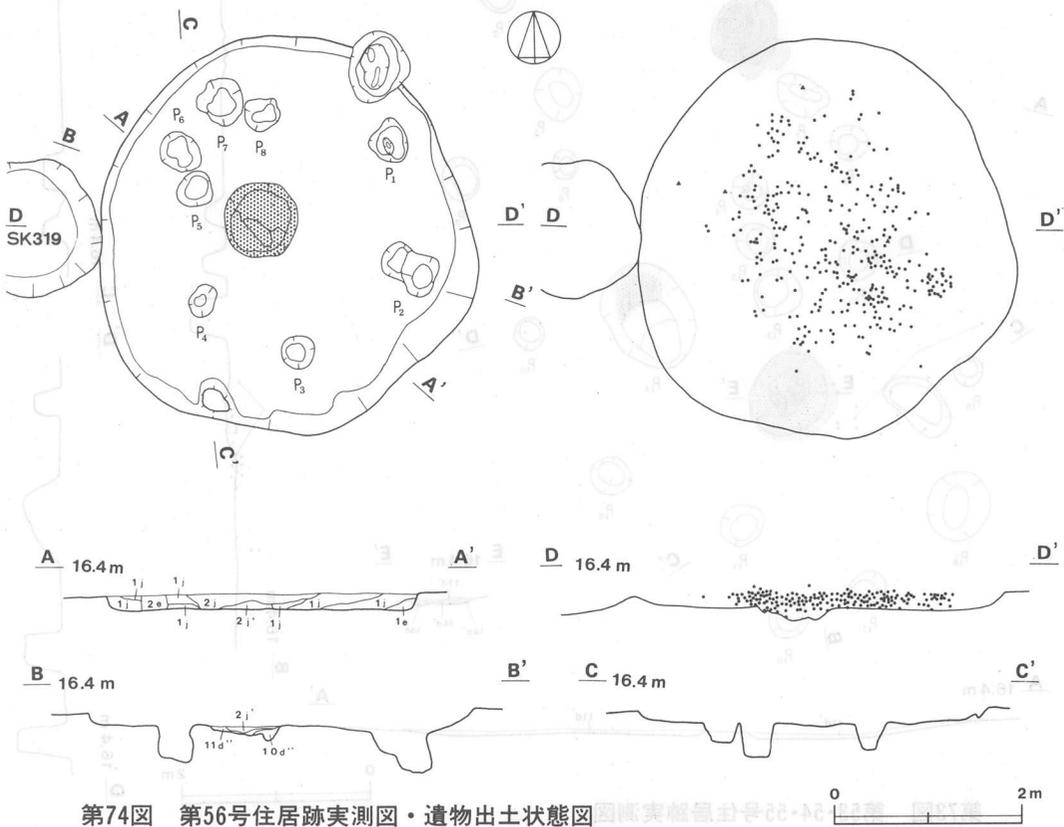
(図87系) 縄文台号42系

掘り込みが浅いため、規模、形状については不明である。床面は、平坦で硬いが広がり不明である。炉は、柱穴の配置をみるとほぼ中央に位置している。平面形状は、長径70cm、短径60cmほどの不整形を呈し、すでに炉底が露出していた。柱穴は、6か所確認されている。その配置は、炉を中心に方形にP₁・P₃～P₆が位置し、P₂はその東側に位置している。覆土及び遺物は、ほとんど検出されていない。

第56号住居跡 (第74・75図)

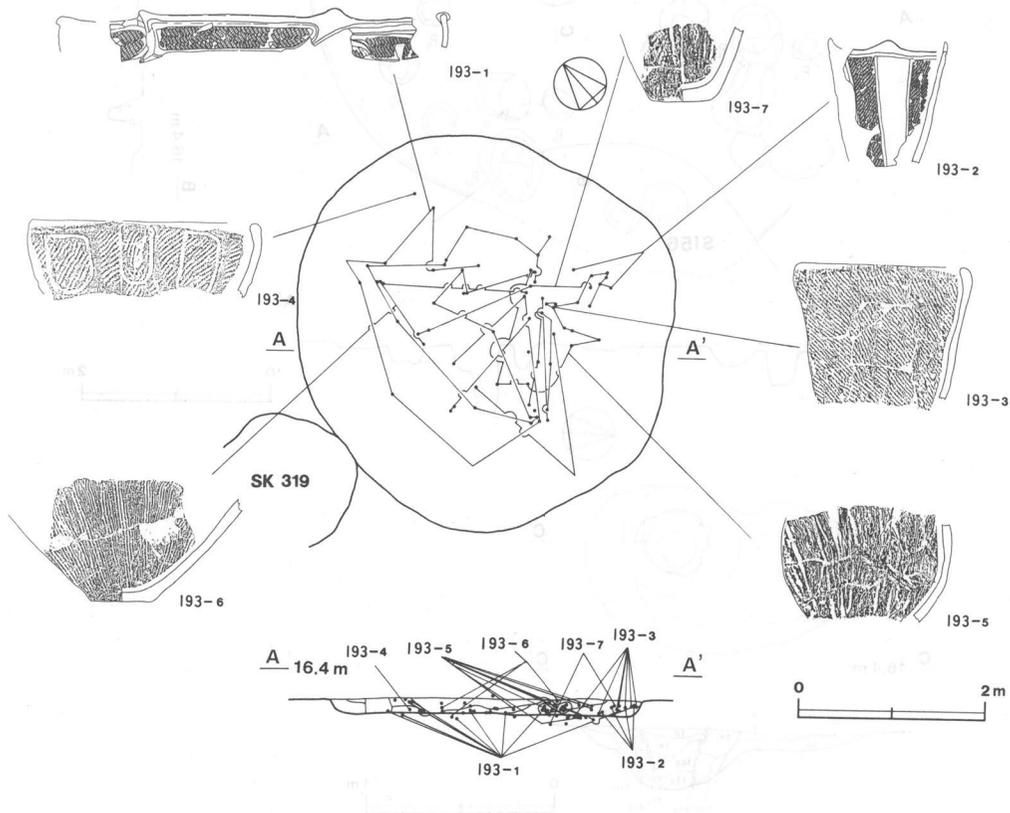
本跡は、筒戸A遺跡の北東部のK9 a7区を中心に位置し、北側に重複する57号住居跡の一部を掘り込んで構築され、西側には319号土壌が重複している。

平面形状は、長軸4.28m、短軸3.93mほどの隅丸方形を呈している。長軸方向は、N-11°-Wを指している。壁は、10～19cmで南から南東側にかけてやや高いが、他はそれほどではない。壁面は、ほぼ垂直ぎみに立ち上がるが、南側は一段を有してゆるやかである。床面は、ほぼ平坦



で炉の周辺は特に硬く踏み固められている。炉は、床面のほぼ中央に位置している。平面形状は、長径84cm、短径74cmほどの円形状を呈している。床面を約10cmほど掘りくぼめた地床炉で、南東側に焼土ブロックが多く残存している。柱穴は、8か所確認されている。北東壁にかかる掘り込みは、攪乱あるいは57号住居跡の柱穴かと考えられる。主柱穴は、 $P_1 \sim P_5 \cdot P_8$ の6か所で六角形の配置がみられる。 $P_5 \cdot P_8$ に接し、並列する $P_6 \cdot P_7$ は出入口に関連のある施設とも考えられる。覆土は、おおむねIII層に区分される。全体的に微量ではあるが焼土粒子、炭化物等が検出されている。中央の2jには他に比べてやや多く焼土粒子や黒色土が認められている。

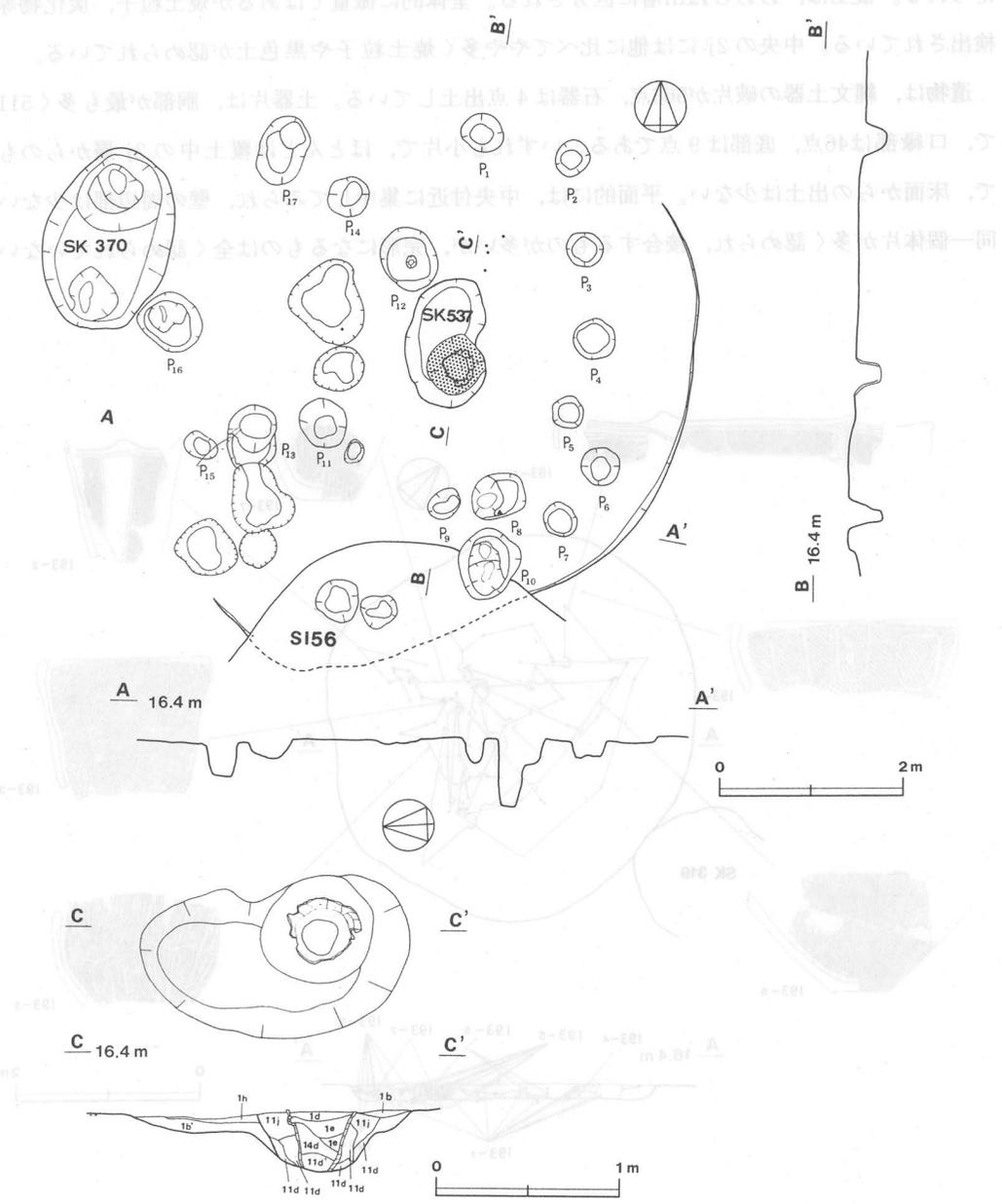
遺物は、縄文土器の破片が566点、石器は4点出土している。土器片は、胴部が最も多く511点で、口縁部は46点、底部は9点である。いずれも小片で、ほとんどは覆土中の2j層からのもので、床面からの出土は少ない。平面的には、中央付近に集中してみられ、壁の周辺部は少ない。同一個体片が多く認められ、接合するものが多いが、完形になるものは全く認められていない。



第75図 第56号住居跡遺物出土状態図

第57号住居跡 (第76図)

本跡は、筒戸A遺跡の北東部のJ9j7区を中心に位置し、南側には56号住居跡が重複している。掘り込みが浅いため、壁が確認されず、規模、形状については不明である。床面は、ほぼ平坦で北から南へゆるい傾斜を示し、部分的にかなり攪乱を受けている。炉は、柱穴の配置からみる



第76図 第57号住居跡実測図

第56号住居跡実測図

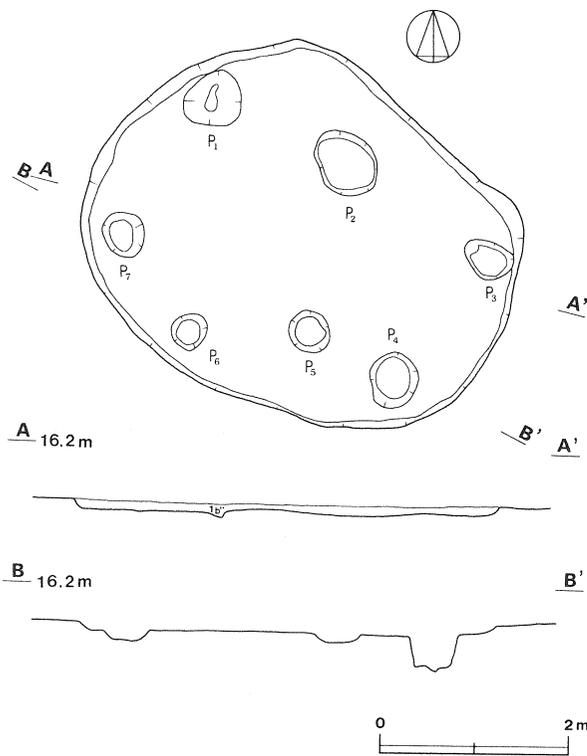
と、ほぼ中央に位置している。不整楕円形状の掘り込みの中に炉内埋設土器が検出され、口縁の一部と底部を欠損し、ほぼ正位に埋設されていた。柱穴は、攪乱をうけ明確ではないが、17か所ほど確認されている。その配置は、主柱穴と考えられる方形のP₄・P₈・P₁₁・P₁₂のやや外側に、五角形状のP₃・P₆・P₁₀・P₁₃・P₁₄が回っている。さらにその外側にP₁・P₂・P₁₅~P₁₇が存在するが、これは位置及び構造的にもやや難があり明確ではない。覆土は、炉の付近から南にかけて、褐色土がわずかに確認されたにすぎない。

遺物は、炉内埋設土器以外はほとんど検出されていない。

第58号住居跡（第77図）

本跡は、筒戸A遺跡の北東端のJ9h₆区を中心に位置している。

平面形状は、長軸4.66m、短軸3.61mほどの隅丸長方形を呈している。長軸方向は、N-57°-Wを指している。壁は、5~6cmと低く、ほぼ垂直ぎみに立ち上がるが、東側はゆるやかである。



床面は、平坦でそれほど硬く踏み固められていない。炉は、検出されていない。柱穴は、7か所確認され、長方形の配置がみられるが、P₄以外はしっかりした掘り込みはみられず、床面もやや凹凸状を呈している。覆土は、ロームブロックを多く含む褐色土がI層のみである。

遺物は、検出されていない。炉や遺物が検出されないこと、柱穴や床その他の状況から、本跡は、長期的に生活が営まれた住居でなく、物置的な性格を有するものかと思われる。

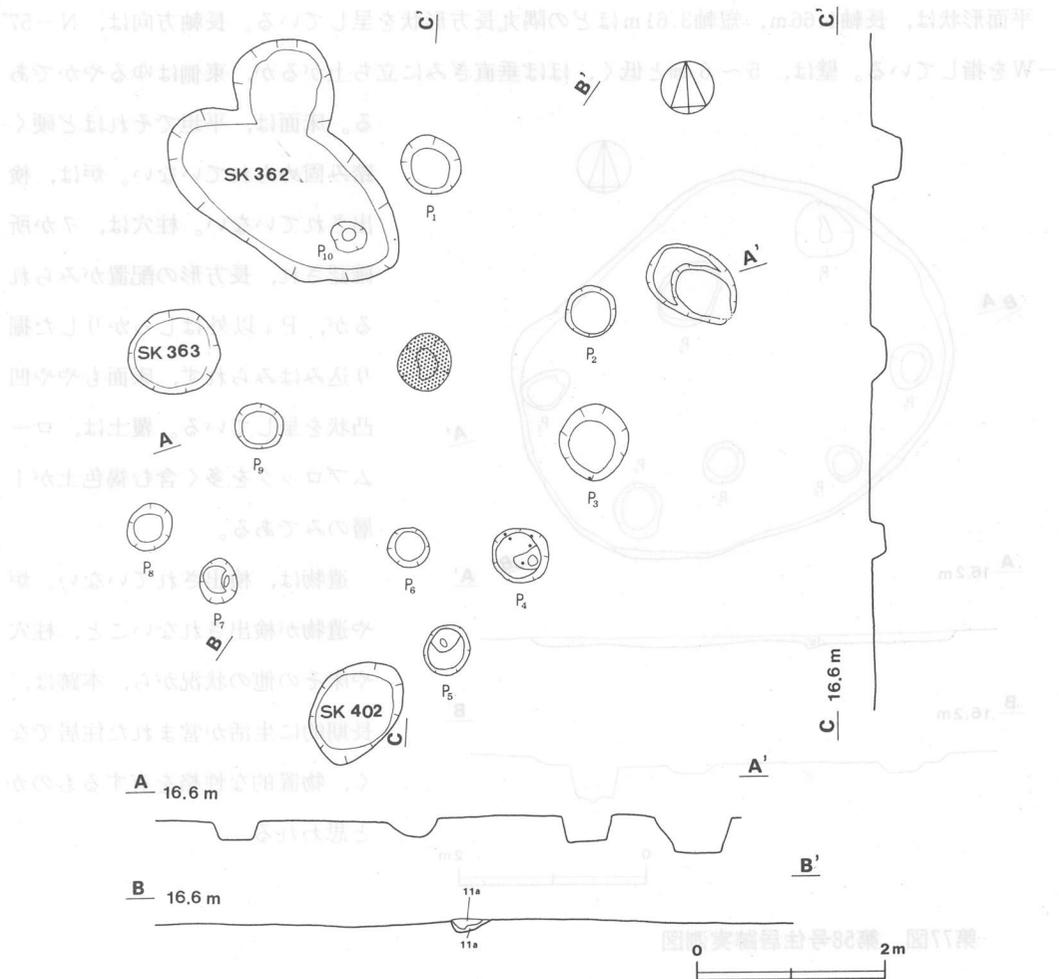
第77図 第58号住居跡実測図

第59号住居跡（第78図）

本跡は、筒戸A遺跡の北部のJ8j₉区を中心に位置し、北西側に本跡より新しい362・363号土

壙が重複している。掘り込みが浅いため壁が確認されず、規模、形状等については不明である。床面は、ほぼ平坦で、南側にゆるく傾斜している。炉は、柱穴の配置をみると、ほぼ中央に位置し、平面形状は、長径60cm、短径50cmほどの円形を呈している。炉底は、16cmほど皿状に掘りくぼめられているが、炉内の覆土中の焼土の量はそれほど多くなく、底面もさほど焼けていない。柱穴は、10か所確認され、支柱穴は、炉を中心に長方形に配置されるP₁・P₂・P₆・P₉と考えられる。さらに、その南側をとりまくように支柱穴がみられる。覆土は、掘り込みがローム層まで達していないことと表土層が浅いため確認されていない。

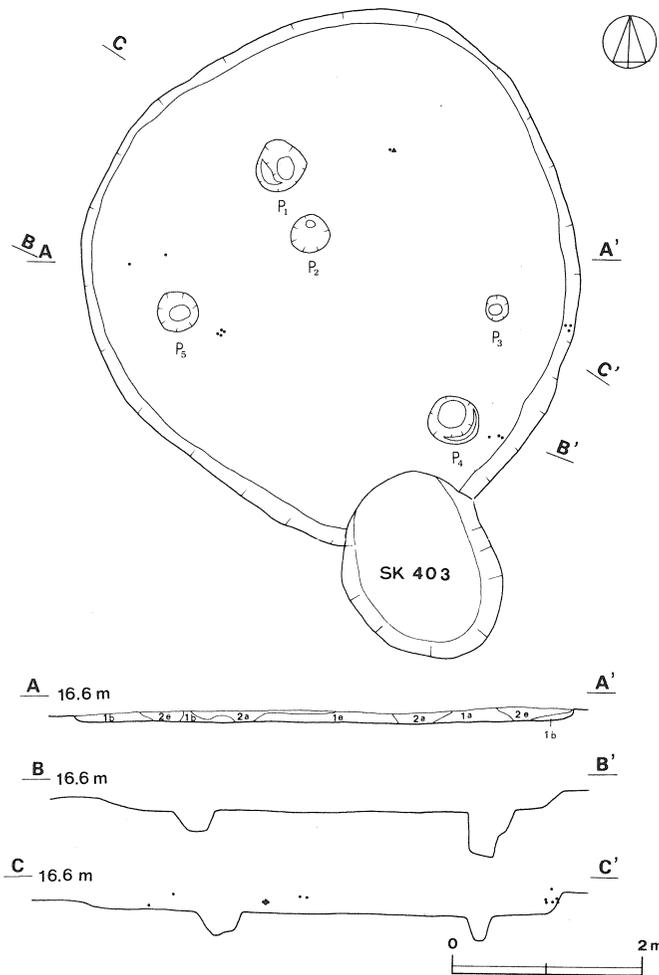
遺物は、柱穴内から縄文土器の破片が少量検出されたただけである。



第78図 第59号住居跡実測図

第60号住居跡（第79図）

本跡は、筒戸A遺跡の北西部のJ8j6区を中心に位置し、南側に403号土壇が重複している。平面形状は、長軸5.53m、短軸5.17mほどで、南、北がやや張り出しているが隅丸方形を呈すると考えられる。長軸方向は、N-21°-Wを指している。壁は、15cmほどで外傾ぎみに立ち上がり



第79図 第60号住居跡実測図

りを示すが、全体的に壁面はやや軟弱である。床面は、ほぼ平坦であるが軟弱な所がみられる。炉は存在しない。柱穴は、5か所検出され、P₁・P₃～P₅がほぼ長方形に配置され主柱穴かと考えられる。覆土は、II～III層に区分されるが、ロームブロックや攪乱がみられ軟質である。

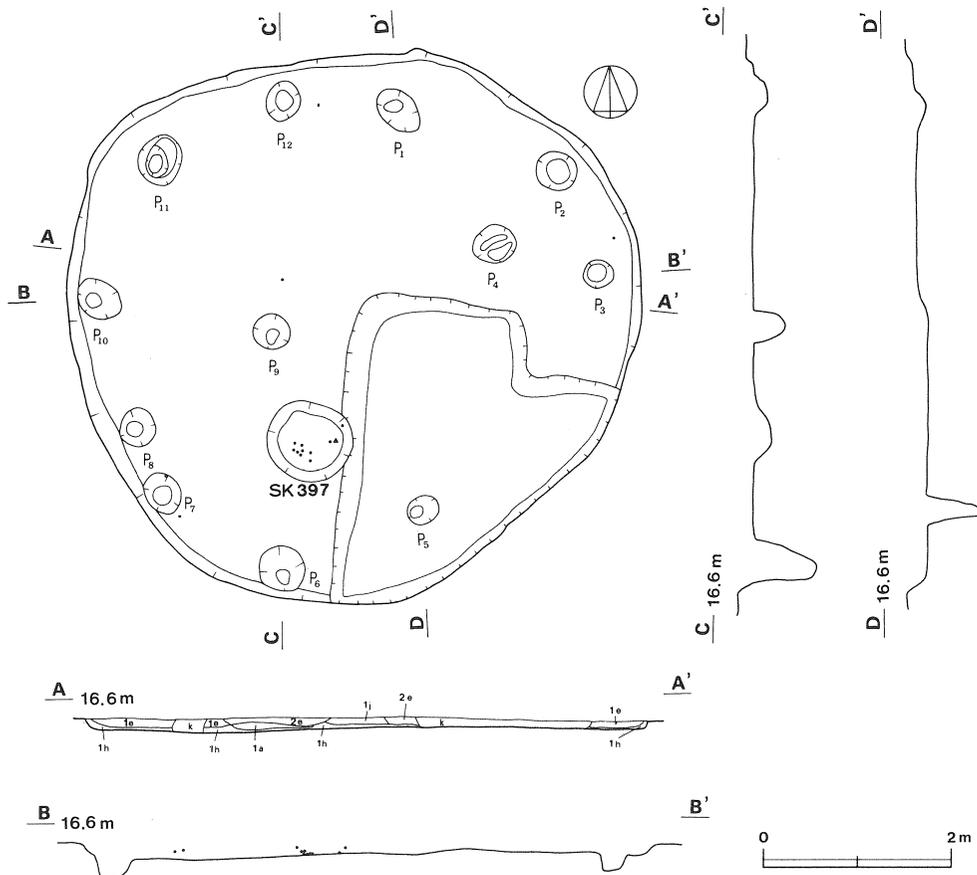
遺物は、覆土中から数点縄文土器の破片が検出されたが、流入したもので本跡には伴わない。

本跡は、上記のような状況であり、住居跡と判断する要因に欠ける遺構であり、竪穴状遺構とすべきものであるかもしれない。

第61号住居跡（第80図）

本跡は、筒戸A遺跡の北西部のJ8h4区を中心に位置し、南側には397号土壇が重複し、さらに、その南東側は攪乱をうけている。

平面形状は、長軸6.12m、短軸5.84mほどで、南東部が攪乱をうけ不明瞭であるが、隅丸方形を呈すると考えられる。長軸方向は、N-88.5°-Eを指している。壁は、北、東側で6～10cm、南、西側で10～20cmである。壁面は、ほぼ垂直ぎみに立ち上がるが、北側は浅くゆるやかに立ち



第80図 第61号住居跡実測図

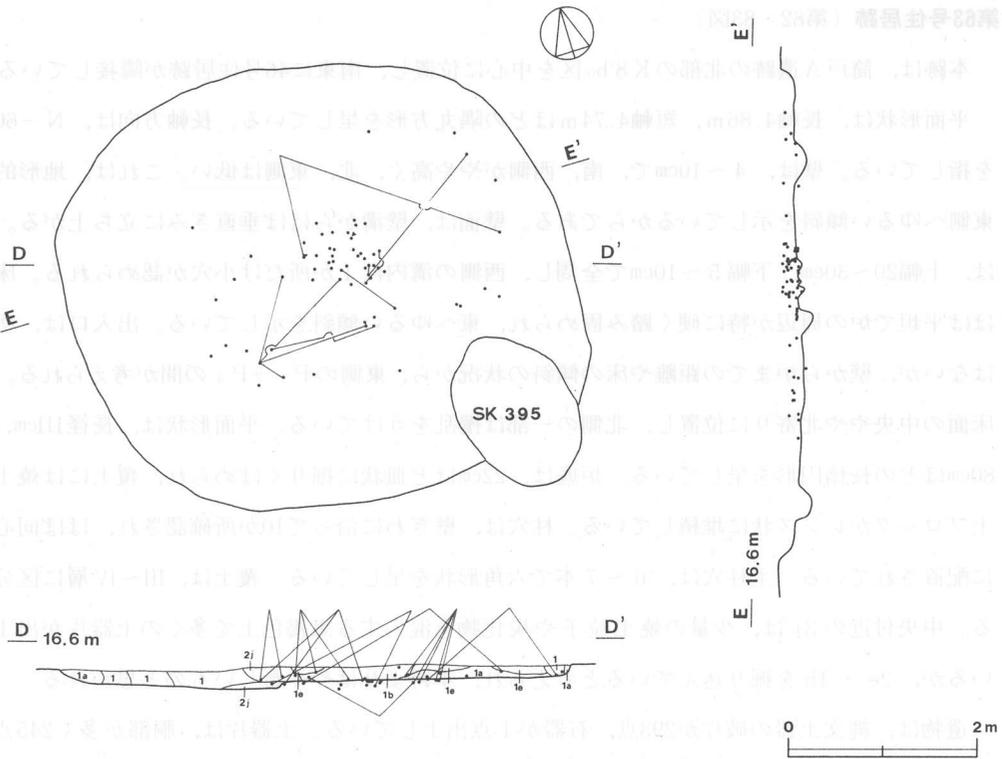
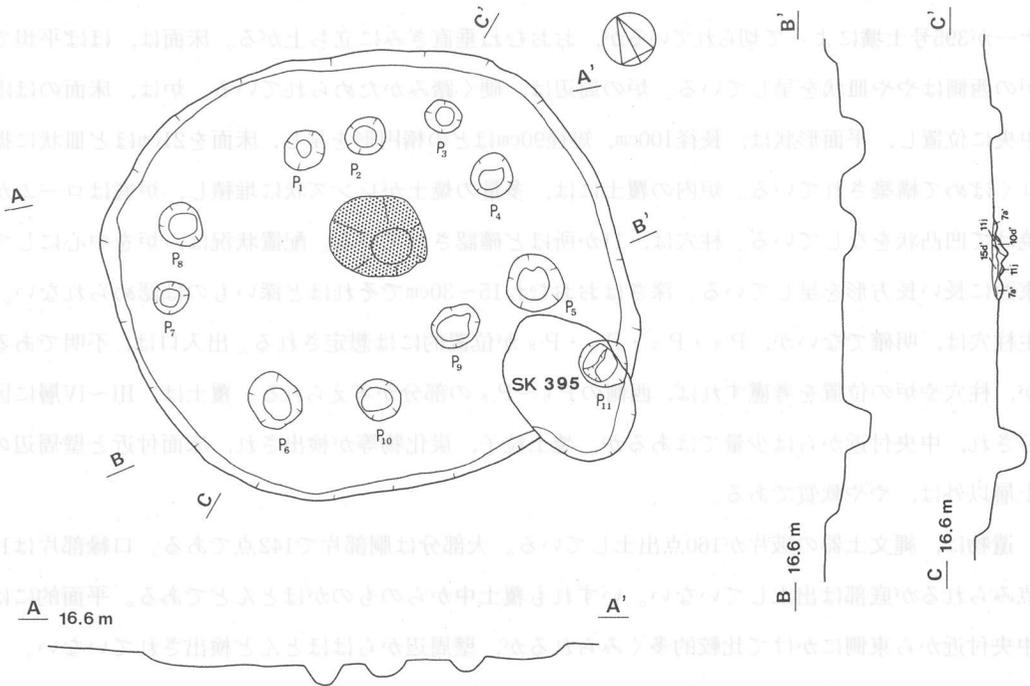
上がる。床面は、ほぼ平坦であるが西側はやや凹状を呈している。南東部は、不整形形状の攪乱がみられ、炉は検出されていない。柱穴は、12か所ほど確認され、ほぼ中央付近に対応してP₄・P₉が所在し、壁ぎわに沿って10か所の柱穴がみられる。主柱穴は、明確ではないが、50cm以上の深さを有する柱穴は、P₅・P₈・P₉・P₁₁で、それらを中心に構築されたものと考えられる。覆土は、IV～V層に区分され、中央の上層から少量の焼土が検出されている。南側には、暗褐色土、西側にはロームブロックが多くみられ、部分的に攪乱をうけている。

遺物は、覆土中から少量の縄文土器片が検出されているが、本跡に伴うものはみられない。

第62号住居跡（第81図）

本跡は、筒戸A遺跡の北西部のJ8i₄区を中心に位置し、北側の覆土上面には396号土壌が確認され、南東コーナー部には395号土壌が重複している。さらに北側に61号住居跡が隣接している。

平面形状は、長軸5.32m、短軸3.7mほどの隅丸長方形を呈している。長軸方向は、N-82.5°-



第81図 第62号住居跡実測図・遺物出土状態図

Wを指している。壁は、14～17cmで北、南側がやや高く、西、東は若干低い。壁面は、南東コーナーが395号土壌によって切られているが、おおむね垂直ぎみに立ち上がる。床面は、ほぼ平坦で炉の西側はやや皿状を呈している。炉の周辺は、硬く踏みかためられている。炉は、床面のほぼ中央に位置し、平面形状は、長径100cm、短径90cmほどの楕円形を呈し、床面を21cmほど皿状に掘りくぼめて構築されている。炉内の覆土には、多量の焼土がレンズ状に堆積し、炉底はロームが焼けて凹凸状をなしている。柱穴は、11か所ほど確認されている。配置状況は、炉を中心にして東西に長い長方形を呈している。深さはおおむね15～30cmでそれほど深いものは認められない。主柱穴は、明確でないが、P₃・P₅・P₆・P₈が位置的には想定される。出入口は、不明であるが、柱穴や炉の位置を考慮すれば、西側のP₆～P₈の部分が考えられる。覆土は、III～IV層に区分され、中央付近からは少量ではあるが、焼土粒子、炭化物等が検出され、床面付近と壁周辺の上層以外は、やや軟質である。

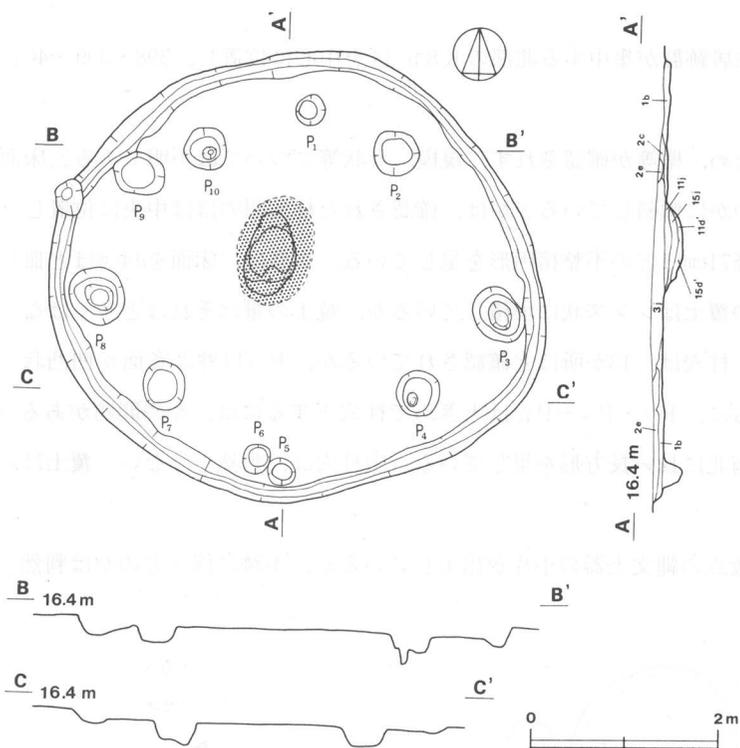
遺物は、縄文土器の破片が160点出土している。大部分は胴部片で142点である。口縁部片は18点みられるが底部は出土していない。いずれも覆土中からのものがほとんどである。平面的には、中央付近から東側にかけて比較的多くみられるが、壁周辺からはほとんど検出されていない。

第63号住居跡（第82・83図）

本跡は、筒戸A遺跡の北部のK8 b₀区を中心に位置し、南東に46号住居跡が隣接している。

平面形状は、長軸4.86m、短軸4.74mほどの隅丸方形を呈している。長軸方向は、N-60°-Eを指している。壁は、4～10cmで、南、西側がやや高く、北、東側は低い。これは、地形的に北東側へゆるい傾斜を示しているからである。壁面は、壁溝からほぼ垂直ぎみに立ち上がる。壁溝は、上幅20～30cm、下幅5～10cmで全周し、西側の溝内に1か所だけ小穴が認められる。床面は、ほぼ平坦で炉の周辺が特に硬く踏み固められ、東へゆるい傾斜を示している。出入口は、明確ではないが、壁から炉までの距離や床の傾斜の状況から、東側のP₂～P₄の間が考えられる。炉は、床面の中央やや北寄りに位置し、北側の一部は攪乱をうけている。平面形状は、長径111cm、短径80cmほどの長楕円形を呈している。炉底は、22cmほど皿状に掘りくぼめられ、覆土には焼土、焼土ブロックがレンズ状に堆積している。柱穴は、壁ぎわに沿って10か所確認され、ほぼ同心円状に配置されている。主柱穴は、6～7本で六角形状を呈している。覆土は、III～IV層に区分される。中央付近の3jは、少量の焼土粒子や炭化物を混入する黒褐色土で多くの土器片が出土しているが、2e・1bを掘り込んでいると考えられ、本跡よりはやや新しいものと思われる。

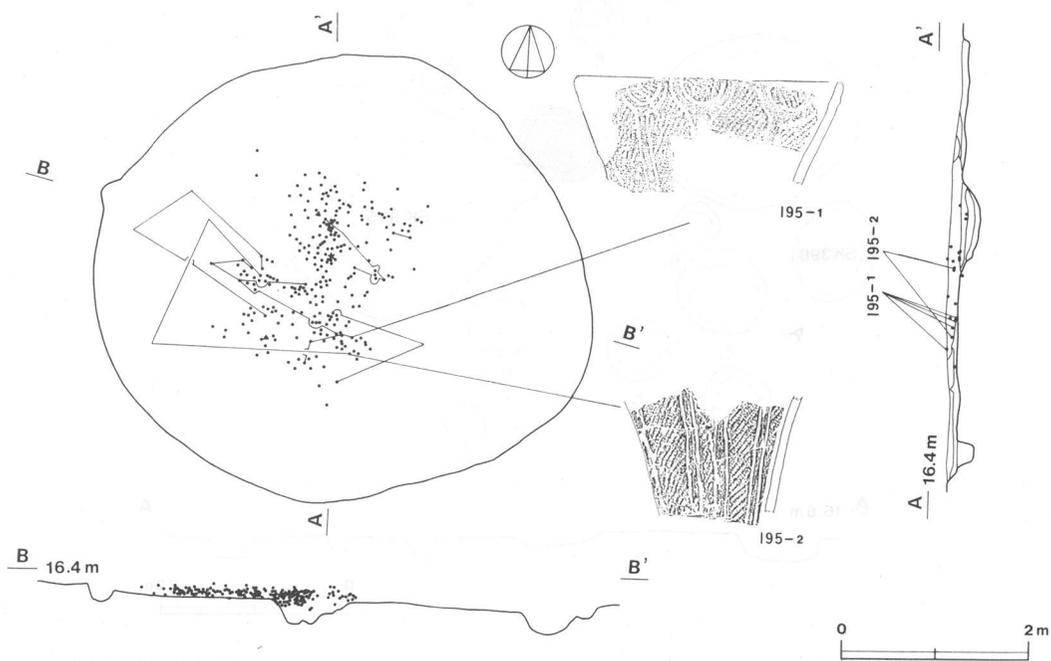
遺物は、縄文土器の破片が293点、石器が1点出土している。土器片は、胴部が多く245点で、口縁部は39点、底部は5点である。その他、土器片錘が5点出土している。いずれも小片で、覆土中の3j層からのものがほとんどである。平面的には、中央付近に集中して出土しているが、壁



周辺からはほとんど確認されていない。

当該時期は、覆土の3jから出土した遺物よりは、若干古い時期の遺構と想定される。

第82図 第63号住居跡実測図



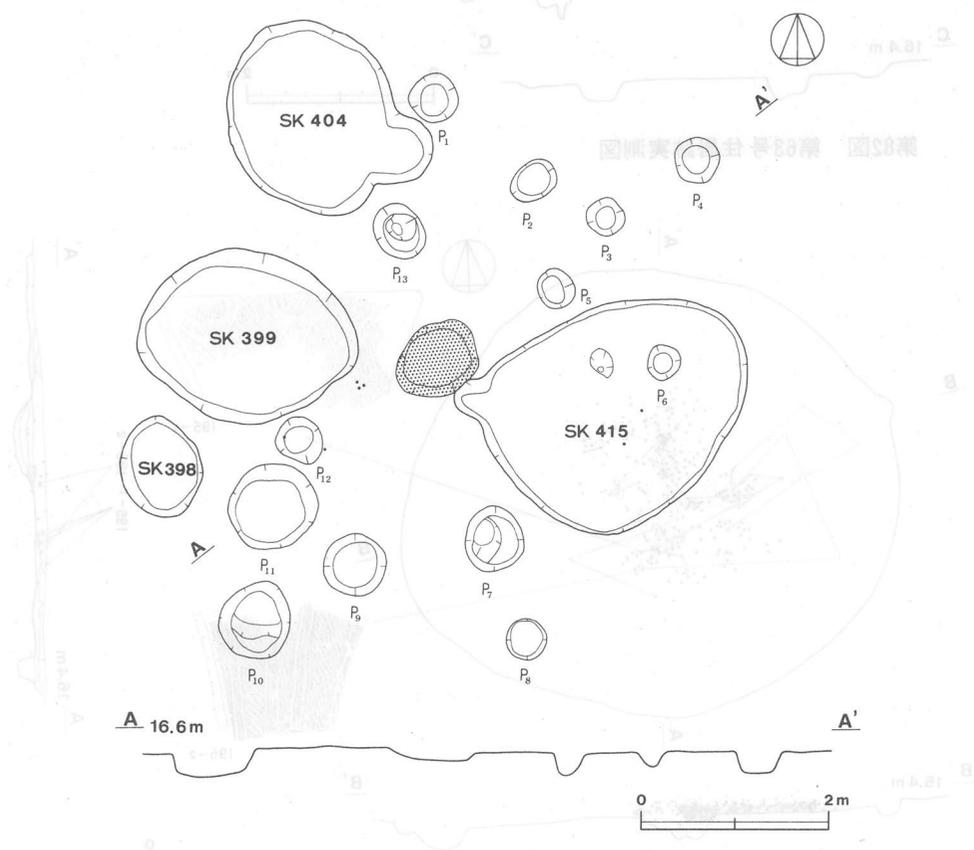
第83図 第63号住居跡遺物出土状態図

第64号住居跡（第84図）

本跡は、筒戸A遺跡の住居跡群が集中する北部のK8 b7区を中心に位置し、398・399・404・415号土壌が重複している。

表土や掘り込みが浅いため、壁等が確認されず、規模、形状等については不明である。床面は、ほぼ平坦で、東側にゆるやかに傾斜している。炉は、確認された柱穴間のほぼ中央に位置し、平面形状は、長径90cm、短径71cmほどの不整楕円形を呈している。炉底は、床面を14cmほど皿状に掘りくぼめている。炉内の覆土はレンズ状に堆積しているが、焼土の量はそれほど多くはなく底面もあまり焼けていない。柱穴は、13か所ほど確認されているが、P₁₃以外は底面が凹凸状で側面もやや軟弱である。さらに、P₇・P₉～P₁₁は大きめで柱穴とするには、やや問題がある。確認された柱穴の配置は、南北に長い長方形を呈している。支柱穴は、判然としない。覆土は、確認されていない。

遺物は、炉の西側から数点の縄文土器の小片が出土しているが、本跡に伴うものかは判然としない。

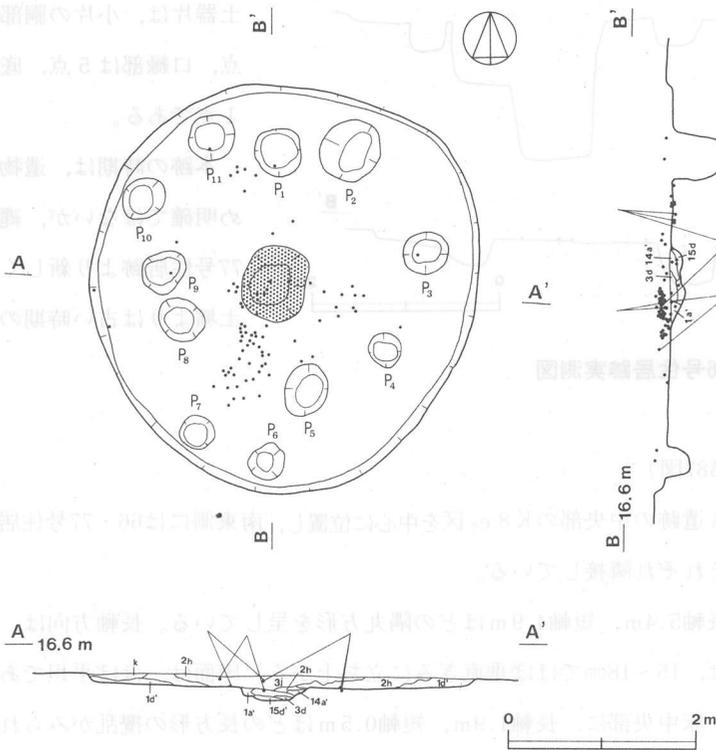


第84図 第64号住居跡実測図

第65号住居跡（第85図）

本跡は、筒戸A遺跡の北部で住居跡が集中する地域のほぼ中央のK8d₉区を中心に位置している。平面形状は、長径4.26m、短径4.1mほどの楕円形を呈している。長径方向は、N-30°-Eを指している。規模的には、やや小型で北東側の56号住居跡と類似している。壁は、7~10cmで北側がやや低い。壁面は、ほぼ垂直ぎみに立ち上がるが、東側はやや外傾している。床面は、ほぼ平坦であるが、炉の南側がやや低い。炉の周辺は硬く踏み固められている。炉は、床面のほぼ中央に位置し、平面形状は、長軸80cm、短軸61cmほどの隅丸長方形を呈している。炉底は、床面を15cmほど皿状に掘りくぼめて構築され、炉内には焼土が充満し、底面は焼けて凹凸状をなしている。柱穴は、炉を中心に11か所確認されている。支柱穴は、配置や深さを考慮すれば、P₁・P₃・P₅・P₈の4本が考えられる。出入口は明確ではないが、炉や柱穴の配置や南東側の床面がやや低いことなどからP₆・P₇間が想定される。覆土は、III層に区分され、自然流入的な堆積を示している。3jは土器片とともに少量の焼土粒子を含む黒褐色土で、2hを一部切っていることにより本跡よりやや新しいもので遺物は投棄されたものと思われる。

遺物は、縄文土器の破片のみで総数210点出土している。土器片で最も多いのは胴部片で181点である。口縁部は26点、底部は3点である。そのほとんどは、覆土中の3jからのものである。平面的には、中央付近から北西にかけて出土している。

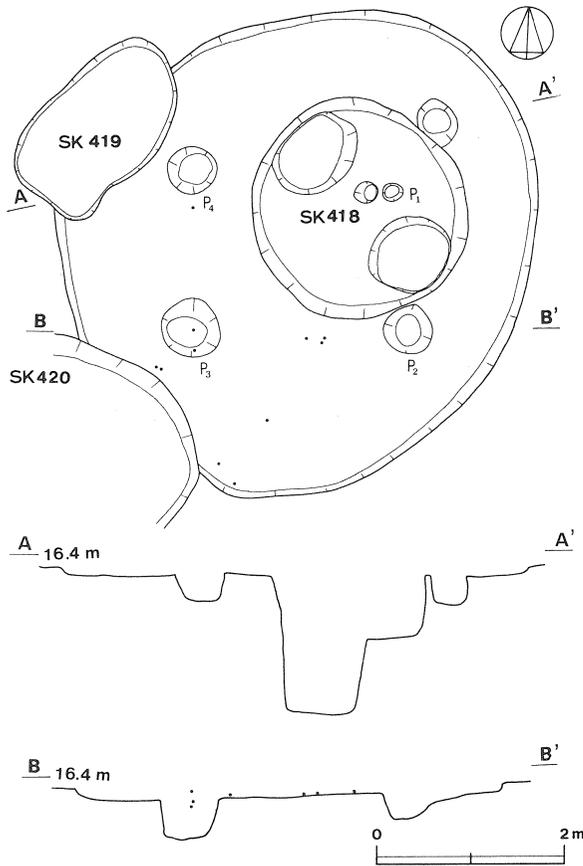


第85図 第65号住居跡実測図

第66号住居跡（第86図）

本跡は、筒戸A遺跡の中央部のK8f₉区を中心に位置し、南西側の77号住居跡の一部を切って構築されている。さらに、本跡の中央には418号土壌、西壁には419土壌、南西壁には420号土壌が重複し、いずれも住居の覆土を切っており、本跡よりはやや新しいものと考えられる。

平面形状は、長軸5.2m、短軸5.0mほどの隅丸方形を呈している。長軸方向は、N-50°-E



を指している。壁は、10~12cmで、ほぼ垂直ぎみに立ち上がる。床面は、ほぼ平坦であるがやや軟弱である。炉は、ほぼ中央に418号土壌が重複することもあり確認されていない。柱穴は、4本確認され、長方形の配置がみられる。覆土は、II層に区分され、やや軟弱であるが自然堆積状を呈している。

遺物は、覆土中から縄文土器の破片が77点、石器が1点出土している。土器片は、小片の胴部が最も多く71点、口縁部は5点、底部はわずかに1点である。

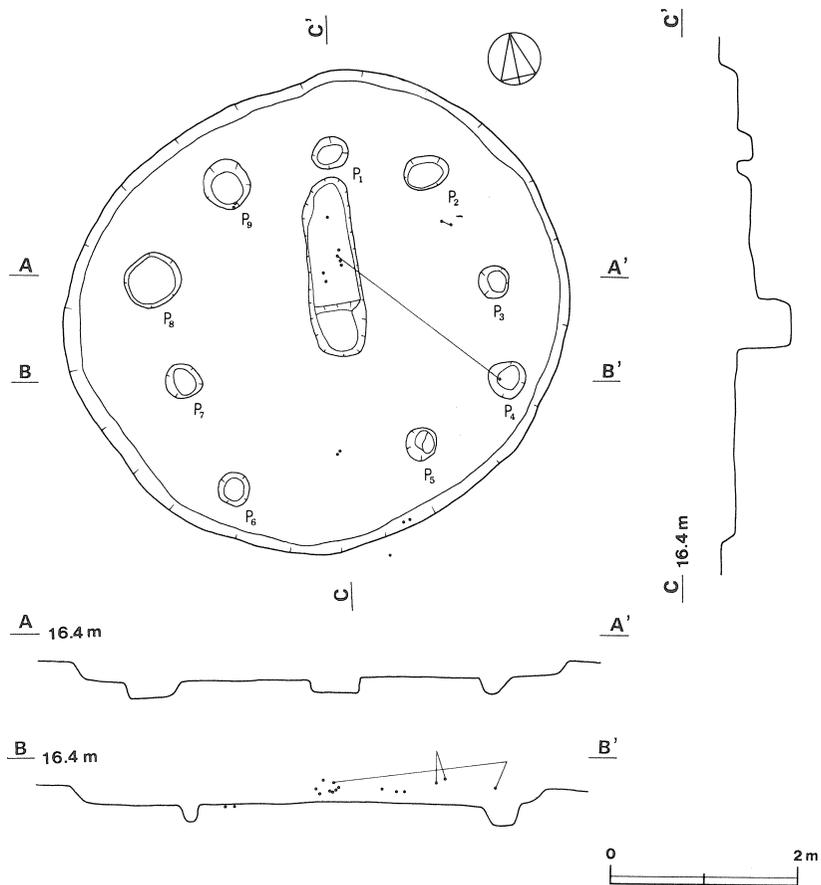
本跡の時期は、遺物が伴わないため明確ではないが、縄文時代中期で77号住居跡より新しく、418~420号土壌よりは古い時期の遺構である。

第86図 第66号住居跡実測図

第67号住居跡（第87図）

本跡は、筒戸A遺跡の中央部のK8e₈区を中心に位置し、南東側には66・77号住居跡、西側には68号住居跡がそれぞれ隣接している。

平面形状は、長軸5.4m、短軸4.9mほどの隅丸方形を呈している。長軸方向は、N-74°-Eを指している。壁は、15~18cmでほぼ垂直ぎみに立ち上がる。床面は、ほぼ平坦であるが全体的にやや軟弱である。床中央部に、長軸1.9m、短軸0.5mほどの長方形の攪乱がみられる。炉は、検出できなかった。柱穴は、9か所確認されているが、掘り方や壁面はやや軟弱で、しっかりした



第87図 第67号住居跡実測図

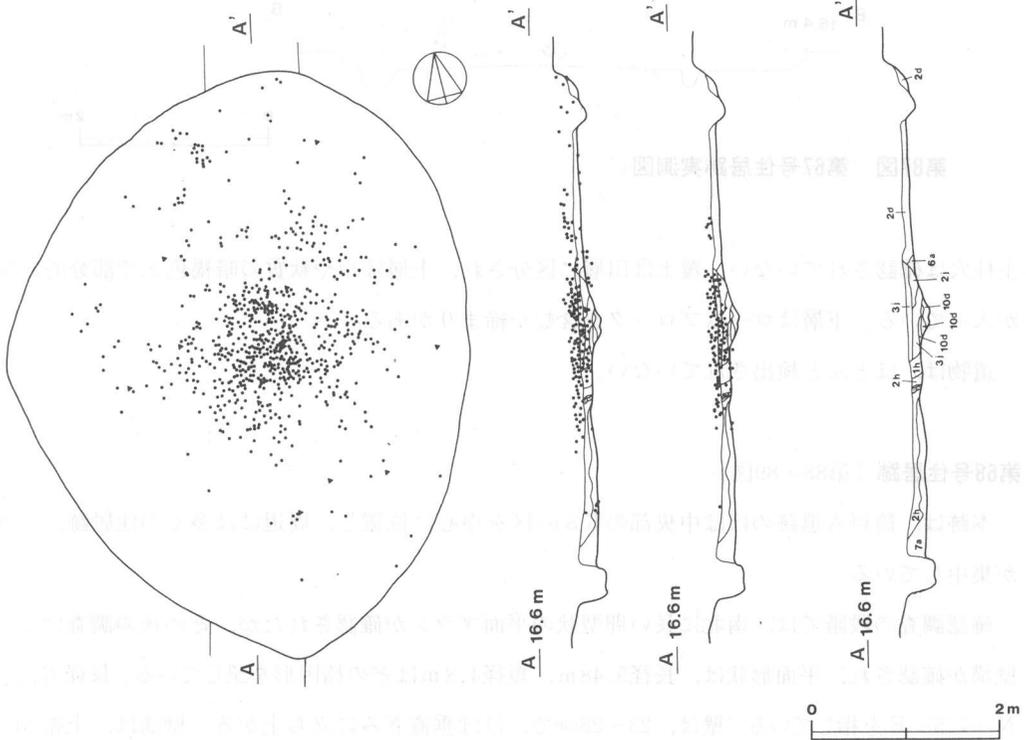
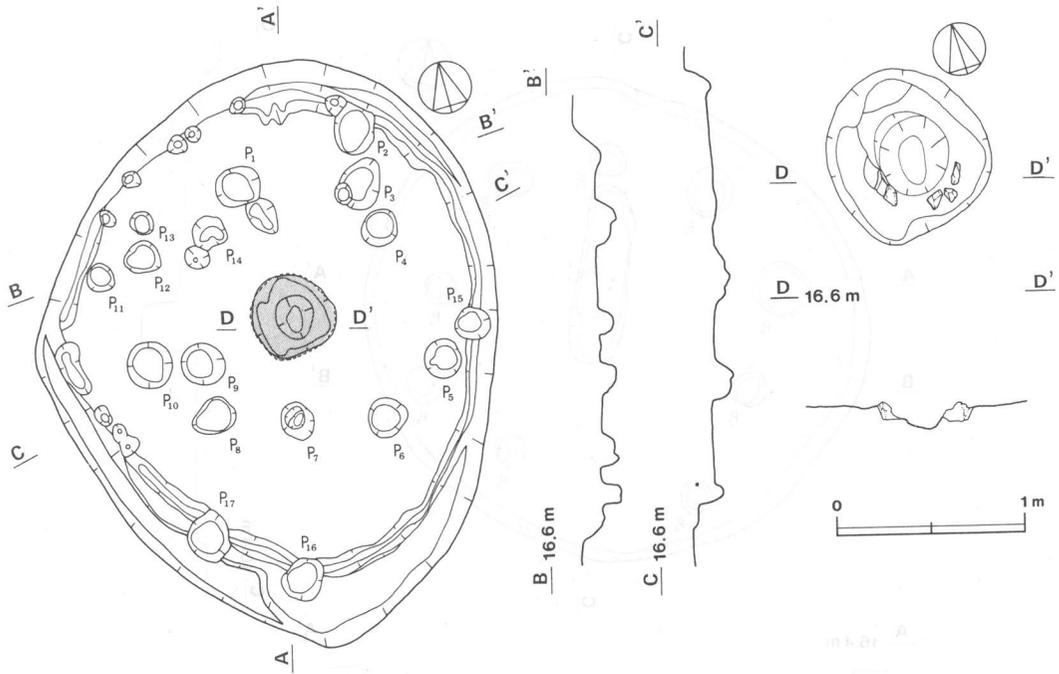
支柱穴は確認されていない。覆土はIII層に区分され、上層はやや軟質の暗褐色土で部分的に攪乱が入っている。下層はロームブロックを含むが締まりがある。

遺物は、ほとんど検出されていない。

第68号住居跡（第88・89図）

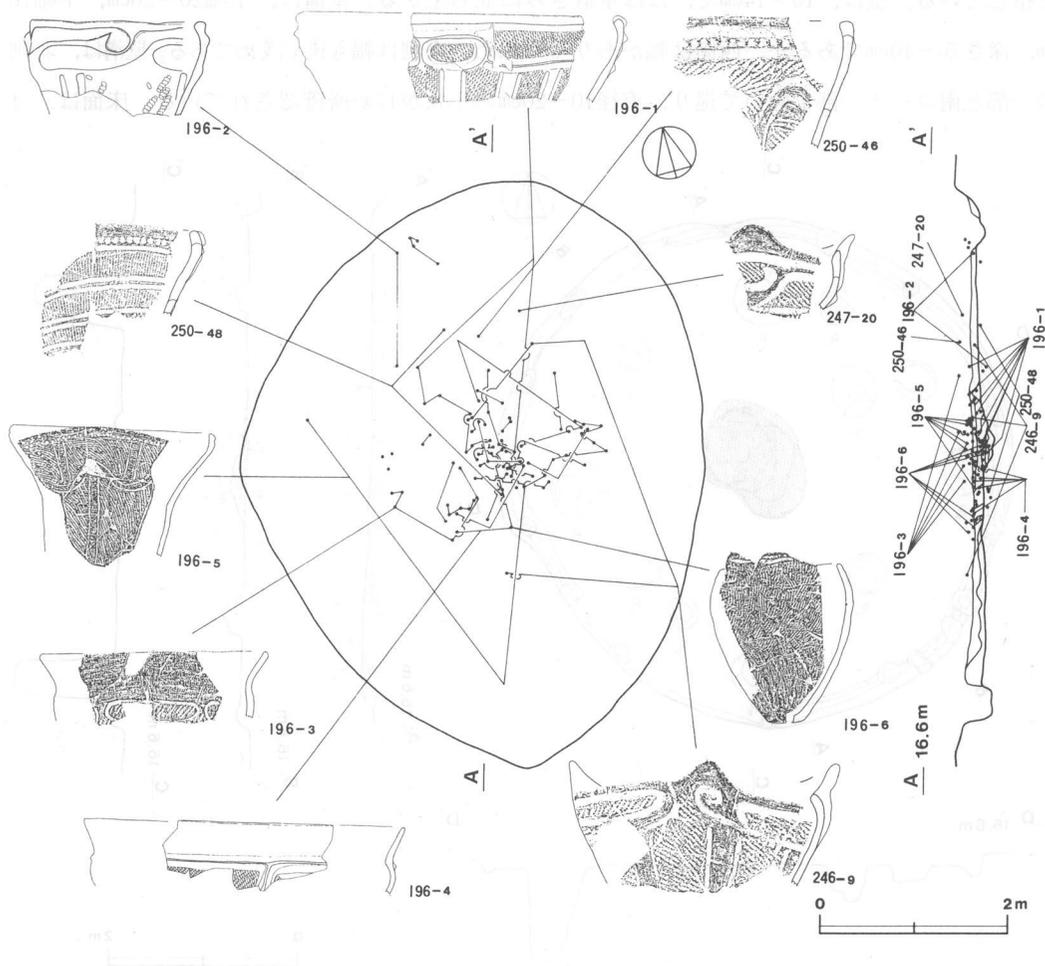
本跡は、筒戸A遺跡のほぼ中央部のK8 e7区を中心に位置し、周辺には多くの住居跡、土壇等が集中している。

確認調査の段階では、南北に長い卵形状の平面プランが確認されたが、その後の調査によって壁溝が確認され、平面形状は、長径5.48m、短径4.8mほどの楕円形を呈している。長径方向は、N-7.5°-Eを指している。壁は、23~28cmで、ほぼ垂直ぎみに立ち上がる。壁溝は、上幅20~30cm、下幅10~15cmで、北西及び西側の一部を除いて巡っている。床面は、ほぼ平坦で南にやや傾斜を示している。炉の周辺は硬く踏み固められているが、部分的に攪乱もみられる。出入口は明



第88图 第68号住居迹实测图·遗物出土状态图

確ではないが、床の傾斜や炉までの距離をみると南側が想定されるが、柱穴の配置をみると西側も考えられる。炉は、床面のほぼ中央に位置し、南側に石組み炉の一部が残存していた。平面形状は、長軸81cm、短軸80cmほどの方形を呈し、炉内には、石組み炉の残存と考えられる安山岩製の石皿片が6個検出されている。炉底は、14cmほど掘りくぼめられ、底面には焼土が充満していた。柱穴は、18か所ほど確認されている。配置的には炉を中心としているが、西ないし北側に多くみられる。支柱穴は、掘り込みが11~24cmでそれほど深いものがないため明確ではないが、配置的にみれば方形に並ぶP₄・P₆・P₈・P₁₄ないし、それらにP₁₀・P₁₂・P₁・P₃を加えた不定六角形状の位置が想定される。覆土は、V~VII層に区分される。中央付近の上層から下層にかけては黒褐色、暗褐色土がみられ、その周辺及び下層にかけてはロームブロックを含む褐色土がみられる。混在する土器やローム粒子等の状況をみると一部は人為的に投棄されたものと考えら

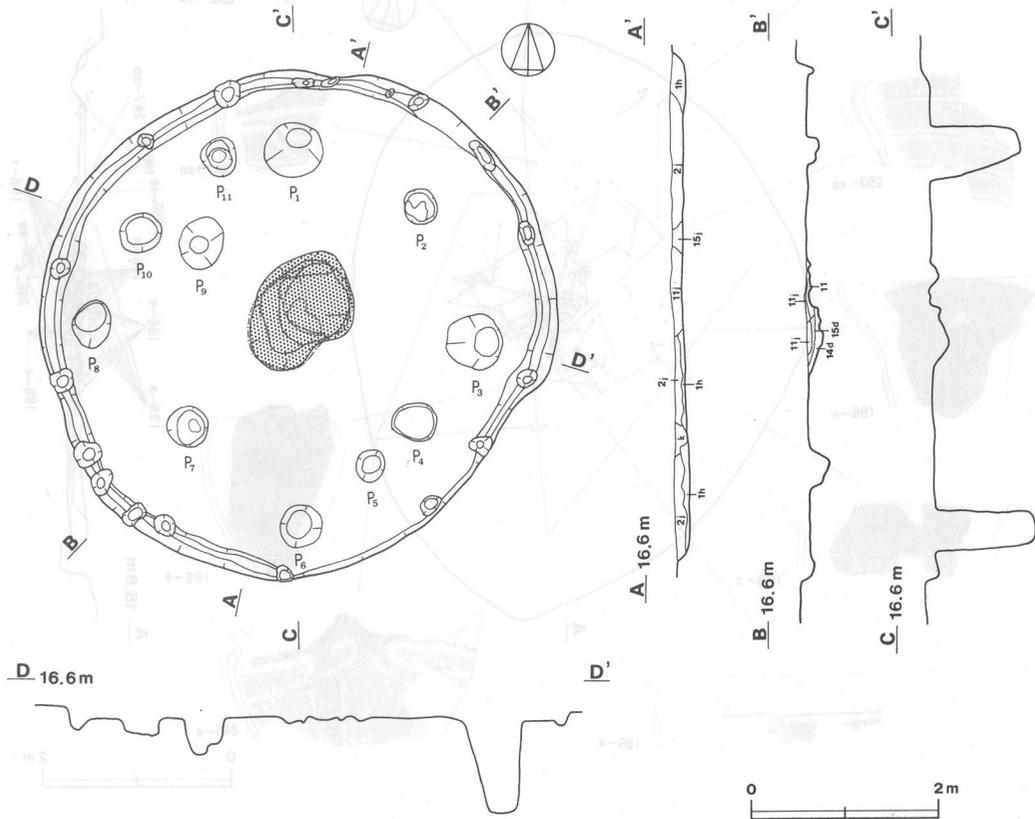


第89図 第68号住居跡遺物出土状態図

れる。遺物は、縄文土器の破片が多く1287点、石器は13点出土している。土器片は、胴部が多く1096点、口縁部は166点、底部は21点出土している。その他、土器片錘が4点みられる。いずれも小片で覆土中からのものがほとんどで床面からは少ない。平面的には中央に密集し、壁ぎわからの出土は少ない。接合をみると、同一個体のものがかなり離れて接合されている。東側の床面直上より滑石製の垂飾が出土している。

第69号住居跡 (第90・91図)

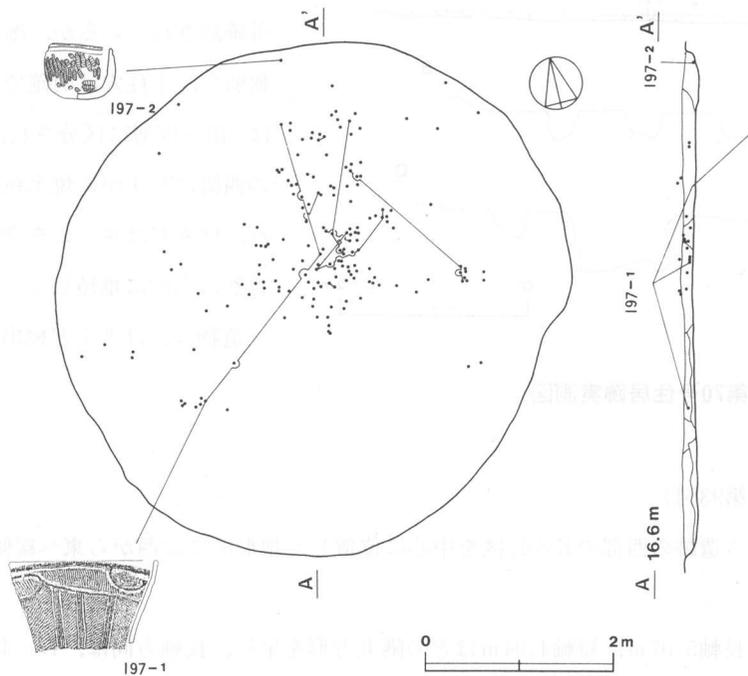
本跡は、筒戸A遺跡の北西部のK8a2区を中心に位置している。平面形状は、長軸5.58m、短軸5.18mほどの隅丸方形を呈している。長軸方向は、N-47°-Eを指している。壁は、10~14cmで、ほぼ垂直ぎみに立ち上がる。壁溝は、上幅20~26cm、下幅10cm、深さ5~10cmであるが、西側は幅がありやや深めで東側は幅も狭く浅めである。壁溝は、北側の一部と南コーナー部を除いて巡り、直径10~20cmの小穴が17か所確認されている。床面は、ほ



第90図 第69号住居跡実測図

ば平坦であるが、中央の炉付近はやや高く、南西部はやや低くなる。出入口は、明確ではないが、壁溝の状況や床面の傾斜等を考慮すれば南東側のP₄・P₅あたりが想定される。炉は床面のほぼ中央に位置し、平面形状は、長径120cm、短径80cmほどの不整形を呈している。炉底は、5～16cmほど掘りくぼめられ、覆土内の焼土は北東側に多くみられる。なお、南東側からも黒色土混じりの焼土が検出されており、掘り替えて利用していると思われる。柱穴は、11か所確認されている。主柱穴は、炉を中心に方形に配置されるP₁・P₃・P₆・P₈で、ともに掘り方もしっかりしており、深さは70～100cmを有している。主柱穴の間にほぼ等間隔の支柱穴が位置している。覆土は、IV層に区分される。中央には焼土ブロック、炭化物を少量混入するやや柔らかい暗赤褐色土、極暗赤褐色土が堆積し、壁ぎわから下層にかけ締めりのあるローム粒子を含むlhが堆積している。

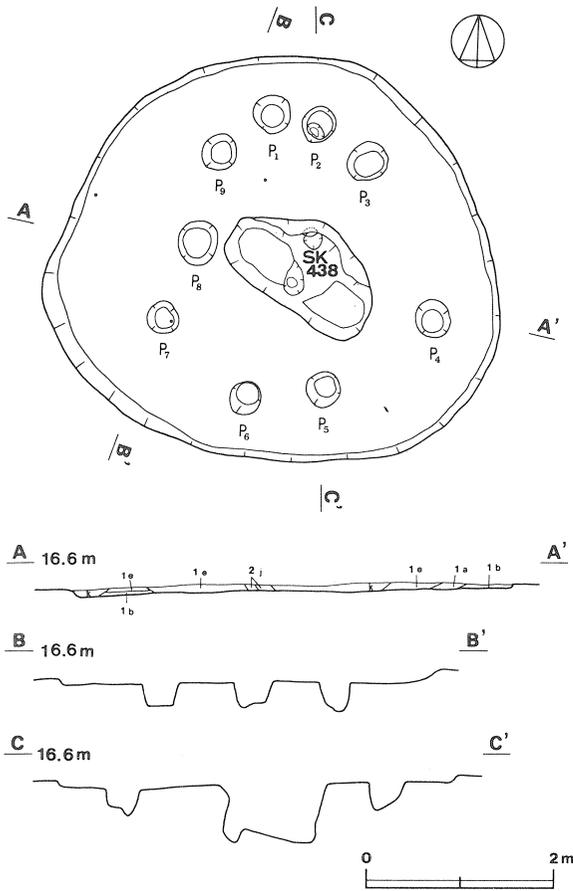
遺物は、縄文土器の破片が266点、石器が1点出土している。土器片は、胴部の小片が多く231点で、口縁部は30点、底部は3点である。その他北壁付近の床面からやや浮いた地点にミニチュアの土器（第197図-2）、P₁内の底面付近から深鉢形土器の破片（第197図-1）が出土している。他の遺物は、覆土中から出土している。



第91図 第69号住居跡遺物出土状態図

第70号住居跡（第92図）

本跡は、筒戸A遺跡の北西部のK8b₃区を中心に位置し、中央に438号土壌が重複している。



第92図 第70号住居跡実測図

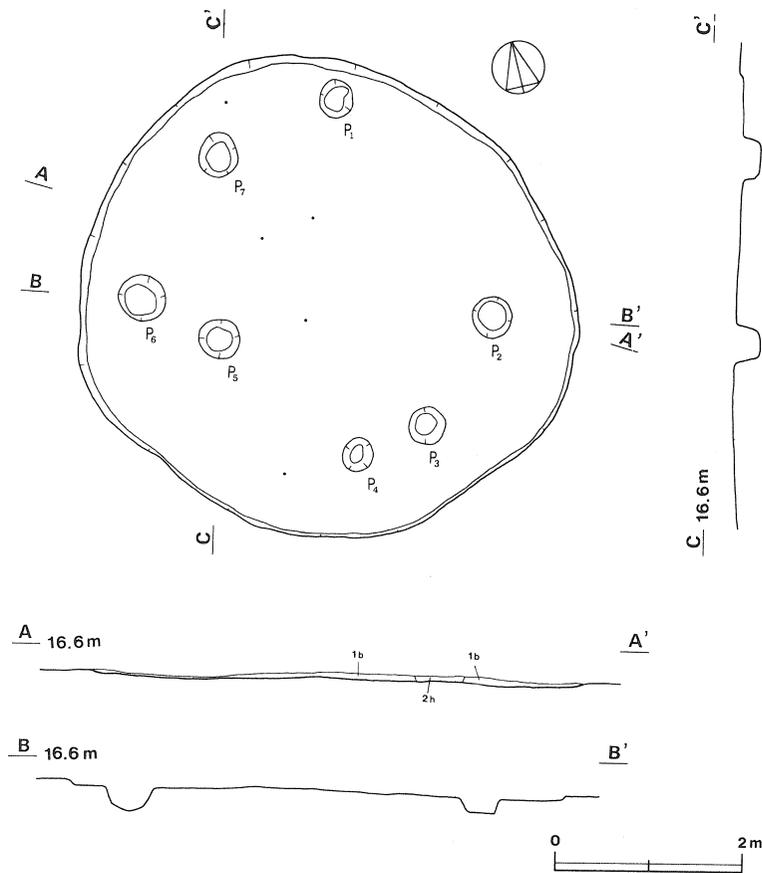
平面形状は、長径4.74m、短径4.40mほどの楕円形を呈し、長径方向は、 $N-73^{\circ}-W$ を指している。壁は、7～9cmで、東、西側がやや低く、南、北側はやや高い。壁面は、外傾ぎみに立ち上がるが軟弱である。床面は、ほぼ平坦であるがやや軟弱である。炉は、中央部に438号土壌が重複するため検出されていないが、土壌の覆土中から少量の焼土が検出されているので、土壌によって壊されている可能性も考えられる。柱穴は、9か所確認されているが、掘り方はやや軟弱で、支柱穴は明確でない。覆土は、III～IV層に区分され、438号土壌の西側にわずかに焼土粒子が確認され、壁ぎわはロームを含む褐色土が自然流入的に堆積している。

遺物は、ほとんど検出されていない。

第71号住居跡（第93図）

本跡は、筒戸A遺跡の西部のK8d₁区を中心に位置し、地形的には西から東へ緩傾斜を示している。

平面形状は、長軸5.07m、短軸4.94mほどの隅丸方形を呈し、長軸方向は、 $N-40^{\circ}-W$ を指している。壁は、6～9cmと低く、南側はほとんど確認できないほどである。床面は、ほぼ平坦であるが、中央付近がやや高く、東、南側にわずかに傾斜を示している。中央から北東側にかけて不整形の攪乱がみられる。炉は、検出されていない。柱穴は、7か所確認されるが、あまり規格性が認められず、支柱穴は明瞭でない。覆土は、ローム小ブロックを含むが締まりのある褐色土がI層だけ認められるにすぎない。遺物は、ほとんど検出されていない。



第93図 第71号住居跡実測図

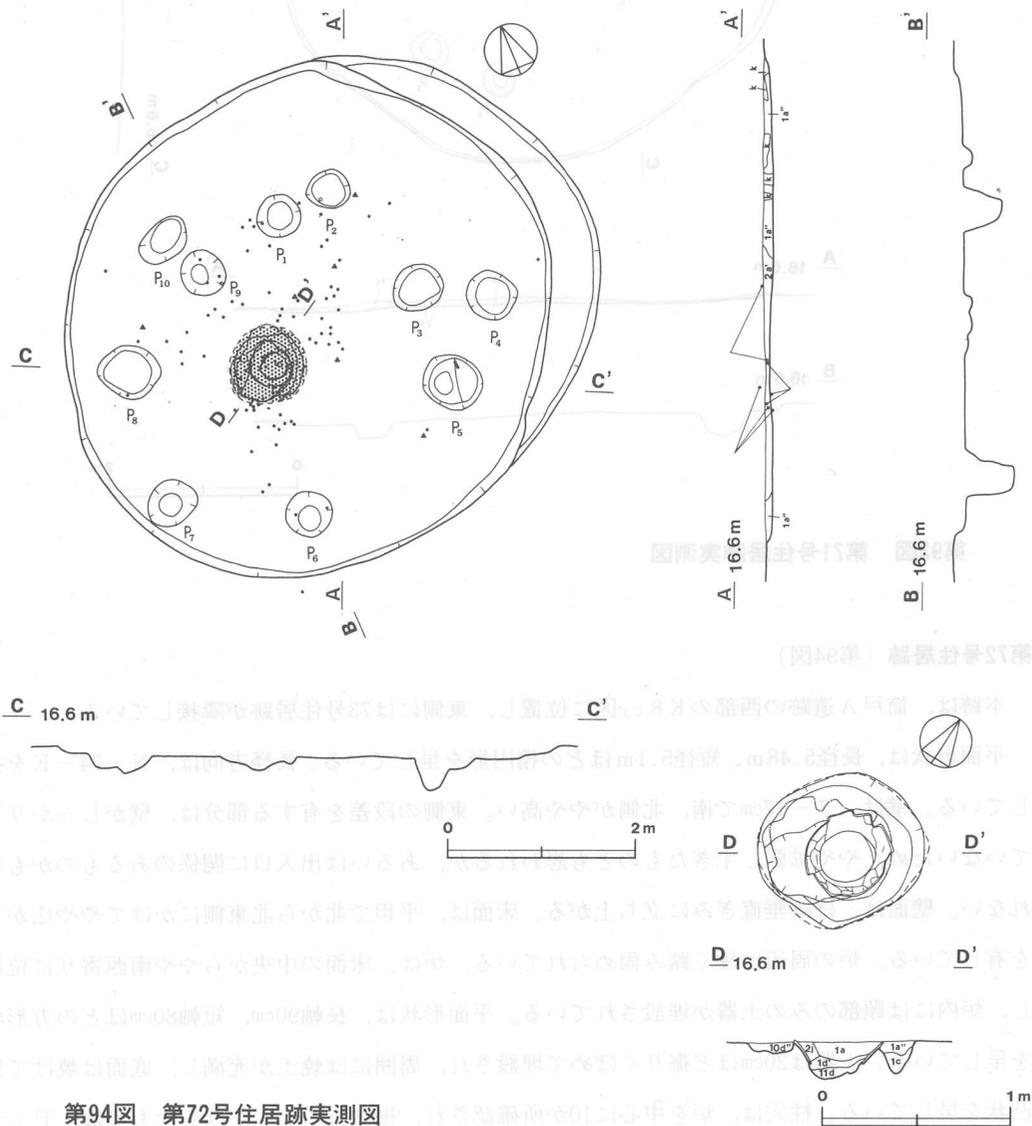
第72号住居跡（第94図）

本跡は、筒戸A遺跡の西部のK8c3区に位置し、東側には73号住居跡が隣接している。

平面形状は、長径5.48m、短径5.1mほどの楕円形を呈している。長径方向は、N-74°-Eを指している。壁は、7~17cmで南、北側がやや高い。東側の段差を有する部分は、壁がしっかりしていないため、やや拡張しすぎたものとも思われるが、あるいは出入口に関係のあるものかもしれない。壁面は、ほぼ垂直ぎみに立ち上がる。床面は、平坦で北から北東側にかけてやや広がりをもっている。炉の周辺は硬く踏み固められている。炉は、床面の中央からやや南西寄りに位置し、炉内には頸部みの土器が埋設されている。平面形状は、長軸90cm、短軸80cmほどの方形を呈している。土器は20cmほど掘りくぼめて埋設され、周囲には焼土が充満し、底面は焼けて凹凸状を呈している。柱穴は、炉を中心に10か所確認され、掘り方のしっかりしたものは、P5~P7・P9の4か所である。支柱穴は、配置的にみると方形のP1・P5・P6・P8が考えられる。P2・P3は出入口に関連があるものと思われるが、他のものは支柱的なものであろう。これ

らを基にして、後に住居を復元したところ、ある程度実証することができた。覆土は、Ⅲ層に区分される。中央の上層は暗褐色土、その下層は少量の黒褐色土がみられ、壁ぎわにはローム粒子を多く含む褐色土が堆積し、各層とも締まりを有している。

遺物は、炉内埋設土器の他、縄文土器の破片が144点、石器が4点出土している。土器片は、胴部が121点、口縁部が19点、底部は3点である。石器は、分銅形石斧や黒曜石の石鏃・チップ等が検出されている。出土状況は、覆土中の2a'からのものがほとんどである。平面的には、中央から南西側寄りに多く出土している。

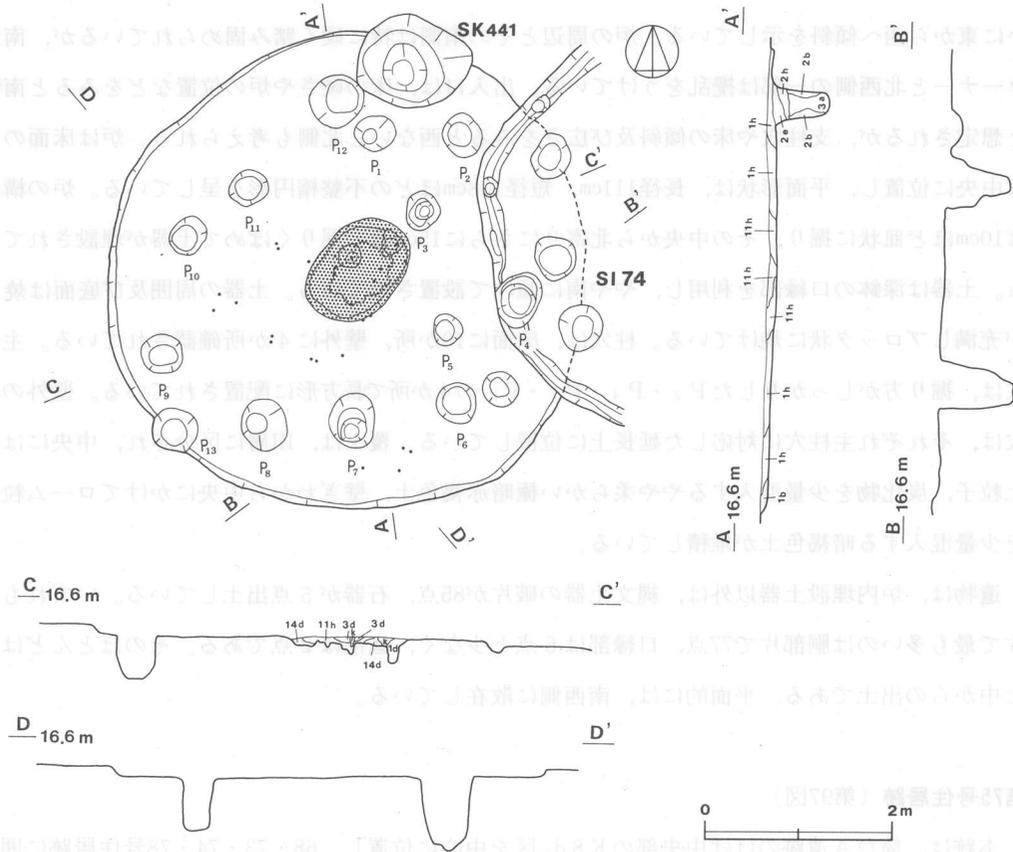


第94図 第72号住居跡実測図

第73号住居跡（第95図）

本跡は、筒戸A遺跡内で遺構の集中する中央部のやや北西寄りのK8d₅区を中心に位置し、東側は74号住居跡によって切られ、北壁の一部には441号土壌が重複している。

平面形状は、長軸5.11m、短軸5.09mほどの隅丸方形を呈するがやや円形に近い。長軸方向は、N-41°-Wを指している。壁は、8~11cmで西壁はやや高いが、南、北壁は低く、東壁は重複のため不明である。壁面は、掘り込みが浅いため明瞭ではないが、ほぼ垂直ぎみに立ち上がる。床面は、ほぼ平坦で炉の周辺は硬く踏み固められている。炉は、床面のほぼ中央に位置し、平面形状は、長軸120cm、短軸81cmほどの南北に長い長方形を呈している。炉底は20cmほど皿状に掘り込まれ、焼土が充満しその覆土はレンズ状の堆積が認められる。炉内にみられる2か所のピットは新しい攪乱によるものである。柱穴は、重複のためやや複雑な様相を呈しているが、本跡に伴うものはP番号を付けた13か所である。支柱穴は、P₄・P₇・P₁₀・P₁₂の4か所で長方形の配置を呈し、掘り方もしっかりしていて60~80cmの深さを有している。他のものは支柱穴を補強する



第95図 第73号住居跡実測図

支柱穴的なものであるが、P₈・P₉・P₁₃は出入口に関連のある施設とも考えられる。覆土は、III層に区分される。中央には焼土ブロックを含む暗赤褐色土がレンズ状に堆積し、壁ぎわから自然流入的に褐色土が堆積している。

遺物は、縄文土器の破片が180点出土している。最も多いのは胴部の小片で169点である。口縁部は8点と少なく、底部はわずかに3点である。それらは炉及びその南西側の床面からやや浮いた状態で検出されている。

第74号住居跡（第96図）

本跡は、筒戸A遺跡のほぼ中央部のK8d₆区を中心に位置し、73号住居跡と重複している。

平面形状は、長径4.85m、短径4.76mほどの円形状を呈するがやや隅丸方形に近い。長径方向は、N-65°-Eを指している。壁は、10~15cmで南東側がやや低いが、ほぼ垂直ぎみに立ち上がる。壁溝は、上幅20~25cm、下幅10cmほどで全周し、南、北東の一部を除き9か所ほど溝内に小穴が確認されている。直径は20cm内外で、深さ10~15cmである。床面は、ほぼ平坦であるがわずかに東から西へ傾斜を示している。炉の周辺とその南側は特に硬く踏み固められているが、南東コーナーと北西側の一部は攪乱をうけている。出入口は、床の硬さや炉の位置などをみると南側と想定されるが、支柱穴や床の傾斜及び広さをみると西ないし北側も考えられる。炉は床面のほぼ中央に位置し、平面形状は、長径111cm、短径108cmほどの不整楕円形を呈している。炉の構築は10cmほど皿状に掘り、その中央から北寄りにさらに15cmほど掘りくぼめて土器が埋設されている。土器は深鉢の口縁部を利用し、やや南に傾けて設置されている。土器の周囲及び底面は焼土が充満しブロック状に焼けている。柱穴は、床面に10か所、壁外に4か所確認されている。主柱穴は、掘り方がしっかりしたP₂・P₄・P₇・P₁₀の4か所で長方形に配置されている。壁外の柱穴は、それぞれ主柱穴に対応した延長上に位置している。覆土は、III層に区分され、中央には焼土粒子、炭化物を少量混入するやや柔らかい極暗赤褐色土、壁ぎわから中央にかけてローム粒子を少量混入する暗褐色土が堆積している。

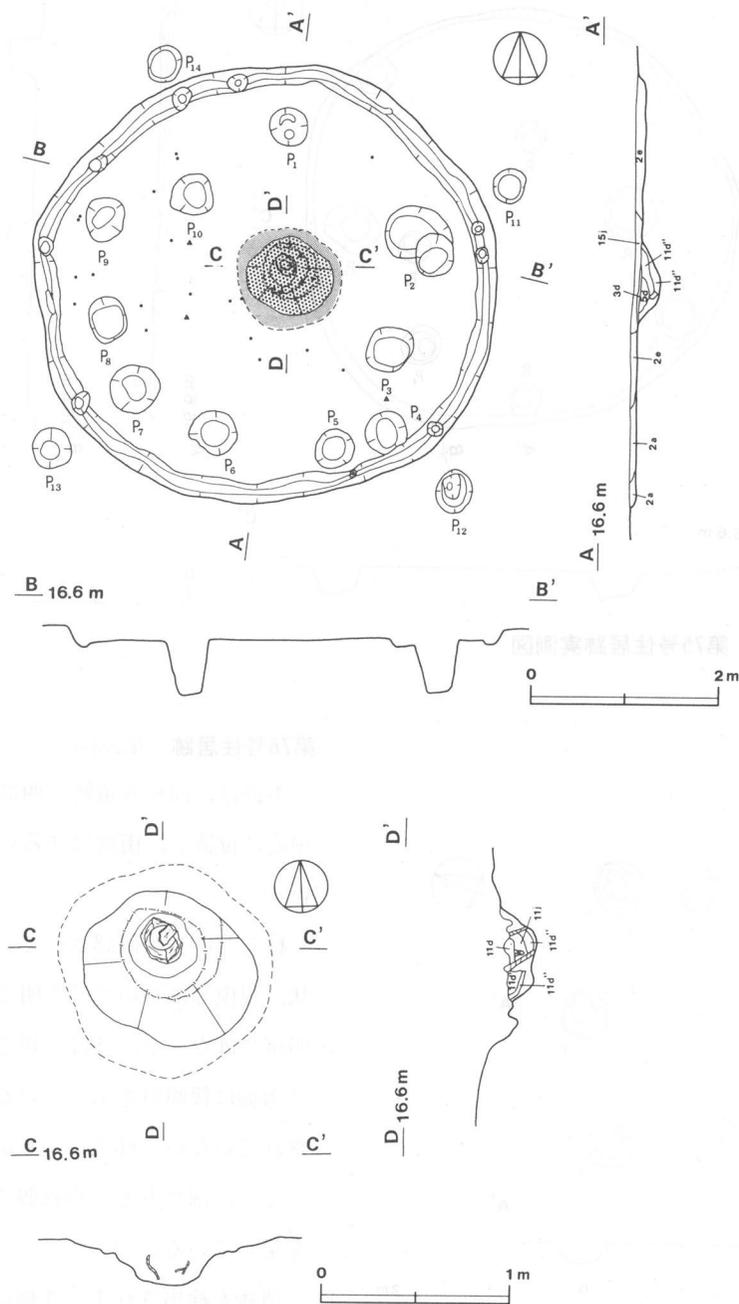
遺物は、炉内埋設土器以外は、縄文土器の破片が85点、石器が5点出土している。いずれも小片で最も多いのは胴部片で77点、口縁部は6点と少なく、底部は2点である。そのほとんどは覆土中からの出土である。平面的には、南西側に散在している。

第75号住居跡（第97図）

本跡は、筒戸A遺跡のほぼ中央部のK8d₃区を中心に位置し、68・73・74・78号住居跡に囲まれている。

平面形状は、長軸4.64m、短軸4.42mほどで、西側がやや張り出すが隅丸方形を呈すると思わ

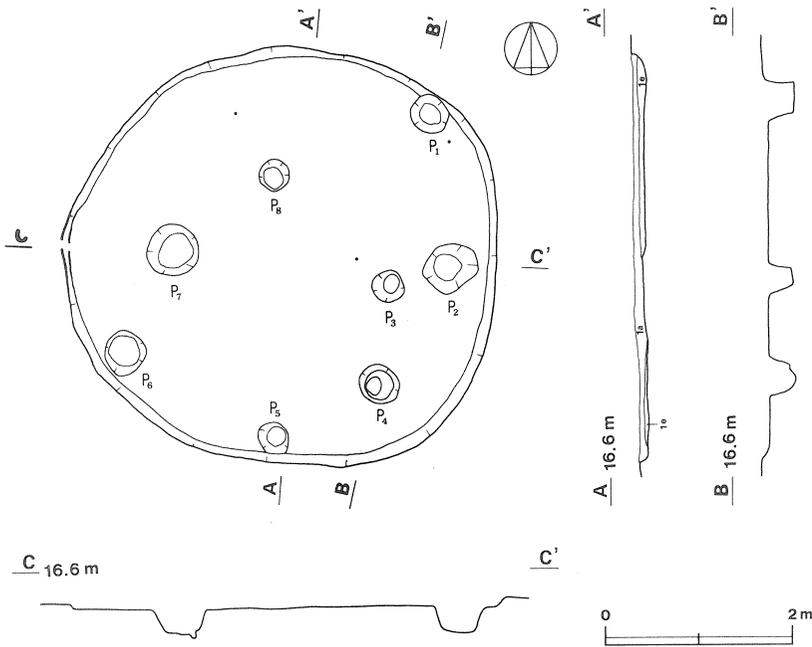
れる。長軸方向は、 $N-72^{\circ}-E$ を指している。壁は、7~11cmで南、北側は垂直ぎみに立ち上がるが、東、西側は外傾ぎみとなり低い。床面は、平坦でわずかに南へ傾斜を示し、全体的にやや軟弱である。炉は、検出されていない。柱穴は、8か所確認されたが北西側に検出されていない。



第96図 第74号住居跡実測図

主柱穴は明確ではないが、P₂～P₈はほぼ六角形状を呈している。覆土は、II層に区分され、色調はいずれも締まりのある褐色土で、下層からは少量の炭化粒子が検出されている。

遺物は、ほとんど検出されていない。



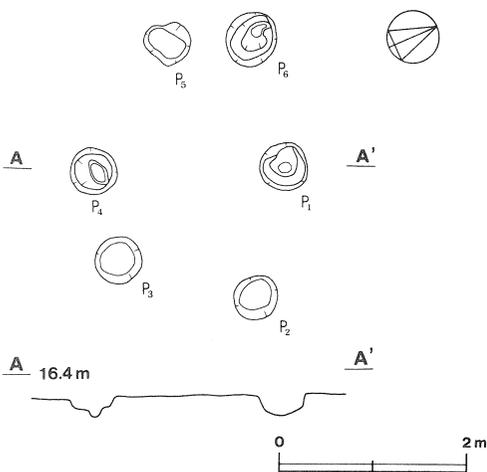
第97図 第75号住居跡実測図

第76号住居跡 (第98図)

本跡は、筒戸A遺跡の西部のK8e₂区を中心に位置し、南側はゆるい傾斜を示している。

柱穴だけしか確認されていないため、形状、規模等については不明である。床面は明確ではないが、ほぼ平坦である。地形的に南側に緩傾斜を示している。炉は、検出されていない。柱穴は、6か所確認されているが、掘り方もやや軟弱で底面は凹凸状を呈している。

遺物も検出されず、性格は不明である。

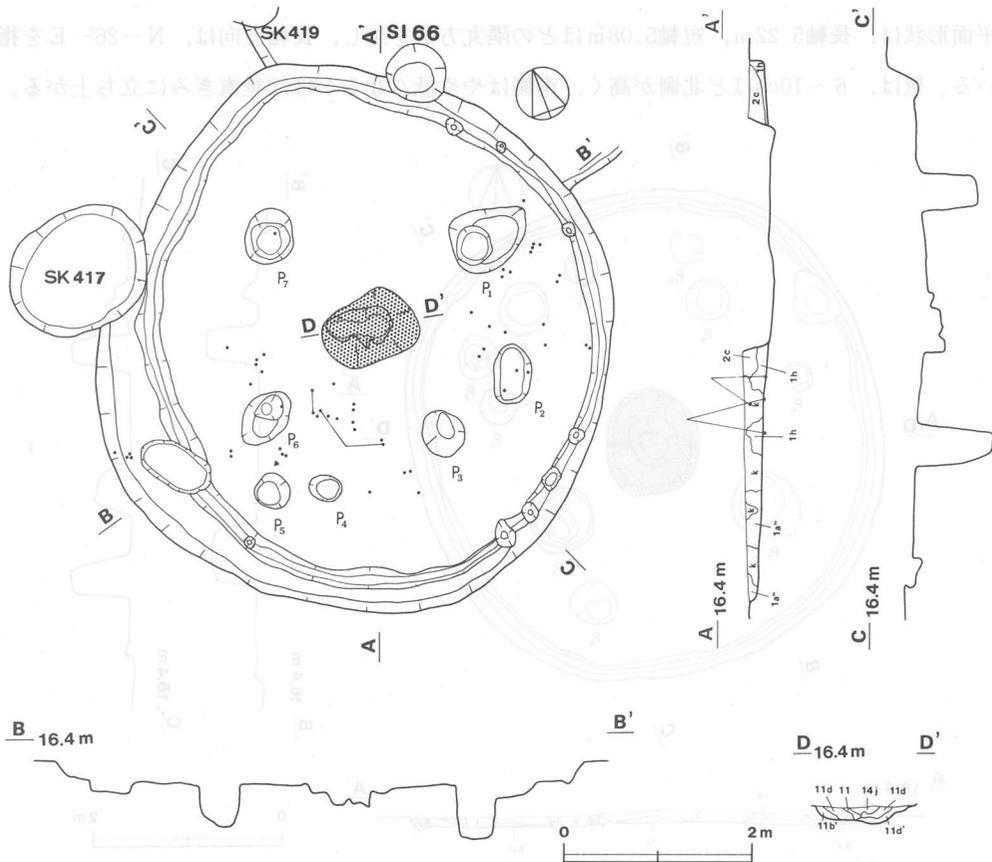


第98図 第76号住居跡実測図

第77号住居跡 (第99図)

本跡は、筒戸A遺跡の住居跡が集中する中央部のK8g₉区を中心に位置し、420号土壌の調査時に炉が確認された遺構である。北側には66号住居跡、417号土壌が重複している。

平面形状は、長径5.94m、短径5.64mほどの不整楕円形を呈し、北側がやや張り出している。長径方向は、N-42°-Eを指している。壁は、16~23cmで北から北西側にかけてやや高くなる。壁面は、ほぼ垂直直みに立ち上がるが、西側はやや有段状を呈している。壁溝は、上幅20~30cm下幅10cmほどで全周している。北東から南側にかけて小穴が8か所確認されている。床面は、ほぼ平坦で硬く踏み固められているが、中央の炉付近から北側にかけては420号土壌の重複により凹凸状を呈し、南西と北東側の床はやや傾斜を示し凹状となっている。炉は、ほぼ中央に位置し、平面形状は、長径102cm、短径70cmほどの不整形を呈している。炉底は18cmほど皿状に掘りくぼめられ焼土が充満し、側面のロームは焼け凹凸状を呈し、かなり長期にわたって使用されたこと



第99図 第77号住居跡実測図

図解実測器号77第 図解001第

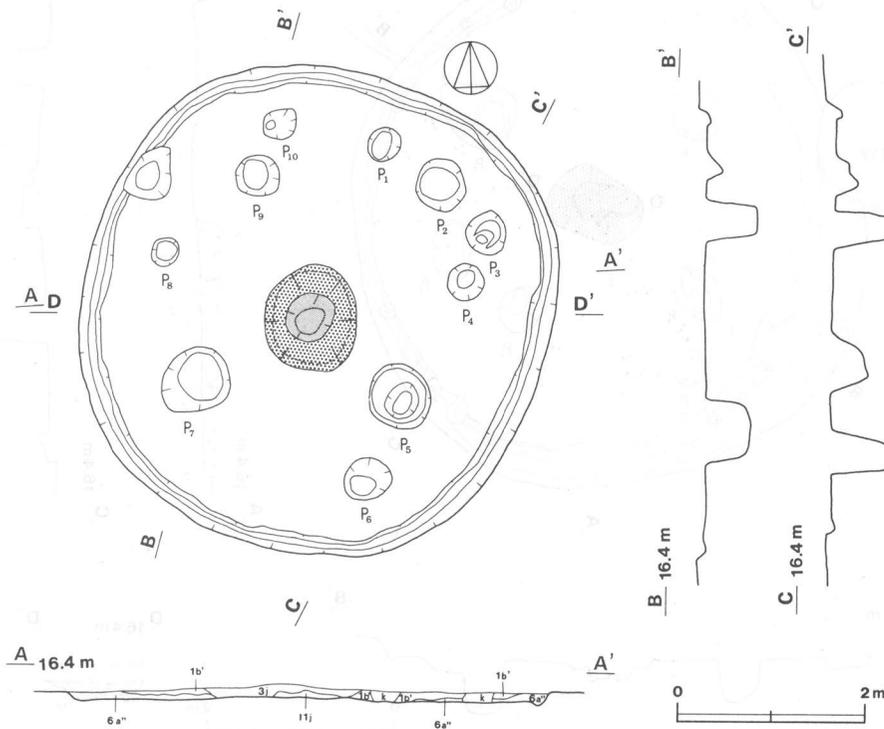
がうかがえる。柱穴は、7か所確認され、北東壁の柱穴は66号住居跡のもので西側の溝にみられるくぼみは攪乱によるものである。支柱穴は、P₁・P₃・P₆・P₇の方形に配置する4か所で、掘り方もしっかりしており60~80cmの深さを有している。P₄・P₅は性格不明であるが、あるいは出入口の施設に関連のあるものかと思われる。覆土は、III層に区分される。上層は暗褐色土で、下層はローム粒子を多く含む褐色土が堆積し、全体的に締まりがある。

遺物は、縄文土器の破片が221点、石器が2点出土している。土器片は、胴部が多く195点で、口縁部は24点、底部は2点である。そのほとんどは覆土中からのものである。平面的には炉の南側に多くみられ、北側に少ないのは、420号土壌によって壊されているためである。

第78号住居跡（第100・101図）

本跡は、筒戸A遺跡の中央やや西寄りのK8f₄区を中心に位置し、これより南西側からは住居跡は確認されず遺物の散布も稀である。

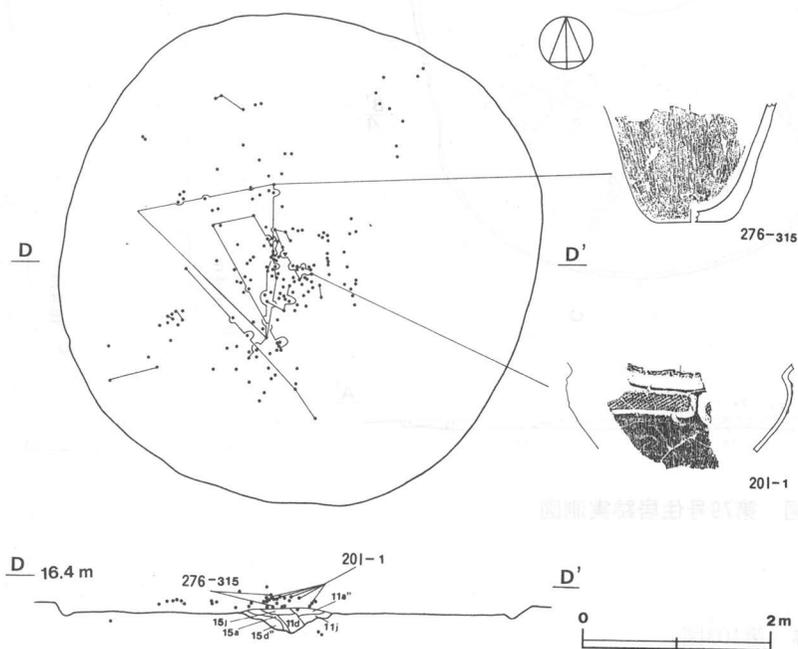
平面形状は、長軸5.22m、短軸5.08mほどの隅丸方形を呈し、長軸方向は、N-26°-Eを指している。壁は、6~10cmほど北側が高く、南側はやや低くなるがほぼ垂直ぎみに立ち上がる。壁



第100図 第78号住居跡実測図

溝は、上幅20~30cm、下幅5~10cmで全周するが、溝内に小穴は確認されていない。北西側にみられるピットは攪乱によるものである。床面は、ほぼ平坦で若干南西へ緩傾斜を示している。炉の周辺は特に硬く踏み固められている。炉は、ほぼ中央に位置し、平面形状は、長径97cm、短径82cmほどの楕円形を呈している。炉底は、19cmほど皿状に掘りくぼめられ、焼土が充満している。特に北側の側面には焼土が多く残存している。柱穴は、10か所確認されている。主柱穴は、P₄・P₆・P₇・P₉でいずれも深さは50~60cmを有し掘り方もしっかりしており、方形に配置されている。出入口は不明である。覆土は、IV層に区分される。中央の遺物や焼土粒子等を混入する3jは、1b・2dを切っており住居埋没後に投棄されたものと思われる。壁ぎわからはローム粒子を多く含む明褐色・褐色土が自然流入的に堆積している。全体的に締まりがある土層である。

遺物は、縄文土器の破片が294点出土している。最も多いのは胴部の小片で259点ある。口縁部は28点、底部は7点である。そのほとんどは覆土3jから検出されている。平面的には、中央付近に多く壁ぎわからは少ない。



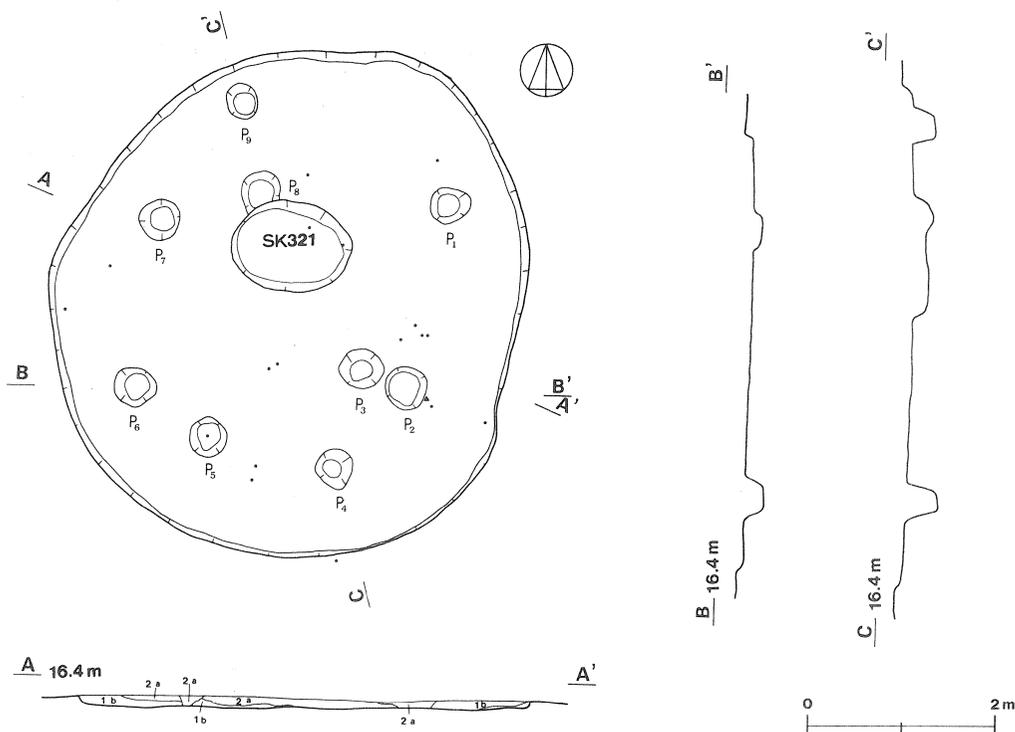
第101図 第78号住居跡遺物出土状態図

第79号住居跡 (第102図)

本跡は、筒戸A遺跡の中央部のK8g₇区を中心に位置し、321号土壌が中央に重複している。平面形状は、長軸5.55m、短軸4.91mほどの隅丸長方形を呈している。長軸方向は、N-30°

—Eを指している。壁は、7～11cmで西、南側は低く外傾ぎみであるが、他はほぼ垂直ぎみに立ち上がる。床面は、ほぼ平坦であるが西側がやや凹状を呈し、全体的にみてそれほど踏み固められてはいない。ほぼ中央に321号土壇が床面を掘り込んでいるが、覆土中から焼土等は確認されず、炉は存在しないものと思われる。柱穴は、9か所確認され、配置的には六角形状を呈するが、P₄・P₅以外はやや軟弱であり、支柱穴も明確ではない。覆土は、II層に区分される。上層には暗褐色土、壁から下層にかけてロームブロックを含む褐色土が堆積し、土質はやや軟質である。

遺物は、ほとんど検出されていない。

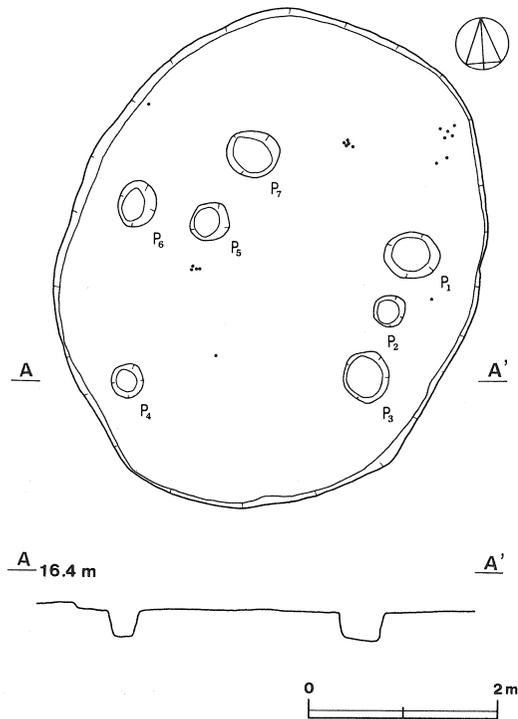


第102図 第79号住居跡実測図

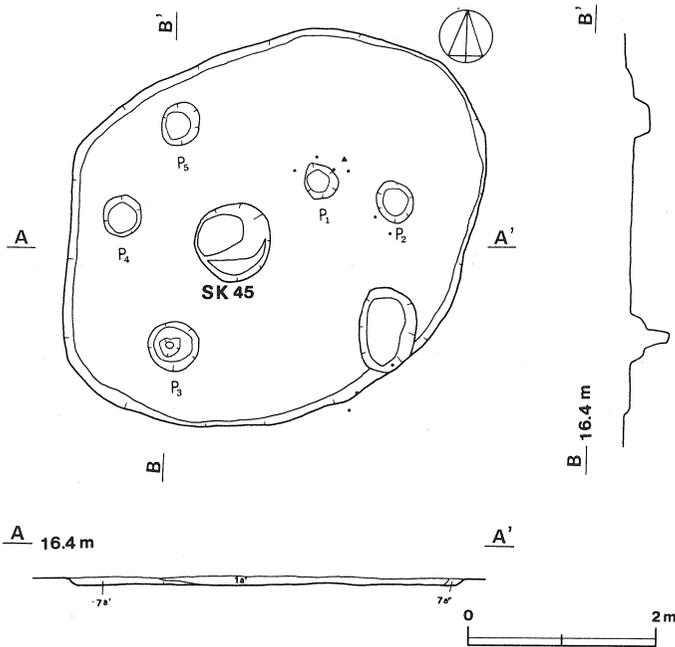
第80号住居跡 (第103図)

本跡は、筒戸A遺跡のほぼ中央部のK8is区を中心に位置し、東側には450号土壇が隣接している。

平面形状は、長軸5.35m、短軸4.7mほどの隅丸長方形を呈している。長軸方向は、N-34°-Eを指している。壁は、わずか4cmほどで、いずれもやや軟弱である。床面は、ほぼ平坦であるが北東にわずかに傾斜を示している。柱穴は、中央付近に7か所確認されるが南、北はやや空地となる。配置は、五角形状を呈するが、掘り方はしっかりしたものは少なく、支柱穴は明確で



第103図 第80号住居跡実測図



第104図 第81号住居跡実測図

ない。炉は、検出されていない。覆土は、II層に区分され、上層はローム粒子を含む褐色土で、下層は粘性のある硬いロームが堆積している。

遺物は、縄文土器の破片が338点、石器の破片が1点出土している。土器片は、胴部の小片が多く320点である。他は、口縁部の小片で底部は出土していない。いずれも北側の覆土中からの出土である。

時期は不明であるが、性格は長期の居住に使われたものではなく、仮小屋ないしは物置的なものと考えられる。

第81号住居跡（第104図）

本跡は、筒戸A遺跡のほぼ中央部のK8i8区を中心に位置し、同じような形態の遺構が周辺にみられる。

平面形状は、長径5.07m、短径4.04mほどの不整楕円形を呈している。長径方向は、N-52.5°-Eを指している。壁は、5~7cmで東、南側がやや低い。壁面は、ほぼ垂直ぎみに立ち上がるがやや軟弱である。床面は、ほぼ平坦で中央に452号土壇、南東には451号土壇が重複している。炉は、検出されていない。柱穴は、5か所確認されているが掘り方は軟弱である。配置は台形状を呈するが支柱穴は明確でない。覆土は、II層に

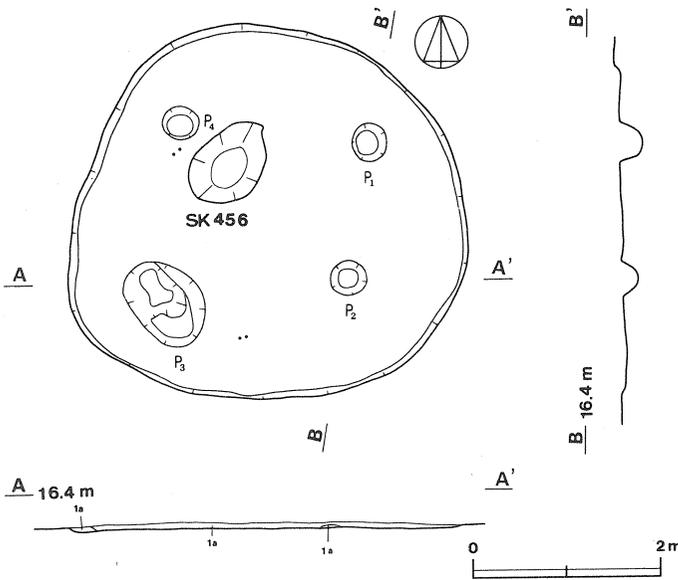
区分され、上層は褐色土で、下層は粘性のあるロームを多く含む黄褐色土が堆積している。
遺物は、ほとんど検出されていない。

第82号住居跡 (第105図)

本跡は、筒戸A遺跡のほぼ中央部のK8i7区を中心に位置し、中央に456号土壌が重複している。
平面形状は、長軸4.13m、短軸4mほどの隅丸方形を呈している。長軸方向は、N-74°-Wを指している。壁は、6~9cmで外傾ぎみに立ち上がりやや軟弱である。床面は、ほぼ平坦であるが南西がやや凹状を呈し、全体的にやや軟弱である。炉は、検出されていない。柱穴は、4か所

確認されているが、P₃は他に比べてかなり大きいため、あるいは攪乱によるものとも考えられる。配置状況は、ほぼ方形を呈している。覆土は、II層に区分されるが、ほとんどは褐色土で北側に暗褐色土が堆積している。

遺物は、ほとんど検出されていない。



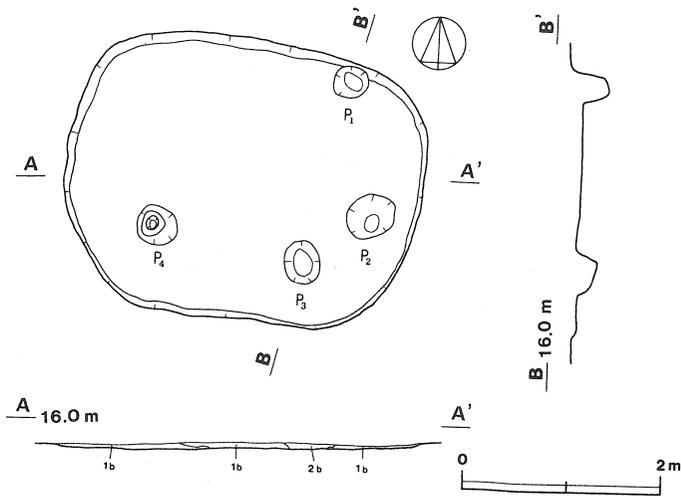
第105図 第82号住居跡実測図

第86号住居跡 (第106図)

本跡は、筒戸A遺跡の南西部のL8c6区を中心に位置し、西側に同形態の87号住居跡が位置している。

平面形状は、長軸3.81m、短軸2.99mほどでやや小型の隅丸長方形を呈している。長軸方向はN-72.5°-Wを指している。壁は、5~11cmで北側の一部を除いては低く、東、西側はわずかに認められるにすぎない。床面は、ほぼ平坦であるがそれほど硬くはない。北西コーナー付近は一部攪乱をうけている。炉は、検出されていない。柱穴は、4か所確認されているが北西側からは検出されず、やや変則的な配置を呈している。覆土は、II層に区分され、いずれも比較的軟らかい褐色土が堆積し、中央からはわずかに炭火物が検出されている。

遺物は、ほとんど検出されていない。



第106図 第86号住居跡実測図

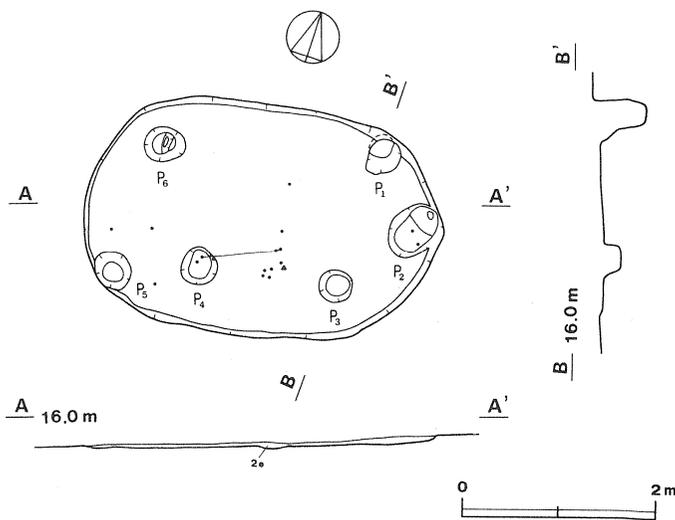
第87号住居跡（第107図）

本跡は、筒戸A遺跡の南西部のL8c5区を中心に位置し、西側には土壌群が位置している。

平面形状は、長軸3.79m、短軸2.49mほどで東、西側がやや張り出す隅丸長方形を呈している。長軸方向は、N-77.5°-Eを指している。壁は、4~8cmで北、東側がやや高いだけで、他はほとんど確認できないほどである。床面は、平坦で硬く南にわずかに傾斜を示している。炉は検出されていない。柱穴は、6か所確認されているがP2は底面が凹凸状をなし、P1・P5は壁に接

している。配置は、ほぼ長方形形状を呈している。主柱穴は明確でない。覆土は、II層に区分され、ロームを多く含む比較的軟らかい土質である。

遺物は、縄文土器の小破片が93点出土しているが、いずれも中央の覆土中から検出されている。



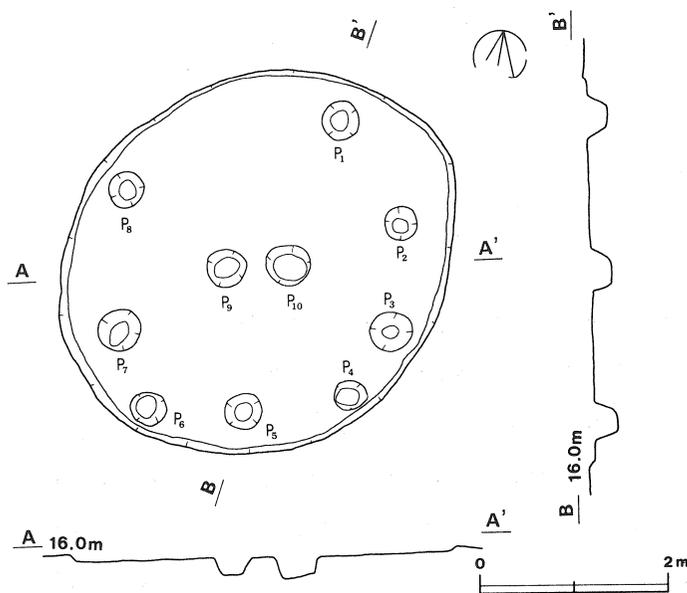
第107図 第87号住居跡実測図

第88号住居跡（第108図）

本跡は、筒戸A遺跡の南西部のL8e6区を中心に位置し、地形的には北東側へ傾斜を示している。

平面形状は、長径4.54m、短径3.88mほどの楕円形状を呈している。長径方向は、N-47°-Eを指している。壁は、5~7cmで外傾ぎみに立ち上がる。床面は、ほぼ平坦であるがやや軟弱である。中央のP₉・P₁₀の南東側には長方形の攪乱がみられる。炉は、検出されていない。柱穴は、中央に2か所、壁ぎわに沿って8か所確認されている。支柱穴は、明確ではないが中央のP₉・P₁₀

が考えられる。出入口は、柱穴の配置をみるとP₁とP₈の間が広がりをもつため、あるいは出入口と考えられるが明確ではない。覆土は、II層に区分されるが、いずれも褐色土で、壁際にはロームブロックが比較的多く認められる。遺物は、ほとんど検出されていない。



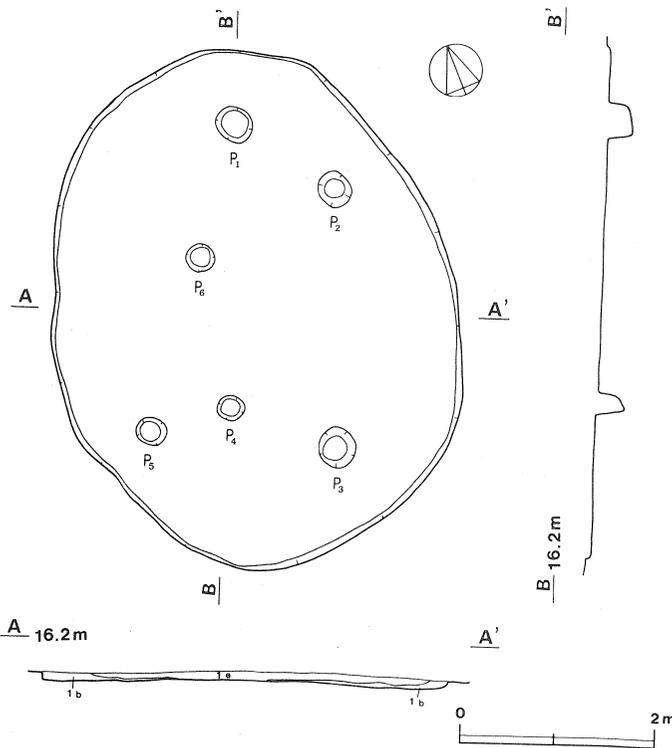
第108図 第88号住居跡実測図

第89号住居跡（第109図）

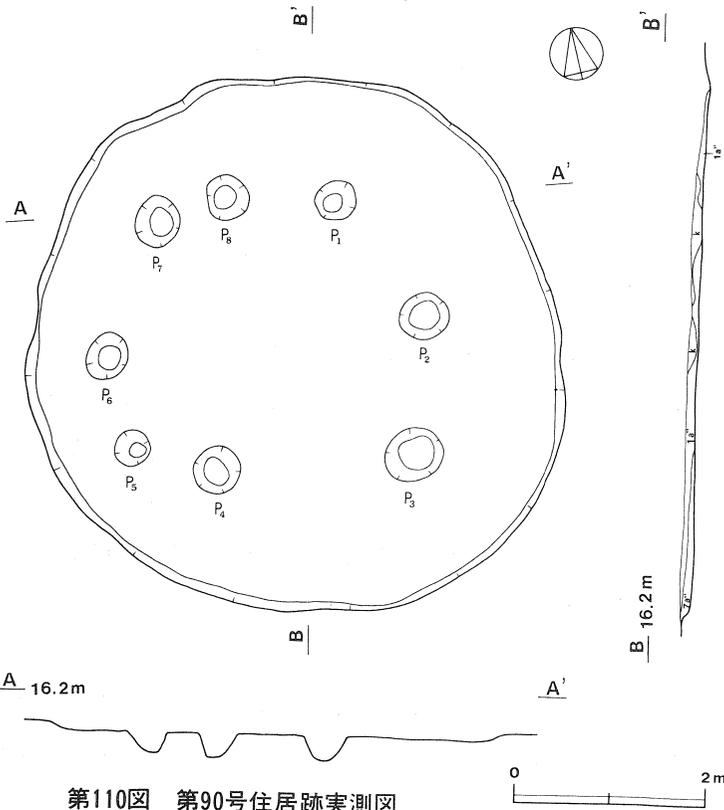
本跡は、筒戸A遺跡の南西部のL8h4区に位置し、東側に491号土壌が隣接している。

平面形状は、長軸5.57m、短軸4.33mほどで、やや不整形だが隅丸長方形を呈する。長軸方向は、N-9.5°-Eを指している。壁は、3~6cmで垂直ぎみに立ち上がる。床面は、ほぼ平坦であるが、北西がやや低い凹状を呈している。炉は検出されなかった。柱穴は、6か所確認され、配置は長方形を呈している。支柱穴は明確ではない。覆土は、II層に区分され、いずれもロームを含む褐色土である。

遺物は、ほとんど検出されていない。



第109図 第89号住居跡実測図



第110図 第90号住居跡実測図

第90号住居跡（第110図）

本跡は、筒戸A遺跡の南西部のL8i5区に位置し、北東側は傾斜し低い凹状の地形となっている。

平面形状は、長軸6.01m、短軸5.69mほどの隅丸方形を呈している。長軸方向は、N-19°-Eを指している。壁は、10~12cmで東と北側の一部がやや低く、壁面は外傾ぎみに立ち上がりやや軟弱である。

床面は、ほぼ平坦でそれほど硬くなく、わずかに北側へ傾斜している。

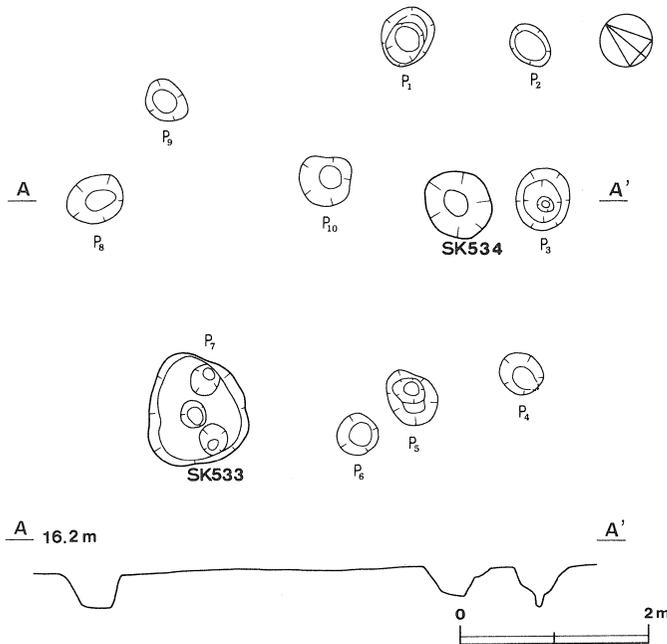
炉は、確認されていないが南西側から少量の焼土が検出されている。柱穴は、8か所確認されているがいずれも掘り方が大きくやや軟弱であり、主柱穴を明確にすることはできない。覆土は、II層に区分され上層は褐色土で、下層はローム粒子を多く含む黄褐色土が、南側から北側へ自然流入的に堆積している。

遺物は、検出されていない。

第92号住居跡（第111図）

本跡は、筒戸B遺跡の南端部のM9j₃区に位置し、西側に533号土壌、中央から南側寄りに534号土壌が重複している。

遺構の掘り込みが浅いため、壁は残存せず柱穴のみ確認された遺構である。床面は、ほぼ平坦



第111図 第92号住居跡実測図

であるが広がり是不明である。炉は、検出されていない。柱穴は、10か所ほど確認されているが掘り方はやや軟弱である。配置は、中央にP₁₀が位置し、それをほぼ方形状にとり囲んでいる。主柱穴は、明確でない。土壌は、覆土や床面の状況から本跡より新しいものである。攪乱によるものと考えられる。覆土は、確認されていない。

遺物は、検出されていない。

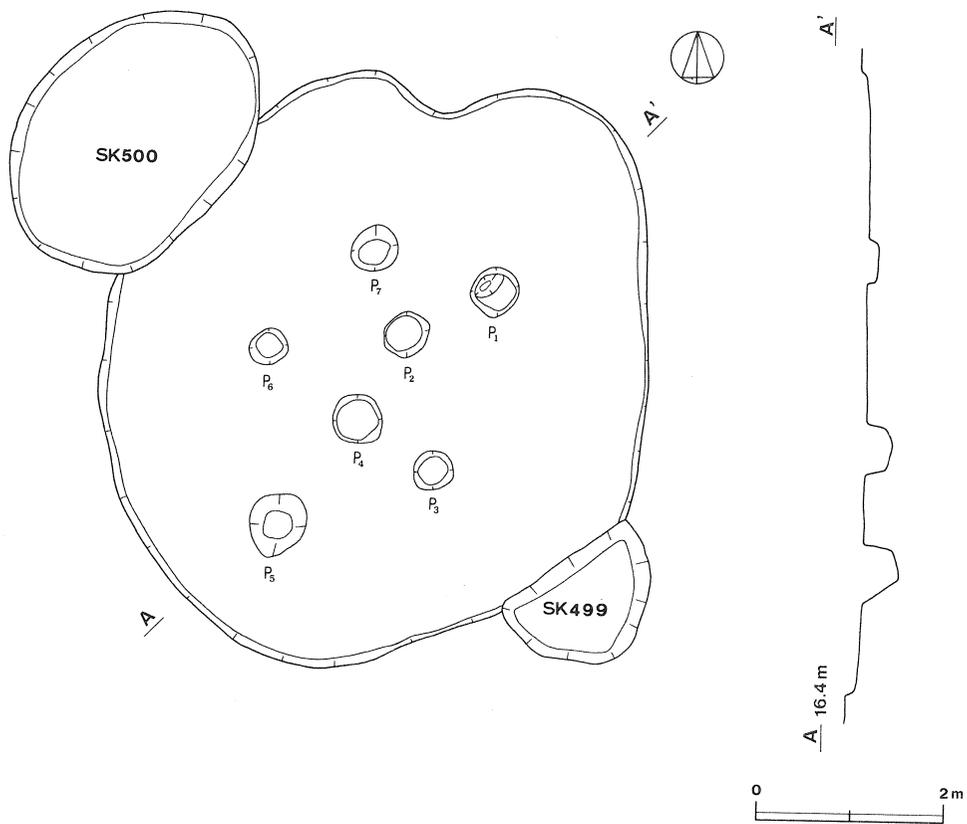
第93号住居跡（第112図）

本跡は、筒戸A遺跡の南西端部のM7d₀区を中心に位置し、これより以南には遺構は確認されていない。

平面形状は、長径6.75m、短径5.2mほどの不整形を呈している。長径方向は、N-41°-Eを指している。壁は、7~16cmで南西側がやや高いが他は全体に低い。壁面は軟弱で外傾して立ち上がる。床面は、ほぼ平坦で硬いが、壁がやや不明瞭であるため広がりは現況よりもやや狭くなると考えられる。炉は、検出されていない。柱穴は、中央に2か所、その回りに5か所ほどが五角形に配置されている。覆土は、II層に区分される。上層は砂混じりの締まりのある暗褐色土で、壁ぎわからの下層はロームブロックを混入する褐色土が堆積している。

遺物は、ほとんど検出されていない。

時期は不明であるが、性格は、一般的な日常生活が営まれた痕跡は認められず、物置的なものかと考えられる。同様に中央に2か所の柱穴がみられるものとしては61号住居跡・88号住居跡があげられる。

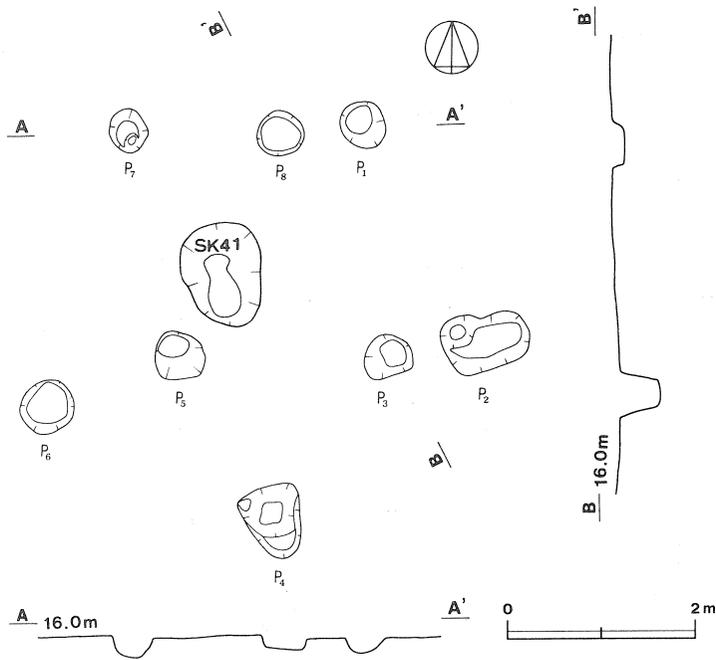


第112図 第93号住居跡実測図

第94号住居跡（第113図）

本跡は、筒戸B遺跡の南端部のM9j₉区を中心に位置し、中央に41号土壙が重複している。掘り込みが浅いため、規模、形状等は不明である。壁は確認されず、床面の状況も不明瞭である。中央に41号土壙が重複しているが覆土中から焼土等は確認されず、炉は存在しなかったものと考えられる。柱穴は、8か所ほど確認されている。位置的には、中央のP₅を中心に、五角形状に配置されているが、中央の41号土壙によって柱穴が壊されていることも考えられる。もし中央に柱穴が2か所認められれば、61・88・93号住居跡と同様な形態と考えられる。覆土は検出されていない。

遺物は、検出されていない。



第113図 第94号住居跡実測図

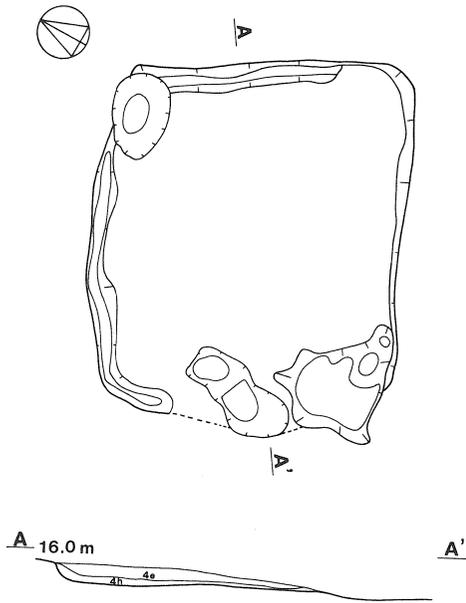
2 平安時代

第10号住居跡（第114図）

本跡は、筒戸B遺跡の西部のやや微高地となるL10a₁区に位置し、北側に9号住居跡が重複し、南側はややゆるい傾斜地となり住居跡の遺存状況は良くない。

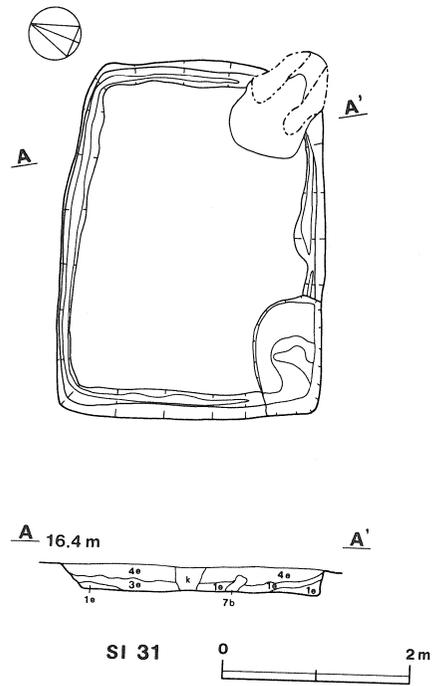
平面形状は、長軸3.98m、短軸3.28mほどの長方形を呈し、床面積は約10m²である。長軸方向は、N-67°-Eを指している。壁は、北側で24cm、東側で20cmであるが、南西側は緩傾斜地となるためほとんど確認できない。壁溝は、上幅17~24cm、下幅10cm内外で、南・西側を除き北西コーナーから南東側にかけて確認された。北東コーナーは攪乱をうけ不明である。床面は、平坦で中央付近は硬く踏み固められている。カマドは、南西コーナー部に位置しているが、大部分攪乱をうけわずかに焼土が残存しているにすぎなかった。柱穴は、確認されていない。P₄は9号住居跡の柱穴で、北東コーナー部及び西壁の凹地は、攪乱によるものである。覆土は、II層の黒色土に区分けされる。上層からは多くの炭化物が検出され、火災にあったことも考えられる。

遺物は、覆土中に縄文土器片が検出されているが、これは9号住居跡のものであろう。床面及びカマドから少量の須恵器の坏片が検出されている。



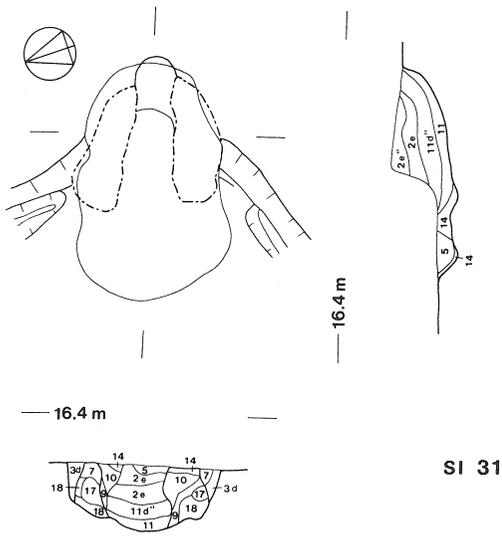
SI 10

第114図 第10号住居跡実測図



SI 31

第115図 第31号住居跡実測図



SI 31

第116図 第31号住居跡カマド実測図

第31号住居跡（第115・116図）

本跡は、筒戸B遺跡の北西部のJ10h₅区を中心に位置し、北側に重複する縄文時代の32号住居跡の南側を切って所在する。

平面形状は、長軸3.85m、短軸2.82mほどの長方形を呈し、床面積は約9㎡である。長軸方向は、N-69°-Eを指している。なお、南東コーナーにカマドがみられる。壁は、25~32cmで南側が低く、東、西側が高い。壁溝は、上幅10~30cm、下幅8~12cmで南東のカマドを除いて回っているが、南コーナー部分は攪乱をうけ不明瞭である。床面は、平坦で硬く踏みかためられている。柱穴は確認されていない。床面の北側にみられるP₂は32号住居跡の柱穴と考えられる。カマドは、南東コーナー部に位置し、全長134cm、幅80cm、焚口部幅33cmで、壁外へ33cm掘り込まれている。袖部は砂質粘土にロームを加えて築かれているが、焚口部が一部攪乱をうけているため残存するのはわずかである。焼成部は、床面より若干低くゆるやかに奥壁部へ続き煙道となる。覆土は、III層に区分される。上層は黒色土で下層は黒褐色土とともに少量の炭化物を含んでいる。壁ぎわには褐色土がみられ、これは壁の崩落と考えられる。

遺物は、極少量の須恵器の坏片がカマドの周辺から出土したのみである。

表 2 住居跡一覧表 (縄文時代)

住居番号	位置	方向	平面形	規模		柱	穴	炉	覆土	遺物出土状況	時期	備考
				長さ×短径(m)	壁高(cm)							
SI 1	M10i4					21	楕円形	100×90			(II期)	M1より古い。
SI 2	M10h3					11	不明 (六角形)					中央にピット。
SI 3	M10i1					10	(4) 方形					南壁をS K75が切る。
SI 4	L11b1	N-39°-W	楕円形	6.44×5.27	3~5	10~12	4 台形	145×107	N	炉の北、西覆土中から出土		
SI 5	L10e7	N-5.5°-E	円形	6.38×6.32	10~24	17	6 六角形	112×73	N	覆土中央に多く採集	I期	西壁をS K122が切る。
SI 6	L10c7	N-23°-E	隅丸方形	6.7×6.11	16~20	14	4 台形	100×83	N	覆土中央上層から出土	II期	炉内埋設土器。
SI 7	L10a5	N-50.5°-E	隅丸長方形	6.25×5.4	10~18	11	4~8 方形	80.4×78	(N)	覆土中央上層から多く出土	V期	S K121が切る。
SI 8	L10j1	N-74°-W	(隅丸長方形)	(5.2×4.2)	6~21	19~21	6 六角形	145×100	N	覆土上層から出土	(I期)	屋外にピット回る。
SI 9	K9j0	N-19°-W	(楕円形)	5×4.9	10~30	15	4~6 六角形	120×110	(N)	覆土中央上層から多く出土	IV期	炉2か所。 建てる様えか。
SI 11	M11a9					8	4~6 長方形	70×50				中央に2か所のピット。
SI 12	K10h1	N-40°-E	隅丸方形	5.32×4.9	6~9	10	(4) 長方形	70.8×50.9	N	炉内から少量出土		
SI 13	L9b5					9	多角形	100×70				
SI 14	L9f2	N-20°-E	円形	7.44×7.04	5~9	10	4~6 五角形	150×80.7		炉付近から少量出土	III期	
SI 15	K9e0	N-35°-E	(楕円形)	(6.5×6.0)	10~28	13	6 六角形	110×60	N	中央付近から多く出土	III期	
SI 16	K10c5	N-43°-W	楕円形	5.33×5.2	5~10	9	4 長方形	100×90.6	(N)	中央付近から多く出土	II期	南側に埋築。
SI 17	K10e6	N-38°-E	円形	6.27×6.0	8~14	15	5 台形	150×110	N	中央付近から多く出土	V期	
SI 18	K11h1	N-33°-E	隅丸方形	6.84×5.56	4~9	12	4 方形	110×75	N	炉の西側に多く出土	III期	東側に掘りすぎ。
SI 19	K10a7	N-23°-W	円形	5.54×5.32	21~25	13	6 六角形	105×88	(N)	石組み、炉内埋設土器出土	II期	黒色土版化物が多く火炎か。
SI 20	K10j9	N-13°-E	隅丸方形	5.88×5.69	7~12	15	4 方形	135×100	N	炉中央付近の覆土中から多く出土	V期	たご型土器がP15から出土。
SI 21	K9a3					12~18	4~6 長方形	62×55	N			SI 22に切られる。
SI 22	K10b3	N-75.5°-W	隅丸方形	6.9×6.4	5~10	13	4~6 方形状	75×60	N			
SI 23	M9g6					12	方形状	70×60	N			

住居番号	位置	方向	平面形	規模		柱	穴		竈	覆土	遺物出土状況	時期	備考
				長径×短径(m)	壁高(cm)		面積(m ²)	柱数					
SI 24	L11i6					4~6	4	長方形			普	II期	25、26号住居跡に切られる。
SI 25	L11i5					10	6~8	楕円形	120×110		多		24号住居跡より新しい。
SI 26	L11i5					8	6~8	六角形	102×80		多		24号住居跡より新しい。
SI 27	L11b6	N-50°-E	隅丸方形	5.45×4.92	12~20	15.56	4	方形	80×50	(A)	多	IV期	
SI 28	L11c4		円形	3×3	80~100	4.08	4~18	(1)	38×30		多	II期	
SI 29	J10i9	N-43°-W	円形	5.78×5.28	6~10	15.64	10	長方形状	111×80	N	多		
SI 30	J10e0	N-13°-W	隅丸長方形	6.23×5.66	16~20	19.04	8	六角形状	150×110	N	多	(II期)	
SI 32	J10h4	N-68°-E	隅丸方形	5.2×4.6	15	9.92	7	長方形	150×70	N	多	(III期)	SI 31に切られる。
SI 33	J10f8	N-84°-W	隅丸方形	5.72×5.18	15~25	17.16	15	六角形	130×100	N	普	(III期)	拡張された可能性もある。
SI 34	J11h3	N-25°-E	円形	4.5×4.3	12~14	13.20	6	六角形	70×60	N	普		壁外にピットが所在。
SI 36	J11g3	N-35°-E	楕円形	5.76×5	6~9	15.92	13	多角形	70×40	N	少	IV期	SI 34を切る。
SI 40	J10i2	N-64°-E	隅丸方形	5.8×5.38	15	14.28	18	六角形	110×90	(A)	少	II期	建て替え、拡張が行われたか。
SI 41	J10f2		円形	5.2×5.1	8~15	11.28	21	楕円形	78×66	N	少	(II期)	柱穴が二重にめぐる。
SI 42	K9j4	N-35°-W	円形	6.4×6.2	17~30	21.56	26	多角形	70×60	(A)	少	IV期	建て替え、拡張2~3回。
SI 43	K9h2	N-41°-W	楕円形	5.65×5.0	30~34	16.04	16~19	方形	92×77	(N)	多	(II期)	方形の主柱穴をとりまく柱穴。
SI 44	K9g3				30~34		6	六角形	70×54 90×54	(A)	多	II期	炉内埋設土器。
SI 45	K9g1	N-50°-E	楕円形	6.65×5.5	20	22.92	10	六角形	150×120	(A)	多	I期	炉内埋設土器。
SI 46	K9d1	N-90°-W	円形	6.07×5.7	8~10	24.00	11	方形	119×95	N	少		
SI 47	K9b4	N-35°-E	(隅丸方形)	5.5×4.9	2~8	16.68	5~6	台形	90×82	N	少		
SI 48	K9e5						4	方形	60×50	N	少	(II期)	SI 49を切る。
SI 49	K9e6						4	方形	60×50	N	少		
SI 50	K9e7	N-34°-E	円形	6.5×5.5	24~36	14.20	13	六角形	60×50 96×70 70×60	N	少	II期	拡張も考えられる。
SI 51	K9d5						10	楕円形	75×71	N	少		

住居番号	位置	方向	平面形	規模		柱	穴	炉		覆土	遺物出土状況	時期	備考		
				長径×短径(m)	壁高(m)			面積(m ²)	総数					主柱	配置形
SI 52A	K 9 b 8	N-39°-W	円形	5.05×4.95	10~14	15.34	12	4	六角形	94×73	普	N	覆土中から少量出土	II期	SI 52-Bに切られる。
SI 52B	K 9 c 8	N-9°-E	隅丸長方形	6.1×6.0	6	18~20	18~20		方形	110×100	多	N	覆土中から少量出土	IV期	柱穴が二重にめぐる。
SI 53	J 9 j 9					8~10	6		多角形	89×78	普				
SI 54	J 9 j 9					6	6		長方形	80×40	少				
SI 55	J 9 i 9						6		方形	70×60	普				
SI 56	K 9 a 7	N-11°-W	円形	4.28×3.93	10~19	9.26	8	6	六角形	84×74	普	N	中央に集中して出土	(II期)	
SI 57	J 9 j 7						17		方形		普	N		II期	炉内埋設土器。
SI 58	J 9 h 6	N-57°-W	楕円形	4.66×3.61	5~6	10.90	7	4	長方形	60×50	普	N	柱中から出土	II期	平面形は隅丸長方形に近い。
SI 59	J 8 j 9						10	4	長方形		普	N			
SI 60	J 8 j 6	N-21°-W	楕円形	5.53×5.17	15	19.68	5	3	長方形		普	N	覆土中から少量出土		
SI 61	J 8 h 4	N-88.5°-E	楕円形	6.12×5.84	6~20	23.80	10	4	楕円形		多	N	覆土中から少量出土		
SI 62	J 8 i 4	N-82.5°-W	隅丸長方形	5.32×3.7	4~17	15.48	11		長方形	100×90	多	N	覆土中から少量出土		
SI 63	K 8 b 0	N-60°-E	隅丸方形	4.86×4.74	4~10	13.44	10	6~7	六角形	111×80	多	N	床中央の覆土中から出土	V期	
SI 64	K 8 b 7						13	4	長方形	90×71	普				
SI 65	K 8 d 9	N-30°-E	円形	4.26×4.1	7~10	10.62	11	4	多角形	80×61	少	N	床中央から北西にかけての覆土中		
SI 66	K 8 f 9	N-50°-E	隅丸方形	5.2×5.0	10~12	12.76	4	4	長方形		普	N	覆土中から少量出土		SI 77を切りSK 418に切られる。
SI 67	K 8 e 8	N-74°-E	円形	5.4×4.9	15~18	17.68	9		多角形		多	N			
SI 68	K 8 e 7	N-75°-E	楕円形	5.48×4.8	23~28	12.34	18	4	方形	81×80	多	(A)	中央の覆土中に集中して出土	I期	
SI 69	K 8 e 2	N-47°-E	円形	5.58×5.18	10~14	16.40	11	4	方形	120×80	多	N	中央の覆土中に集中して出土		
SI 70	K 8 b 3	N-73°-W	円形	4.74×4.40	7~9	12.60	9		多角形		多	N			SK 438に切られる。
SI 71	K 8 d 1	N-40°-W	楕円形	5.07×4.94	6~9	18.74	7		(長方形)		多	N			
SI 72	K 8 c 3	N-74°-E	円形	5.48×5.1	7~17	19.78	10	4	方形	90×80	多	N	中央の覆土中から出土	II期	炉内埋設土器。
SI 73	K 8 d 5	N-41°-W	円形	5.11×5.09	8~11	14.36	13	4	長方形	120×81	多	N	中央の覆土中から出土	(II期)	SI 74に切られる。
SI 74	K 8 d 6	N-65°-E	円形	4.85×4.76	10~15	11.94	14	4	長方形	111×108	少	N	中央の覆土中から出土	II期	炉内埋設土器。

住居番号	位置	方	向	平面形	模			柱	穴	炉		遺物出土・状況	時期	備考	
					規	壁高(m)	面積(m ²)			規 模 (m)	焼土量				覆土
					長径×短径(m)		総数	配置形	主柱	規 模 (m)	焼土量				
SI 75	K 8 d ₃	N	-72°-E	円形	4.64×4.42	7~11	8	六角形状	7			N	床中央の覆土中から出土	II期	SK201に切られる。
SI 76	K 8 e ₂						6	六角形状				N	床中央の覆土中から出土	III期	
SI 77	K 8 g ₉	N	-42°-E	楕円形	5.94×5.64	16~23	7	方形	4	102×70	多	N			
SI 78	K 8 f ₄	N	-26°-E	隅丸方形	5.22×5.08	6~10	10	方形	4	97×82	多	A			
SI 79	K 8 g ₇	N	-30°-E	楕円形	5.55×4.91	7~11	9	六角形状	6			N	覆土中から出土		SK321に切られる。
SI 80	K 8 i ₉	N	-34°-E	楕円形	5.35×4.7	4	127	五角形状	4~5			N			
SI 81	K 8 i ₈	N	-52.5°-E	楕円形	5.07×4.04	5~7	5	台形状				N	覆土中から出土		
SI 82	K 8 i ₇	N	-74°-W	隅丸方形	4.13×4	6~9	4	方形	4			N	覆土中から出土		S K456に切られる。
SI 86	L 8 c ₆	N	-72.5°-W	隅丸長方形	3.81×2.99	5~11	4	(台形)	4			N	覆土中から出土		
SI 87	L 8 c ₅	N	-77.5°-E	隅丸長方形	3.79×2.49	4~8	6	長方形				N	覆土中から出土		
SI 88	L 8 e ₆	N	-47°-E	円形状	4.54×3.88	5~7	10	多角形	2			N			中央に2本の柱穴。
SI 89	L 8 h ₄	N	-9.5°-E	楕円形	5.57×4.33	3~6	6	長方形	4			N			
SI 90	L 8 i ₅	N	-19°-E	円形	6.01×5.69	10~12	8	多角形				N			中央に柱穴2本。
SI 92	M 9 j ₃						10	方形	(4)			N			中央に柱穴2本。
SI 93	M 7 d ₀	N	-41°-E	不整形	6.75×5.2	7~16	7	五角形状	5			N			
SI 94	M 9 j ₉						8	五角形状	5			N			

住居跡一覧表 (平安時代)

住居番号	位置	方	向	平面形	模			柱	穴	炉		遺物出土・状況	時期	備考	
					規	壁高(m)	面積(m ²)			規 模 (m)	焼土量				覆土
					長径×短径(m)		総数	配置形	主柱	規 模 (m)	焼土量				
SI 10	L10a ₁	N	-67°-E	長方形	3.98×3.28	20~24				123×116	少	N	カマドから須恵器片出土		SI 9を切る。
SI 31	J10b ₅	N	-69°-E	長方形	3.85×2.82	25~32				134×80	多	N	カマドから須恵器片出土		SI 32を切る。

第3節 土 壙

表3 土壙分類一覽表

I 類 (円形)

土壙番号	位置	方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK 15	M10g ⁰		円形	1.13×0.98	11~22	II	3	A	Ib2a		
SK 24	M11j ⁴		円形	1.00×0.97	22	II	2	N	Ib2a		
SK 25	M11j ⁴		円形	0.84×0.84	23~28	II	1	N	Ia2a		
SK 86	M9a ⁰		円形	1.28×1.26	16	II	1	(A)	Ib2a	覆土上層土器35点	
SK 106	K9g ⁷		円形	2.90×2.6	27~54	III	1	N	Ic3a	覆土中土器片131点 石器1点	
SK 108	K10f ¹		円形	2.38×2.34	74	III	1	N	Ic3b	覆土上層土器片181点	
SK 110	K10e ²		円形	2.55×2.15	42~64	III	1'	N	Ic3a	覆土中土器片3点	
SK 127	K9d ⁰		円形	2.30×2.25	46	III	1	(N)	Ic3a	覆土中土器片83点 石1点	} S115と重複する。
SK 128	K9e ⁸		円形	2.42×2.3	71~90	III	1	N	Ic3b	覆土中土器片101点 石1点	
SK 153	J10f ⁴		円形	1.15×1.15	72	III	1	N	Ib3b		
SK 160	J10d ⁶		円形	1.07×1.00	13~18	I	1	(N)	Ib1a	覆土中土器片6点 石1点	
SK 176	J11i ¹		円形	1.07×0.97	14~17	II	1'	N	Ib2a		覆土は軟質である。
SK 201	J11f ⁴		円形	1.35×1.33	10	II	1	N	Ib2a		
SK 215	J10i ³		円形	1.32×1.40	18	II	1	N	Ib2a		
SK 219	J10h ⁴		円形	0.42×0.40	34	III	1	A	Ia3a	覆土中土器片1点	S132を切る。
SK 220	J10g ⁴		円形	0.95×0.95	14	II	1'	(A)	Ia2a	覆土上層土器片7点	
SK 229	J10g ³		円形	1.22×0.95	23	II	1	N	Ib2a	覆土中土器片1点	
SK 230	J10h ²		円形	1.50×1.45	16	II	1	N	Ib2a		
SK 232	J10h ³		円形	1.05×1.10	23	II	1	N	Ib2a		中央は1部攪乱。
SK 236	J10f ³		円形	1.10×1.10	15	I	1	N	Ib1a		
SK 252	J10f ¹		円形	1.30×1.15	12~18	I	1	N	Ib1a	覆土中土器片1点	
SK 293	K9d ³		円形	0.80×0.70	30	I	2	A	Ia1a		
SK 304	K9f ⁵		円形	0.90×0.90	44	III	1	A	Ia3a	覆土中土器片24点	S149を切るか。
SK 337	J9f ²		円形	1.25×1.15	63	III	1	N	Ib3b		
SK 357	K9a ³		円形	0.79×0.77	35	III	1	(A)	Ia3a		
SK 358	K9a ³		円形	0.84×0.77	42	II	1	(A)	Ia2a		S147を切る。
SK 382-1	J8b ⁵		円形	0.86×0.78	34	II	2	(N)	Ib2a	覆土中土器片20点	攪乱。

土壌番号	位置	方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK382-2	J 8 b ₅		円形	0.78×0.75	34	II	2	(N)	Ib2a		攪乱。
SK 397	J 8 h ₄		円形	0.94×0.86	20	II	1	N	Ia2a	覆土下層土器片 8点	S161を切る。
SK 409	K 8 b ₉		円形	1.22×-	15	I	2	N	Ib1a		
SK 418	K 8 f ₀		円形	2.32×2.24	71~145	III	1	A	Ic3b	覆土中土器片297点	S166を切る。
SK 452	K 8 i ₈		円形	0.82×0.79	36	II	1'	N	Ia2a	覆土中土器片13点	S181を切る。
SK 458	K 8 j ₁		円形	1.41×1.37	22	II	1	N	Ib2a	覆土中土器片 2点	
SK 459	K 7 i ₈		円形	1.73×1.59	22	II	1	N	Ib2a	覆土中土器片 6点	
SK 464	L 8 a ₇		円形	1.19×1.15	18	II	1	N	Ib2a		
SK 477	L 8 c ₁		円形	1.39×1.25	18	II	1	N	Ib2a		
SK 481	L 8 c ₃		円形	1.52×1.50	5	I	1	N	Ib1a		
SK 483	L 8 d ₁		円形	1.42×1.33	12	II	1	N	Ib2a		
SK 502	L 7 c ₀		円形	1.24×1.32	20~35	II	1	(N)	Ib2a		ピットは新しい。

II 類 (楕円形)

土壌番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK 1	N10d ₈	N-70°-W	長楕円形	1.80×0.92	10~15	I	2	N	IIb1a		
SK 2	N10b ₈	N-48°-W	長楕円形	2.28×1.23	25	II	3	(N)	IIc2a		P1は攪乱。
SK 3	N10a ₉	N-87°-E	楕円形	0.86×0.70	42	I	2	(N)	IIa1a		
SK 4	N11a ₃	N-68°-E	長楕円形	3.10×2.10	26~42	I	1'	N	IIc1a		
SK 5	N11c ₄	N-73°-E	楕円形	0.98×0.78	29~32	II	3	(N)	IIa2a		
SK 12	M10f ₉	N-80°-W	長楕円形	1.82×0.95	12	I	3	(A)	IIb1a		
SK 20-A	M11i ₂	N-39°-E	長楕円形	(1.24)×0.75	12	I	1	N	IIb1a		床中央の凹みは攪乱。
SK 23	M11i ₄	N-24°-W	楕円形	0.9×0.78	24	II	1	N	IIa2a		
SK 26	M11f ₂	N-80°-E	楕円形	1.0×0.62	18~20	I	2	N	IIb1a		
SK 27	M11f ₂	N-16°-E	長楕円形	2.38×0.9	18	I	1	A	IIc1a		
SK 28-A	M10h ₇	N-38°-W	長楕円形	(4.2)×2.4		I	1	N	IIc1a	覆土中土器片16点	
SK 28-B	M10h ₇	N-28°-E	長楕円形	2.56×1.56		I	1	N	IIb1a		
SK 29	M11f ₁	N-27°-W	楕円形状	1.74×1.06	26	II	1'	(N)	IIb2a		
SK 33	M10i ₆	N-40°-E	楕円形	1.67×0.90	8~30	I	1	N	IIb1a		
SK 34	M10c ₆	N-44°-E	不整楕円形	1.68×1.04	20~25	II	1	N	IIb2a		凹みは新しい掘り込み。
SK 39	N10e ₉	N-23°-W	(長楕円形)	3.13×0.82	15~17	I	1	N	IIb1a		

土壌番号	位置	方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK 49	M10i5	N-9°-W	楕円形	1.62×1.50	16	II	1'	(N)	IIb2a		ビットは新しい攪乱。
SK 54	M10g3	N-88°-E	長楕円形	1.34×0.78	(8~3)	II	1	(N)	IIb2a		
SK 59	M10i2	N-86°-E	楕円形	1.67×1.20	24~36	II	4	N	IIb2a		南東壁のビットは新しいか。
SK 66	M10a9	N-80°-E	長楕円形	1.17×0.64	30~90	II	5	(N)	IIb2b	覆土中土器片5点	南壁のビットはSI11のもの。
SK 67	M10b0	N-90°-E	長楕円形	0.95×0.6	30	II	3	(N)	IIa2a	覆土上層土器片3点	
SK 70	L11h7	N-42°-E	長楕円形	1.59×0.84	23	II	4	N	IIb2a		
SK 76	L11h5	N-33°-W	楕円形	1.21×0.86	13	I	1	N	IIb1a	覆土上層土器片7点	覆土やや軟質。
SK 78	K12h2	N-47°-W	不整楕円形	1.38×0.79	23	I	1'	N	IIb1a	覆土中土器片3点	一部に攪乱が入る。
SK 79	K12i2	N-47°-E	楕円形	1.84×1.49	150	III	1	N	IIb3b		円筒状。
SK 81	M9j5	N-73°-W	楕円形	1.46×1.00	14	I	3	A	IIb1a	覆土上層土器片2点	
SK 82	M9h8	N-50°-E	長楕円形	1.27×0.71	19~42	II	2	(A)	IIb2a		
SK 99	L9j0	N-69°-E	不定楕円形	1.37×0.73	12	II	2	N	IIb2a		
SK 101	L9g0	N-40°-E	長楕円形	2.1×0.98	18~44	II	3'	N	IIc2a		
SK 102	L9g6	N-45°-W	楕円形	1.55×1.2	6~33	II	3	N	IIb2a		
SK 103	L9c8	N-79°-E	楕円形	1.50×1.35	11~30	II	1'	(N)	IIb2a		
SK 104	L9b7	N-33°-E	楕円形	1.08×0.64	7~38	II	1	N	IIb2a	覆土中土器片3点	
SK 116	L10a8	N-25°-E	楕円形	2.60×2.11	11~26	II	1	(A)	IIc2a	覆土上層土器片119点	
SK 119	M9c2	N-90°-W	(楕円形)	0.62×0.55	23	II	3	(N)	IIa2a		
SK 121	L10a4	N-61°-W	楕円形	1.18×0.77	15~26	II	3'	N	IIb2a		
SK 122	L10d6	N-77°-W	(楕円形)	0.33×0.31	22~28	II	2	N	IIa2a		
SK 132	K10c7	N-30°-E	(楕円形)	1.75×1.47	25	II	1	(A)	IIb2a	覆土上層土器片11点	
SK 133	K10c7	N-70°-E	楕円形	1.11×0.84	10~19	I	2	A	IIb1a		
SK 134	K10c7	N-42°-W	長楕円形	2.52×1.06	11~32	I	1'	N	IIc1a	覆土上層土器片4点	
SK 135	K10c7	N-89°-E	楕円形	0.86×0.69	17	I	1'	(N)	IIa1a		
SK 150	J10e9	N-46°-E	楕円形	1.88×1.72	22~30	II	2	N	IIb2a	覆土中土器片3点	
SK 152	J10h6	N-42°-W	楕円形	2.12×1.29	22	II	1	(N)	IIc2a		
SK 158	J10d7	N-46°-W	不整楕円形	1.72×1.24	7~16	I	1'	N	IIb1a	覆土中土器片6点	ビットは攪乱か。
SK 159	J10d7	N-70°-W	楕円形	1.36×1.09	9~14	II	1'	N	IIb2a		ビットは攪乱か。
SK 161	J10f4	N-1°-W	楕円形	1.75×1.48	16~20	I	1		IIb1a	覆土中土器片9点	
SK 166	J11j4	N-44°-W	楕円形	1.27×1.13	15	II	1	(N)	IIb2a	覆土中土器片11点	
SK 170	J10h0	N-68°-E	長楕円形	3.48×1.78	14~19	II	1	A	IIc2a		SI30を切る。

土壌番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK 171	J10e0	N-12°-E	楕円形	1.72×1.26	15~20	II	1	(N)	IIb2a	覆土中土器片16点	
SK 181	J11d1	N-15°-E	楕円形	1.45×1.19	8	I	1	(N)	IIb1a		
SK 183	J11f3	N-3°-E	楕円形	1.94×1.61	8	I	1	N	IIb1a		ビットは新しい。
SK 186	J11i5	N-87°-W	楕円形	1.70×1.40	13~20	II	1	N	IIb2a		
SK 192	J11f6	N-63°-W	楕円形	1.41×1.15	10~17	I	1	N	IIb1a		
SK 195	J11d6	N-87°-E	楕円形	2.22×1.44	6	I	1	N	IIc1a		
SK 198	J11f4	N-8°-E	楕円形	1.26×1.00	12~15	II	1	(A)	IIb2a		
SK 199	J11f4	N-49°-W	楕円形	1.12×1.08	15~20	II	1	(N)	IIb2a		
SK 203	J11e3	N-40°-W	楕円形	1.63×1.10	12	I	1	N	IIb1a		
SK 204	J11e3	N-45°-W	楕円形	1.70×1.10	12	I	1	N	IIb1a		
SK 205	J11d3	N-18°-W	楕円形	1.25×1.10	8	II	1	N	IIb2a		
SK 206	J11d3	N-10°-E	楕円形	1.15×0.85	8	I	1	N	IIb1a		
SK 216	J10i2	N-71°-W	楕円形	3.00×1.57	16	II	1	N	IIc2a	覆土中土器片6点	
SK 217	J10i4	N-49°-E	楕円形	1.50×1.30	20	II	1	N	IIb2a	覆土中土器片9点	
SK 224	J10g3	N-58°-W	楕円形	1.30×1.10	20	I	1	(N)	IIb1a	覆土中土器片9点	SK 225より新しい。
SK 227	J10g3	N-8°-E	楕円形	1.70×1.05	25	I	2	(A)	IIb1a		
SK 228	J10g2	N-60°-W	楕円形	0.83×0.80	25	I	2'	N	IIa1a		
SK 231	J10h2	N-4°-W	楕円形	1.35×1.03	35	II	1-S	N	IIb2a		
SK 234	J10f4	N-6°-W	長楕円形	1.63×0.80	12	II	1	(N)	IIb2a	覆土中土器片4点	
SK 237	J10f5	N-18°-E	不整楕円形	1.68×1.07	14	II	1-N	(N)	IIb2a		
SK 238	J10f2	N-59°-E	楕円形	1.80×1.15	13	I	1-W	(N)	IIb1a	覆土中土器片4点	
SK 239	J10f2	N-49°-W	楕円形	1.27×1.03	5	I	1	N	IIb1a		
SK 242	J10e3	N-62°-W	楕円形	1.07×0.87	18	II	3	(N)	IIb2a	覆土中土器片3点	SK 243を切る。
SK 244	J10d3	N-18°-E	楕円形	1.43×1.10	30	III	1	N	IIb3a	覆土中土器片3点	
SK 245	J10d3	N-47°-W	長楕円形	1.79×1.10	13~24	I	2	(N)	IIb1a		
SK 251	J9e0	N-10°-E	(楕円形)	1.35×0.89	14	II	1	(N)	IIb2a		
SK 254	J9f0	N-38°-W	不定楕円形	1.25×1.04	11~16	I	1	(N)	IIb1a	覆土中土器片1点	
SK 256	J9e0	N-30°-W	楕円形	1.33×1.17	10~41	II	1'	(N)	IIb2a		
SK 262	J10e4	N-38°-W	楕円形	1.36×1.02	5~11	I	1	A	IIb1a		
SK 263	J9d0	N-30°-W	(楕円形)	1.52×1.34	9	II	1	N	IIb2a	覆土中土器片1点	
SK 264	J11h3	N-89°-W	楕円形	0.98×0.81	18~26	II	1	N	IIa2a	覆土中土器片1点	SI31を切る。

土壌番号	位置	長径方向	平面図	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
SK 266	J10i2	N-79°-W	(楕円形)	1.58×1.42	40	II	1	N	IIb1a	覆土中土器片187点 石器1点	
SK 272	L9a3	N-46°-E	楕円形	1.34×0.91	10	II	1	A	IIb2a	覆土中土器片1点	
SK 280	K9i2	N-57°-E	(楕円形)	1.60×0.91	40	II	1	N	IIb2a	覆土中土器片1点	
SK 284	K9f3	N-32°-W	(楕円形)	2.84×1.80	90	III	4	A	IIc3b		
SK 288	K9e2	N-33°-W	楕円形	1.41×1.10	20~35	II	1'	A	IIb2a		ビットは攪乱 によるもの。
SK 290	K9d2	N-57°-E	楕円形	1.04×1.03	20	II	3-E	(N)	IIb2a		
SK 291	K9d3	N-28°-E	楕円形	0.85×0.70	65	III	1'	A	IIa3b	覆土中土器片5点	
SK 292	K9d3	N-75°-E	楕円形	1.10×1.05	18	II	1	(N)	IIb2a		
SK 297	K9b2	N-9°-W	楕円形	1.74×1.40	65	III	2	A	IIb3b		
SK 298	K9b1	N-53°-E	楕円形	1.01×0.90	75	III	2	N	IIb3b	覆土中土器片1点	
SK 303	K9g5	N-28.5°-E	楕円形	1.30×1.08	35	II	1	(A)	IIb2a	覆土中土器片4点	
SK 307	K9f4	N-82°-E	楕円形	1.50×1.08	11~19	I	1	N	IIb1a		ビットは新し い。
SK 310	K9e5	N-29°-W	楕円形	1.97×1.30	37	II	1		IIb2a	覆土中土器片2点	
SK 315	K9c4	N-8°-E	楕円形	0.96×0.90	14	II	1'	N	IIb2a	覆土中土器片1点	
SK 325	J9e6	N-13°-W	楕円形	2.24×1.38	15	II	1	N	IIc2a	覆土中土器片17点	
SK 329	J9g1	N-64°-E	楕円形	1.30×0.88	20	II	1'	(A)	IIb2a		
SK 330	J9g1	N-42.5°-E	楕円形	1.36×1.04	22	II	1'	N	IIb2a		
SK 333	J9g2	N-81.5°-E	楕円形	2.12×1.48	58	III	1	A	IIc3a		
SK 335	J9f3	N-79°-E	楕円形	1.52×1.00	28	II	1'	(A)	IIb2a		
SK 339	J9e3	N-72°-E	楕円形	1.81×1.37	30	II	1	(A)	IIb2a	覆土中土器片16点	
SK 345	K9g4	N-74.5°-W	楕円形	1.27×0.93	40	II	1	(N)	IIb2a	覆土中土器片2点	SI44を切る。
SK 346	K9e6	N-67.5°-E	楕円形	1.20×1.07	37	II	2		IIb2a	覆土中土器片59点	SI48との関 係は不明。
SK 360	K9a2	N-77°-E	楕円形	0.80×0.71	82	II	(1)	A	IIa2b		SI47を切る。
SK360-A	J8j9	N-35°-E	不 明	1.09×0.77	23	II	1'	N	IIa2a	覆土中土器片9点	SI59を切る。
SK 363	J8j9	N-35°-E	楕円形	1.00×0.85	24	II	1	A	IIb2a	覆土中土器片1点	
SK 364	J8j8	N-61°-W	楕円形	1.78×1.35	32	II	1	A	IIb2a		幕か。
SK 365	J8j8	N-36.5°-W	楕円形	3.06×1.69	30~35	II	1	N	IIc2a	覆土中土器片11点	ビットは本跡 より新しい。
SK 377	J8e6	N-30°-E	楕円形	1.53×0.99	25	I	2	(N)	IIb1a		
SK 378	J8d6	N-52°-W	楕円形	1.42×1.31	20	II	1	N	IIb2a		
SK 380	J8b5	N-73°-W	長楕円形	1.82×0.76	15	II	3'	N	IIb2a	覆土中土器片64点	
SK 384	J8d7	N-71.5°-E	長楕円形	2.17×0.84	15	II	1'	N	IIc2a		ビットは攪乱。 (根)

土壌番号	位置	方 向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形 態	出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK 386	J 8 l 5	N-30°-E	楕円形	2.36×1.44	17~40	II	3	N	II c2a		ビットは攪乱。
SK 387	J 8 l 5	N-43°-W	楕円形	1.49×1.34	30	II	2	N	II b2a		
SK 388	J 8 h 6	N-50°-W	楕円形	1.22×0.84	22	II	1'	(N)	II b2a		
SK 389	J 8 i 6	N-59°-W	楕円形	1.5×0.8	46	II	3'	N	II b2a	覆土中土器片 2点	ビットは攪乱。
SK 390	J 8 i 6	N-25°-W	楕円形	1.78×0.86	10	II	1	N	II b2a		
SK 391	J 8 i 6	N-84°-E	楕円形	1.52×1.02	10	II	1	N	II b2a		
SK 393	J 8 j 5	N-44°-E	楕円形	1.50×1.20	14	II	1	N	II b2a	覆土中土器片 3点	
SK 395	J 8 j 4	N-16.5°-W	楕円形	1.74×1.18	22	II	1	N	II b2a		
SK 396	J 8 i 4	N-55°-E	楕円形	1.52×1.00	20	II	3	(N)	II b2a	覆土中土器片 3点	
SK 398	K 8 b 6	N-11°-W	楕円形	1.10×0.82	16	I	3	(N)	II b1a	覆土中土器片 1点	
SK 399	K 8 b 6	N-82°-W	楕円形	2.36×1.82	30	II	1'	N	II c2a	覆土中土器片 20点	SI64を切る。
SK 406	K 8 a 8	N-45°-E	楕円形	0.88×0.80	23	II	1	N	II a2a		
SK 411	K 8 c 9	N-23°-E	楕円形	1.54×1.00	20	II	3'	N	II b2a		
SK 413	K 8 c 8	N-53°-E	楕円形	1.00×0.90	16	II	1-S	N	II b2a		
SK 417	K 8 f 8	N-69°-E	楕円形	1.58×1.20	30	II	1	N	II b2a	覆土中土器片 12点	
SK 423	K 8 b 2	N-20.5°-E	楕円形	1.70×1.22	35	II	3'	(N)	II b2a		床の凹みは本跡より新しい。
SK 429	K 8 e 3	N-87°-E	楕円形	1.86×0.97	28	II	3	A	II b2a		墓か。
SK 430	K 8 f 1	N-68.5°-W	不定形	1.68×1.23	65	II	1	(N)	II b2a		
SK 431	K 8 g 2	N-66.5°-W	楕円形	1.53×1.04	9	I	1	N	II b1a		
SK 444	K 8 h 5	N-65°-W	楕円形	1.90×1.61	20	II	1	N	II b2a		
SK 448	L 9 a 2	N-95°-W	楕円形	1.19×1.07	25	II	1	(N)	II b2a	覆土中土器片 2点	ビットは新しい攪乱。
SK 449	L 9 a 3	N-32°-E	長楕円形	2.22×1.08	25	II	1	A	II c2a		
SK 454	K 8 h 7	N-75°-E	不整楕円形	2.49×1.64	20	II	1	N	II c2a		
SK 455	K 8 h 6	N-65°-E	楕円形	2.11×1.68	20~55	II	1-W	N	II c2a	覆土中土器片 2点	
SK 456	K 8 h 6	N-52.5°-E	楕円形	0.96×0.77	30	II	2	A	II a2a	覆土中土器片 11点	SI82を切る。
SK 460	L 8 a 6	N-29°-E	楕円形	1.67×1.55	20	II	1	N	II b2a		
SK 463	L 8 a 7	N-81°-E	楕円形	1.54×1.22	13	I	1	N	II b1a	覆土中土器片 3点	
SK 466	K 8 h 9	N-45°-W	楕円形	1.71×1.10	7	I	1	N	II b1a	覆土中土器片 7点	
SK 467	L 8 b 9	N-65.5°-W	楕円形	1.17×1.10	7	I	1	N	II b1a		
SK 473	L 8 a 1	N-82°-E	楕円形	1.61×1.30	38	II	2	N	II b2a	覆土中土器片 1点	床の凹みは本跡より新しい攪乱。
SK 474	L 8 a 2	N-79°-W	楕円形	1.41×1.14	20	II	1	N	II b2a		

土壌番号	位置	方 向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土	出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK 475	L8 b1	N-25°-W	(楕円形)	2.24×1.45	50~85	II	4	(N)	IIc2b		
SK 476	L8 b1	N-46°-E	楕円形	2.79×2.16	15	I	1	N	IIc1a	覆土中土器片1点	
SK 478	L8 d2	N-65°-E	楕円形	2.25×1.63	15	I	1	N	IIc1a		
SK 479	L8 b3	N-56°-E	楕円形	2.06×1.84	10	II	1	N	IIc2a		
SK 480	L8 c3	N-62°-E	不整楕円形	1.88×1.37	12	I	1	N	IIb1a		
SK 482	L8 d1	N-78°-W	楕円形	2.00×1.70	10	II	1	N	IIc2a		
SK 487	L8 f6	N-28°-E	楕円形	1.06×0.88	14	II	1	N	IIb2a	覆土中土器片2点	
SK 488	L8 f5	N-75°-W	楕円形	1.90×1.58	10	II	1	N	IIb2a	覆土中土器片17点	
SK 493	L8 i2	N-26.5°-E	楕円形	1.70×1.44	23	II	3'	N	IIb2a		
SK 494	M8 a2	N-15°-W	楕円形	1.68×1.20	13	II	1	N	IIb2a		
SK 495	L8 j1	N-12.5°-E	楕円形	1.58×1.24	16	II	1	(N)	IIb2a		
SK 496	M8 c2	N-38°-E	楕円形	1.30×1.20	13	II	1	N	IIb2a		
SK 497	M8 a2	N-24°-E	楕円形	2.04×1.50	42	II	1	N	IIc2a		
SK 503	L7 d0	N-63°-W	楕円形	2.14×1.74	12	II	1	N	IIc2a		
SK 505	L7 c6	N-27.5°-W	楕円形	3.32×2.88	6~42	III	1'	N	IIc2a		ピットは覆土を切る。
SK 506	L7 d6	N-14°-W	楕円形	2.36×1.48	10	II	1	N	IIc2a		
SK 510	L7 i6	N-25°-W	不整楕円形	2.24×1.26	35	III	1	N	IIc3a		墓か。
SK 511	L7 i7	N-63.5°-W	楕円形	2.11×1.47	22	III	1	(N)	IIc3a		
SK 515	L7 j5	N-89.5°-E	楕円形	1.60×1.05	18	II	1	N	IIb2a		
SK 517	M7 a4	N-62.5°-W	楕円形	1.76×1.44	12	II	1	N	IIb2a		
SK 518	M7 b5	N-59°-W	楕円形	1.48×1.28	12	II	1	(A)	IIb2a		
SK 519	M7 a3	N-30°-E	楕円形	1.56×1.35	25	II	1	A	IIb2a		
SK 522	M7 b2	N-85°-E	楕円形	2.05×1.56	23	II	1	A	IIc2a		
SK 523	M7 a1	N-1°-W	楕円形	1.90×1.27	17	II	1	A	IIb2a		
SK 524	M7 a1	N-11°-E	楕円形	1.25×0.89	20	II	1	(A)	IIb2a		
SK 525	M7 b1	N-33°-W	楕円形	0.76×0.65	15	II	1	(A)	IIa2a		
SK 536	M9 j6	N-60°-E	不定形	1.85×0.90	38	II	1'	A	IIb2a	覆土中土器片2点	
SK 537	J10 i3	N-6.5°-W	楕円形	2.80×1.10	19	I	1	N	IIc1a		
SK 538	N9 b6	N-66.5°-E	楕円形	1.07×0.92	15	II	1'	N	IIb2a		攪乱(根)。

Ⅲ 類 (隅丸方形・方形)

土壌番号	位置	方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK20-B	M11i2	N-47°-W	隅丸方形	0.74×0.64	56	Ⅲ	1	A	Ⅲa3a		
SK 32	M10h6	N-0°	隅丸方形	2.00×1.28	15	I	1	N	Ⅲc1a		
SK 44	N10a6	N-60°-E	隅丸方形	1.82×1.42	19~26	II	1	N	Ⅲb2a	覆土中土器片1点	
SK 45	M10i6	N-35°-W	隅丸方形	1.94×1.61	23	II	1	N	Ⅲb2a		SK 46を切る。
SK 51	M10i4	N-35°-E	方形	0.96×0.77	27	II	2	N	Ⅲa2a		SI1を切る。
SK 52	M10i4	N-60°-E	隅丸方形	1.04×0.96	17~23	I	1	(A)	Ⅲb1a		SI1を切る。
SK 53	M10i4	N-52°-W	隅丸方形	1.50×1.27	16	I	1	N	Ⅲb1a		SI1を切る。
SK 77	K12i1	N-27°-E	隅丸方形	1.03×0.83	28	II	1'	(N)	Ⅲb2a		
SK 85	M9b0	N-52°-E	(隅丸形状)	0.76×0.58	7.5	II	1	N	Ⅲa2a	覆土中土器片1点	床のビットは攪乱。
SK 109	K10d1	N-42°-W	隅丸方形	2.18×2.04	36	Ⅲ	1	N	Ⅲc3a	覆土中土器片111点 石器1点	
SK 113	M9c4	N-58°-W	隅丸方形	1.16×1.06	12	II	1	N	Ⅲb2a		
SK 118	L9b5	N-24°-E	隅丸方形	1.21×1.03	35~53	II	1	(A)	Ⅲb2a		SI13を切る。
SK 123	K10f4	N-85°-W	隅丸方形	1.90×1.50	9~46	II	2	N	Ⅲb2a		
SK 124	K10i7	N-89°-E	(隅丸方形)	1.19×0.98	27~77	II	1	(N)	Ⅲb2a	覆土中土器片6点	ビットは新しい攪乱か。
SK 126	L12b3	N-45°-W	隅丸方形	1.20×1.06	14~18	II	1	N	Ⅲb2a	覆土中土器片2点	
SK 155	J10e6	N-20°-W	不整形	1.88×1.63	24~31	II	1	N	Ⅲb2a	覆土中土器片6点	
SK 173	J10j9	N-32°-E	隅丸方形	1.60×1.44	15~20	II	2	N	Ⅲb2a		一部根による攪乱。
SK 178	J11h3	N-36°-W	隅丸方形	1.56×1.44	10	II	1	N	Ⅲb2a	覆土中土器片1点	SI131の枡を切る。
SK 182	J11d1	N-67°-E	隅丸方形	1.80×1.80	11	I	1	(N)	Ⅲb1a		
SK 184	J11i4	N-63°-E	隅丸方形	1.57×1.23	10	II	1	(N)	Ⅲb2a	覆土中土器片1点	
SK 200	J11f4	N-88°-W	隅丸方形	1.34×1.19	12~18	I	1	N	Ⅲb1a		一部攪乱をうける。
SK 222	J10g3	N-49°-E	隅丸方形	1.22×1.23	13	II	1	N	Ⅲb2a		SK223に切られる。
SK 279	K9i1	N-36°-E	隅丸方形	1.30×1.25	22	Ⅲ	1	N	Ⅲb3a		
SK 295	K9d3	N-67°-E	(隅丸方形)	1.15×0.85	15	II	1	N	Ⅲb2a	覆土中土器片2点	
SK 313	K9c7	N-42.5°-E	隅丸方形	2.22×1.98	16	II	1	(A)	Ⅲc2a	覆土中土器片11点	SI52を切る。
SK 324	J9f6	N-40°-E	隅丸方形	1.60×1.70	28	I	3'	(N)	Ⅲb1a		
SK 349	K9d7	N-13°-E	隅丸方形	1.00×0.93	15	II	1	(A)	Ⅲb2a		SI52を切る。
SK 351	K9d8	N-59.5°-W	隅丸方形	1.01×0.92	30	Ⅲ	1'	(A)	Ⅲb2a	覆土中土器片19点 石器1点	SI52Aを切る。
SK 353	K9b2	N-77.5°-E	方形	0.75×0.65	10	II	1	A	Ⅲa2a	覆土中土器片3点	
SK 354	K9b3	N-58.5°-E	方形	1.29×0.82	42	II	1	A	Ⅲb2a		

土壌番号	位置	方向	平面形	規		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	高さ(m)						
SK 367	J 8 h ₉	N-64°-E	隅丸方形	0.92×0.88	53	III	1	A	III a3a		
SK 374	J 8 f ₉	N-38°-E	(隅丸方形)	1.37×1.25	15	II	1	N	III b2a		
SK 385	J 8 g ₅	N-62.5°-W	(隅丸方形)	1.91×1.61	16	II	1	N	III b2a		
SK 400	K 8 b ₆	N-58.5°-W	隅丸方形	2.04×1.92	21	II	1'	N	III c2a		SK349に切られる。
SK 407	K 8 b ₈	N-36°-E	隅丸方形	1.8×1.66	55	III	1	A	III b3a	覆土中土器片20点	
SK 408	K 8 b ₉	N-40°-E	隅丸方形	1.3×1.2	28~45	II	3	A	III b2a	覆土中土器片2点	
SK 412	K 8 c ₈	N-35.5°-W	隅丸方形	1.42×1.24	15	II	3	N	III b2a		
SK 414	K 8 c ₈	N-44°-W	隅丸方形	1.44×1.34	17	II	1	N	III b2a	覆土中土器片1点	
SK 512	L 7 j ₇	N-34.5°-W	隅丸方形	1.12×1.03	20	II	1	N	III b2a		
SK 516	M 7 a ₄	N-56.5°-E	隅丸方形	1.29×1.19	25	II	1	A	III b2a		
SK 534	M 9 j ₃	N-12°-E	(方形)	0.75×0.68	30	II	3	A	III a2a		SI92のビットの可能性。

IV 類 (隅丸長方形・長方形)

土壌番号	位置	方向	平面形	規		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	高さ(m)						
SK 11	M10 i ₈	N-36°-E	不整長方形	1.98×1.45	10~28	I	3	A	IV b1a		
SK 14	M10 e ₀	N-45°-E	隅丸長方形	1.40×1.10	20	II	3	N	IV b2a		
SK 19	N10 g ₆	N-15°-E	隅丸長方形	1.60×1.30	12~26	I	2	N	IV b1a		
SK20-A	M11 i ₂	N-53°-W	隅丸長方形	1.06×0.90	15	I	1	N	IV b1a		
SK 35	M10 i ₇	N-48°-W	隅丸長方形	1.88×1.64	20	I	1'	N	IV b1a	覆土中土器片23点	床面凹は新しい掘り込み。
SK 36	M10 e ₈	N-25°-W	隅丸長方形	0.70×0.55	35	II	1	(N)	IV a2a		床面の凹みは新しい掘り込み(擾乱)。
SK 37	M10 e ₈	N-7°-E	隅丸長方形	3.89×1.85	10	I	1	N	IV c1a		
SK 38	N10 e ₉	N-20°-W	隅丸長方形	4.91×2.33	19~27	II	1	N	IV c2a		
SK 40	N10 f ₉	N-0°	隅丸長方形	2.74×1.25	11	I	1	(N)	IV c1a		
SK 41	M 9 i ₈	N-16°-W	隅丸長方形	1.01×0.78	13	I	3	N	IV b1a	覆土中土器片3点	SI94を切る。
SK 46	M 9 i ₆	N-65°-W	隅丸長方形	2.02×1.41	20	I	1	N	IV c1a		
SK 47	M10 j ₅	N-4°-W	長方形	1.72×1.35	5~10	II	1	N	IV b2a		
SK 48	M10 j ₅	N-43°-E	隅丸長方形	1.72×1.43	5~10	I	1	N	IV b1a		SK49に切られる。
SK 50	M10 i ₄	N-42°-W	隅丸長方形	1.12×0.93	7~11	II	1'	N	IV b2a	覆土中土器片2点	SI1を切る。
SK 69	L10 j ₇	N-68°-E	隅丸長方形	2.01×1.83	27	II	1	N	IV c2a	覆土上層土器片28点	SK68を切る。
SK 72	L10 e ₈	N-20°-E	長方形	0.84×0.64	21~26	II	3	(N)	IV b2a		
SK 73	L10 c ₀	N-69°-E	隅丸長方形	1.35×0.78	18~26	II	1'	N	IV b2a		

土壌番号	位置	長径方向	平面形	規		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	模深さ(m)						
SK 74	L10j9	N-81°-W	長方形	1.40×1.20	~92	III	5	A	IV b3a		覆土軟質。
SK 107	K9f0	N-27°-E	長方形	2.48×1.75	25~30	II	1	N	IV c2a	覆土中土器片25点	
SK 120	K10d6	N-89°-W	隅丸長方形	1.44×1.03	7~10	I	1	N	IV b1a	覆土中土器片15点	SI17を切る。
SK 125	K10h8	N-75°-W	隅丸長方形	1.64×1.13	20~27	I	1	N	IV b1a		
SK 129	K12j4	N-82°-W	隅丸長方形	1.83×1.18	13~16	I	1	N	IV b1a		
SK 137	K11e7	N-60°-E	隅丸長方形	1.52×0.99	19~23	II	1	N	IV b2a	覆土中土器片3点	
SK 139	K11f4	N-45°-E	隅丸長方形	1.47×1.00	13	II	1	N	IV b2a	覆土中土器片4点	
SK 140	M11b7	N-39°-W	隅丸長方形	2.37×1.58	9~20	II	1	(N)	IV c2a		
SK 141	L11i6	N-73.5°-W	隅丸長方形	0.90×0.67	17	II	1	N	IV a2a		一部攪乱。
SK 142	L11h6	N-68°-W	隅丸長方形	1.86×0.98	9	I	1	N	IV b1a		SI24を切る。
SK 143	L11i5	N-74°-E	(隅丸長方形)	2.46×1.49	23	II	1	N	IV c2a		SI26を切る。
SK 145	L11h5	N-65°-E	(隅丸長方形)	1.26×0.86	24~26	II	1	N	IV b2a	覆土中土器片1点	床面の凹みは新しい。
SK 149	J10f9	N-44°-W	隅丸長方形	1.90×1.58	33	II	1	N	IV b2a	覆土中土器片20点	SI33を切る。
SK 156	J10e6	N-56°-E	不整長方形	2.25×1.65	14~20	II	1	N	IV c2a	覆土中土器片25点 石器1点	
SK 164	J10d4	N-46°-W	隅丸長方形	1.50×1.32	10	II	1	(A)	IV b2a	覆土中土器片22点	
SK 165	J10d4	N-72°-W	隅丸長方形	1.96×1.15	5~12	I	2	(N)	IV b1a	覆土中土器片16点	
SK 167	J10i0	N-32°-E	隅丸長方形	1.67×1.23	23	III	1	N	IV b3a		
SK 168	J10i0	N-1°-W	隅丸長方形	1.54×1.38	27	I	1	A	IV b3a		
SK 169	J11i1	N-12°-E	隅丸長方形	1.44×1.15	24	III	1	N	IV b3a		一部攪乱。
SK 172	J11f1	N-86°-W	隅丸長方形	1.72×1.13	22	II	1	N	IV b2a		
SK 174	J11j1	N-13°-W	長方形	1.46×1.26	12~19	II	1	A	IV b2a	覆土中土器片7点	
SK 180	J11g2	N-3°-E	隅丸長方形	1.94×0.97	3~12	I	1	(A)	IV b1a		SI36を切る。
SK 185	J11i4	N-28°-E	長方形	2.86×1.60	39~50	II	1	A	IV c2a		墓か。
SK 191	J11f5	N-10°-W	隅丸長方形	1.59×1.18	6~9	I	1	(N)	IV b1a		
SK 193	J11e6	N-86°-E	長方形	1.42×1.14	9~13	I	1	(N)	IV b1a		
SK 194	J11e6	N-5°-E	長方形	1.72×1.04	5~7	I	1	N	IV b1a	覆土中土器片1点	
SK 196	J11g4	N-67°-W	(隅丸長方形)	1.66×1.01	15~29	II	1	N	IV b2a		SI36を切る。
SK 197	J11f3	N-73°-E	長方形	1.88×1.26	7~15	II	1	(A)	IV b2a		SI36を切る。
SK 202	J11e4	N-40°-W	隅丸長方形	2.30×1.17	10	I	1	N	IV c1a		一部攪乱。
SK 211	J10j4	N-35°-E	隅丸長方形	1.40×1.30	30	II	2	(N)	IV b2a		
SK 212	J10i4	N-31°-W	(隅丸長方形)	1.75×1.30	23	II	1	N	IV b2a	覆土中土器片1点	

土壌番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
SK 226	J10g ₃	N-32°-E	長方形	1.20×0.95	18	I	2	(A)	Ⅳ b1a	覆土中土器片 2点	SK225を切る。
SK 235	J10f ₃	N-90°-E	隅丸長方形	1.33×1.13	22	I	2	(N)	Ⅳ b1a	覆土中土器片 5点	
SK 243	J10e ₃	N-42°-W	長方形	2.00×1.10	15	I	1	(N)	Ⅳ c1a	覆土中土器片 3点	
SK 246	J10e ₃	N-64°-E	隅丸長方形	1.23×0.87	10~16	I	2	(A)	Ⅳ b1a	覆土中土器片 1点	
SK 247	J10d ₂	N-44°-W	(隅丸方形)	1.44×1.30	9~12	II	2	N	Ⅳ b2a	覆土中土器片14点	一部攪乱。
SK 248	J10d ₂	N-66°-E	隅丸長方形	2.30×2.02	71~140	III	1	N	Ⅳ c3b	覆土中土器片138点 石器 1点	SI 41と重複 新旧不明。
SK 249	J10e ₁	N-69°-E	隅丸長方形	1.37×1.07	13	II	1	N	Ⅳ b2a	覆土中土器片 1点	SI 41と重複 新旧不明。
SK 257	J 9 d ₀	N-70°-E	隅丸長方形	1.15×0.94	7	II	1	(N)	Ⅳ b2a		
SK 258	J 9 d ₉	N-45°-W	隅丸長方形	1.19×0.96	9~12	II	1	N	Ⅳ b2a		
SK 259	J 9 c ₉	N-52°-W	隅丸長方形	2.77×2.34	6~11	II	1	(A)	Ⅳ c2a	覆土中土器片26点	
SK 260	J 9 c ₀	N-8°-W	(不 橋円形)	2.92×2.53	7	II	1	(N)	Ⅳ c2a	覆土中土器片20点	
SK 269	J10i ₃	N-51.5°-E	隅丸長方形	1.16×0.94	43~ 102	I	1	N	Ⅳ b2a	覆土中土器片187点 石器 1点	遺物は投棄さ れたもの。
SK 274	K 9 j ₁	N-28°-E	(隅 丸 長方形)	1.9×1.35	15	II	1	N	Ⅳ b2a		
SK 277	K 9 j ₄	N-40°-E	(隅 丸 長方形)	1.75×1.35	28	III	1	N	Ⅳ b3a		SI42を切る。
SK 278	K 9 i ₄	N-23°-E	隅丸長方形	1.32×0.81	10	II	1	N	Ⅳ b2a		
SK 281	K 9 g ₄	N-42°-E	隅丸長方形	1.20×0.95	25	II	1	N	Ⅳ b2a		SI44を切る。
SK 282	K 9 g ₄	N-11°-E	長方形	1.61×1.50	13	II	1	N	Ⅳ b2a	覆土中土器片 6点	
SK 285	K 9 f ₁	N-66°-W	隅丸長方形	1.55×1.39	21	II	1	A	Ⅳ b2a	覆土中土器片 1点	
SK 287	K 9 e ₁	N-19°-W	(長方形)	1.91×1.10	10	I	I-S	N	Ⅳ b1a	覆土中土器片 4点	
SK 289	K 9 d ₂	N-12°-E	隅丸長方形	2.50×1.52	14	II	1	(N)	Ⅳ c2a		
SK 294	K 9 d ₄	N-64°-W	隅丸長方形	1.70×1.27	13	II	1	N	Ⅳ b2a		
SK 302	K 9 j ₅	N-82°-W	隅丸長方形	1.00×0.80	8	I	1	N	Ⅳ b1a		
SK 308	K 9 e ₄	N-57°-W	(長方形)	1.68×1.12	8~80	I	1	N	Ⅳ b1a	覆土中土器片 1点	
SK 321	J 9 i ₉	N-13°-E	隅丸長方形	1.40×0.80	15	II	1	(N)	Ⅳ a2a		
SK 352	K 9 c ₁	N-80°-W	長方形	2.38×1.46	19	II	1	N	Ⅳ b2a	覆土中土器片 4点	SI46を切る。
SK 355	K 9 b ₃	N-76.5°-E	隅丸長方形	1.10×0.79	18	II	1	A	Ⅳ b2a		
SK 356	K 9 b ₄	N-63.5°-E	隅丸長方形	1.33×1.13	100	II	1	(A)	Ⅳ b2b		
SK 359	K 9 a ₃	N-75°-E	長方形	0.77×0.64	52	II	(1)	A	Ⅳ a2a		SI47を切る。
SK 366	J 8 i ₉	N-23.5°-E	長方形	2.7×1.74	60	II	1	N	Ⅳ c2a	覆土中土器片 1点	ピットは本跡 より新しい。
SK 369	J 8 g ₉	N-46°-E	(長方形)	1.70×1.24	84	II	(1)	N	Ⅳ b2a		床中央の掘り り込みや穿新 しい。
SK 370	J 9 i ₆	N-19°-E	長方形	2.02×1.37	25~50	II	1'	N	Ⅳ c2a	覆土中土器片 1点	SI57ピット は本跡より新 しい。

土壌番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK 373	J 8 f 9	N-37°-W	不整長方形	1.24×1.13	15	II	1	A	IV b2a		
SK 375	J 8 f 9	N-22°-W	長方形	1.70×1.23	33	II	1	N	IV b2a		
SK 394	J 8 i 5	N-13°-W	隅丸長方形	1.52×1.16	15	II	1	N	IV b2a		
SK 404	K 8 a 7	N-22°-W	隅丸長方形	2.14×1.80	47	II	3	(N)	IV c2a	覆土中土器片20点	SI64を切る。
SK 419	K 8 e 9	N-38.5°-E	(長方形)	2.0×1.22	5	I	1	(N)	IV c1a	覆土中土器片1点	SI66を切る。
SK 420	K 8 g 2	N-72°-W	隅丸長方形	2.72×2.48	38~55	III	1	A	IV c3a	覆土中土器片 535点	SI69を切る。
SK 440	K 8 f 7	N-11°-E	隅丸長方形	1.50×1.04	15	II	1	N	IV b2a	覆土中土器片2点	SI79を切る。
SK 446	K 8 j 8	N-20°-W	長方形	2.17×0.40	15~60	III	1	A	IV c3a		
SK 450	K 8 i 0	N-2°-E	隅丸長方形	2.71×2.05	7~24	I	1	N	IV c1a	覆土中土器片218 点 石器1点	
SK 451	K 8 i 8	N-29.5°-E	隅丸長方形	0.87×0.65	30	III	1'	(N)	IV a3a	覆土中土器片4点	SI81を切る。
SK 461	L 8 a 6	N-65.5°-E	隅丸長方形	1.66×1.36	45	II	2	N	IV b2a	覆土中土器片7点	
SK 469	L 8 c 9	N-66°-E	(長方形)	1.29×1.12	5~30	II	1	N	IV b2a		
SK 498	M 8 e 2	N-20.5°-W	隅丸長方形	1.94×1.32	32	III	1	A	IV b3a		
SK 500	M 7 c 9	N-39°-E	隅丸長方形	3.08×2.28	10	II	1	N	IV c2a		SI43を切る。
SK 509	L 7 h 5	N-14°-E	(長方形)	2.24×1.54	20	II	1-N	N	IV c2a		一部攪乱(根)。
SK 513	M 7 a 6	N-34.5°-E	隅丸長方形	1.50×1.23	40	II	3'	N	IV b2a		
SK 514	M 7 a 6	N-42.5°-E	(隅丸長方形)	2.16×1.73	30	III	1	N	IV c3a		
SK 521	M 7 b 2	N-74.5°-E	長方形	1.45×1.17	16	II	1	N	IV b2a		

V 類 (不定形)

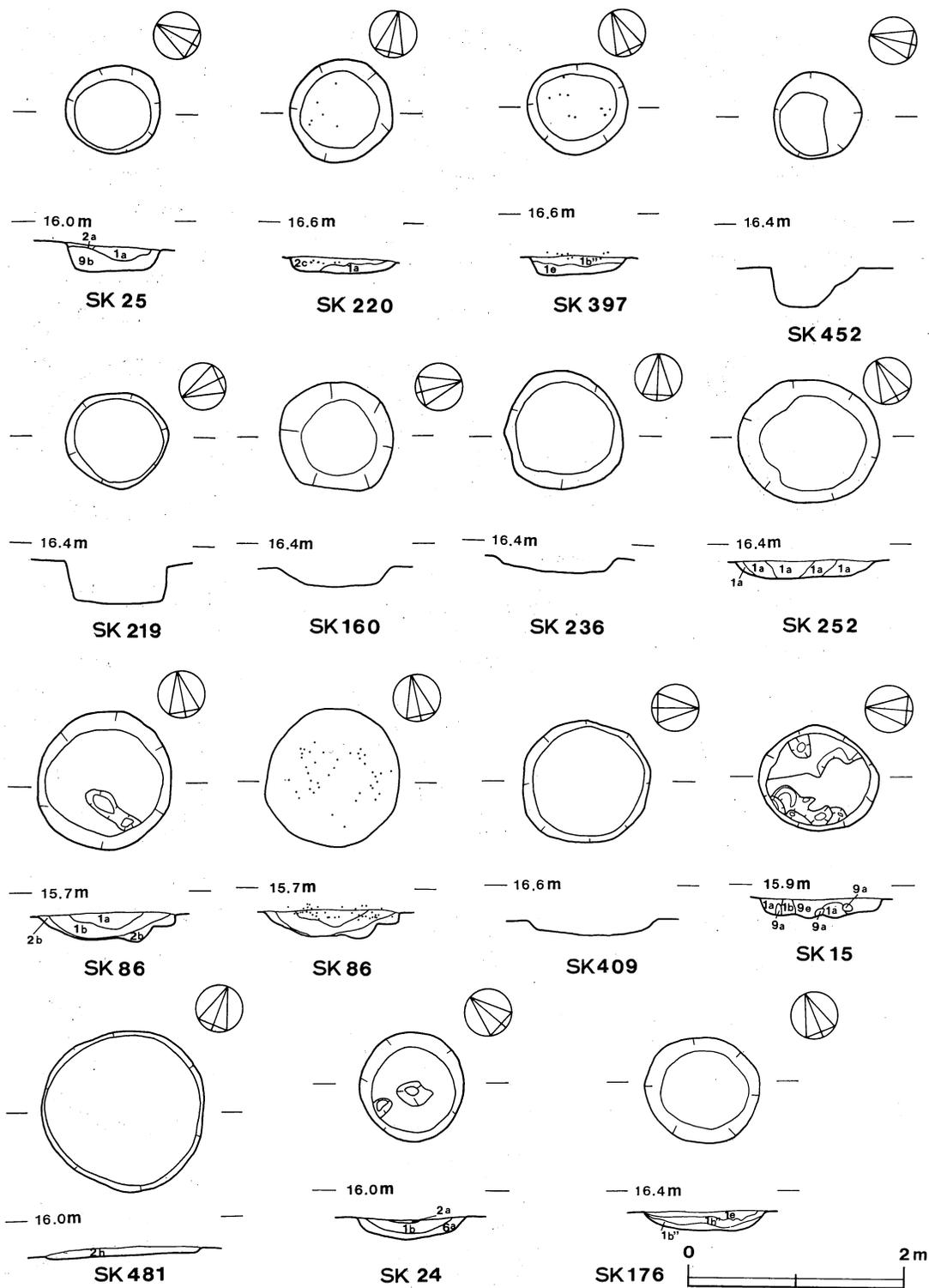
土壌番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK 6	N11a4	N-48°-W	不定形	2.05×1.27	31	I	2	(A)	V a1a		
SK 7	N11f1	N-48°-W	不定形	2.23×1.34	25~30	I	1	A	V c1a		
SK 13	M10e9		不定形	2.54× $1.96_{1.81}$	20~25	II	3	(N)	V c2a		
SK 18	N10h5	N-88°-W	中央部が狭まる楕円ひょうたん形	3.54×1.07	9~17	III	1	N	V c3a		
SK 21	M11i2	N-17°-W	不定形	2.84× $1.9_{1.0}$	20	I	1'	N	V c1a		
SK 83	M9c0		不定形	2.44×2.08	6~16	II	1'	N	V b2a	覆土中土器片12点	
SK 84	M9b9		不定形	1.84×0.62	24	II	1		V b2a		
SK 100	L9i0		不定形	4.00×3.00	17~85	II	1'	(N)	V c2b	覆土中土器片2点	動物あるいは攪乱による溝。
SK 111	L10a2		不定形	3.70×3.67	10~14	II	1	(A)	V c2a	覆土中土器片321 点 石器1点	炭化物ロームブロックを含む。
SK 112	M9c3	N-24°-E	不定形	2.12×	6	I	1		V c1a		SI22を切る。

土壌番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK 144	L11h5	N-58°-W	不定形	3.85×3.40	16~25	II	1	(A)	V c2a	覆土中土器片110点	SI25を切る。
SK 146	J10g9	N-40°-W	不定形	1.56×1.12	21~48	II	3'	A	V b2a	覆土中土器片8点 石器1点	攪乱か。
SK 147	J10e8	N-32°-E	不定形	1.43×1.15	(42)	I	3'	(A)	V b1a	覆土中土器片6点	SI33の北壁を切る。
SK 148	J10e8	N-64°-W	不定形	1.20×0.74	(48)	I	3'	(A)	V b1a	覆土中土器片18点	SI33の北壁を切る。
SK 154	J10f7		不定形	2.18×1.92	14~27	I	1	(N)	V c1a	覆土中土器片27点	
SK 157	J10e6	N-27°-E	不定形	2.65×2.13	17~22	II	1	N	V c2a	覆土中土器片5点	
SK 177	J11h1	N-87°-W	不定形	3.03×1.64	17	II	1	N	V c2a	覆土中土器片18点	
SK 179	J11g2	N-20°-E	不定形	1.88×1.02	10~13	II	3'	(A)	V b2a		あるいは墓塚か?
SK 189	J11f6	N-4°-E	不定形	1.89×1.38	12~14	II	1	(N)	V b2a		
SK 190	J11g5		不定形	1.45×1.63	6~9	I	1	(A)	V b1a		
SK 209	J10e8	N-78°-W	不定形	1.13×0.96		II	1	N	V b2a		
SK 213	J10i3	N-32°-W	不定形	1.50×0.95	23	II	1	N	V b2a	覆土中土器片1点	
SK 218	J10h4	N-73°-E	不定形	1.55×0.90	15	II	1	(N)	V b2a		
SK 221	J10h3	N-83°-E	不定形	1.80×1.85	18	I	2	(A)	V b1a	覆土中土器片9点	
SK 240	J10e2	N-39°-W	不定形	2.95×1.80	10	I	1	(N)	V c1a	覆土中土器片17点	一部攪乱。
SK 266	K10a3	N-23°-W	不定形	1.22×0.96	50~95	III	4	N	V b3b	覆土中土器片1点	
SK 270	L9d3	N-32°-E	不定形	2.67×1.77	15	I	1	(N)	V c1a	覆土中土器片1点	
SK 275	K9j2	N-15°-W	不定形	1.72×1.2	32~50	I	1'	N	V b1a		一部に攪乱を受けている。
SK 276	K9j3	N-54°-W	台形	1.67×1.4	27	II	2	N	V b2a	覆土中土器片3点	一部攪乱。 (動物穴か)
SK 283	K9f4	N-6°-E	不定形	1.57×0.92	20	II	2	N	V b2a		SI44を切るか。
SK 286	K9f1	N-65°-E	不定形	2.97×2.92	8	II	1	A	V c2a	覆土中土器10点 石1点	
SK 296	K9c2		不定形	2.35×1.60	107~143	III	3'	A	V c3b		
SK 300	K9a1	N-21°-E	不定形	4.1×1.83	25~55	II	1	N	V c2a	覆土上層一括土器片33点	ビットは新しい。
SK 306	K9e6	N-68°-W	不定形	1.70×0.90	14	III	1	N	V b3a	覆土上層土器片24点	SI49を切る。
SK 314	K9b6	N-90°-E	不定形	3.32×2.00	20	II	1	N	V c2a	覆土中土器片4点	
SK 326	J9j2	N-59°-W	不定形	2.68×1.38	25~36	I	1'	A	V c1a	覆土上層土器片5点	
SK 334	J9f3	N-65°-W	不定形	2.55×1.48	40	II	1-S	N	V c2a		
SK 342	K9g1	N-3°-E	不定形	4.53×1.86	不明	I			V c1a	覆土中土器片128点 石2点	} SI45に 投棄され た遺物。
SK 343	K9g1	N-25°-W	不定形	3.15×2.92	不明	I			V c1a	覆土中土器片978点 石5点	
SK 348	K9b7	N-25.5°-E	不定形	1.88×1.25	10~50	I	3	(A)	V b1a	覆土上層土器片78点	ビットはSI52B、Aとの関係あるか?
SK 350	K9b8	N-6°-W	不定形	1.98×1.27	20~42	II	3	A	V b2a	覆土上層土器片163点	

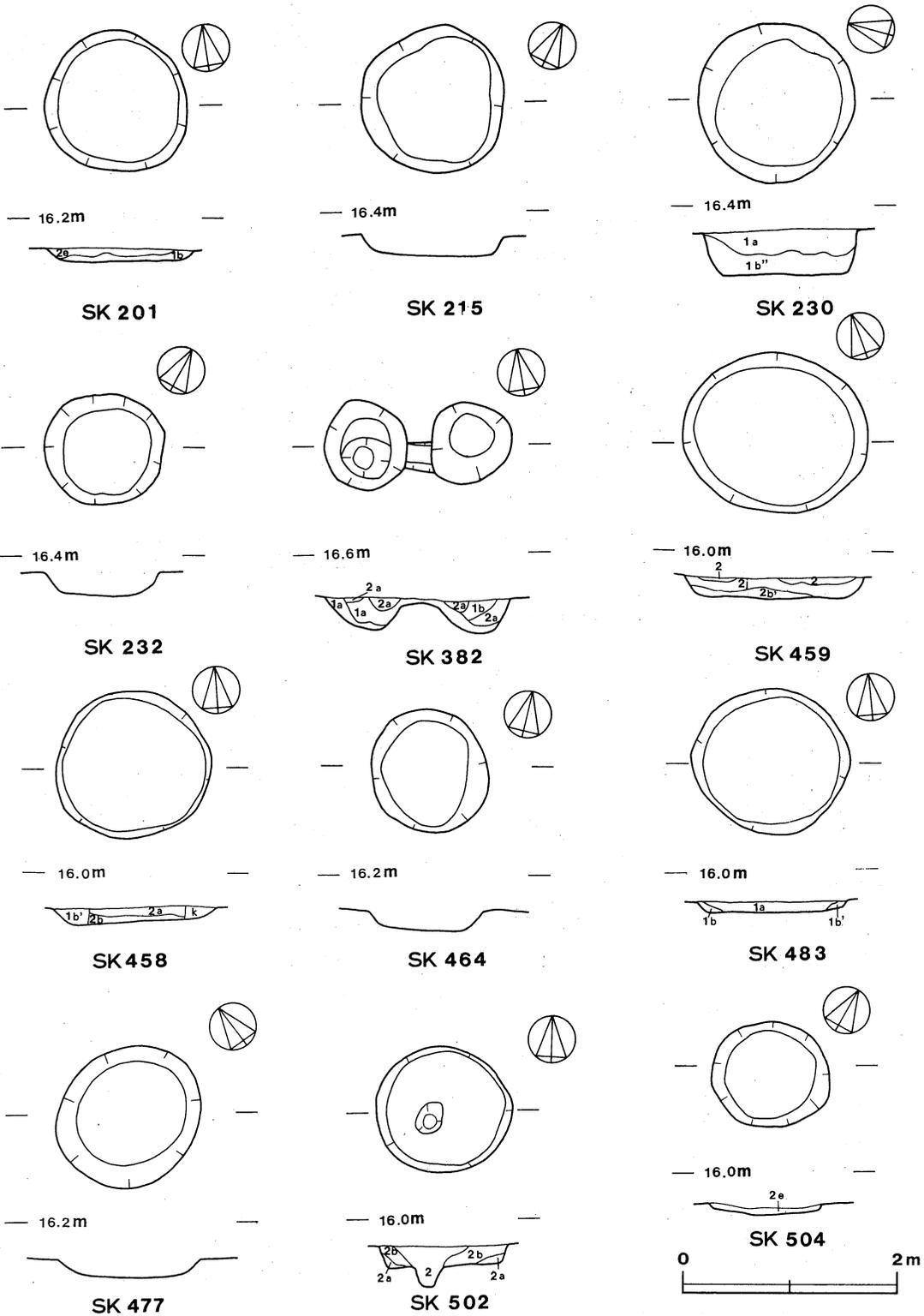
土壌番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK 371	J 8 g ⁸	N-78°-W	不定形	2.62×1.35	81	II	1'	N	V c2a		ビットは本跡より新しい。
SK 372	J 8 f ⁹	N-82.5°-E	不定形	4.18×1.39	35	II	1'	A	V c2a	ビット内土器片3点	
SK 392	J 8 i ⁶	N-5°-E	不定形	2.16×1.10	10	II	1	N	V c2a		
SK 410	K 8 c ⁹	N-46°-E	不定形	3.4×1.76	13	II	1	N	V c2a	覆土中土器片2点	
SK 422	K 8 c ²	N-45°-E	不定形	2.06×1.06	17	II	3'	(N)	V c2a		
SK 447	L 9 b ¹		不定形	2.52×1.66	18~80	I	3	(N)	V c1a	覆土中土器片3点	
SK 453	K 8 j ⁹	N-11°-E	不定形	4.00×2.31	10	II	1	N	V c2a	覆土中土器片3点	
SK 468	L 9 a ¹	N-34.5°-W	不定形	1.42×1.22	45	II	3	A	V c2a		

VI 類 (重複のため形状不明)

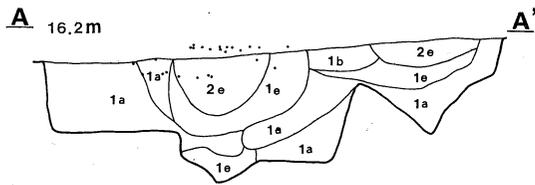
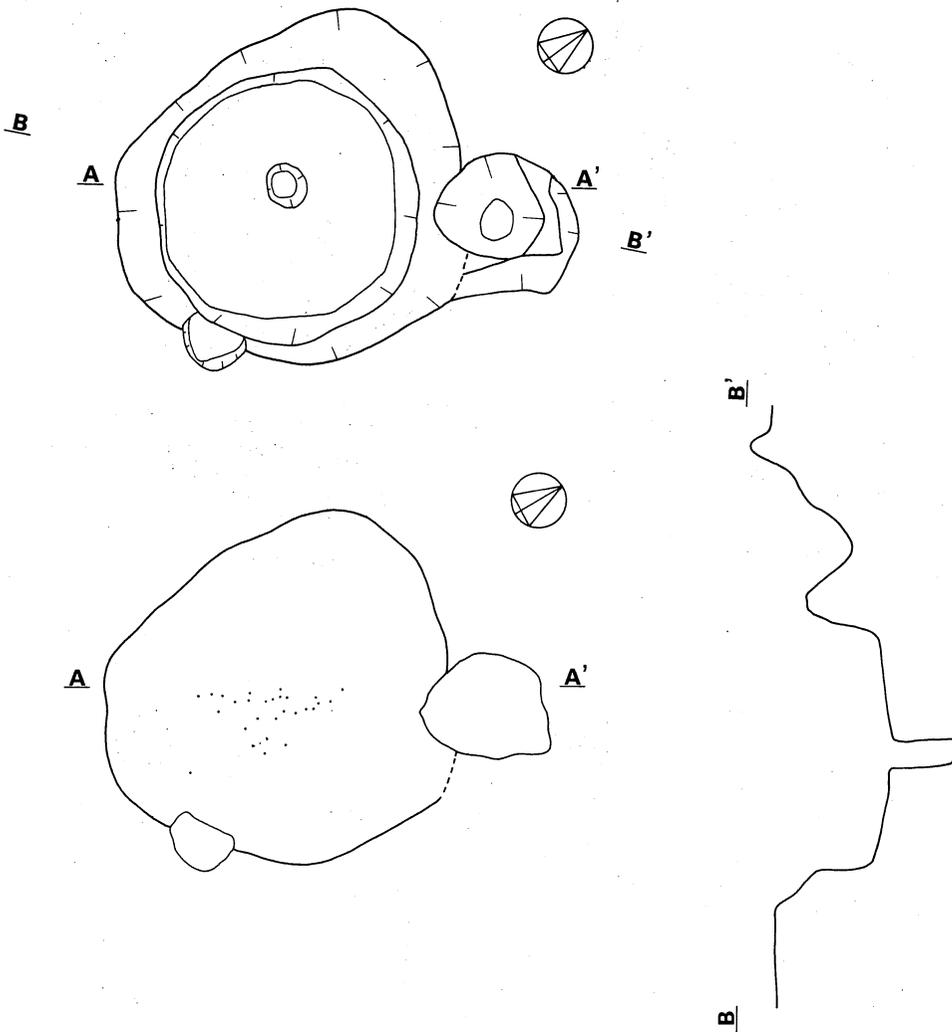
土壌番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	形態	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK 68	L10j ⁷		不明	2.13×	17	II	1	N		覆土中土器片9点	遺物はSK 69の混入か。
SK 131	K10e ⁷		(楕円形)	(0.9)×1.1	16	I	1	N			SI17に切られる。
SK 138	K11i ⁴	N-50°-W	(楕円形)	2.07×1.27	39.9	II	1	(N)	VI c2a	覆土中土器片50点	
SK 162	J10e ⁴	N-75°-E	不整楕円形		8~31	II	1		VI b2a	覆土中土器片15点	
SK 163	J10e ⁴		不整楕円形			II	1		VI b2a	覆土中土器片11点	
SK 223	J10g ³		不定形	0.94×0.94	14	II	1	N	VI b2a	覆土中土器片1点	
SK 225	J10g ³		不明	0.75×0.5	20	II	1	N	VI b2a		
SK 250	J10e ¹	N-22°-W	(楕円形)	1.33×0.75	13	II				覆土中土器片1点	SI41を切る。
SK 317	K 9 a ⁵	N-15.5°-E	楕円形	2.12×1.12	25~50	III	1'	N	VI c3a	覆土中土器片5点	
SK 338	J 9 g ²	N-88°-E	(楕円形)	2.01×1.47	34~56	II	5	(N)	VI c2a		
SK362-B	J 8 j ⁹	N-54.5°-W	楕円形	2.75×1.48	20	II	1'	N	VI c2a	覆土中土器片9点	SI59と重複。
SK 403	K 8 a ⁷		不明	(1.65×1.63)	不明	II	1	N	VI b2a	覆土中土器片3点	SI60を切る。



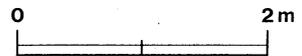
第117図 土壌実測図(1)



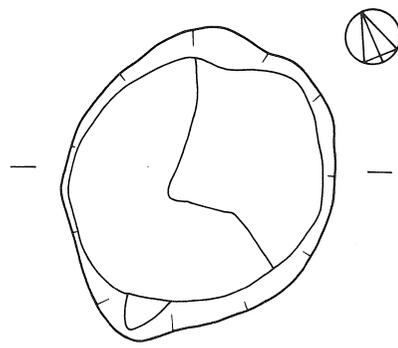
第118図 土壤実測図(2)



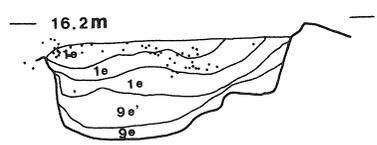
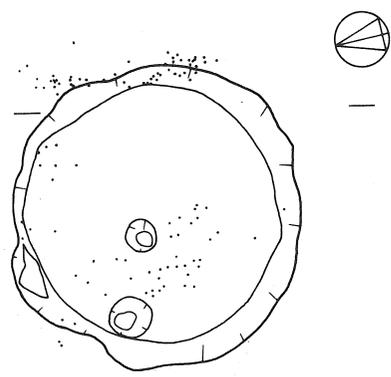
SK 106



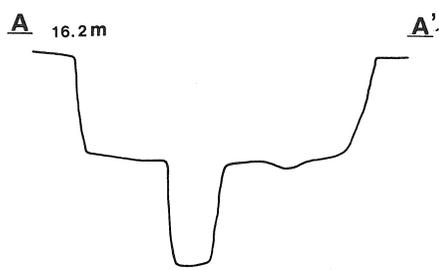
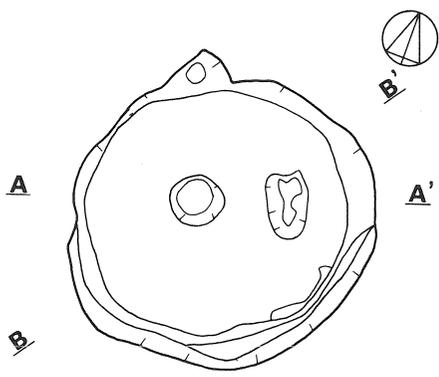
第119図 土壤実測図(3)



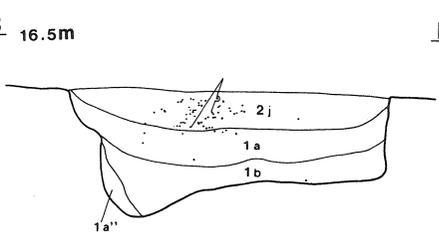
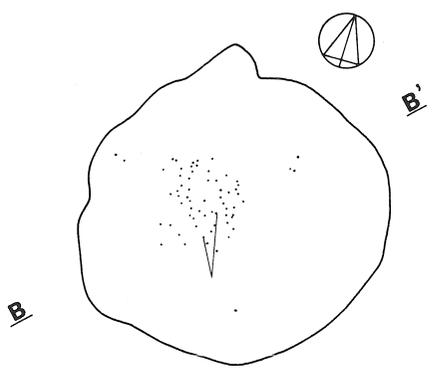
SK 110



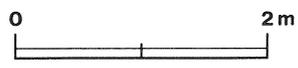
SK 128



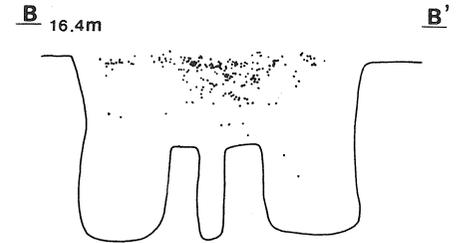
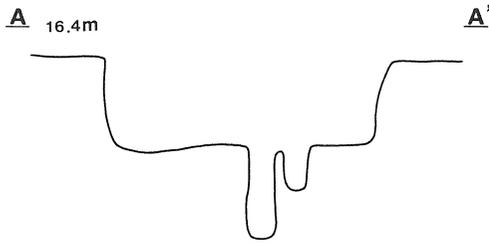
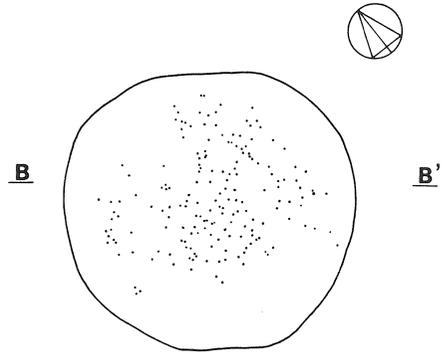
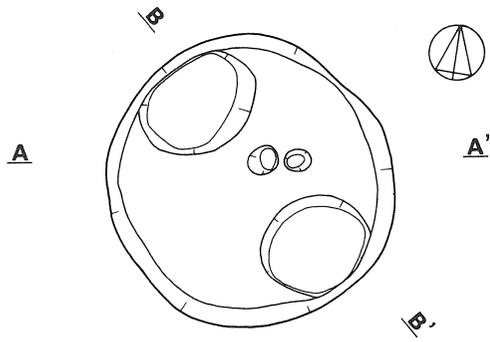
SK 108



SK 108

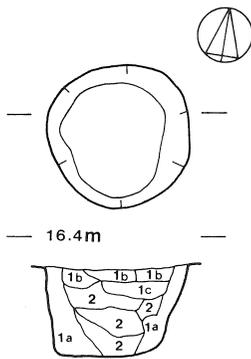


第120図 土壌実測図(4)

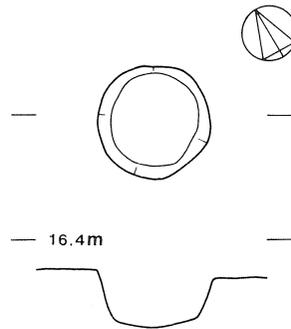


SK 418

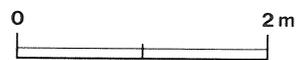
SK 418



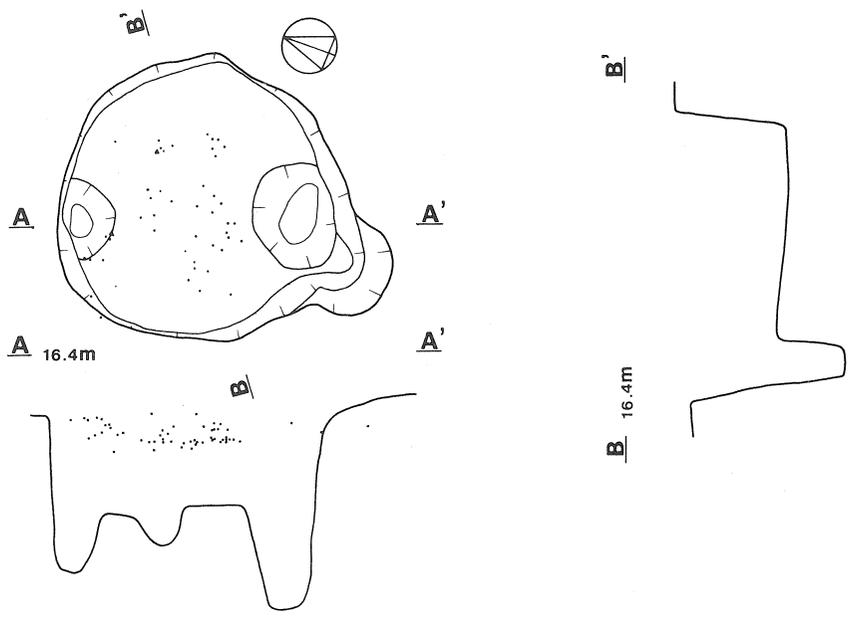
SK 153



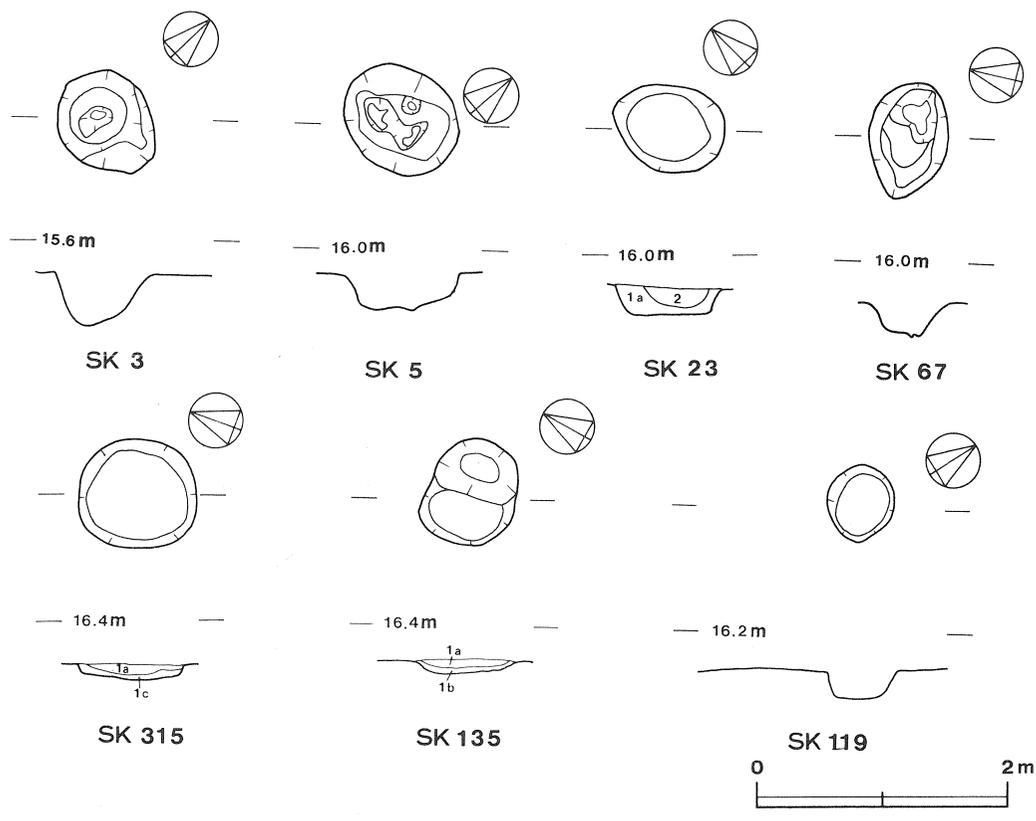
SK 304



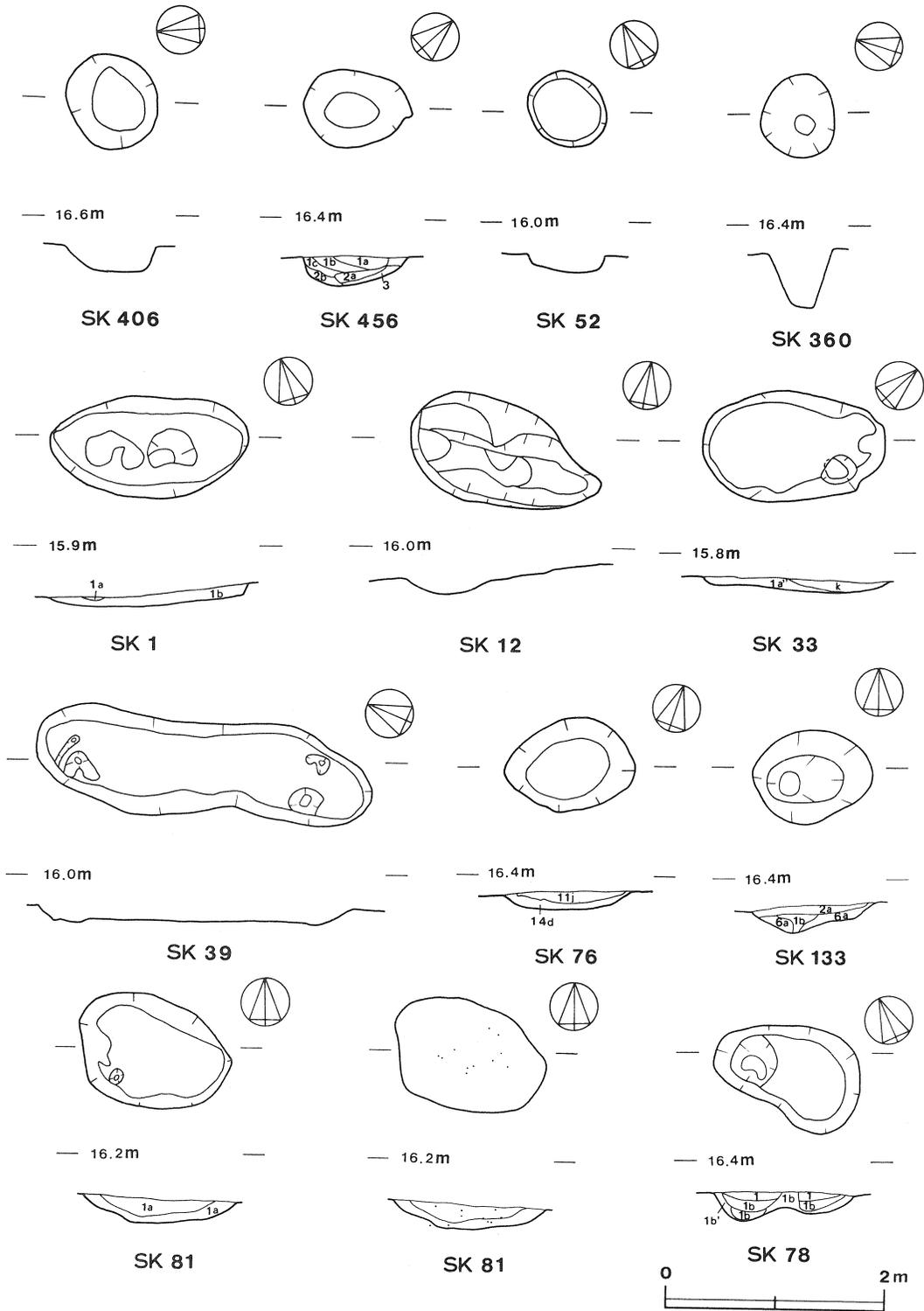
第121図 土壙実測図(5)



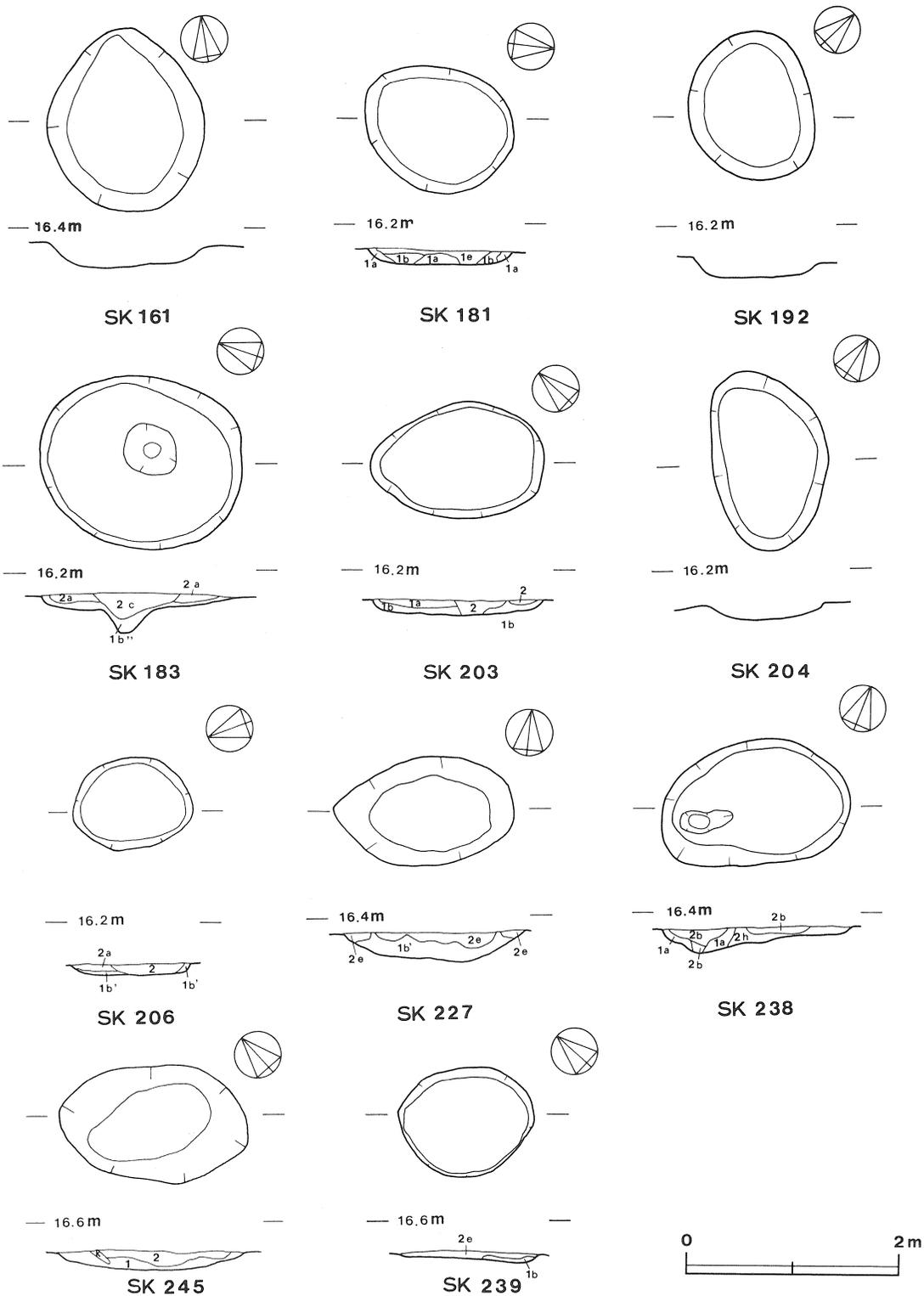
SK 127



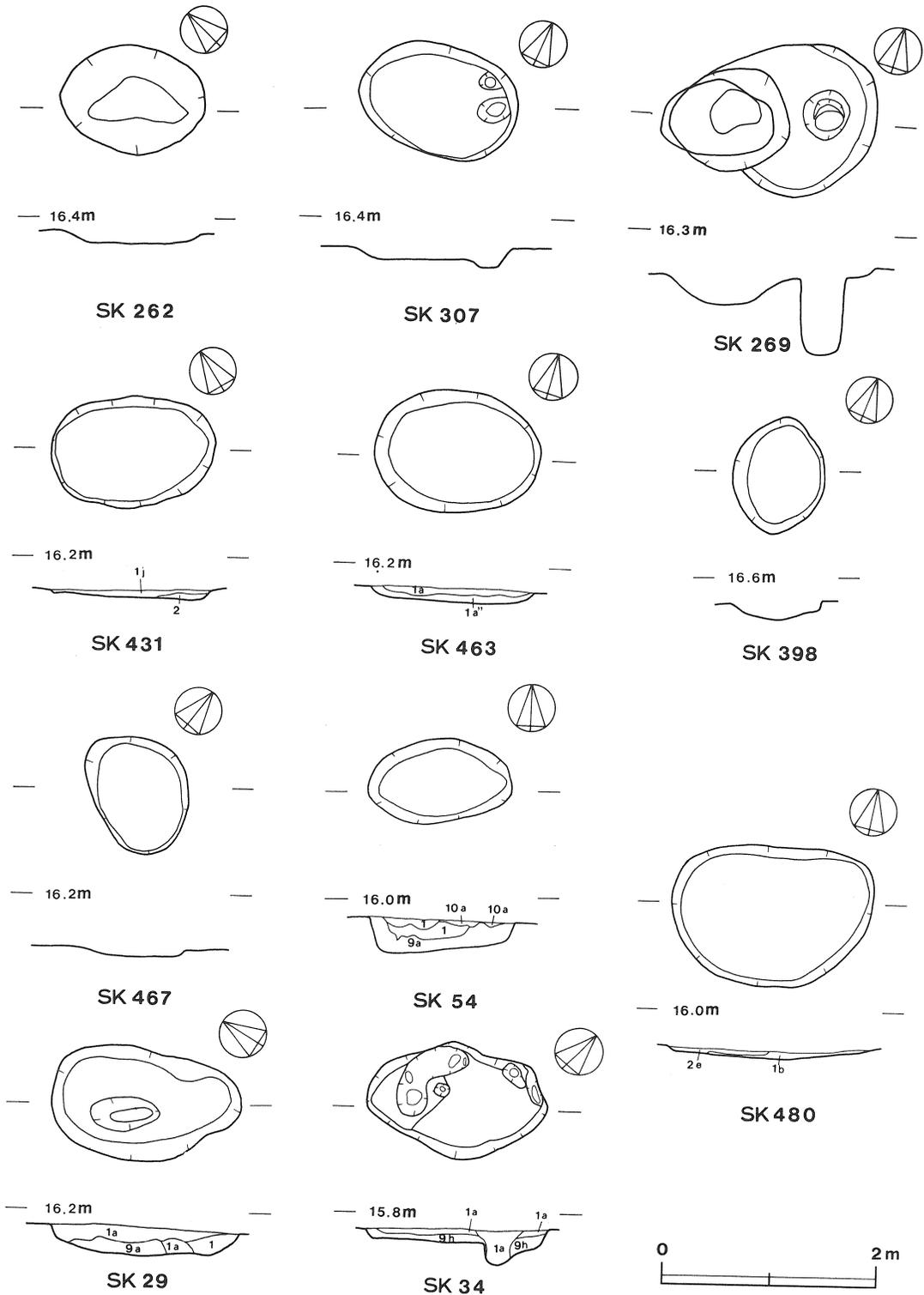
第122図 土坑実測図(6)



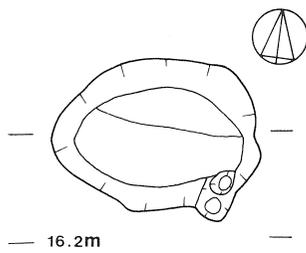
第123図 土壌実測図(7)



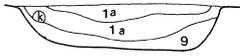
第124図 土壤実測図(8)



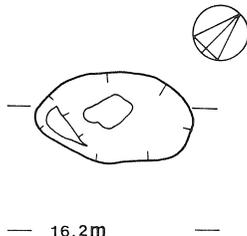
第125図 土壤実測図(9)



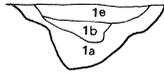
16.2m



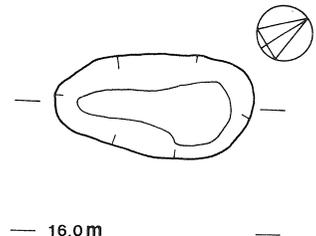
SK 59



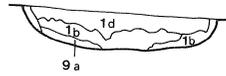
16.2m



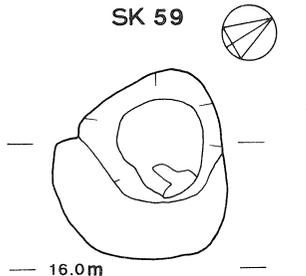
SK 82



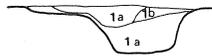
16.0m



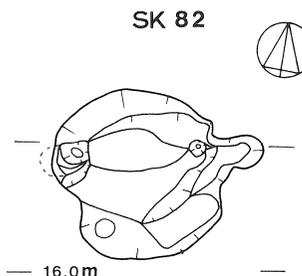
SK 70



16.0m



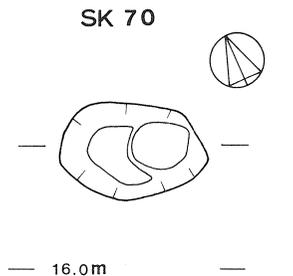
SK 99



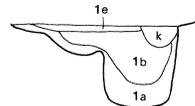
16.0m



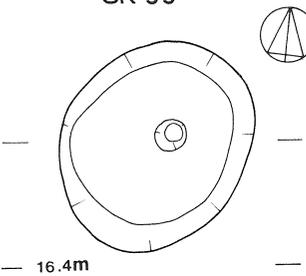
SK 103



16.0m



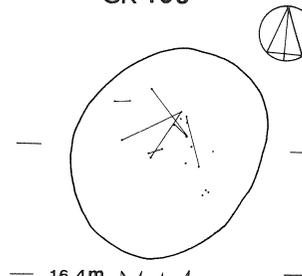
SK 121



16.4m



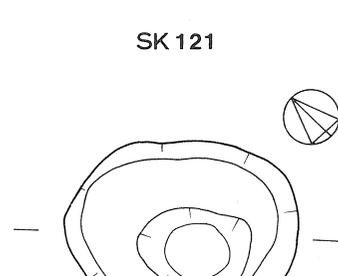
SK 132



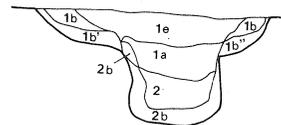
16.4m



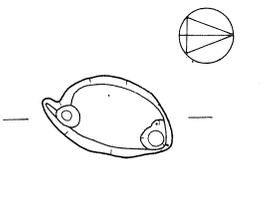
SK 132



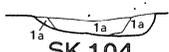
16.4m



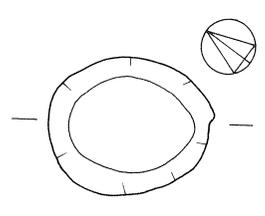
SK 150



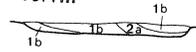
16.0m



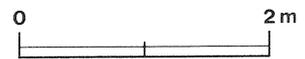
SK 104



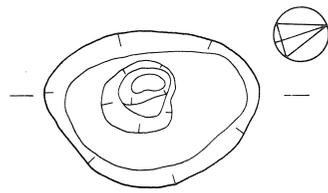
16.4m



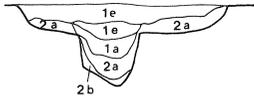
SK 166



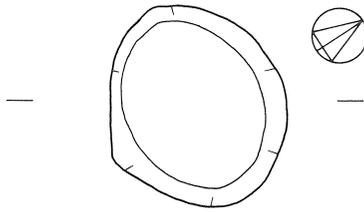
第126図 土壤実測図(10)



16.4 m



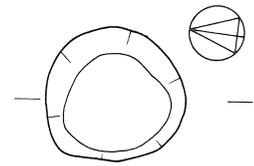
SK 191



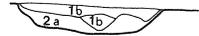
16.2 m



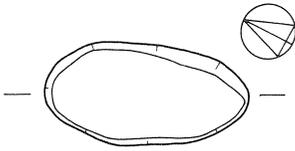
SK 186



16.2 m



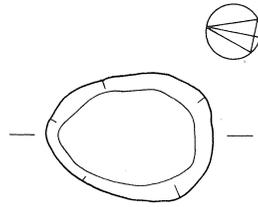
SK 199



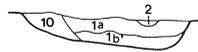
16.4 m



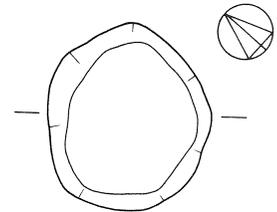
SK 234



16.4 m



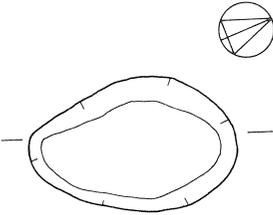
SK 231



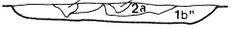
16.4 m



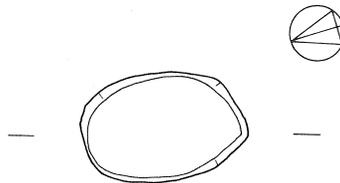
SK 217



16.4 m



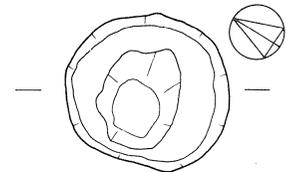
SK 237



16.5 m



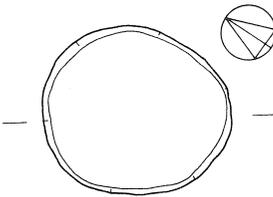
SK 251



16.6 m



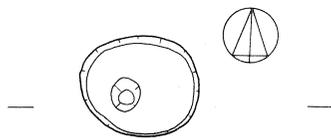
SK 256



16.6 m



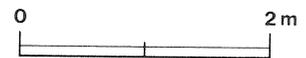
SK 263



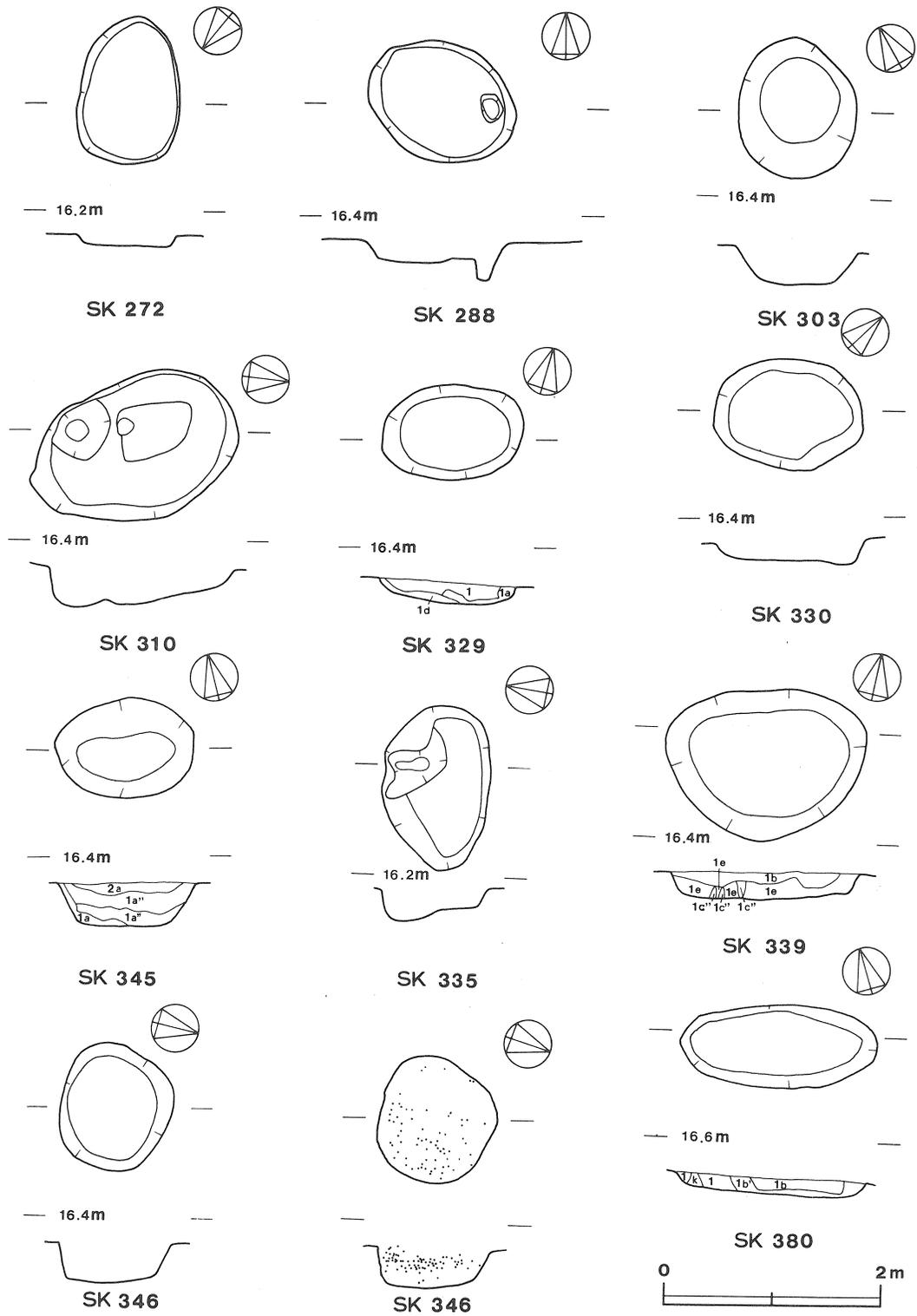
16.2 m



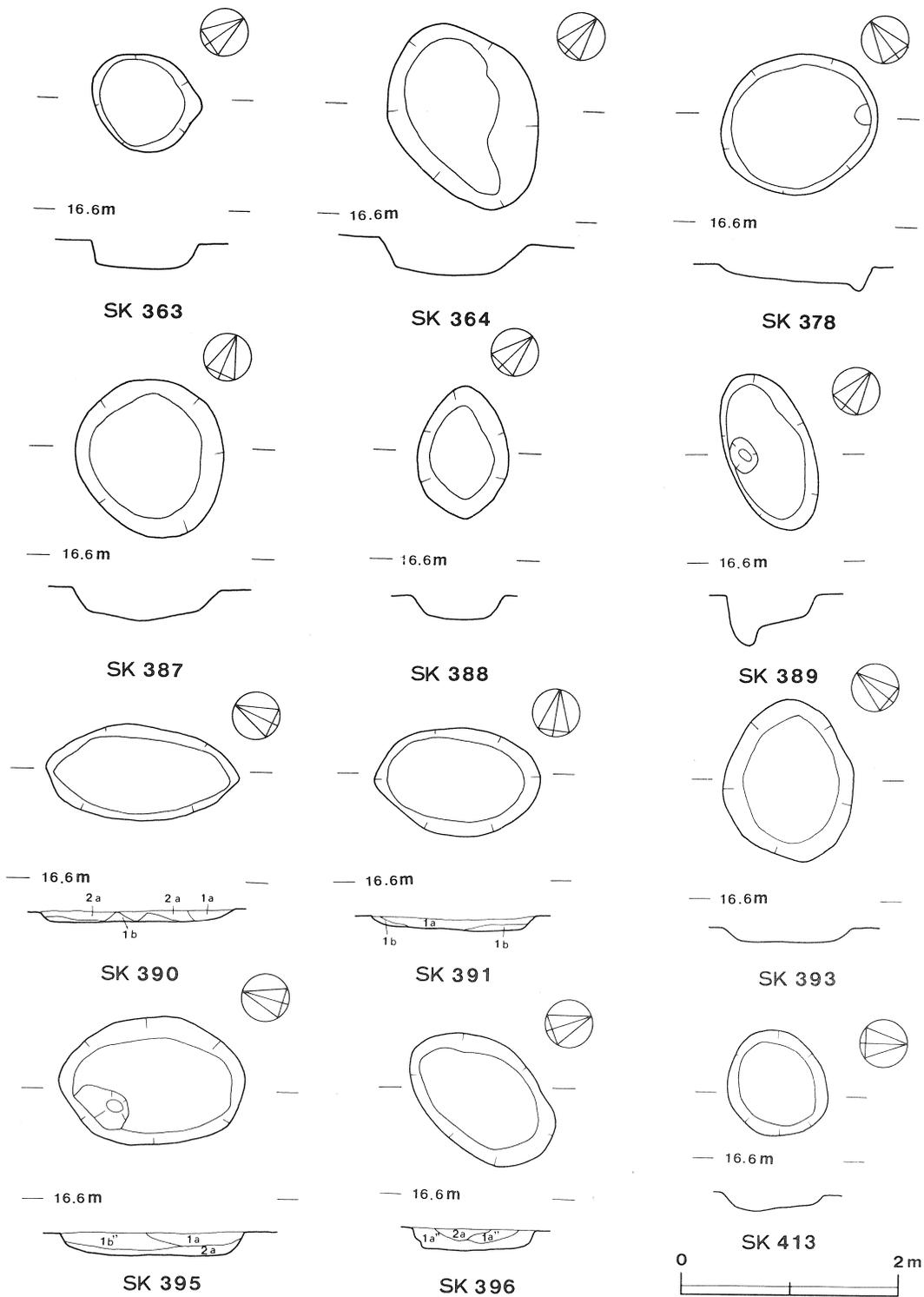
SK 264



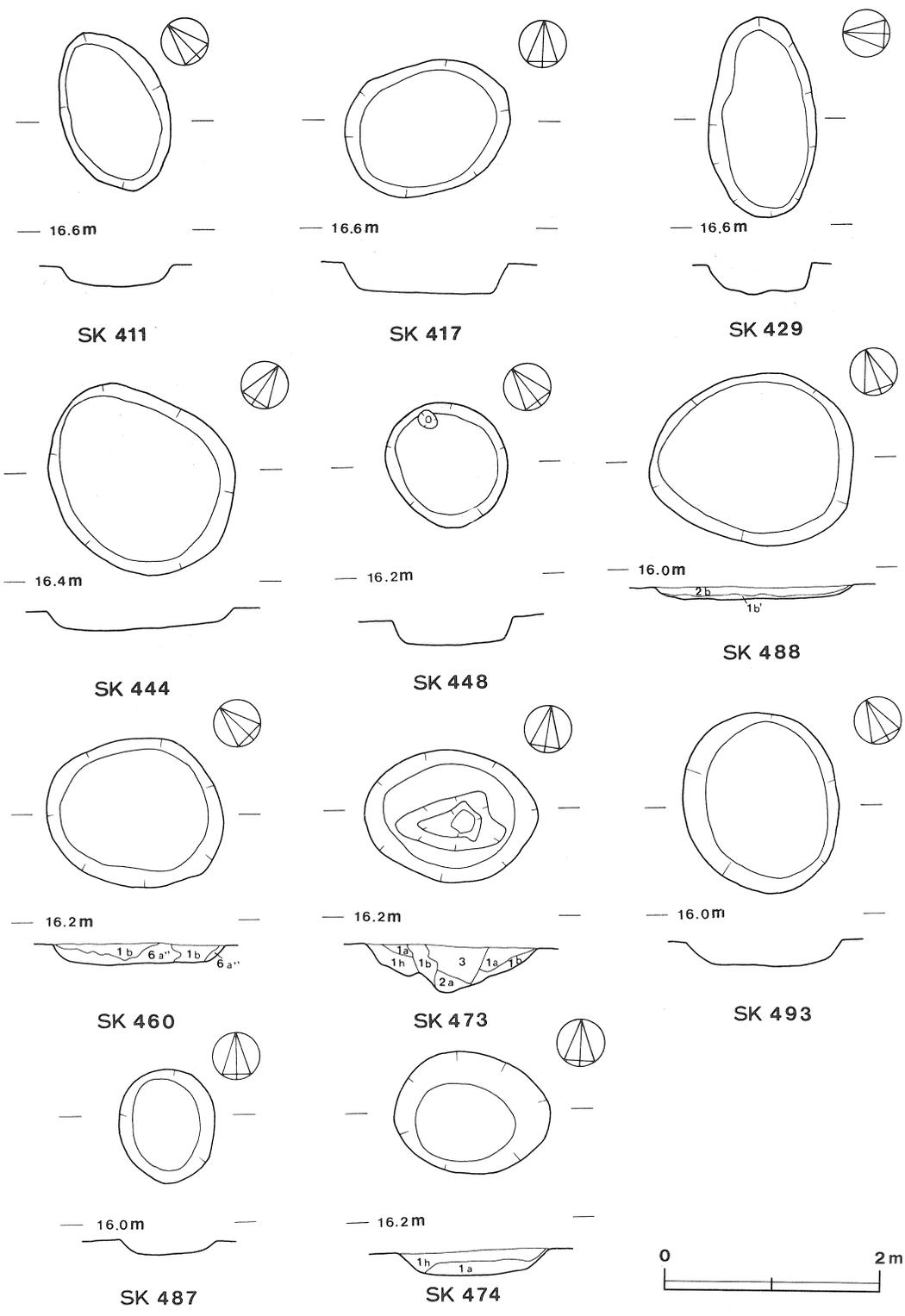
第127図 土壌実測図(11)



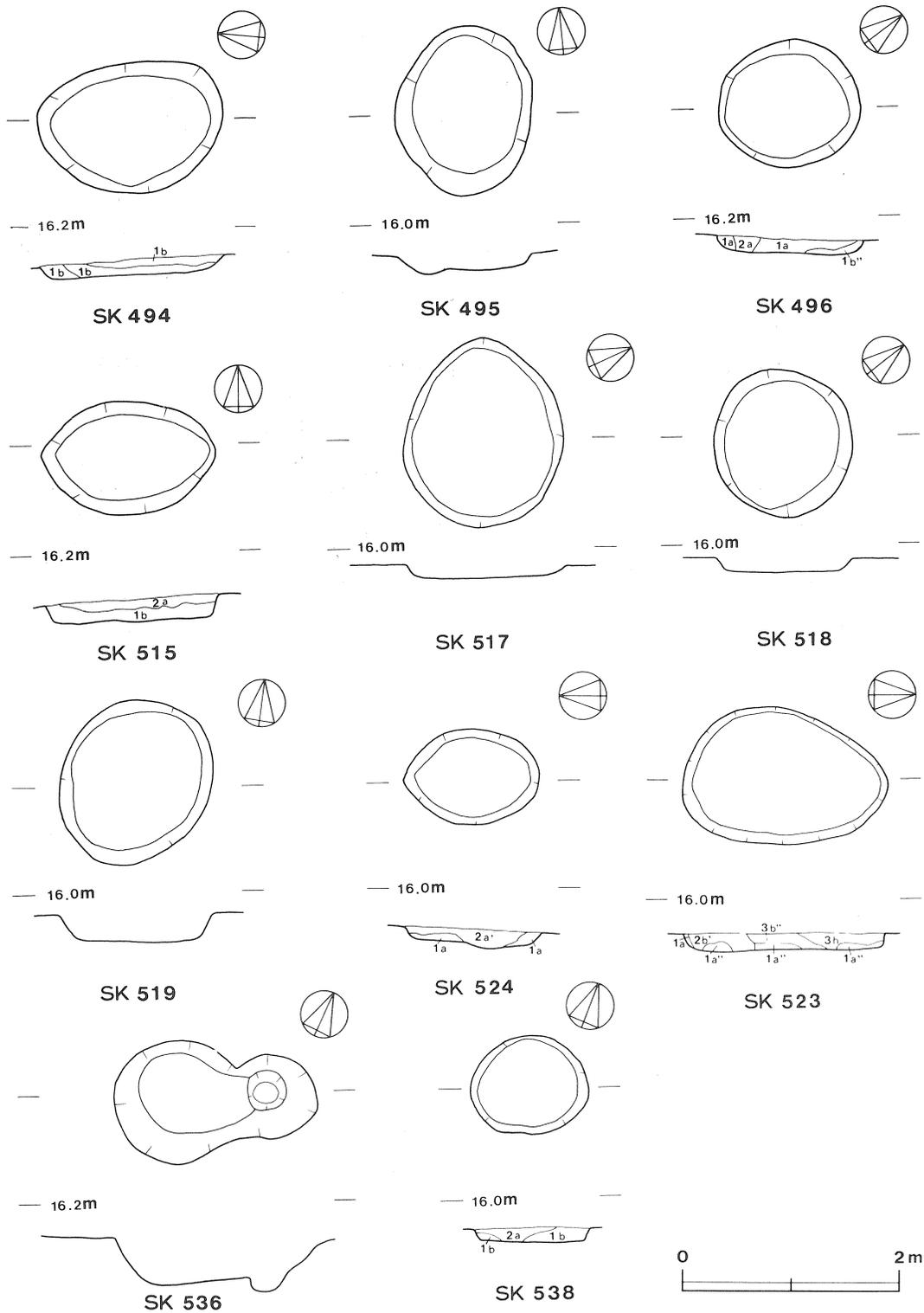
第128図 土壌実測図(12)



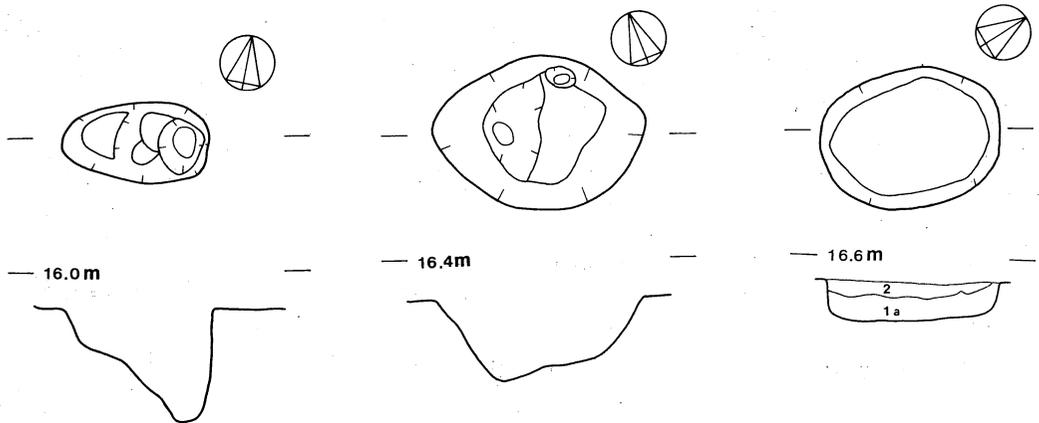
第129図 土坑実測図(13)



第130图 土壤実測図(14)



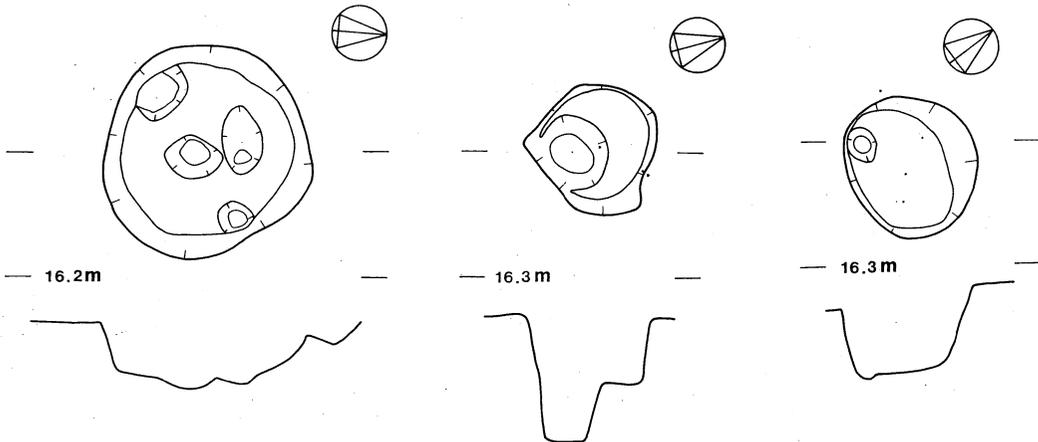
第131図 土壤実測図(15)



SK 66

SK 430

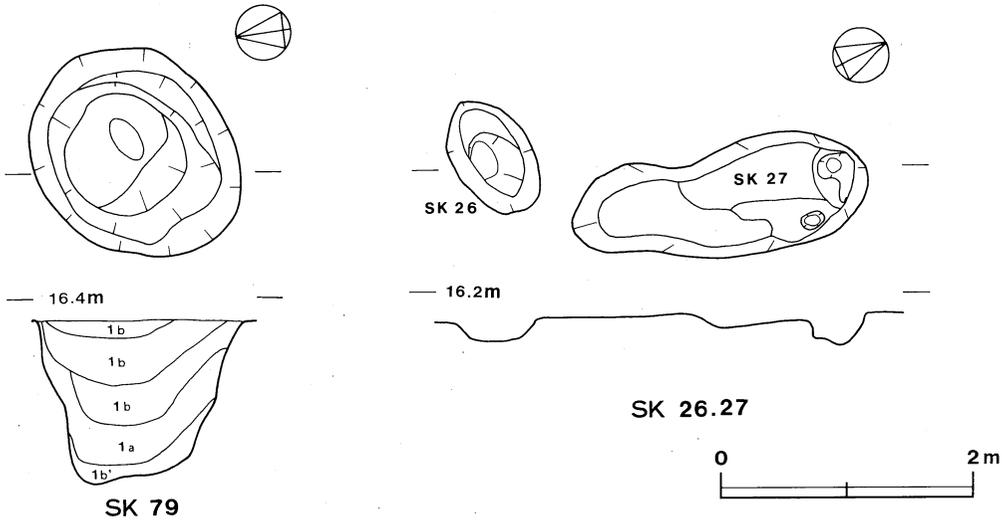
SK 244



SK 466

SK 268

SK 267



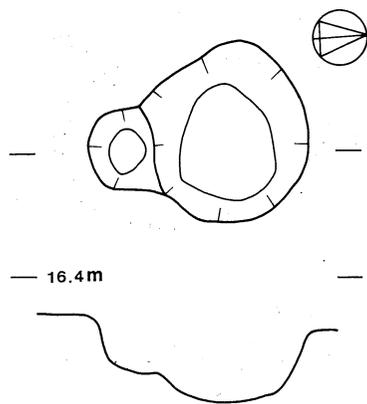
SK 79

SK 26

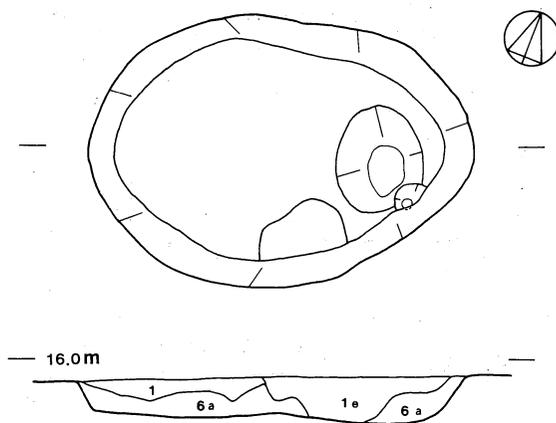
SK 26.27



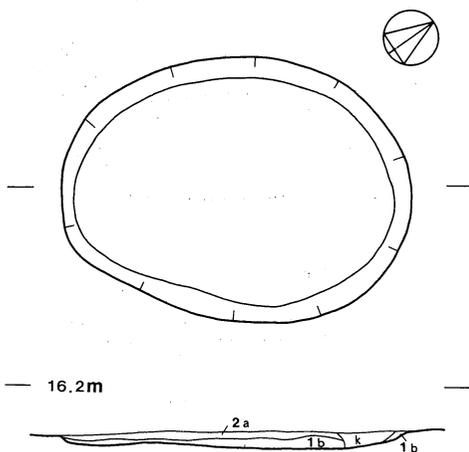
第132図 土壤実測図(16)



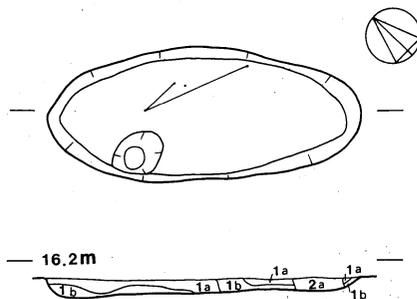
SK 297



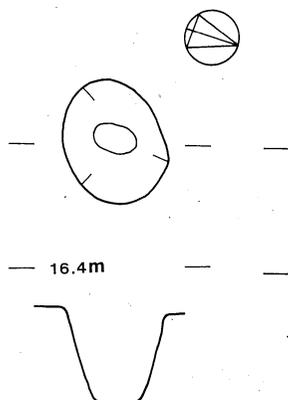
SK 4



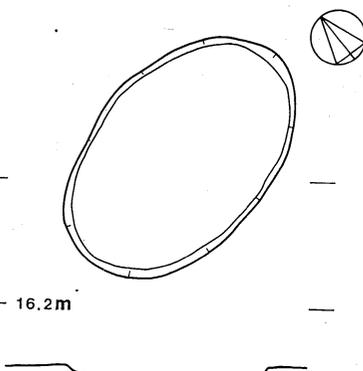
SK 476



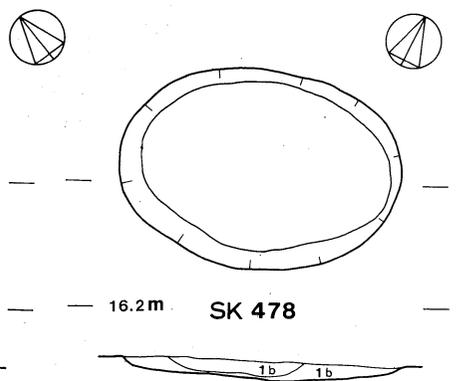
SK 134



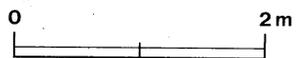
SK 298



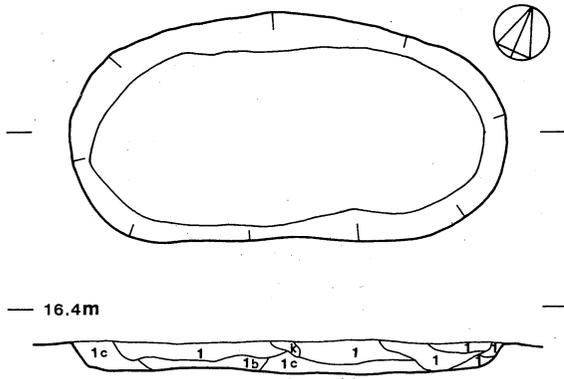
SK 195



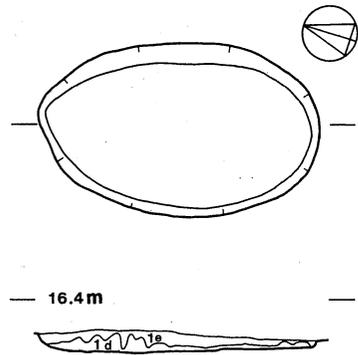
SK 478



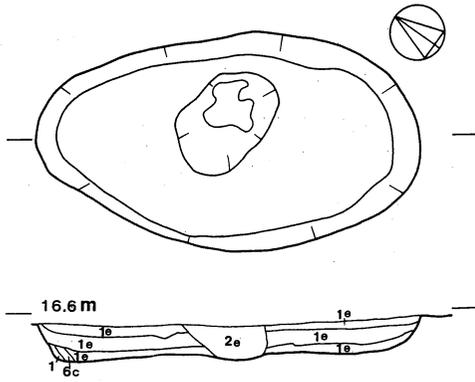
第133図 土壌実測図(17)



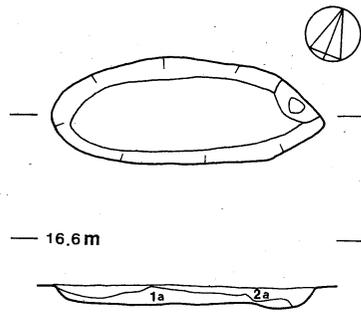
SK 170



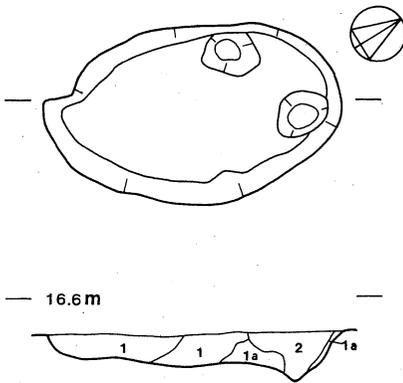
SK 325



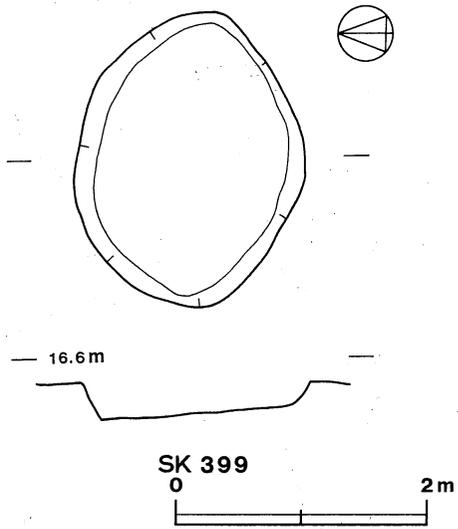
SK 365



SK 384

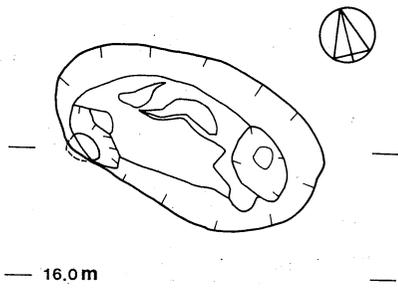


SK 386

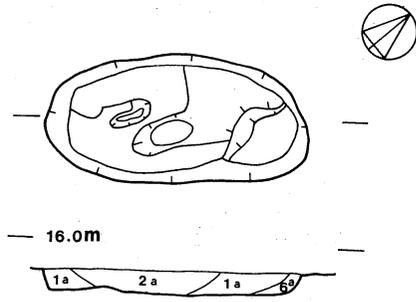


SK 399

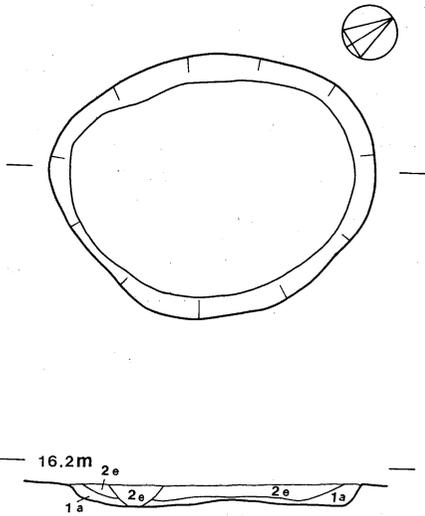
第134図 土壌実測図(18)



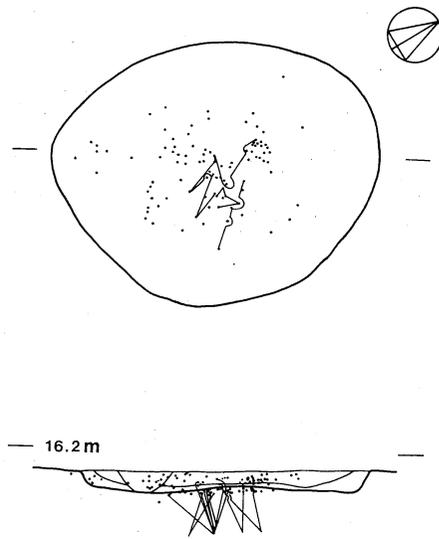
SK 2



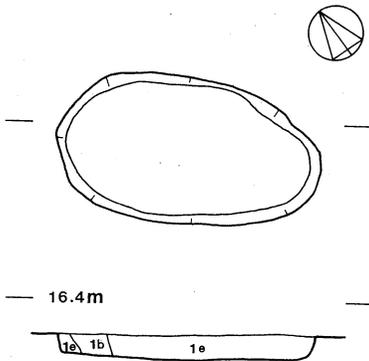
SK 101



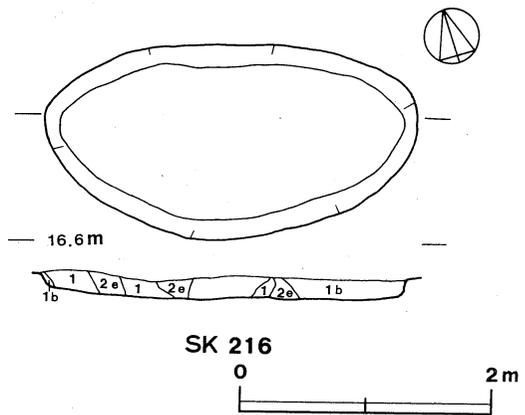
SK 116



SK 116

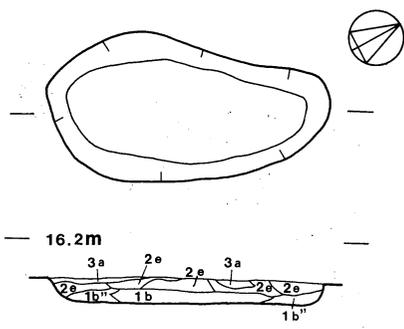


SK 152

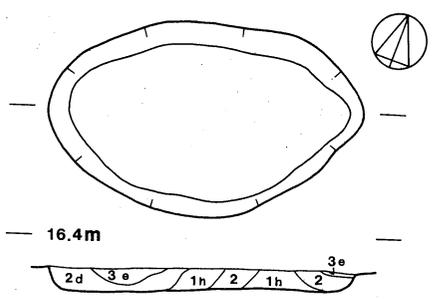


SK 216

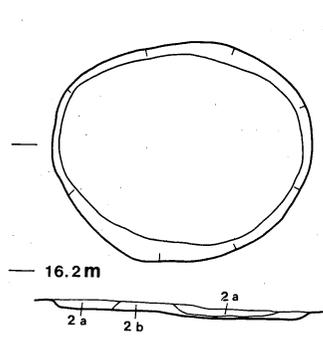
第135図 土壌実測図(19)



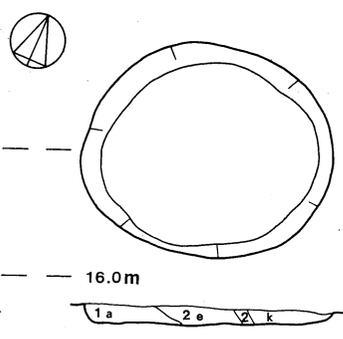
SK 449



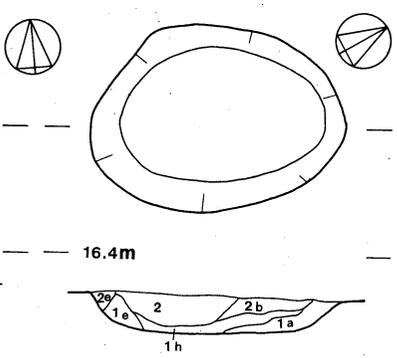
SK 454



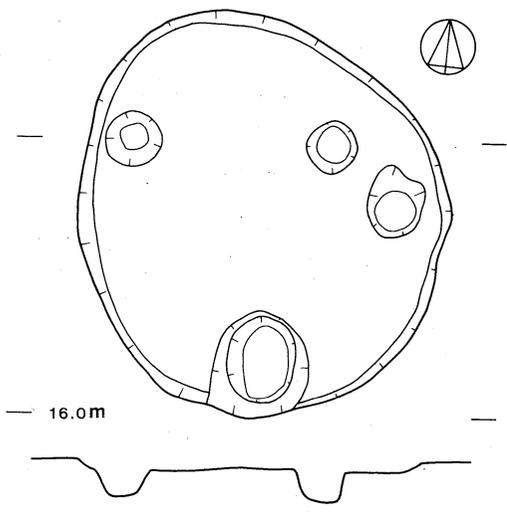
SK 479



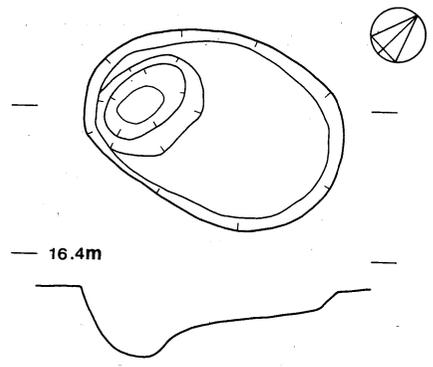
SK 482



SK 497



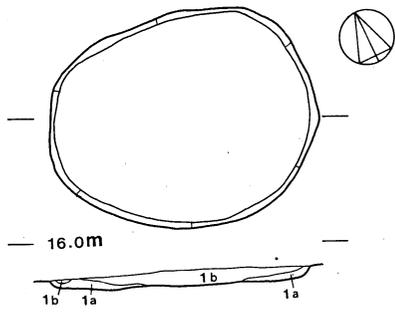
SK 505



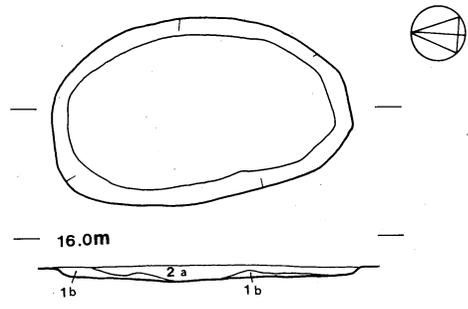
SK 455



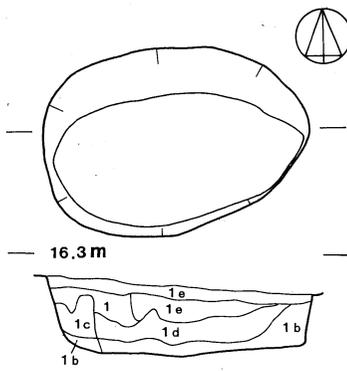
第136図 土坑実測図(20)



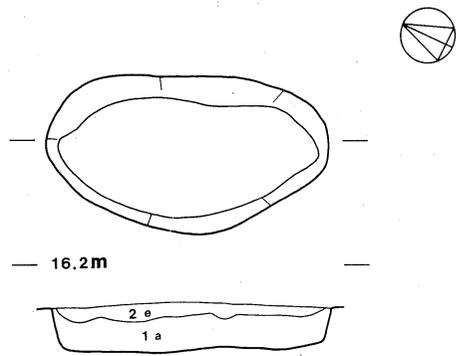
SK 503



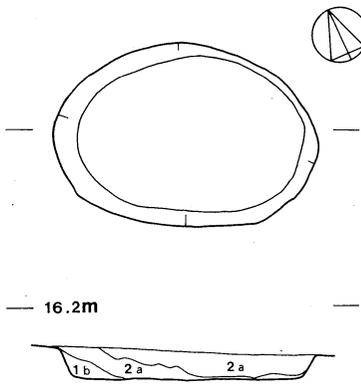
SK 506



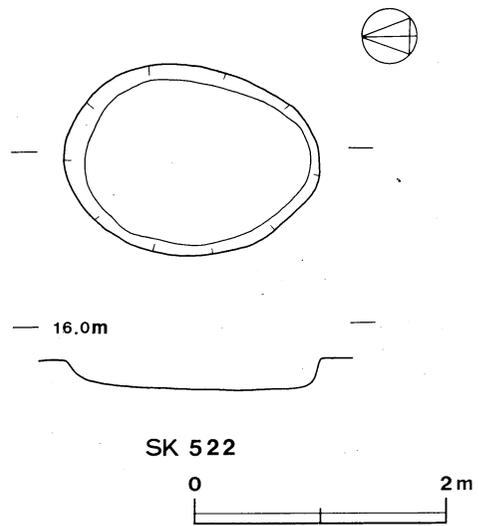
SK 333



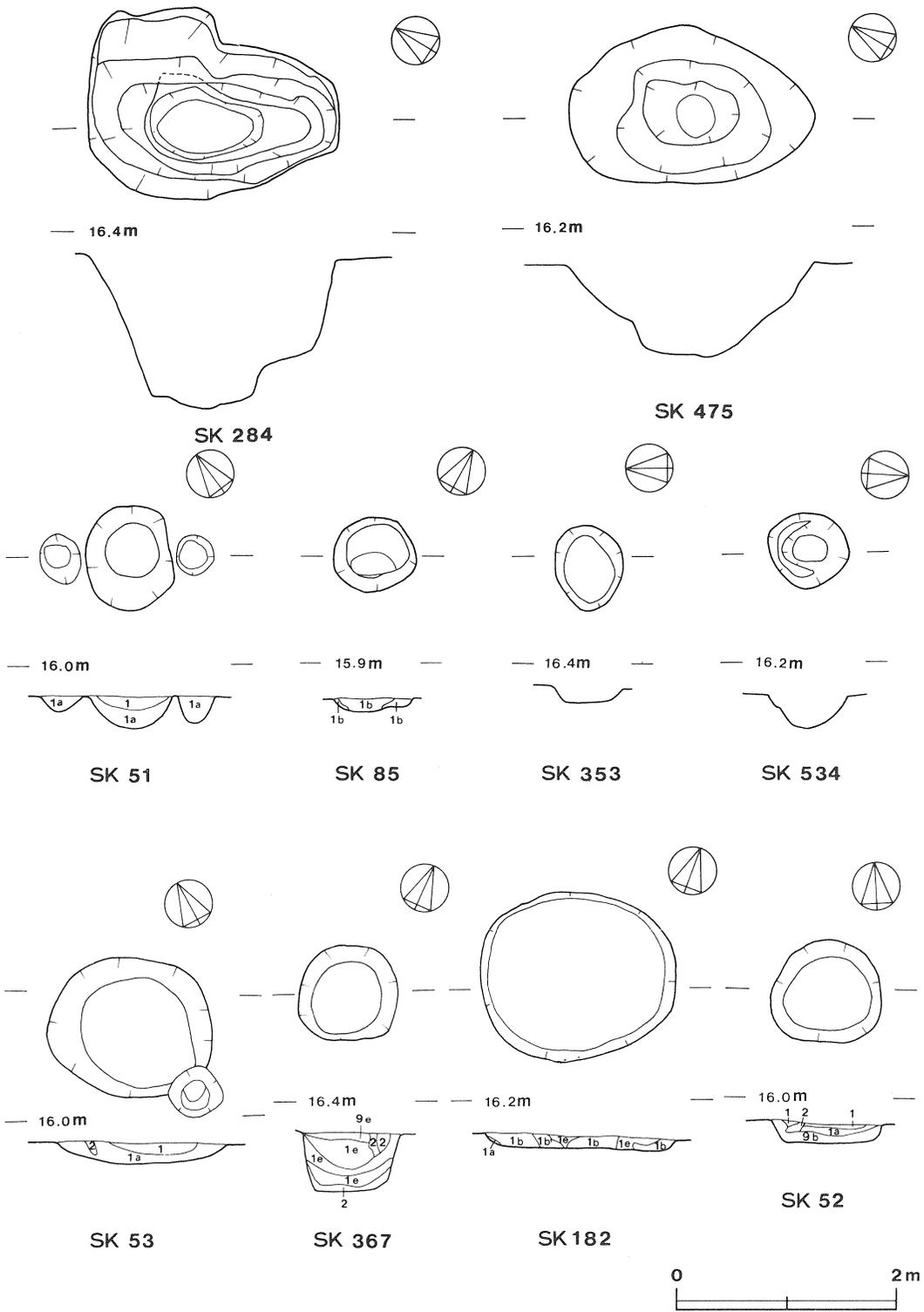
SK 510



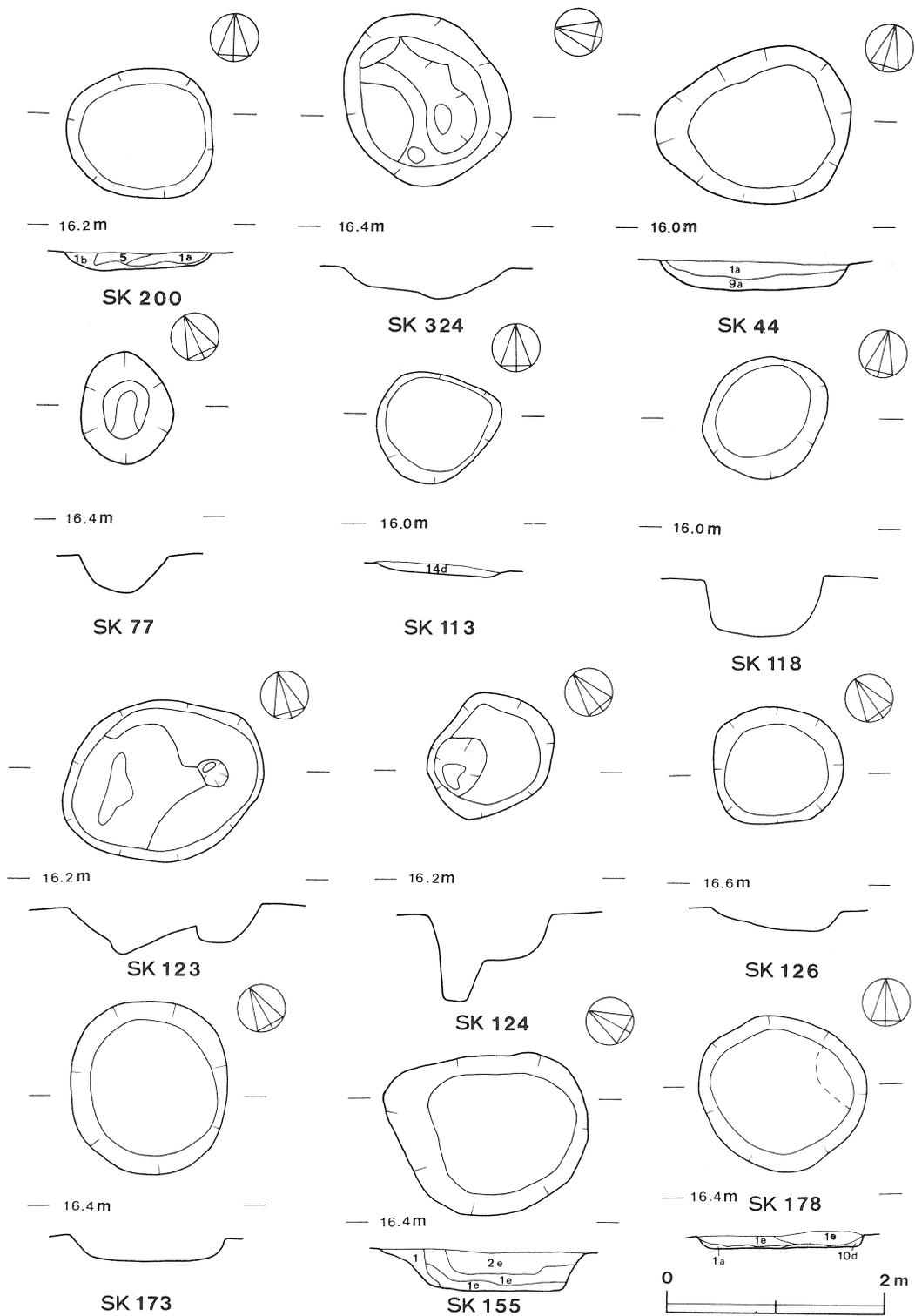
SK 511



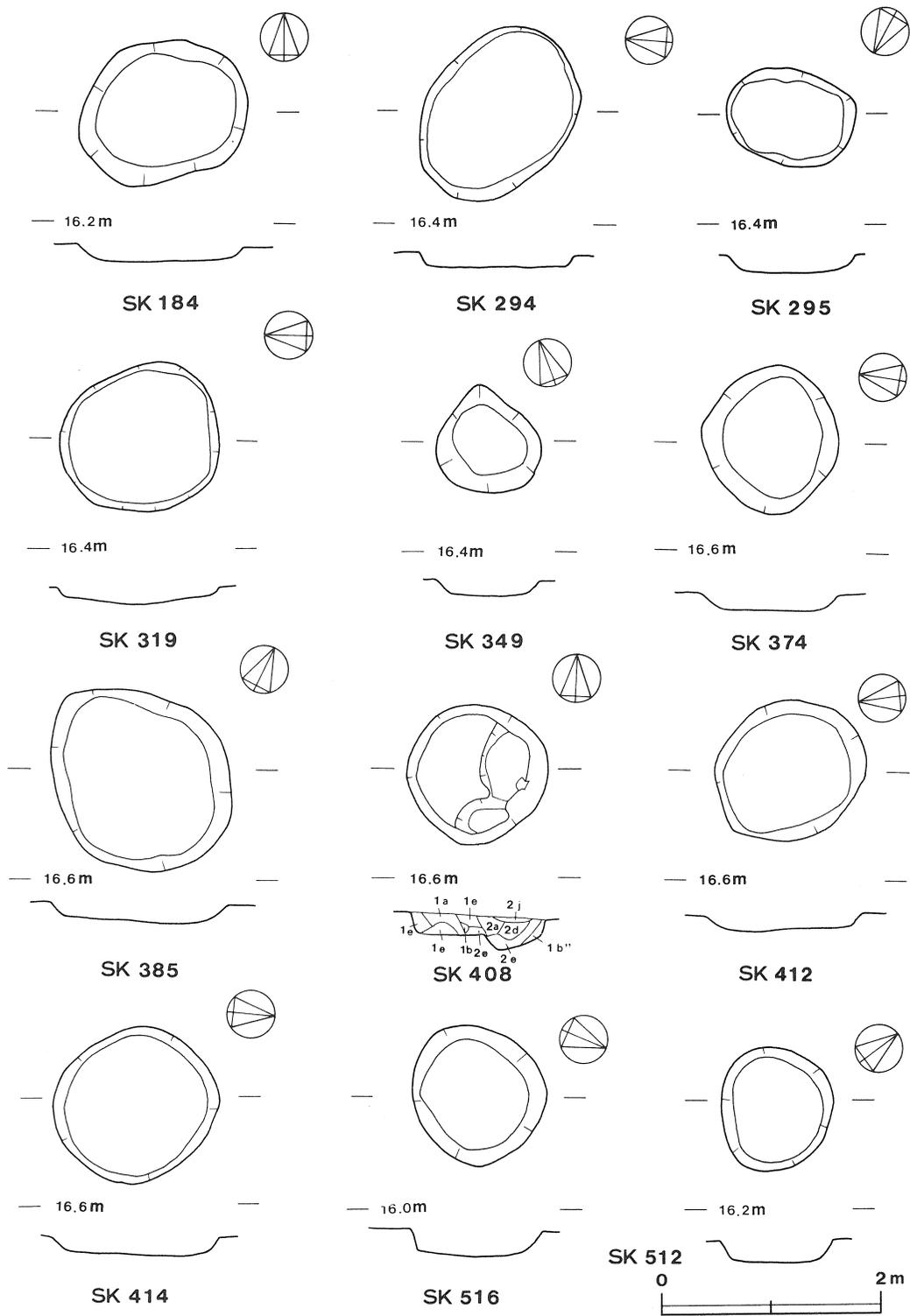
SK 522



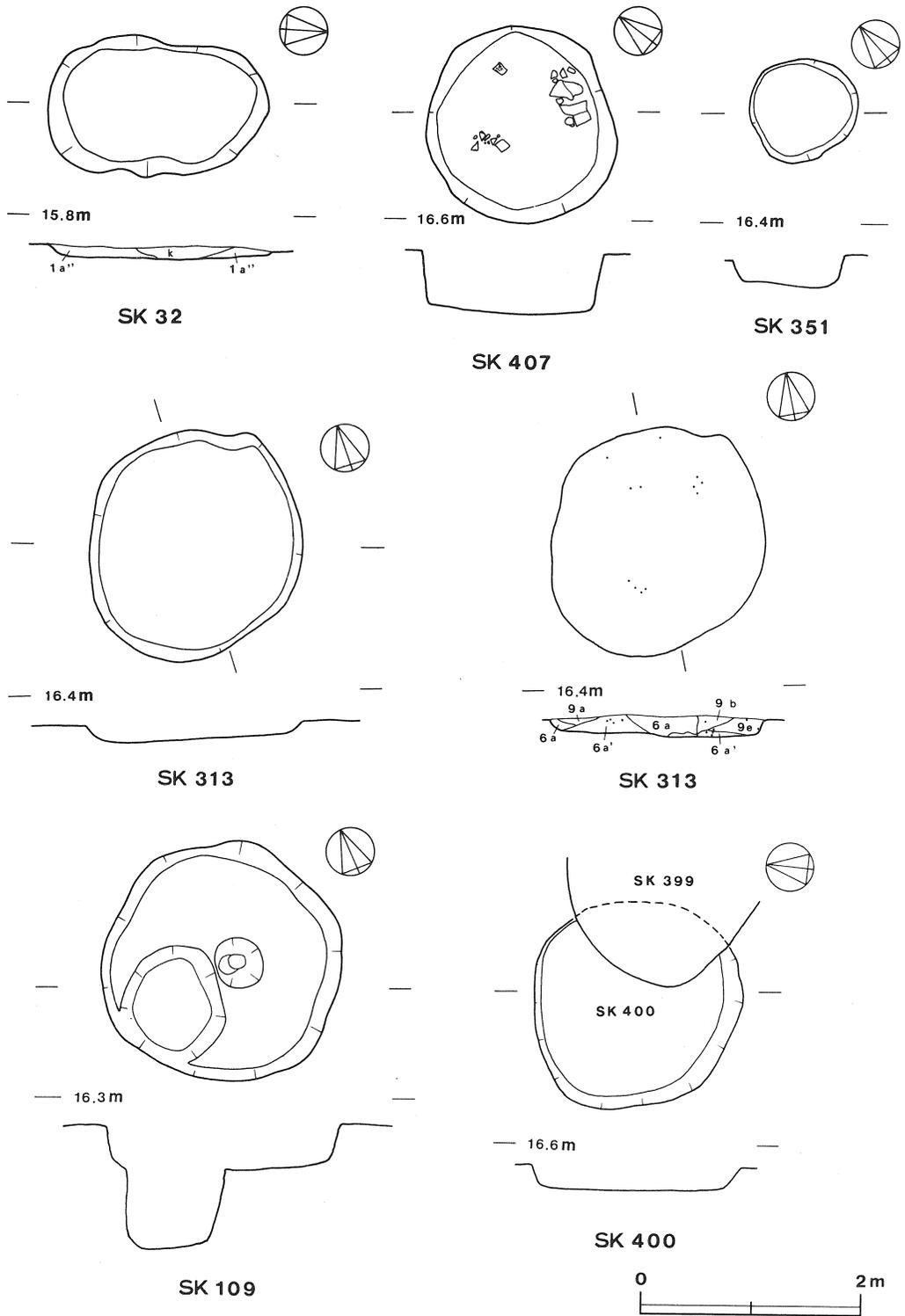
第138图 土壤実測図(22)



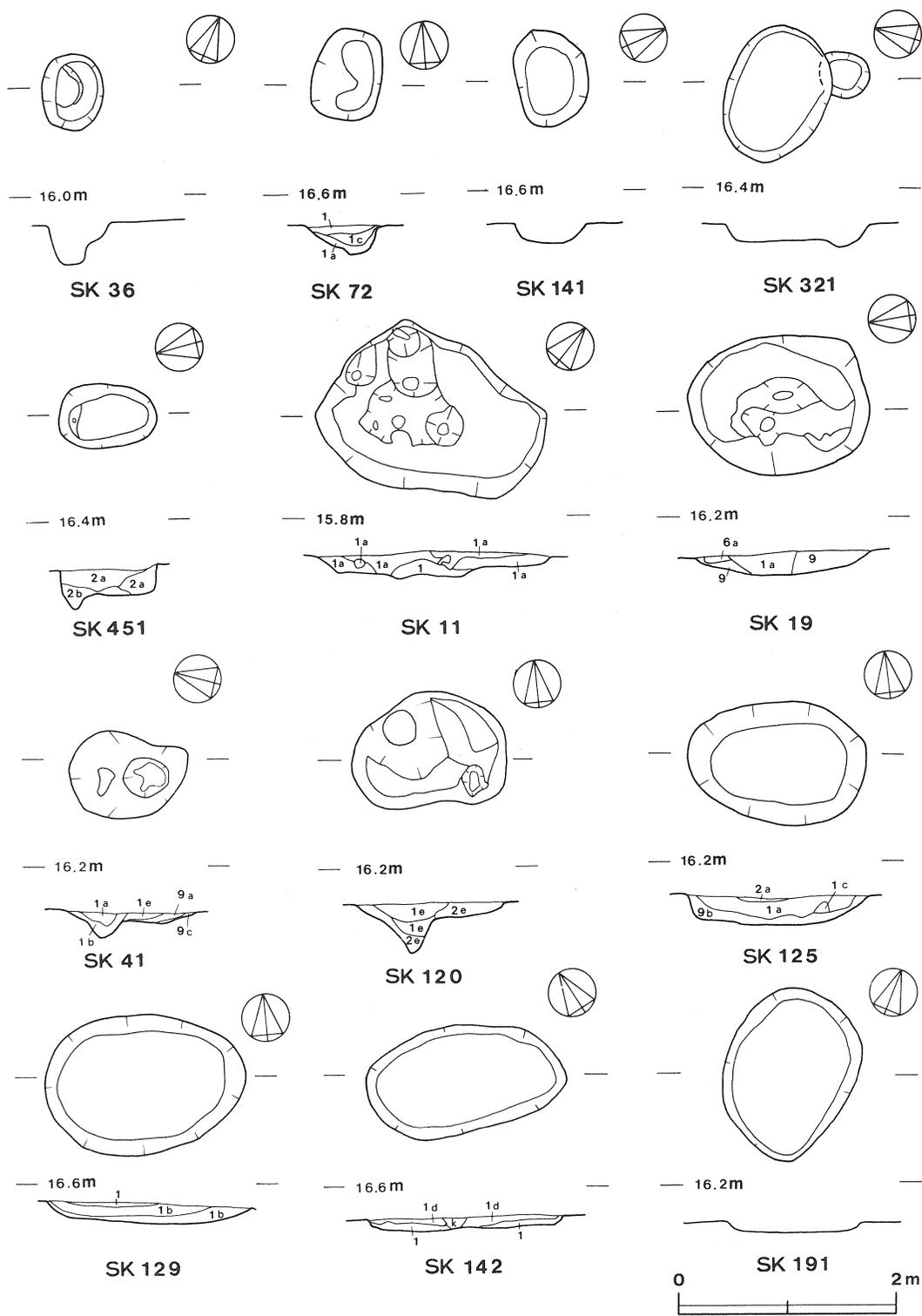
第139図 土壌実測図(23)



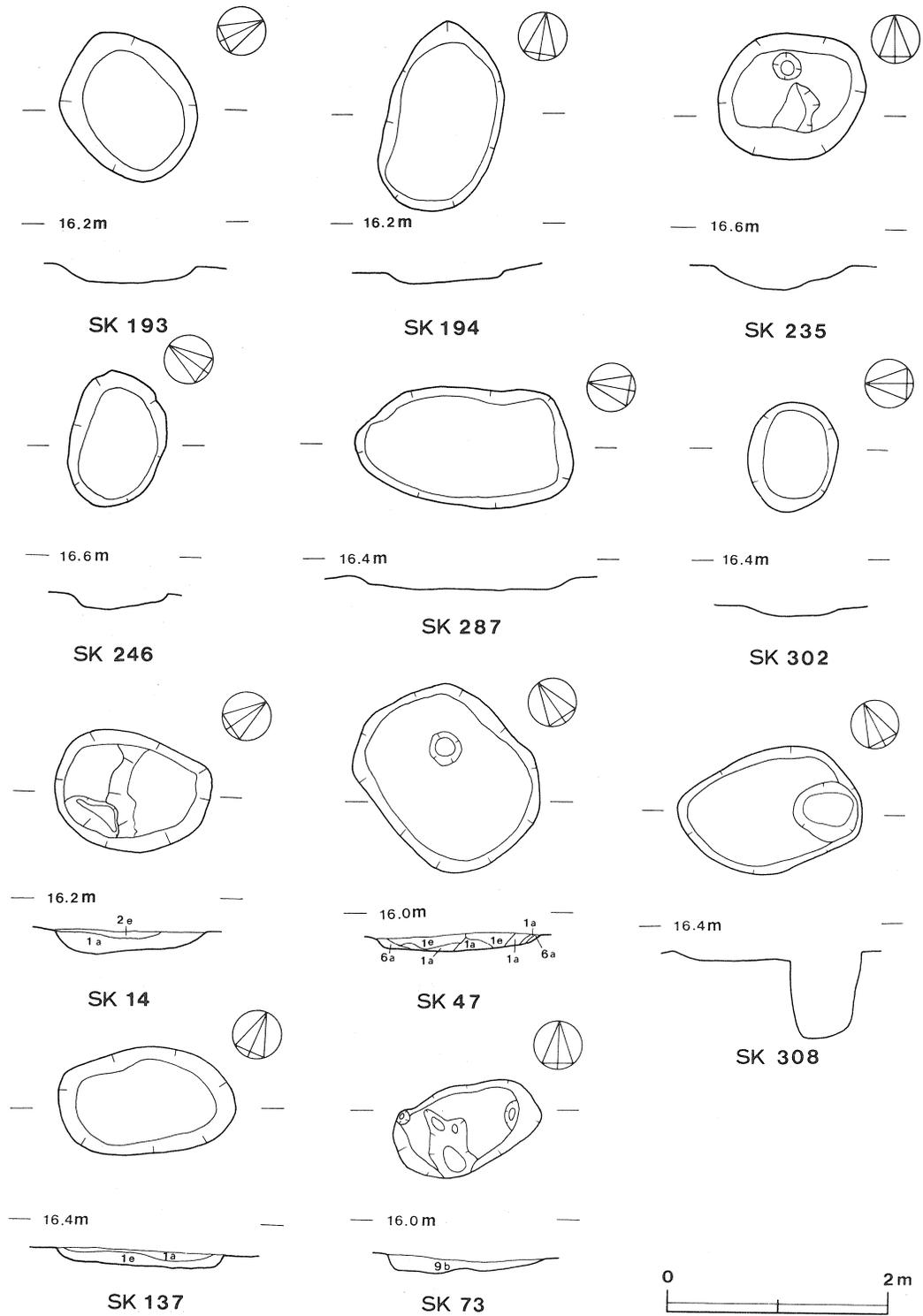
第140図 土壌実測図(24)



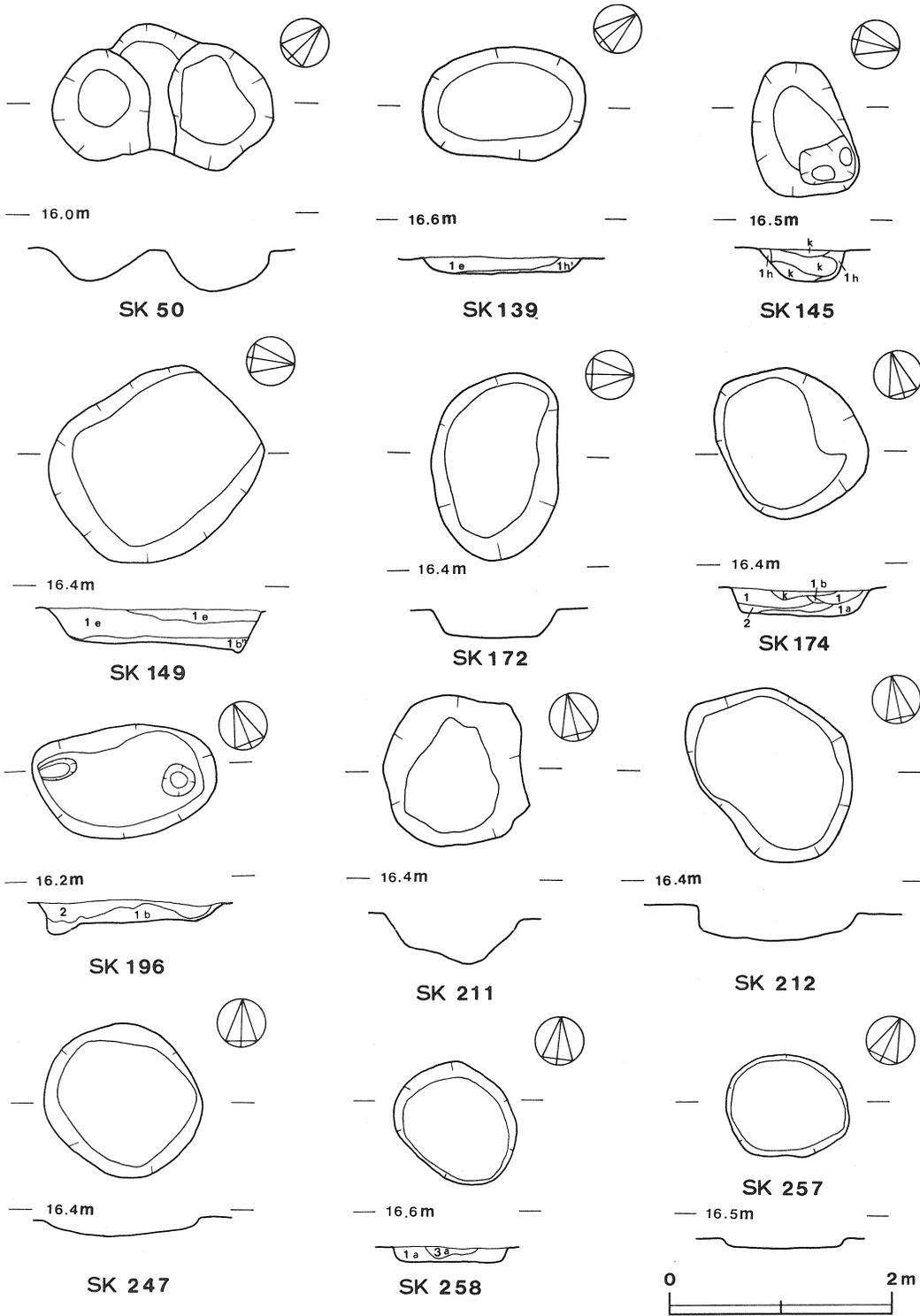
第141図 土墳実測図(25)



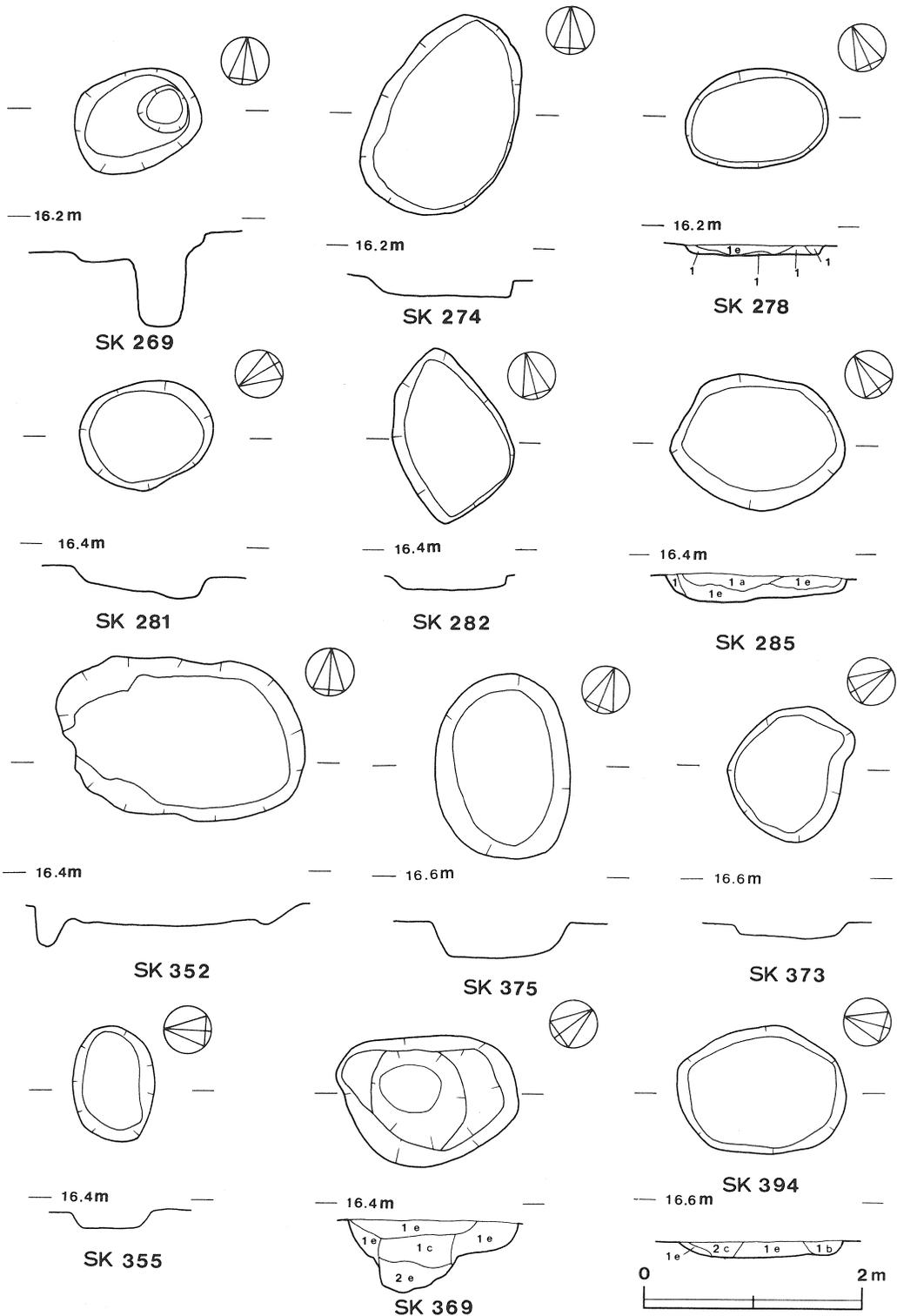
第142図 土壌実測図(26)



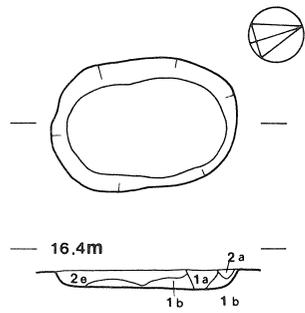
第143図 土壌実測図 (27)



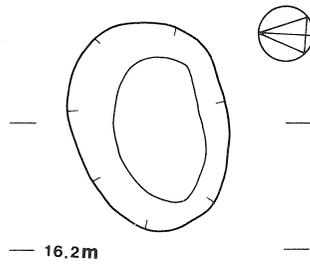
第144図 土壤実測図 (28)



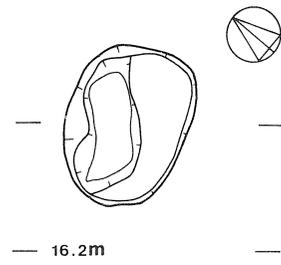
第145図 土壤実測図 (29)



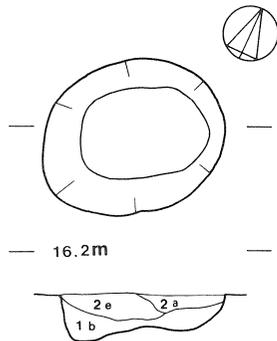
SK 440



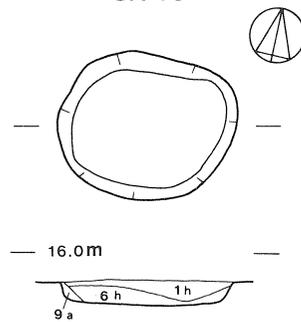
SK 461



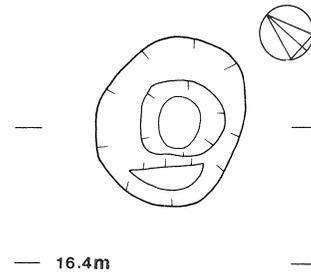
SK 469



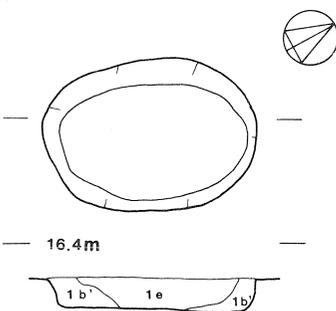
SK 513



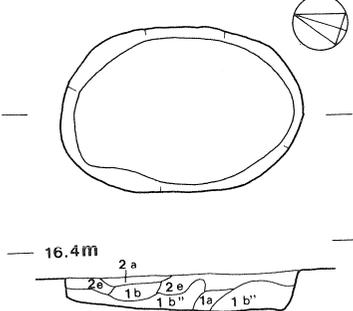
SK 521



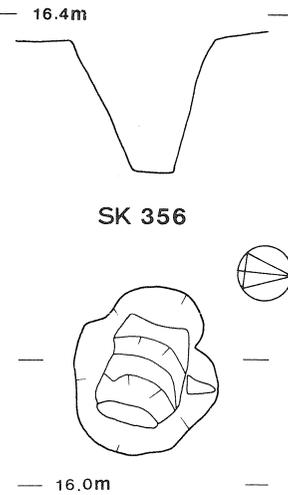
SK 356



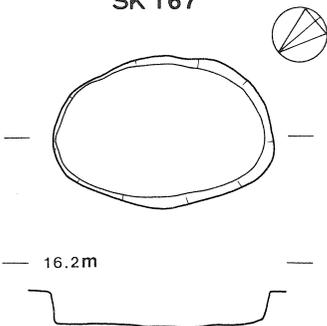
SK 167



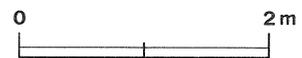
SK 498



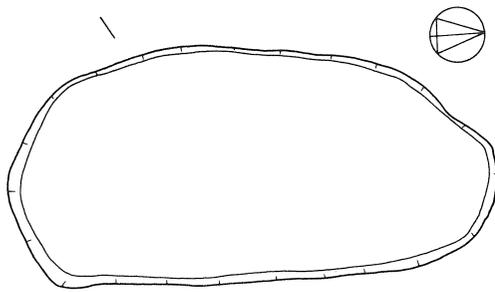
SK 74



SK 277



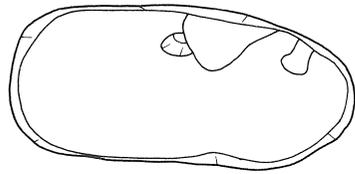
第146図 土壤実測図 (30)



16.0 m



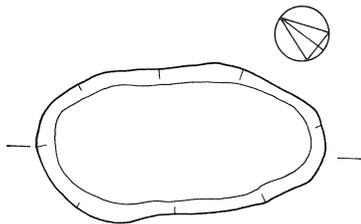
SK 37



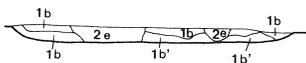
16.0 m



SK 40

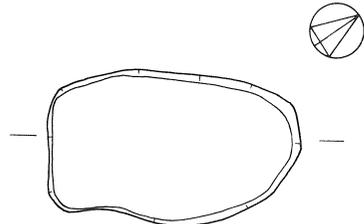


16.2 m



SK 202

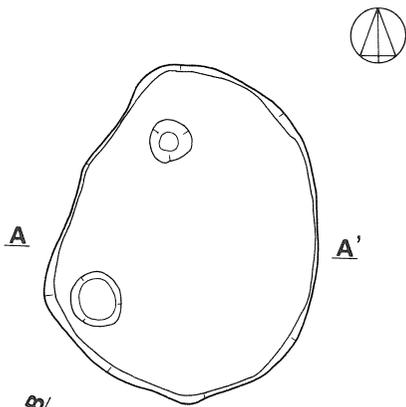
B/



16.6 m



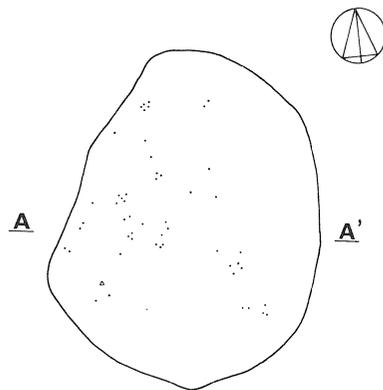
SK 419



A 16.2 m



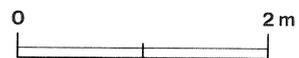
SK 450



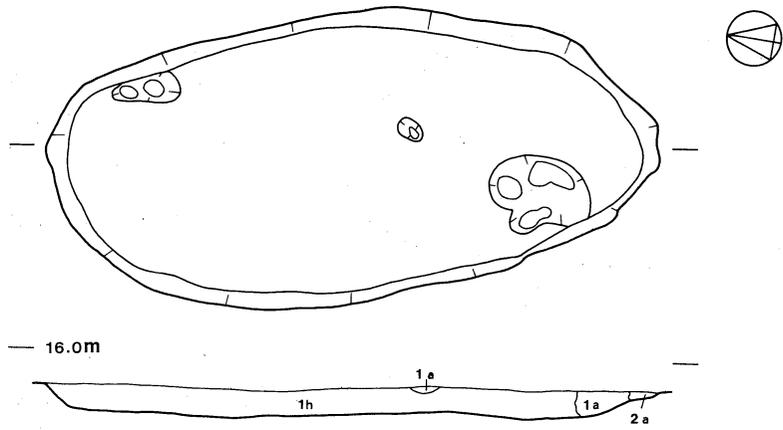
A 16.2 m



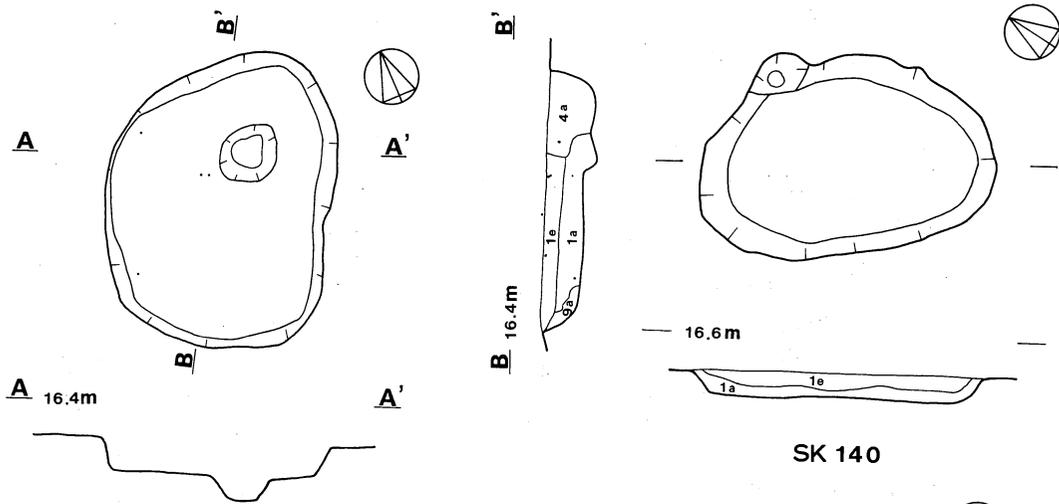
SK 450



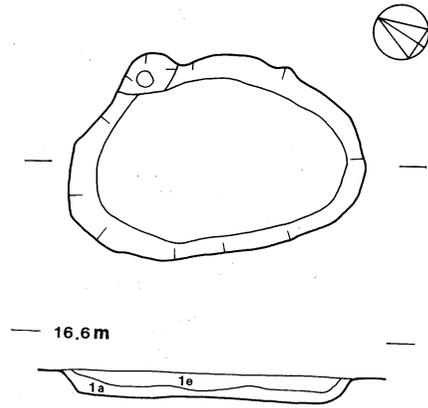
第147図 土坑実測図(31)



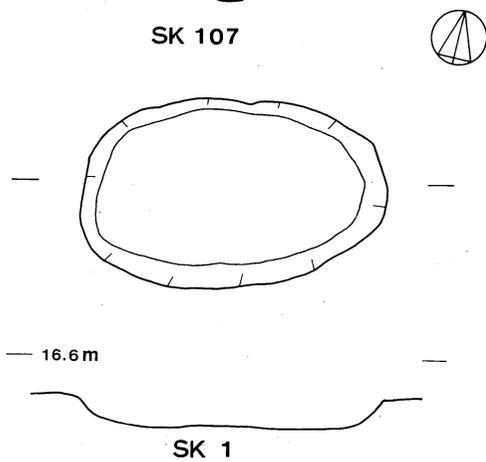
SK 38



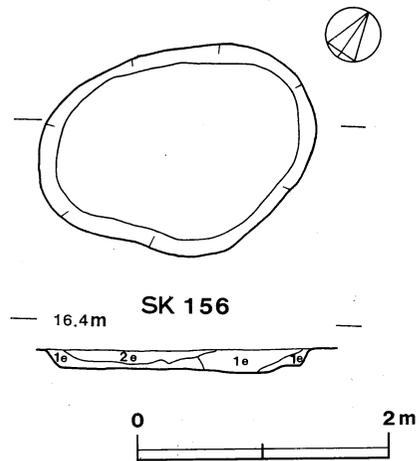
SK 107



SK 140

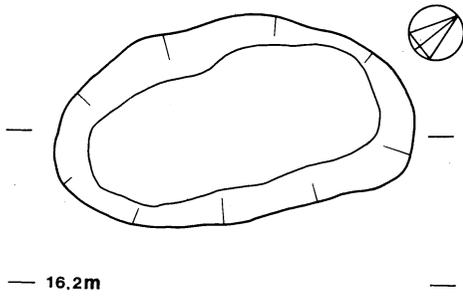


SK 1

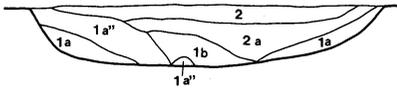


SK 156

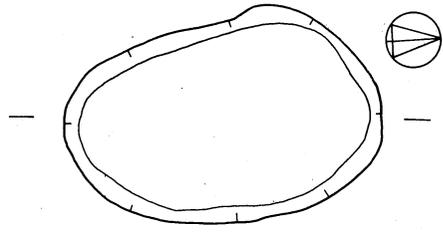
第148図 土壌実測図(32)



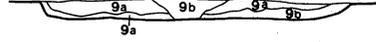
16.2m



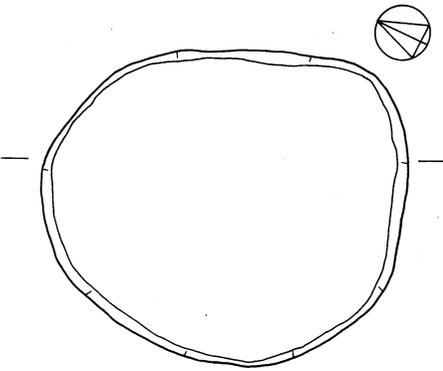
SK 185



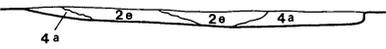
16.4m



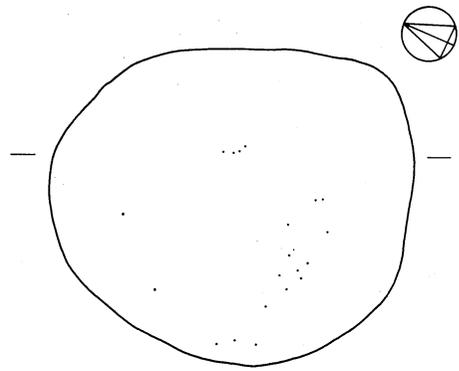
SK 285



16.6m



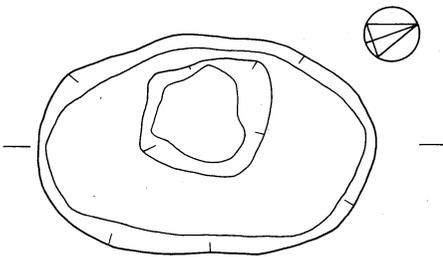
SK 260



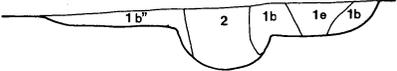
16.6m



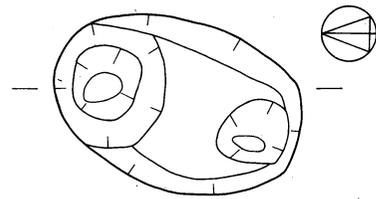
SK 260



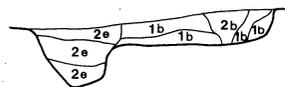
16.4m



SK 366



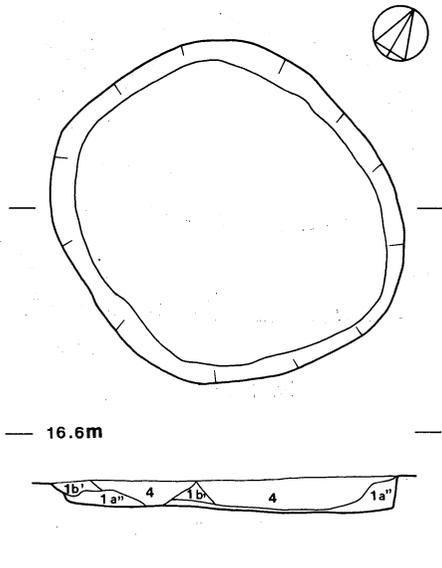
16.2m



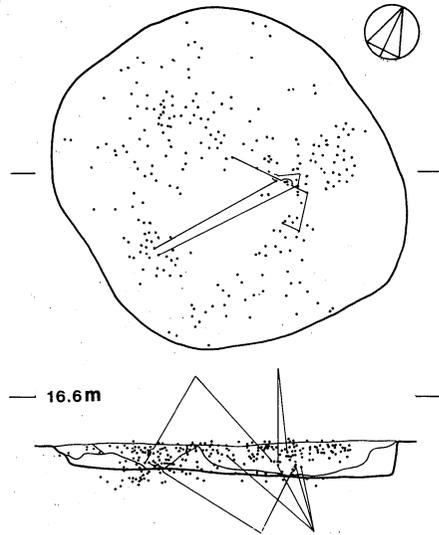
SK 370



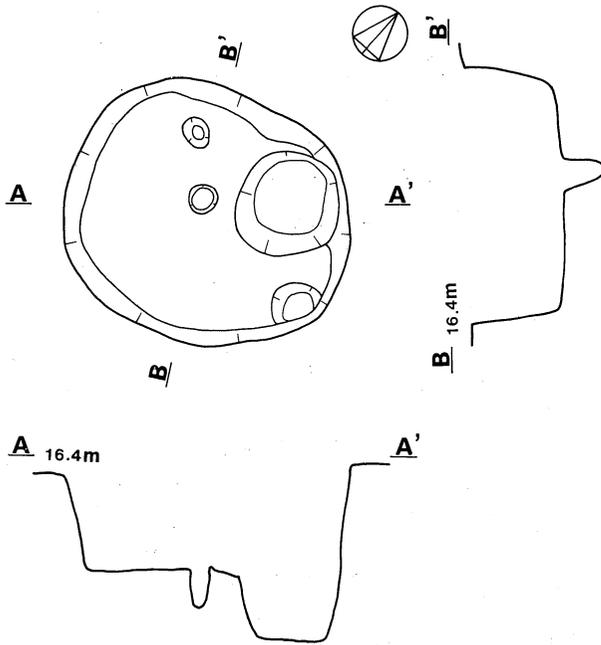
第149図 土壤実測図(33)



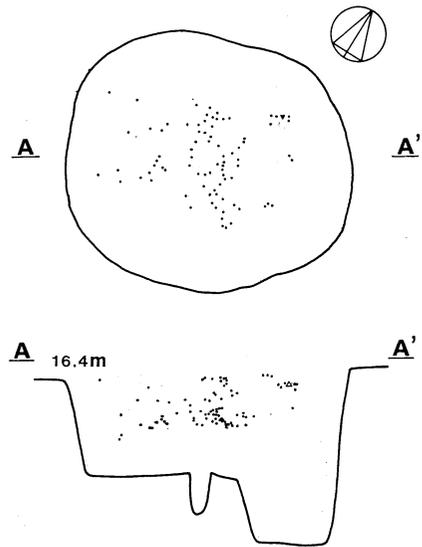
SK 420



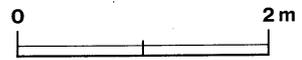
SK 420



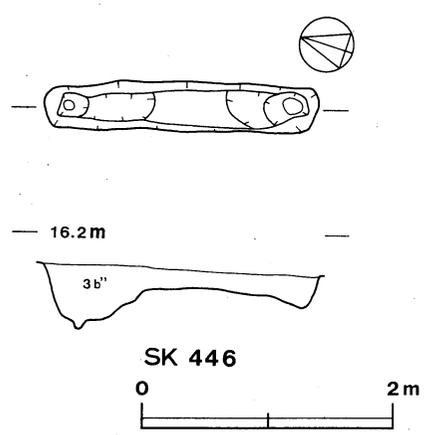
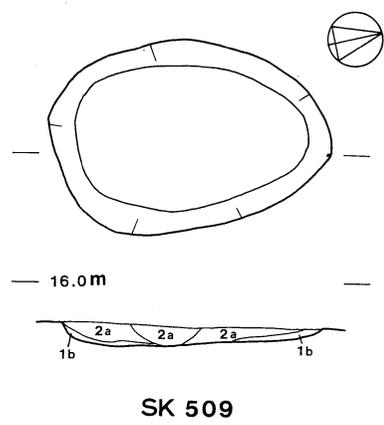
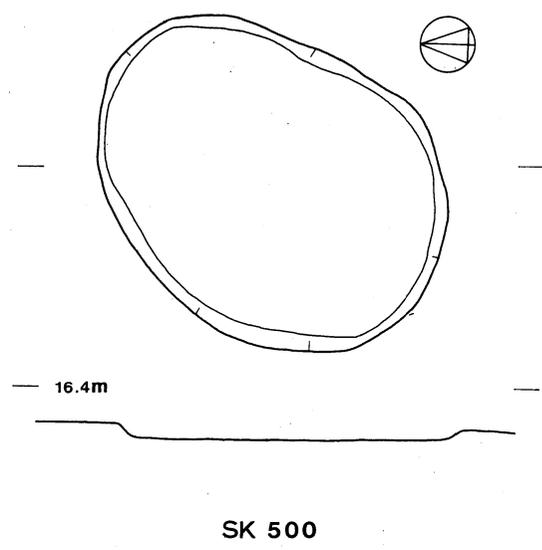
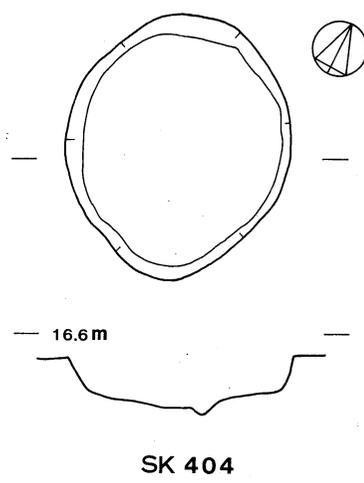
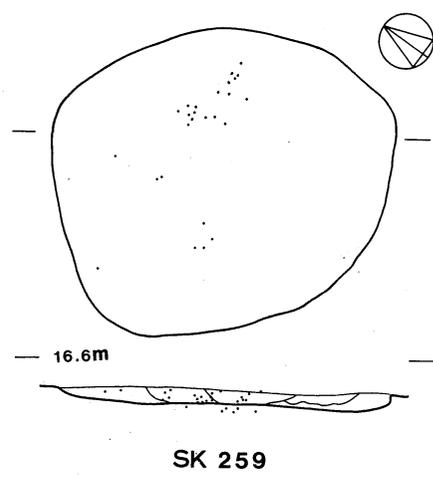
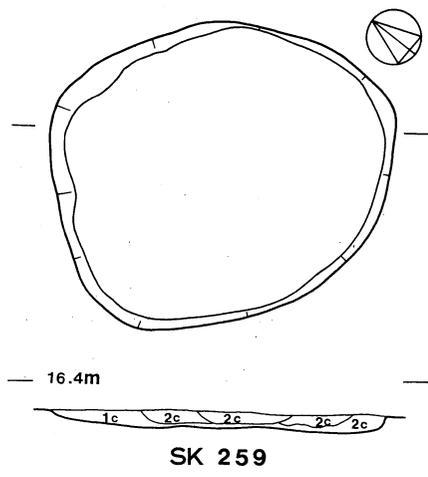
SK 248



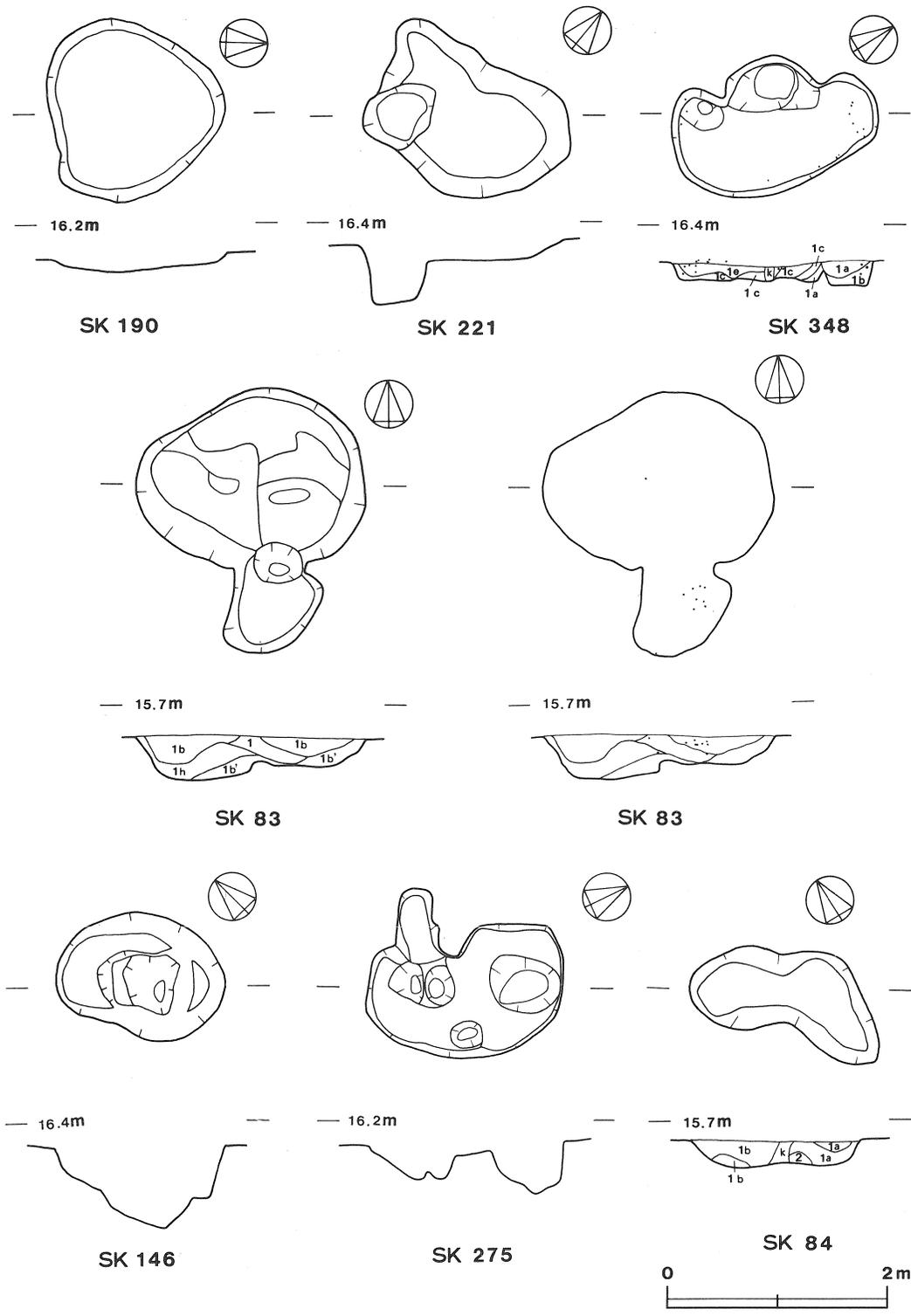
SK 248



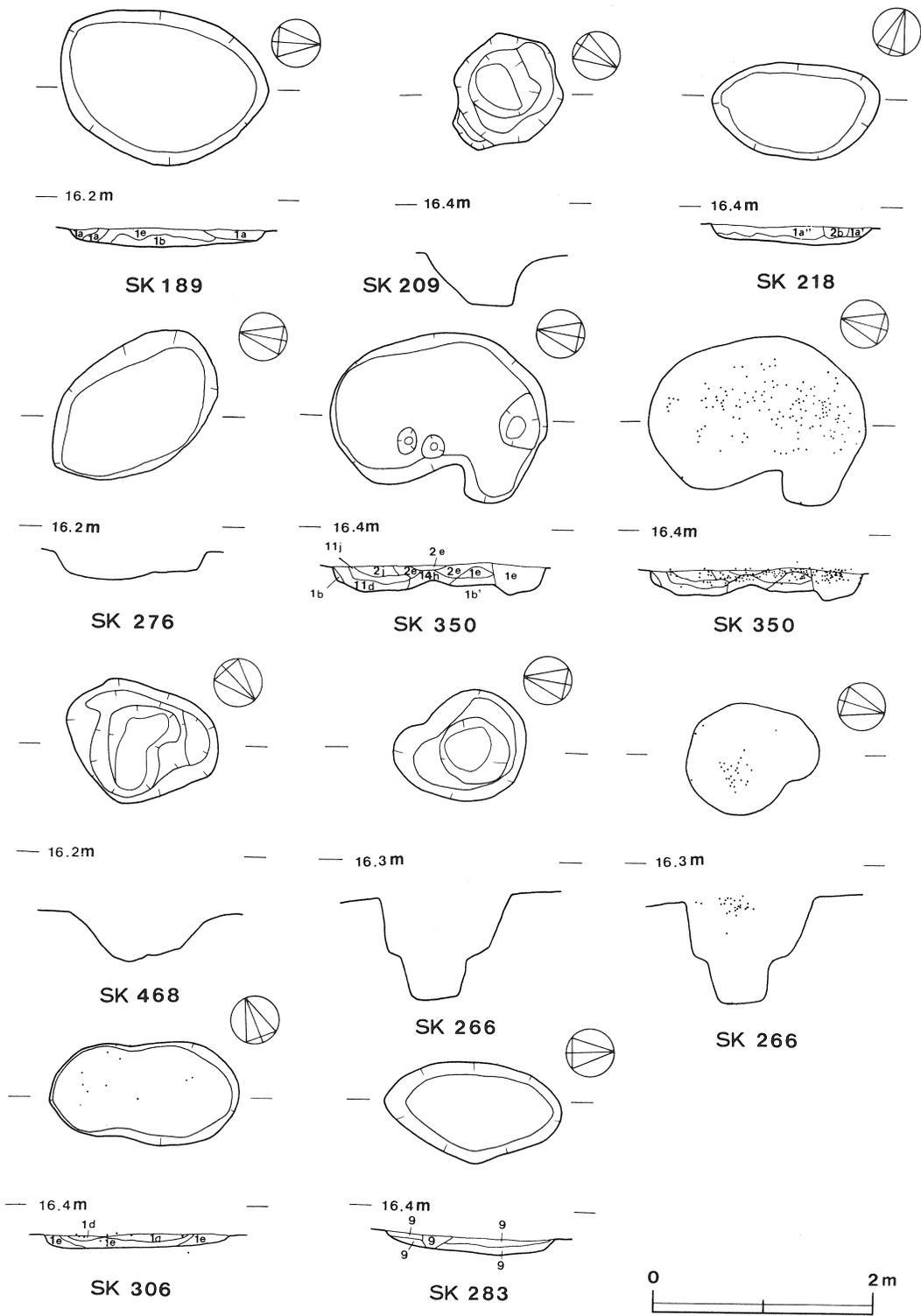
第150図 土壌実測図 (34)



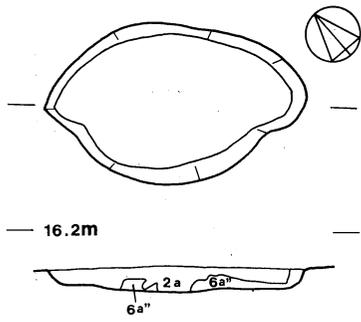
第151図 土壌実測図 (35)



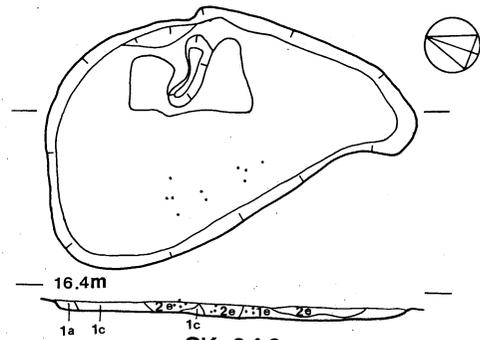
第152図 土壤実測図 (36)



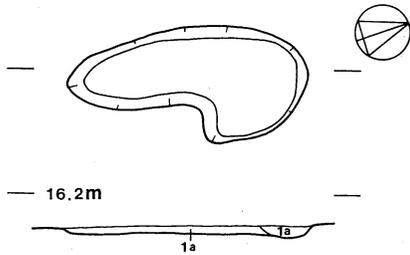
第153図 土壙実測図 (37)



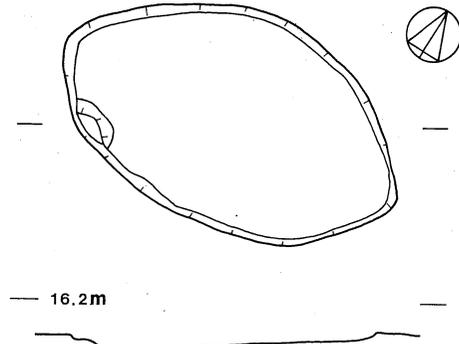
SK 6



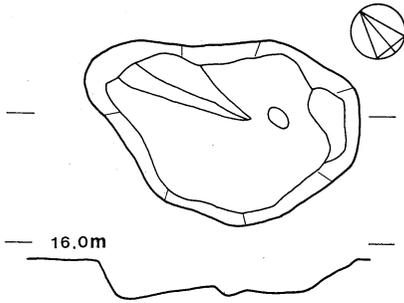
SK 240



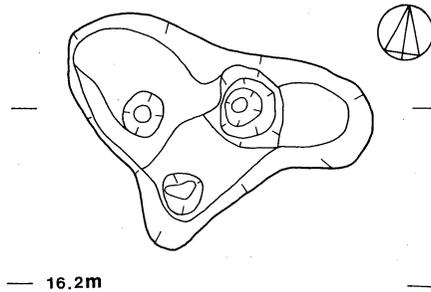
SK 112



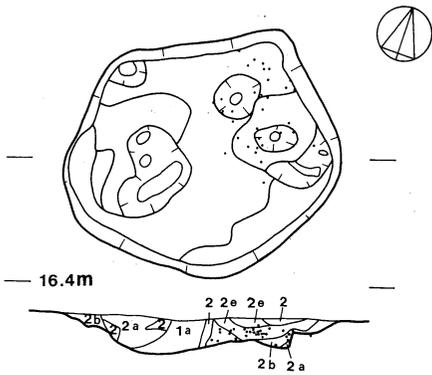
SK 270



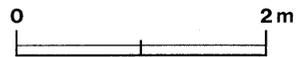
SK 7



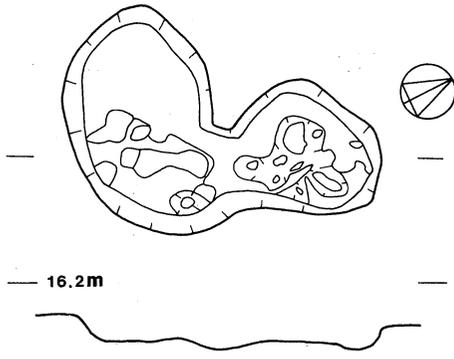
SK 447



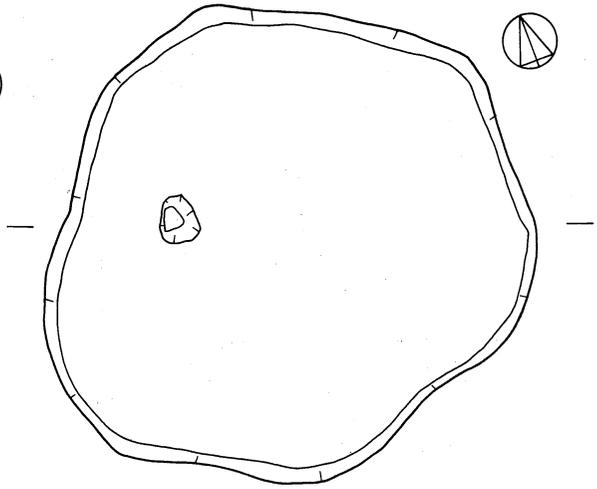
SK 154



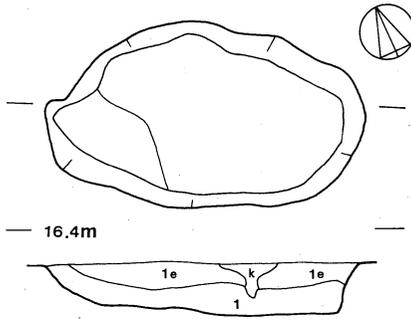
第154図 土壌実測図 (38)



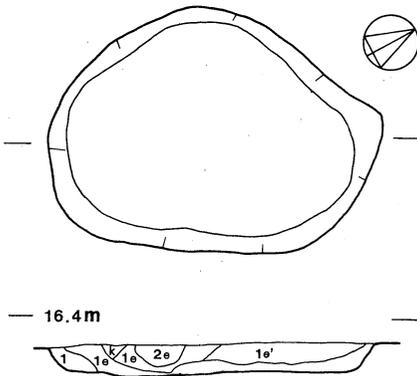
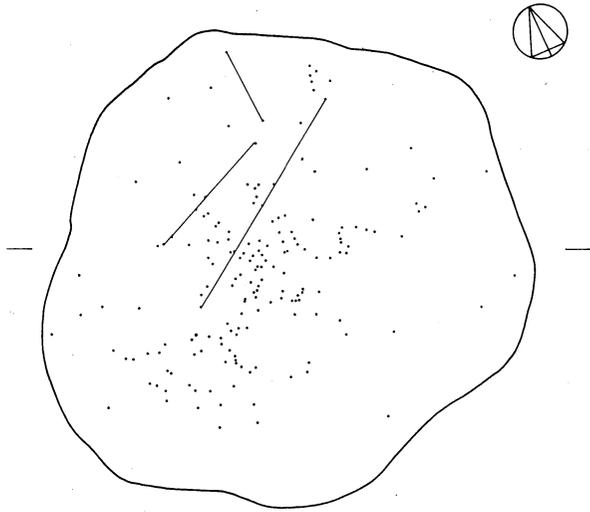
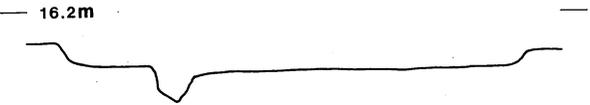
SK 13



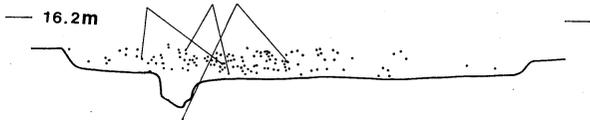
SK 111



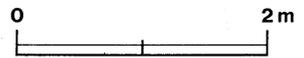
SK 334



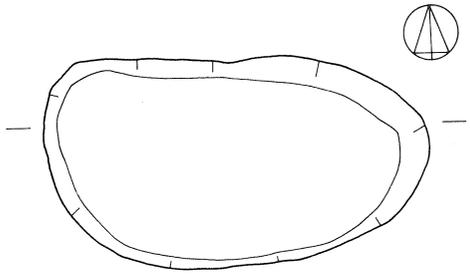
SK 157



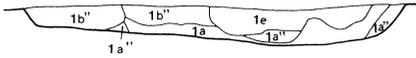
SK 111



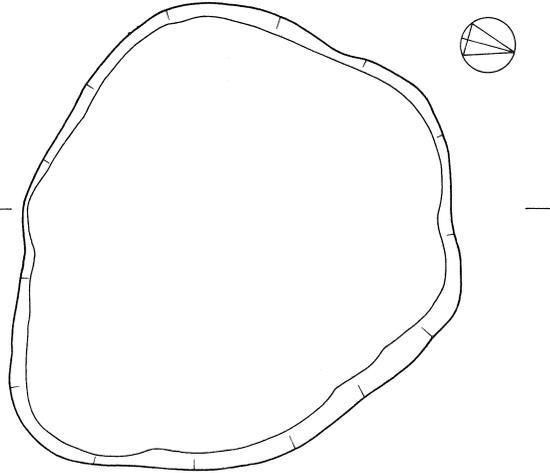
第155図 土壙実測図 (39)



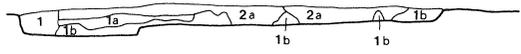
16.4m



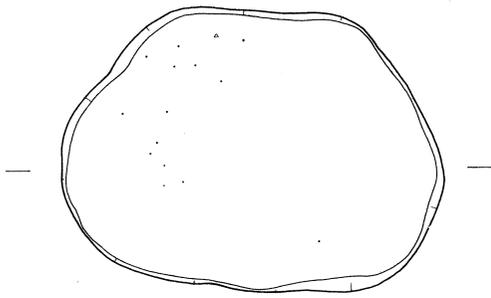
SK 177



16.6m



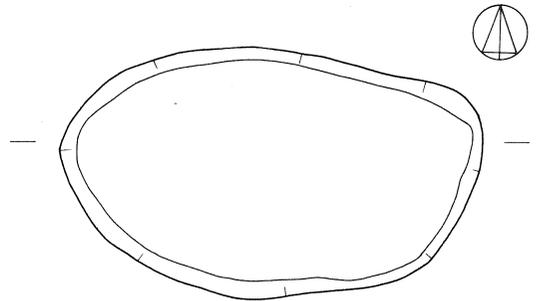
SK 144



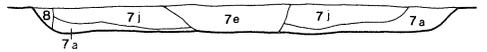
16.6m



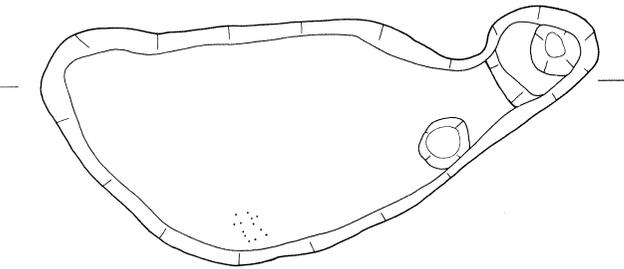
SK 286



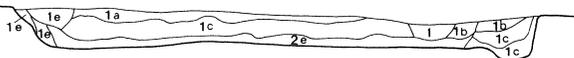
16.4m



SK 314



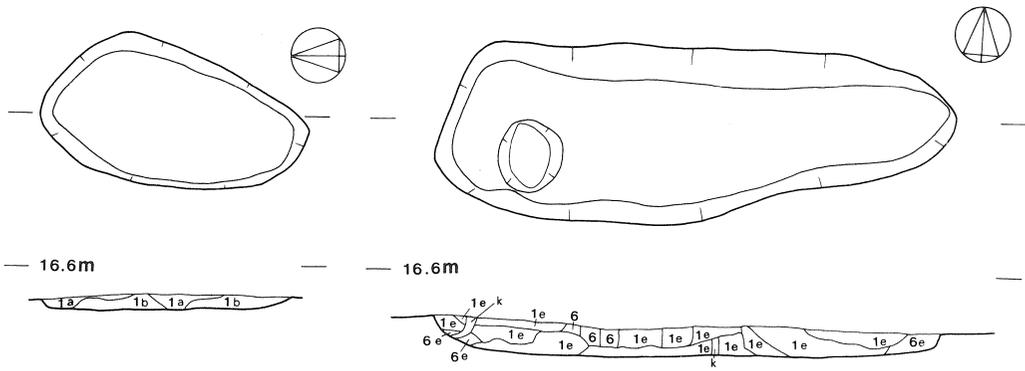
16.4m



SK 300

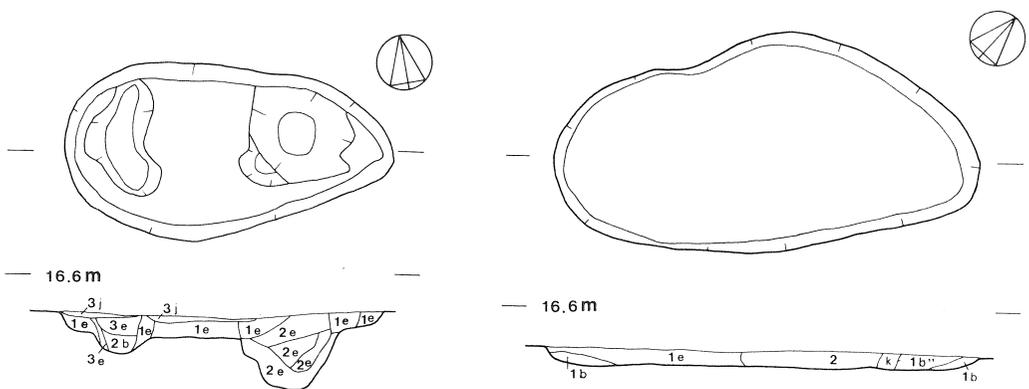


第156図 土壤実測図 (40)



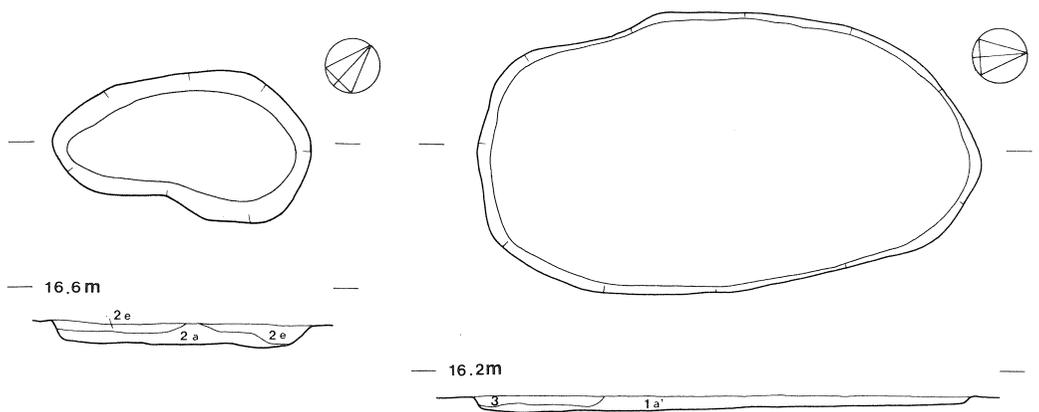
SK 392

SK 372



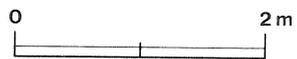
SK 371

SK 410

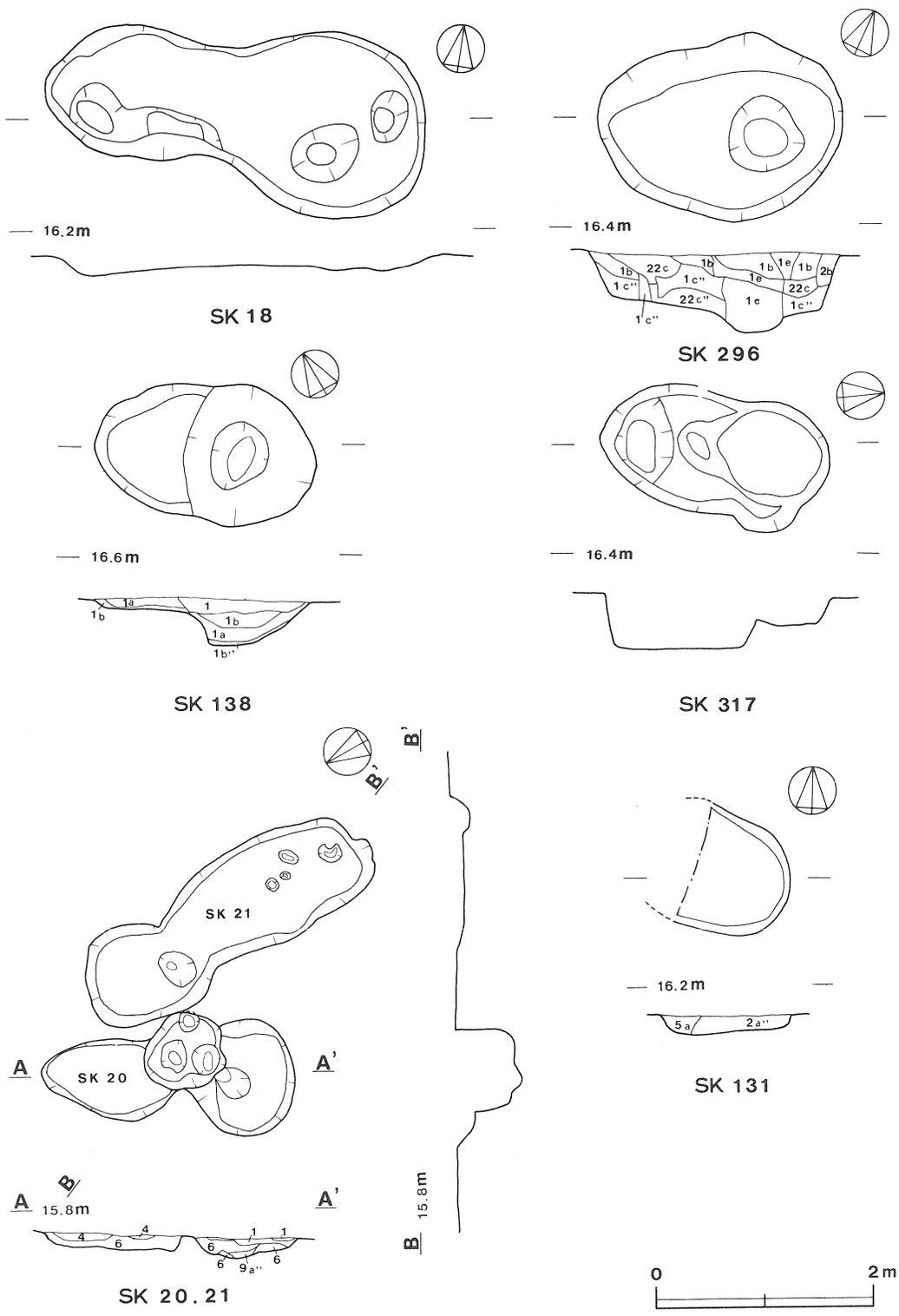


SK 422

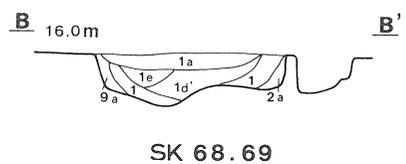
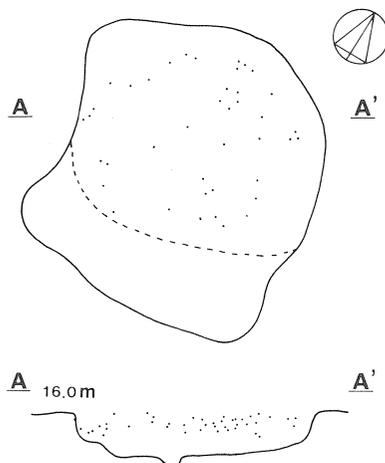
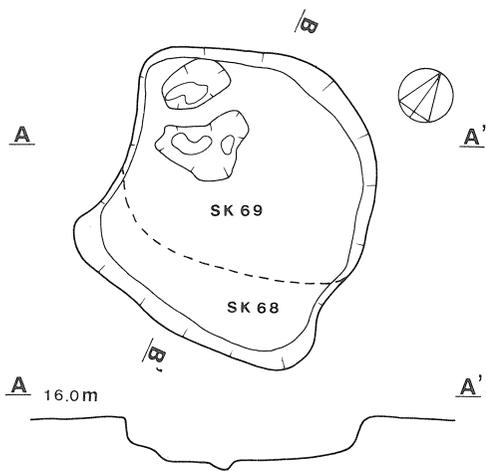
SK 453



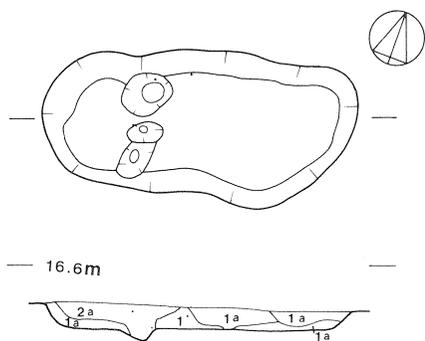
第157図 土壌実測図 (41)



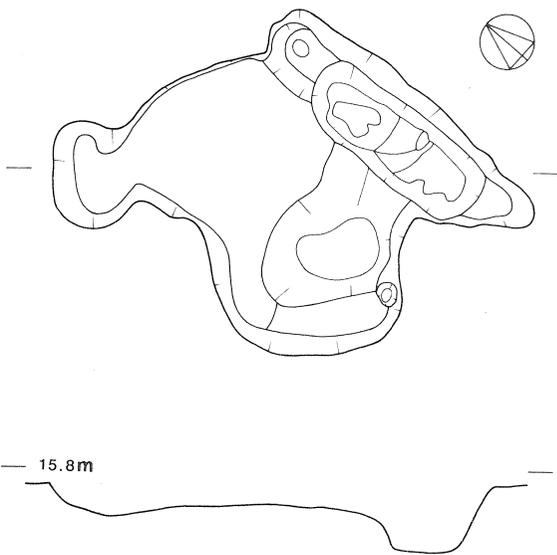
第158図 土壌実測図 (42)



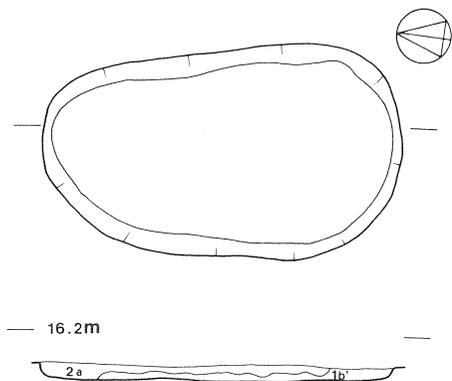
SK 68.69



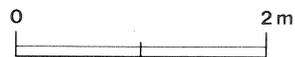
SK 162



SK 100



SK 187



第159図 土壤実測図(43)